

第Ⅲ章 調査結果詳細

1. 保育士有資格者全体の実態

(1) 保育士資格の取得方法 (Q3)

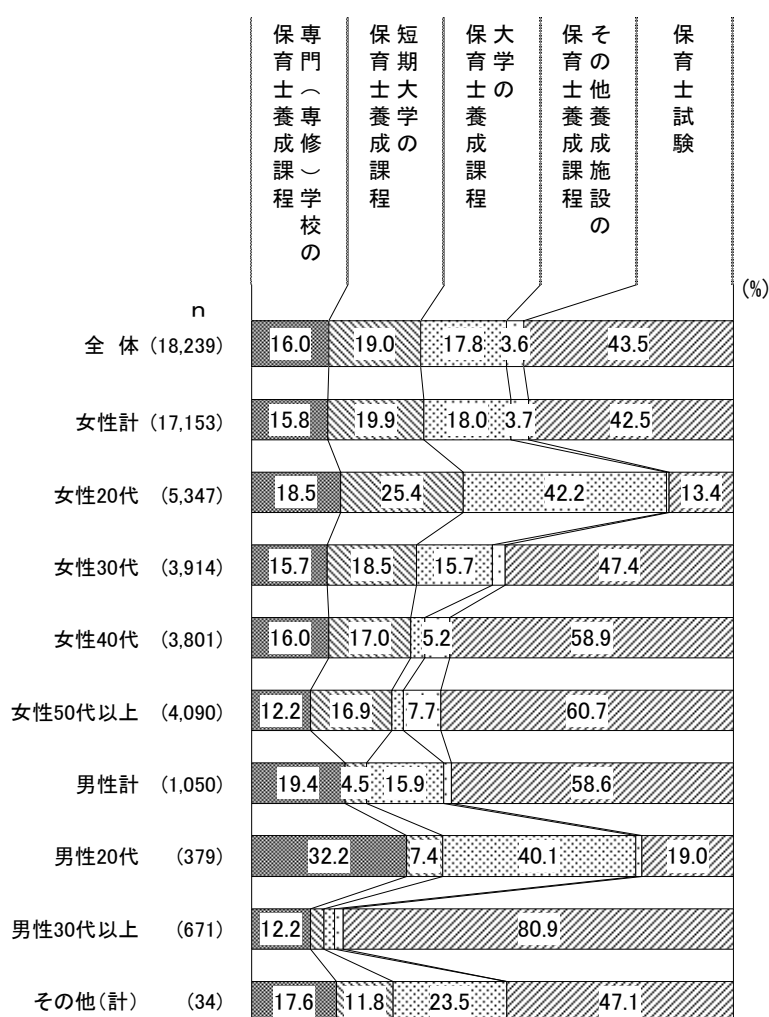
保育士資格の取得方法は、全体で「保育士試験」が4割台半ば(43.5%)、次いで、「短期大学の保育士養成課程」(19.0%)、「大学の保育士養成課程」(17.8%)である。

保育士養成課程で資格を取得している者が5割台半ば(56.4%)となっている。

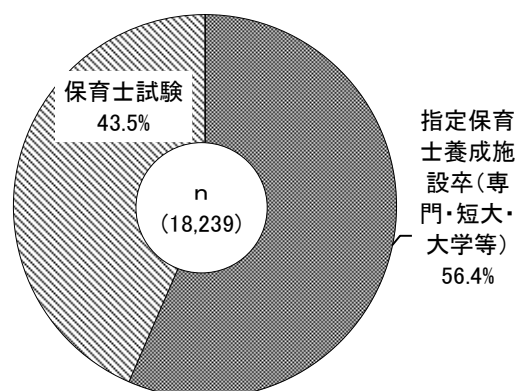
性・年代別でみると、「保育士試験」は女性40代以上で6割前後、男性30代以上で8割を超えている。また、男女ともに20代では「大学の保育士養成課程」が4割台と他の年代と比べて高い。

Q3 あなたの保育士資格の取得方法をお答えください。(○は1つだけ)

保育士資格の取得方法 (性別、性・年代別)



保育士資格の取得方法 (2分類)



(2) 現在の保育士としての就業状況 (F1)

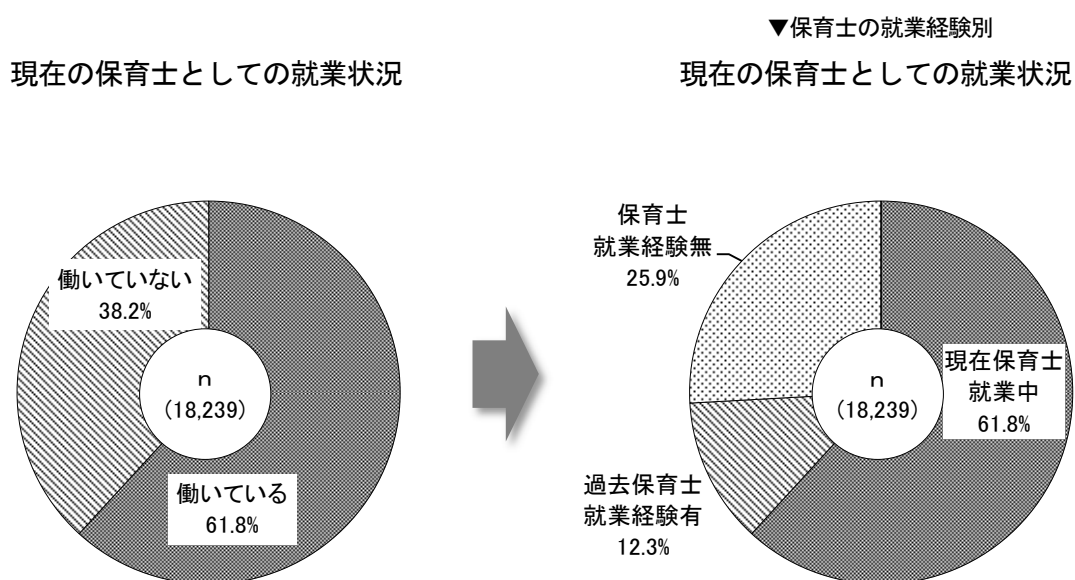
現在の保育士としての就業状況は、「働いている」が6割強 (61.8%) となり、「働いていない」は約4割 (38.2%) となっている。

また、「働いていない」の内訳をみると、「過去保育士就業経験有」が12.3%、「保育士就業経験無」が25.9%となっている。

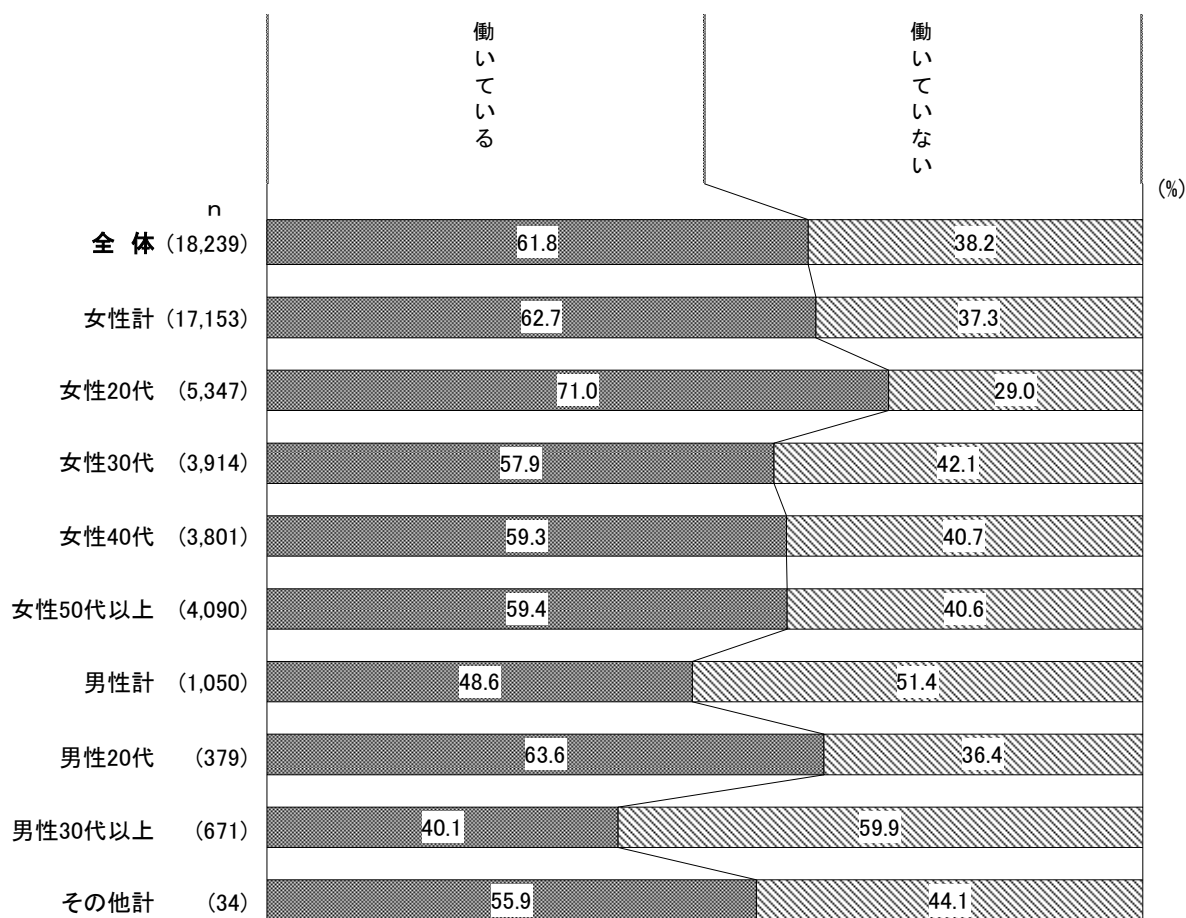
性・年代別で見ると、男性30代以上 (59.9%) で「働いていない」が約6割と、男女を通じた他の年代よりも高い。

F1 あなたは令和4年7月時点で、保育士として働いていますか。(○は1つだけ)

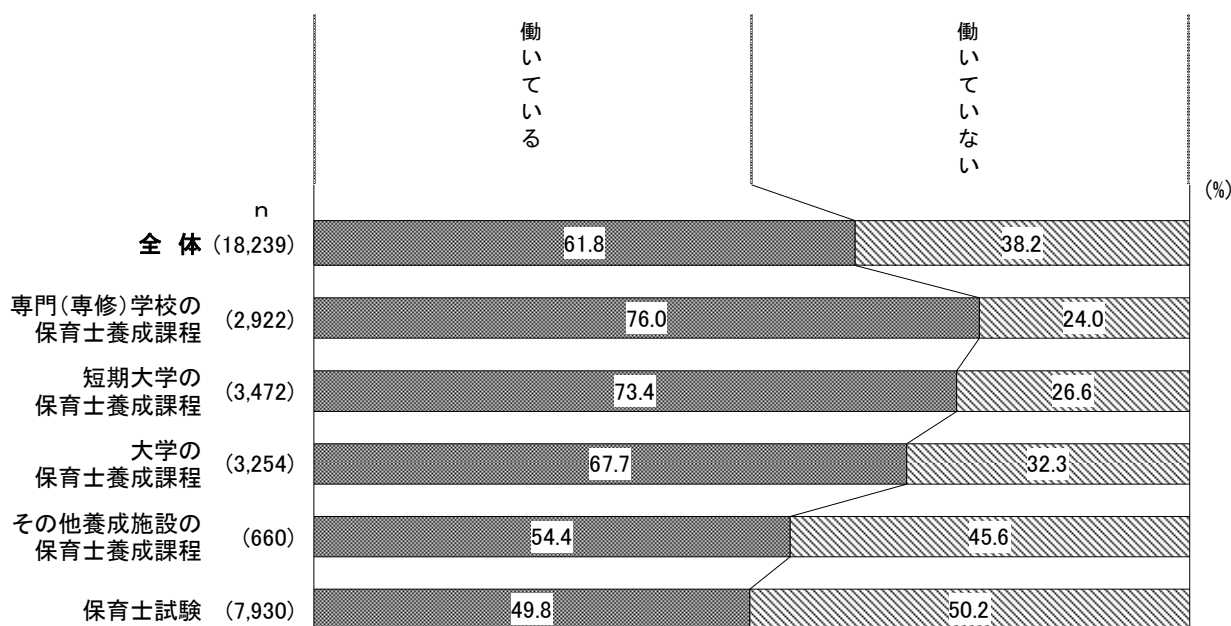
現在、休職中の方(産休・育休含む)は、「働いている」を選択してください。



現在の保育士としての就業状況（性別、性・年代別）



現在の保育士としての就業状況（資格取得方法別）



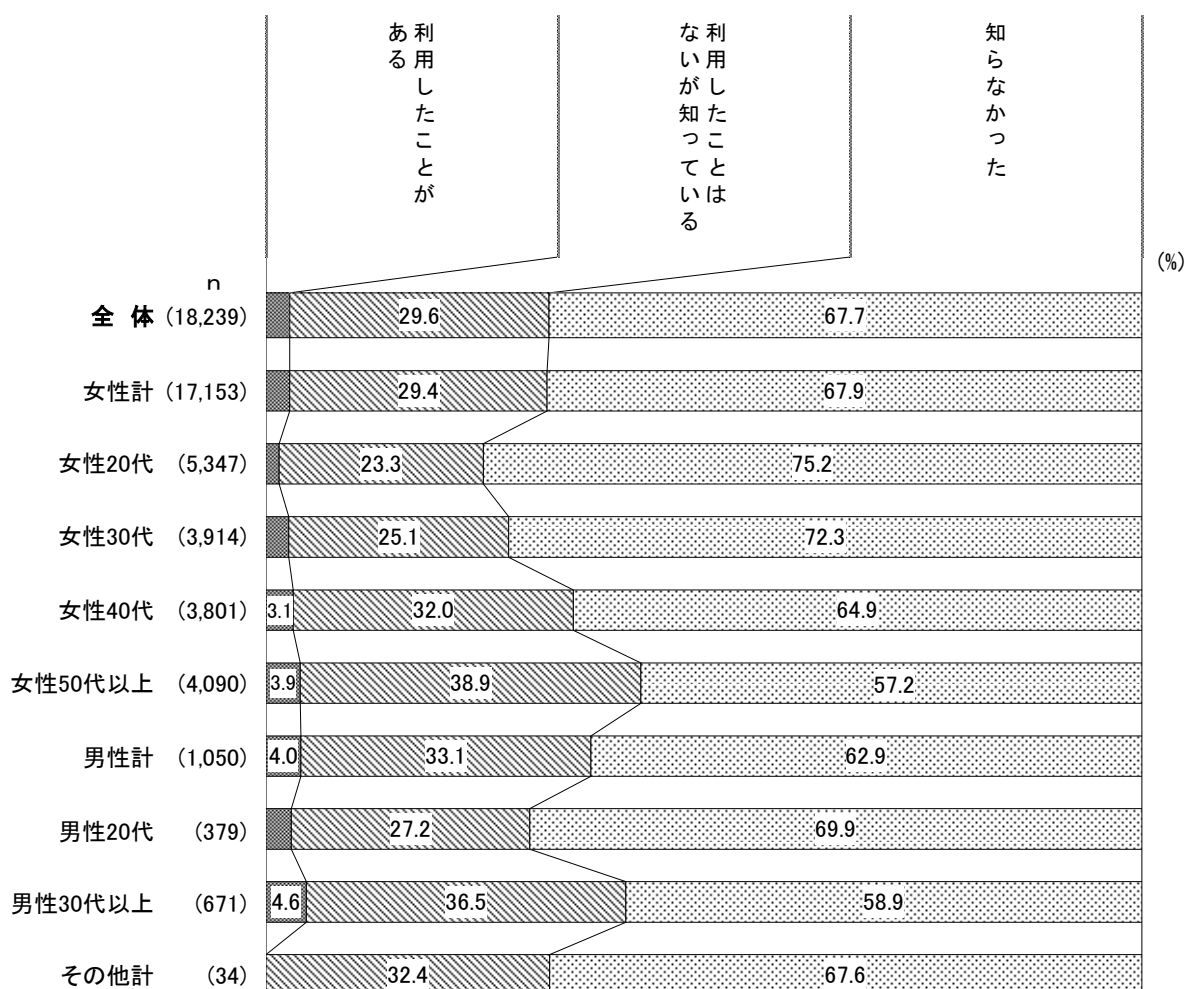
(3) 「東京都保育人材・保育所支援センター」の認知度 (CQ1)

「東京都保育人材・保育所支援センター」を認知している者の割合は、3割強（「利用したことがある」：2.7%、「利用したことはないが知っている」：29.6%）となっている。

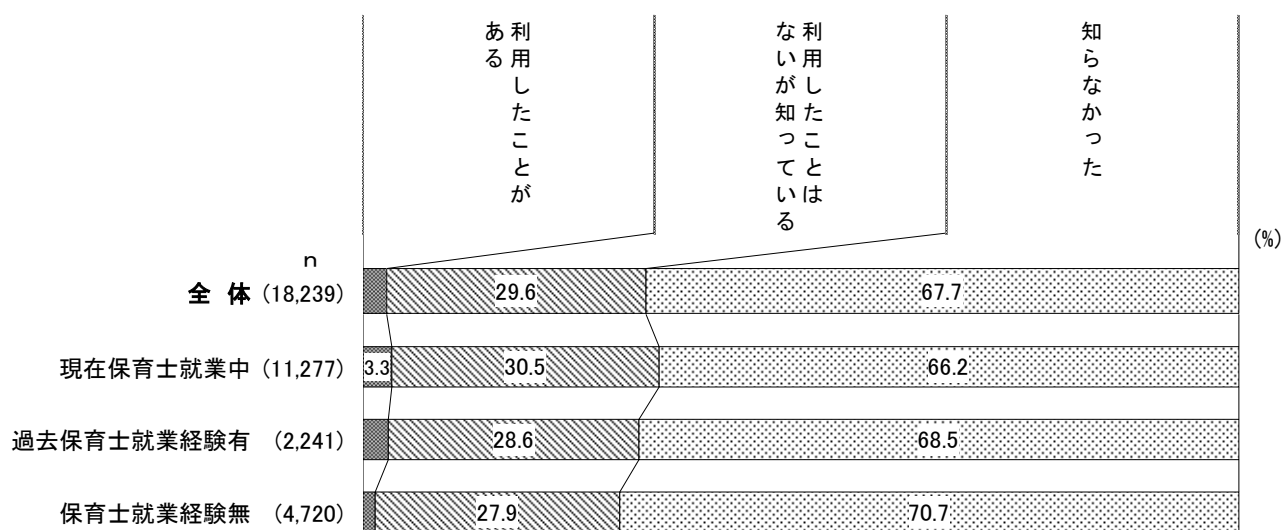
性別、性・年代別にみると、「利用したことはないが知っている」は男女ともに年代が高くなるにつれて割合が高くなり、特に女性50代以上では約4割（38.9%）となっている。

CQ1 東京都では、保育士の就職支援や相談支援などを行うため、平成21年度から「東京都保育人材・保育所支援センター」を開設しています。あなたは「東京都保育人材・保育所支援センター」をご存知ですか。（○は1つだけ）

「東京都保育人材・保育所支援センター」の認知度（性別、性・年代別）



「東京都保育人材・保育所支援センター」の認知度（就業状況別）



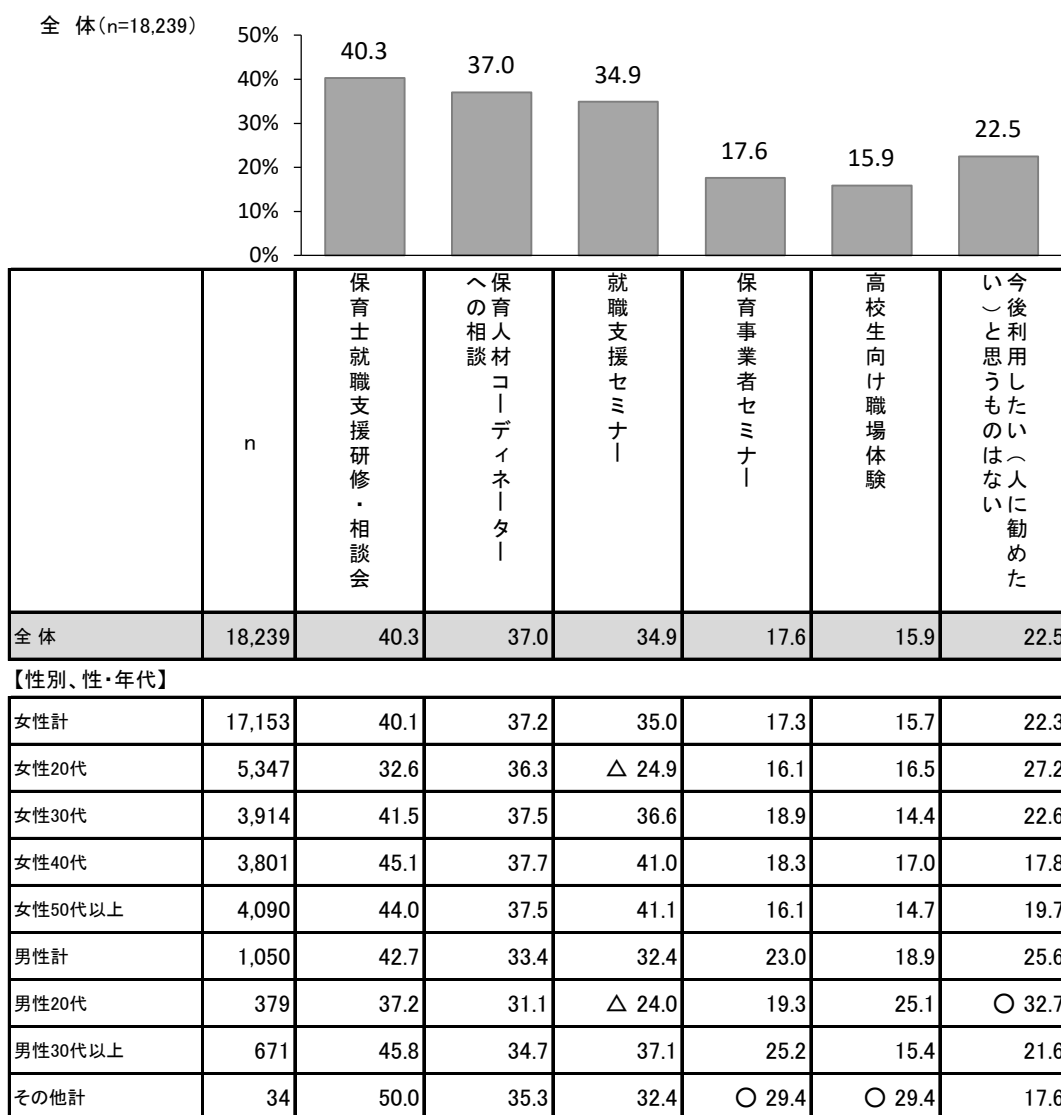
(4) 今後利用したい「東京都保育人材・保育所支援センター」の取組 (CQ2)

今後利用したい「東京都保育人材・保育所支援センター」の取組は、「保育士就職支援研究・相談会」が4割(40.3%)を超えて最も多く、次いで、「保育人材コーディネーターへの相談」(37.0%)、「就職支援セミナー」(34.9%)となっている。

性・年代別でみると、「保育士就職支援研修・相談会」が男女ともに20代を除く全ての年代で4割を超えている。また、男性の20代で「今後利用したい(人に勧めたい)と思うものはない」(32.7%)が3割強と、他層よりも高い。

CQ2 「東京都保育人材・保育所支援センター」では、様々な取り組みを行っています。あなたが今後利用したい(人に勧めたい)と思うものをお選びください。(〇はいくつでも)

今後利用したい「東京都保育人材・保育所支援センター」の取組 (性別、性・年代別)



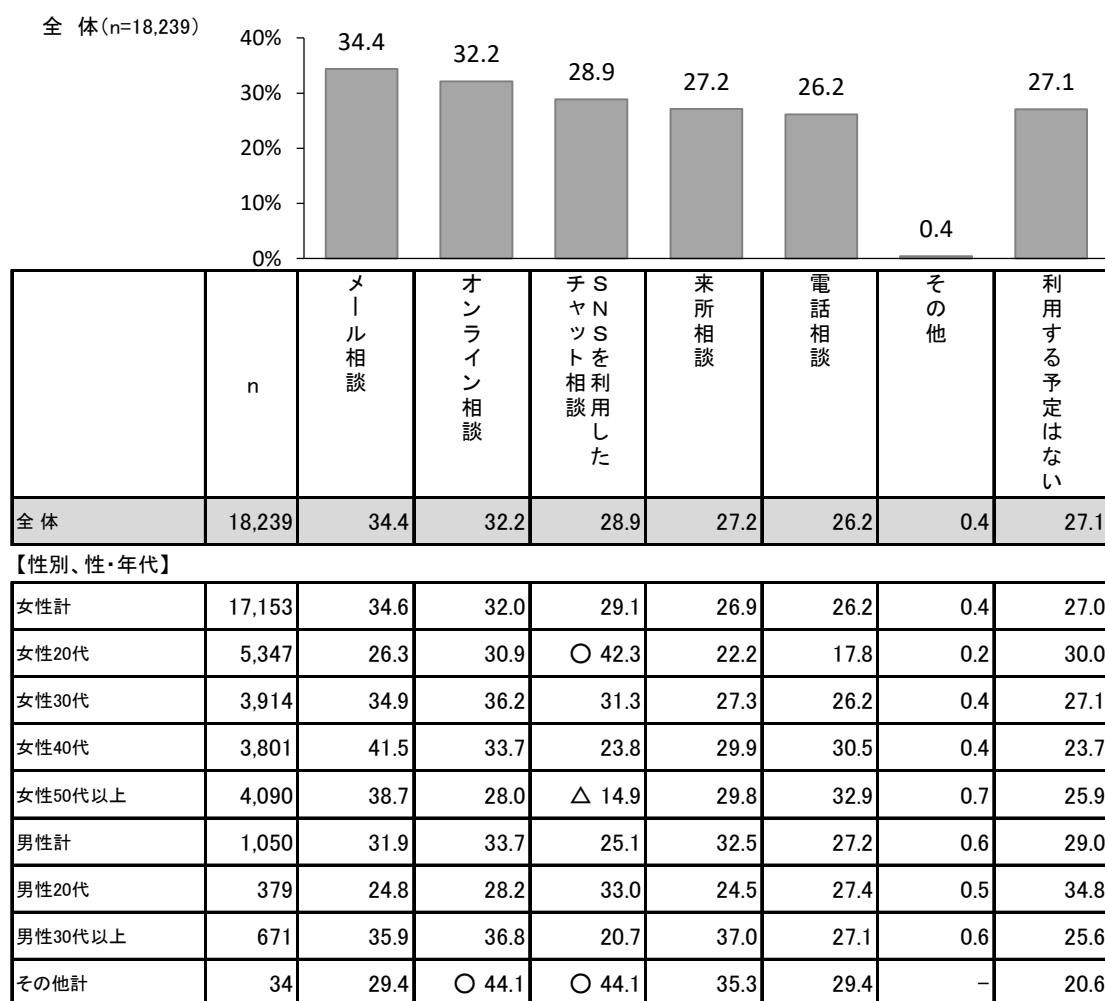
(5) 希望する「東京都保育人材・保育所支援センター」への相談方法 (CQ3)

希望する「東京都保育人材・保育所支援センター」への相談方法は、「メール相談」(34.4%)が3割台半ばで最も多く、次いで、「オンライン相談」(32.2%)、「SNSを利用したチャット相談」(28.9%)、「来所相談」(27.2%)、「電話相談」(26.2%)となっている。一方、「利用する予定はない」(27.1%)は約3割となっている。

性・年代別で見ると、「SNSを利用したチャット相談」は女性20代(42.3%)で4割強と男女通じた他の年代よりも高くなっている。

CQ3 「東京都保育人材・保育所支援センター」では、現在、来所又は電話で、保育にまつわる様々なご相談に応じています。あなたが希望する相談方法をお選びください。(〇はいくつでも)

希望する「東京都保育人材・保育所支援センター」への相談方法 (性別、性・年代別)



第三章 調査結果詳細

(6)「東京都保育人材・保育所支援センター」を利用したいと思う取組内容（自由記述）（CQ4）

以降の自由回答は、記入者の中から「年齢」および「保育士資格の取得方法」のバランスを考慮して抽出している。

CQ4 CQ2 の取組以外に、「東京都保育人材・保育所支援センター」で、どのような取組があれば利用したいと思いますか。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	主な意見(記入者計7,484人)
1	女性	30～34歳	保育士試験	人間関係の悩みや保護者対応などで精神的に苦しんでいる人へのケア。
2	女性	30～34歳	短期大学	施設に対しての不満を聞き入れてくれるだけでなく、改善されるように動いてくれる取り組みがあれば利用したい
3	女性	25～29歳	大学	保育士同士の相談の場。保育士からの要望(意見)を伝えられる場。(すぐには反映されなくても、このようなことに困っている等、直接伝えることができる場)
4	女性	35～39歳	保育士試験	保育園の1日見学があれば行ってみたい。研修だと説明を受けながら、職員の働き方を見たり、子どもの相手をしたり、子供の安全に気を配ったりして慌たしい。完全に見学、と言うスタンスで見させてもらえると気持ち的にも余裕を持って客観的に保育現場の様子を学ぶことができる。
5	女性	45～49歳	保育士試験	前問の回答以外に、現時点で思い浮かぶ事は特にありません。ただ、「保育士求人」でネット検索しても、このセンターやセンターの求人サイトが挙がってきた事はありませんでした。保育士が「福祉の仕事」で検索する可能性は低いと思います。事業としての取組以前に、まずセンターの認知度UPとサイトに繋がりをやすくする工夫が必要かと思えます。
6	女性	40～44歳	短期大学	・保育所に来所していただき、園の様子を見てもらったりアドバイスなどしてほしい。 ・園の事で相談したい事があった時に乗ってもらいたい。 ・自分に合う保育所を相談しながら探したりしたい。
7	男性	45～49歳	保育士試験	音楽、絵画、言語、体育に係る実教育を就業前等に受講できる機会があれば、各位にとってのキャリアアップに繋がるのではないかと思います。また、予算面等厳しい状況であることはお察しいたしますが、子供の育ちを支えるため保育士側にとっての一石を得られる機会を増やして頂ければ幸いです。
8	女性	60～64歳	保育士試験	定年後も資格をいかして、地域のイベントや子育て世代のご家庭でお手伝いができれば、と思っているので、高齢でも働けるような機会や場所を紹介していただければ、と思います。
9	女性	20～24歳	保育士試験	メンタルケアができるような、悩みを抱えた保育士同士で会話ができるコミュニティがあったらいい
10	女性	20～24歳	専門(専修)学校	現代の保育状況や基本的なことを1から学べるなど改めて基本的なことを学べる研修があればいいなと思います。
11	女性	20～24歳	専門(専修)学校	保育実技等や、保育関連(政治、ニュース等で扱われている保育のことや海外の保育事情など)の最新の情報を得ることが出来るなにかしらがあれば嬉しいです
12	女性	40～44歳	保育士試験	それぞれの園の保育について、良いところや悪いところ、特色などを就職前にちゃんと知ることができる仕組みがあるとよいなと思います。
13	女性	35～39歳	保育士試験	保育士資格は持っているが、保育未経験、または保育士補助の経験しかない人向けに正社員の保育士として働けるようレベルアップを支援してくれる取組
14	女性	30～34歳	大学	実際の保育所を見学するツアーがあると、現在の保育所実態や雰囲気等が把握できて就職や転職を考えている人からすると良いと思います。また人材募集を行っている保育所側にも園を知ってもらえうきっかけとなると思います。※施設側は時間を割いたり対応する手間はかかっていますが…
15	女性	35～39歳	保育士試験	保育園への求人紹介と共に見学をアテンドして頂ける取り組みがあると有難いです。

第三章 調査結果詳細

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	主な意見(記入者計7,484人)
16	女性	25～29歳	大学	先輩保育士との意見交換会、現場の状況など(人間関係など)を気軽に話せる場所。
17	女性	40～44歳	保育士試験	身近にあるイベントのように、間口を広く資格保有者だけでなく体験型イベントとしてリモート状況やPCも活用した取り組みだと若年層も関わりやすくなるかと思う。
18	女性	35～39歳	専門(専修)学校	保育園で働いていると、他の園でのやり方や保育を学ぶ機会が少なく、保育の柔軟性に欠け視野が狭くなると感じている。より具体的に保育の幅を広げる為には、他の保育園見学や、実践報告を聞けるなどあるといいなあと思う。
19	女性	20～24歳	専門(専修)学校	誰もが、気軽に、保育に関するどんなことでも相談しやすい環境をつくる取り組みがあれば、キャリアがある人も、新卒の人も利用したいと思うようになりますと思います。
20	女性	30～34歳	保育士試験	保育士資格を保有しているものの、転職を検討する際に適性等を確認するためにも、高校生向けに実施しているような実習の開催や、ボランティアの受け入れなどを成人向けにも行っていただけたらぜひ参加したいです。
21	男性	20～24歳	専門(専修)学校	まずは、メールやSMS等で利用しやすく、一歩踏み出しやすい取り組みだと利用したいと思います。
22	男性	50～54歳	保育士試験	男性保育士が継続して働ける環境作り。経営者または上司、上級保育士の教育。
23	女性	35～39歳	専門(専修)学校	子育て中なので1日で手遊び、体操、ダンス、バルーンアートなど今、人気の遊びを教えてください助かります。
24	女性	30～34歳	保育士試験	託児所付きの相談所があれば嬉しい。こどもが小さい時に仕事を探するのはとても大変だった。こどもが泣いて、まともに相談もできなかった。また、保育園に対する貸付等があることがほとんど宣伝されておらず、自分が貸付対象だった時にその事業があることに気づけなかった。周りで知っている人も少なく、せっかくある保育士優遇される事業も利用できない。利用申請が間に合わない知り、ただ損した気持ちになった。2年働いていない潜在保育士が利用できる事業が多いので、2年間保育の仕事から離れることも考えた。やはり、保育士が使える事業をもっと広めてほしい。
25	女性	25～29歳	その他養成施設	説明会や研修の様子を撮影した動画の配信。オンラインでの研修や、オンライン講座の配信。いきなり現場に出る不安や、コロナ禍での感染リスクをできるだけ小さくするためにも自宅にいながら不安が解消できるようなサービスがあれば嬉しく思います。
26	女性	25～29歳	専門(専修)学校	子どもたちを楽しませることに特化した研修 リトミックや読み聞かせ、手作りおもちゃや月製作の見本づくり等
27	女性	35～39歳	保育士試験	現役保育士、休職している保育士、これから働きたい保育士の座談会 保育現場にいる人の話・悩みを、産休育休を取った保育士が気づくこと、他業種で働いた保育士が、違った視点で解決策を見つけられるかもしれません。
28	女性	35～39歳	保育士試験	ブランクや保育の仕事未経験の場合の、就職に向けた研修の充実と、就職後にも相談ができる体制もあるといいのではないかと思います。
29	女性	40～44歳	専門(専修)学校	新人の職員育成研修で、子どもとの対応で一番多い困り事に対しての対応方法やヒントを知ることができる取り組みがあると嬉しいです。保護者対応についてや、月案・週案・児童表・連絡帳への文章の書き方の対応についての研修もあれば参加してみたいです。
30	女性	25～29歳	大学	今、現在保育所等で働いている方でも気軽に参加できる保育の知識や技術を得られる研修があったら利用したい。
31	女性	30～34歳	保育士試験	zoomでの無料講座。まだこどもが小さく、センターは自宅から遠いので行きにくいので、自宅ですらでも情報を得られればありがたいです。
32	女性	25～29歳	短期大学	人間関係だけでなく様々な問題で悩みを抱えた現保育士や潜在保育士をケアできるような取り組み。忙しい中にも気軽に相談できるようなものがあるといいのでは。

2. 現在保育士就業中の者の実態

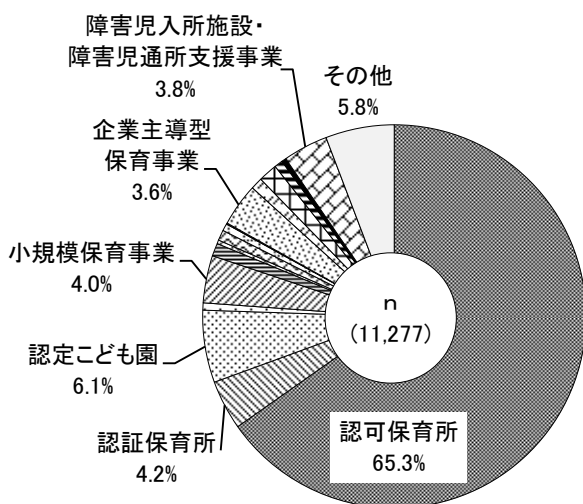
(1) 現在就業施設の雇用形態 (AQ4)

現在保育士として働いている者の施設類型は、全体で「認可保育所」が6割台半ば(65.3%)で最も高い。それ以外では「認定こども園」(6.1%)、「認証保育所」(4.2%)「小規模保育事業」(4.0%)がやや多い結果となった。

AQ4 現在、保育士としてお勤めの施設はそれぞれの項目のいずれにあたりますか。また、あなたの雇用形態としてあてはまるものをお選びください。複数の施設で働いている方は、最も長時間働いているところを主たる勤め先としてお答えください。(○は1つずつ)

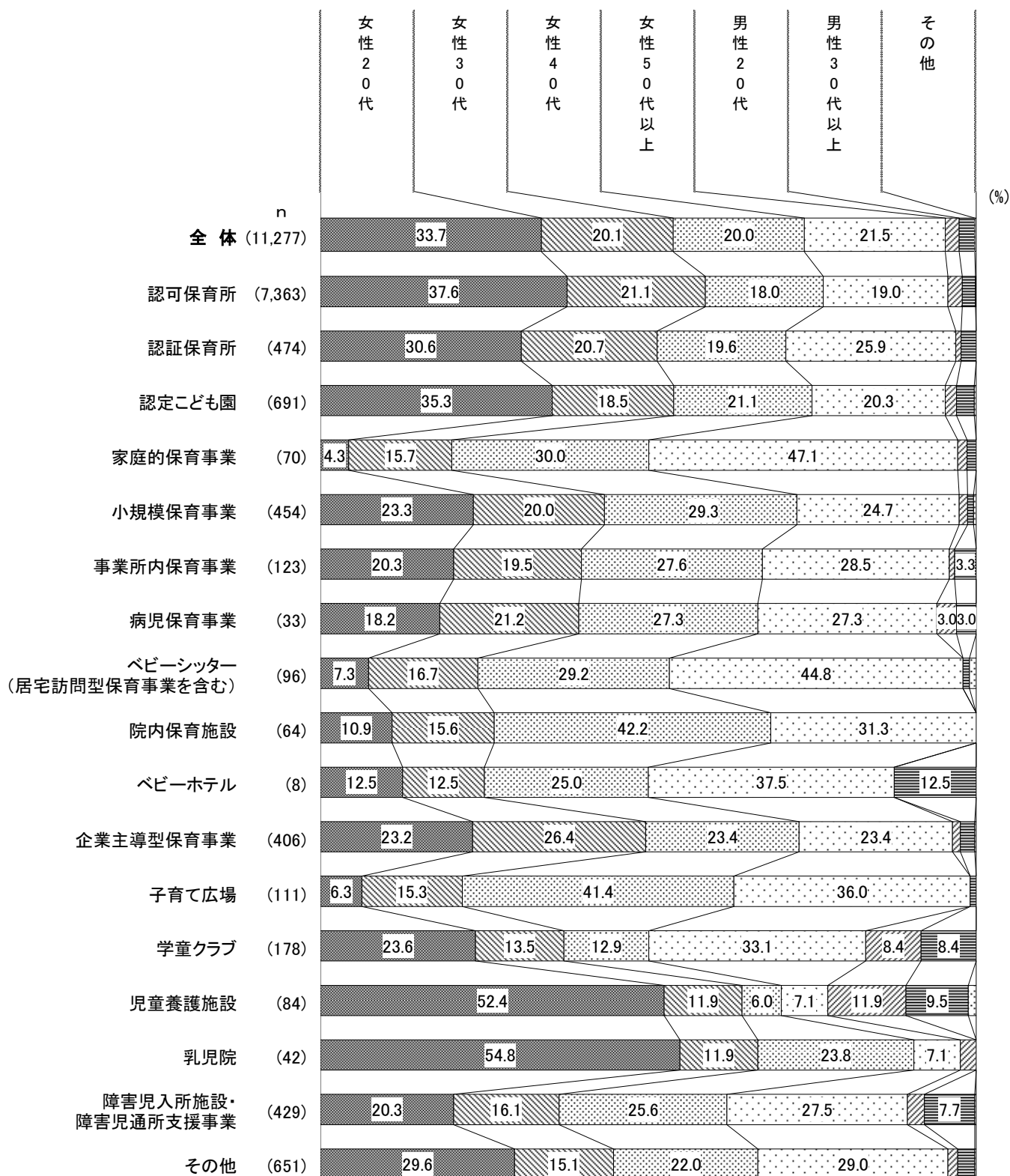
施設類型

(%)

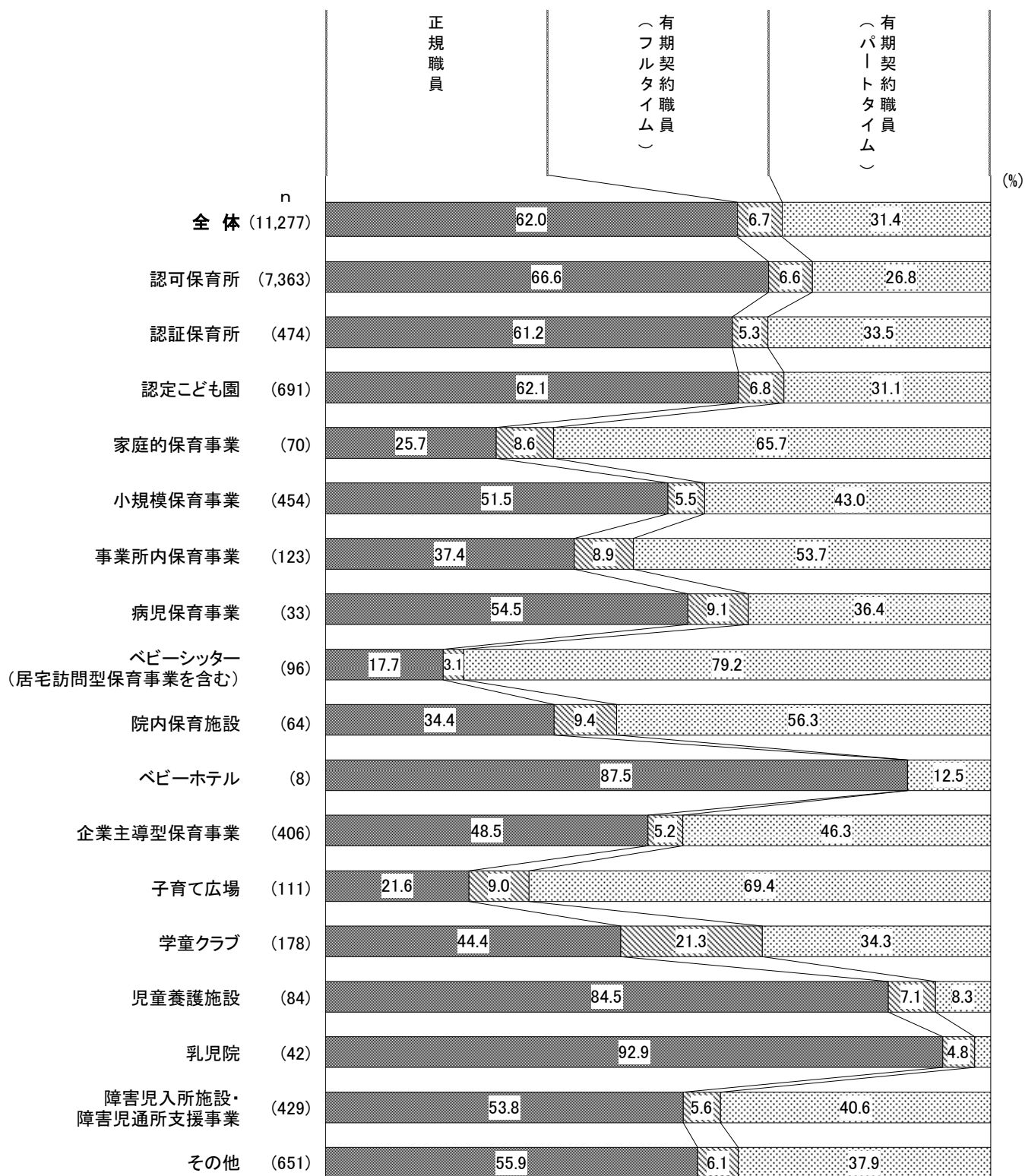


施設類型	(%)
全体	100.0
認可保育所	65.3
認証保育所	4.2
認定こども園	6.1
家庭的保育事業	0.6
小規模保育事業	4.0
事業所内保育事業	1.1
病児保育事業	0.3
ベビーシッター(居宅訪問型保育事業を含む)	0.9
院内保育施設	0.6
ベビーホテル	0.1
企業主導型保育事業	3.6
子育て広場	1.0
学童クラブ	1.6
児童養護施設	0.7
乳児院	0.4
障害児入所施設・障害児通所支援事業	3.8
その他	5.8

性・年代（施設類型別）



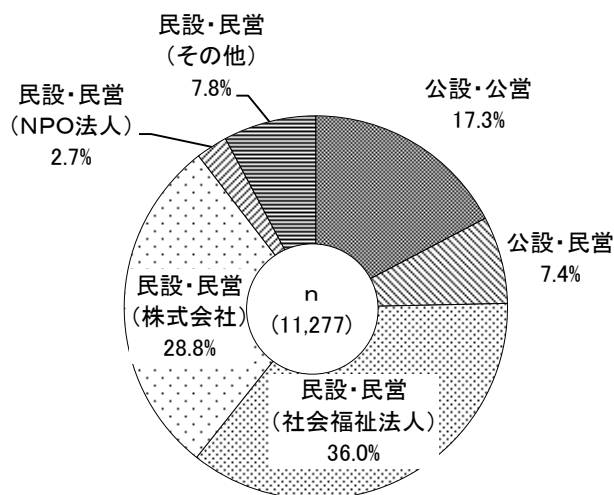
雇用形態（施設類型別）



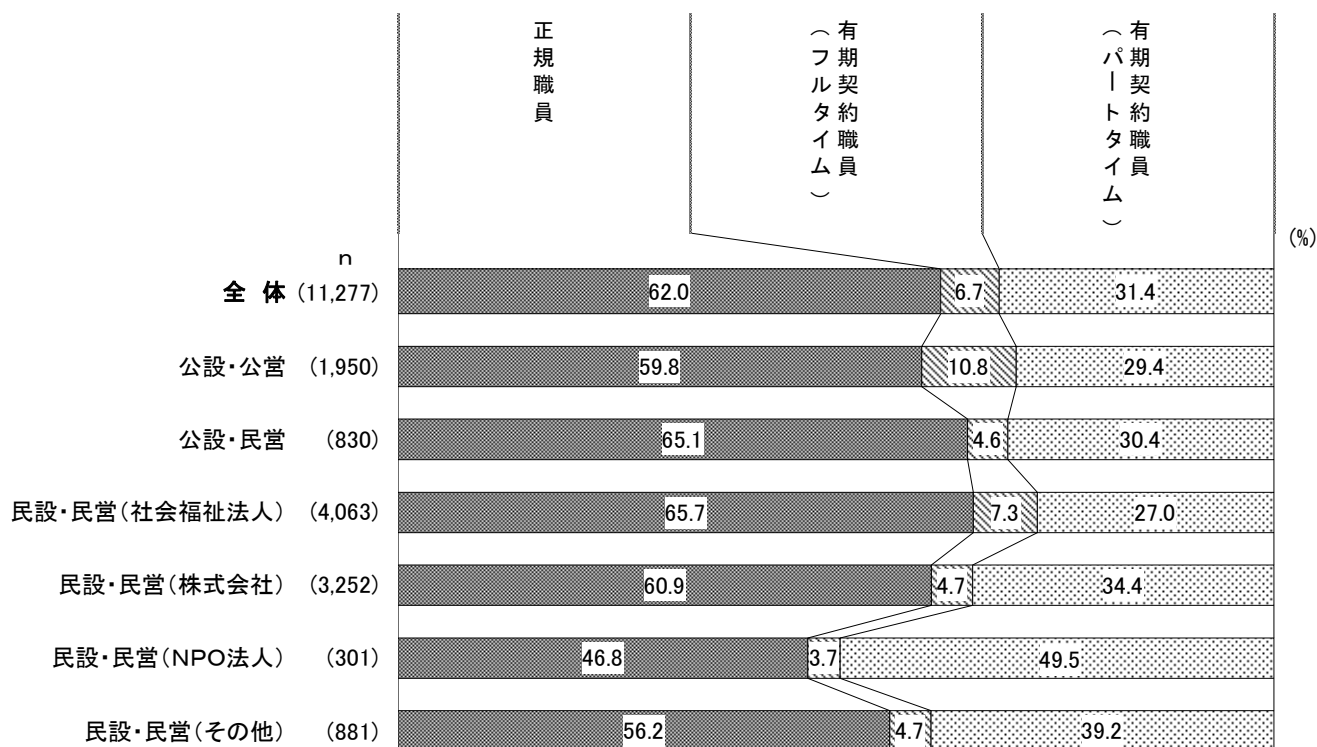
就業施設の運営主体は、全体で「民設・民営（社会福祉法人）」（36.0%）が最も多く、次いで、「民設・民営（株式会社）」（28.8%）、「公設・公営」（17.3%）となっている。

民設・民営（NPO）以外の運営主体では、「正規職員」が半数以上となっている。民設・民営（NPO）は「パートタイム」が約5割（49.5%）と他の運営主体よりも高くなっている。

運営主体

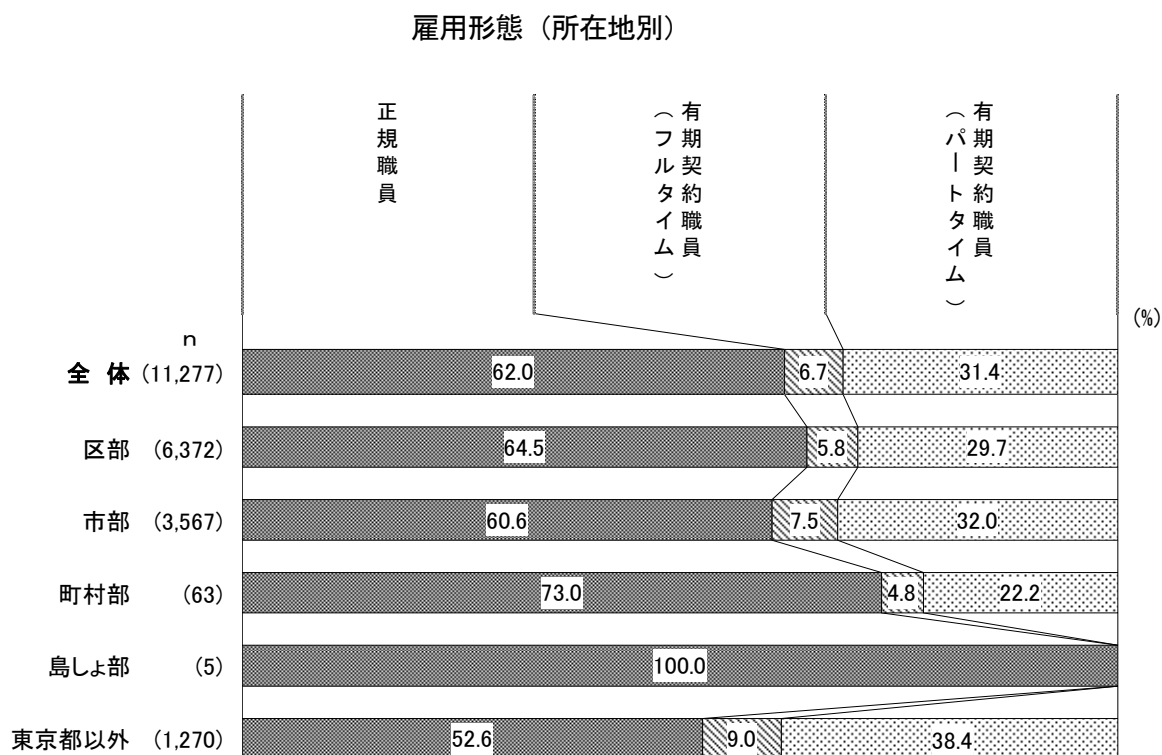
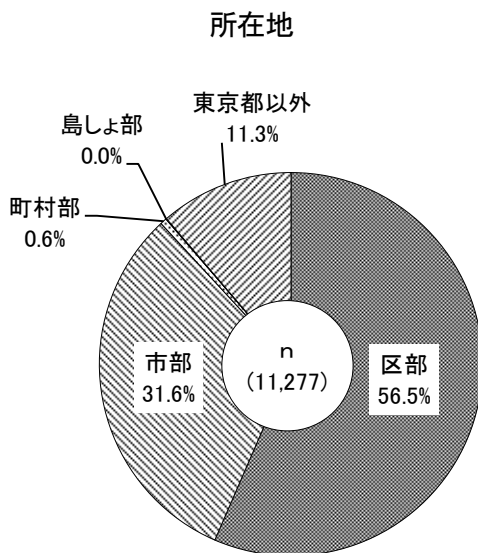


雇用形態（運営主体別）



就業施設の所在地は、全体で「区部」(56.5%)が5割台半ば、「市部」(31.6%)が3割強となっている。

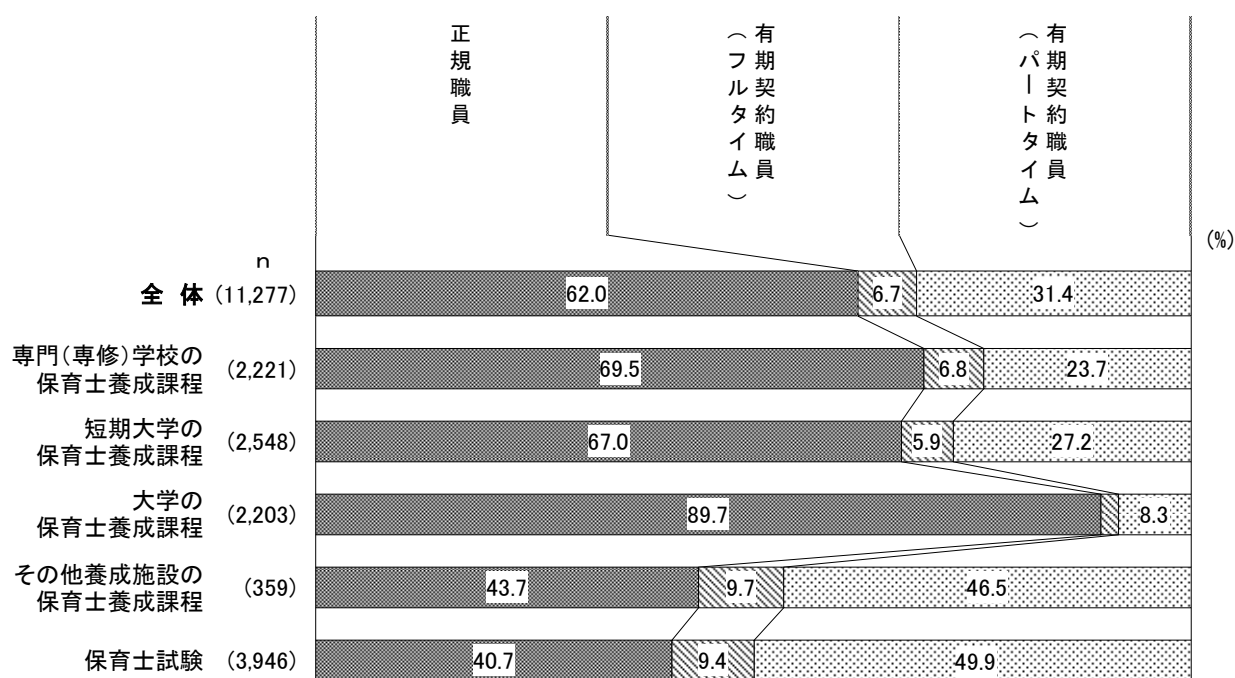
また、町村部では、「正規職員」は7割台半ば(73.0%)となっている。区部と市部では、「パートタイム」が3割前後となっている。



雇用形態は、全体で「正規職員」が6割強（62.0%）、「パートタイム」が3割強（31.4%）であり、「フルタイム」は1割未満となっている。

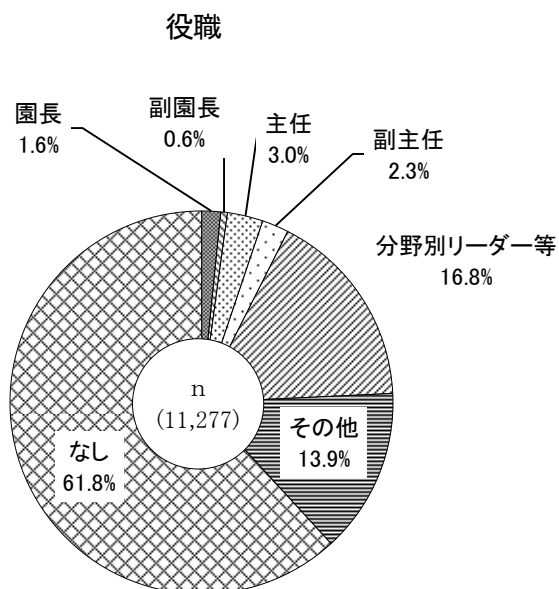
資格取得方法別でみると、大学の保育士養成課程の卒業生で「正規職員」の割合が約9割（89.7%）を占めている。

雇用形態（資格取得方法別）



第Ⅲ章 調査結果詳細

現在の職場における役職は、全体で「なし」が6割強（61.8%）となっている。「園長」、「副園長」「主任」、「副主任」の合計は1割未満（7.5%）である。
性別で見ると、「園長」「副園長」「主任」の合計は、女性よりも男性が多い。



役職（性別、性・年代別）

	n	(%)						
		園長	副園長	主任	副主任	分野別リーダー等	その他	なし
全体	11,277	1.6	0.6	3.0	2.3	16.8	13.9	61.8
【性別、性・年代】								
女性計	10,748	1.5	0.5	3.0	2.3	16.8	13.8	62.1
女性20代	3,799	0.1	0.1	0.7	1.2	20.9	16.7	60.3
女性30代	2,266	1.6	0.6	5.7	4.4	22.9	12.2	52.6
女性40代	2,254	2.2	0.6	4.7	3.1	12.8	12.1	64.5
女性50代以上	2,429	3.0	0.9	2.6	1.2	8.5	12.4	71.4
男性計	510	3.7	2.5	2.4	2.2	16.9	16.3	56.1
男性20代	241	-	0.4	0.8	0.4	17.0	19.1	62.2
男性30代以上	269	7.1	4.5	3.7	3.7	16.7	13.8	△ 50.6
その他計	19	-	-	-	-	21.1	15.8	63.2

(2) 保育士就業年数 (AQ5)

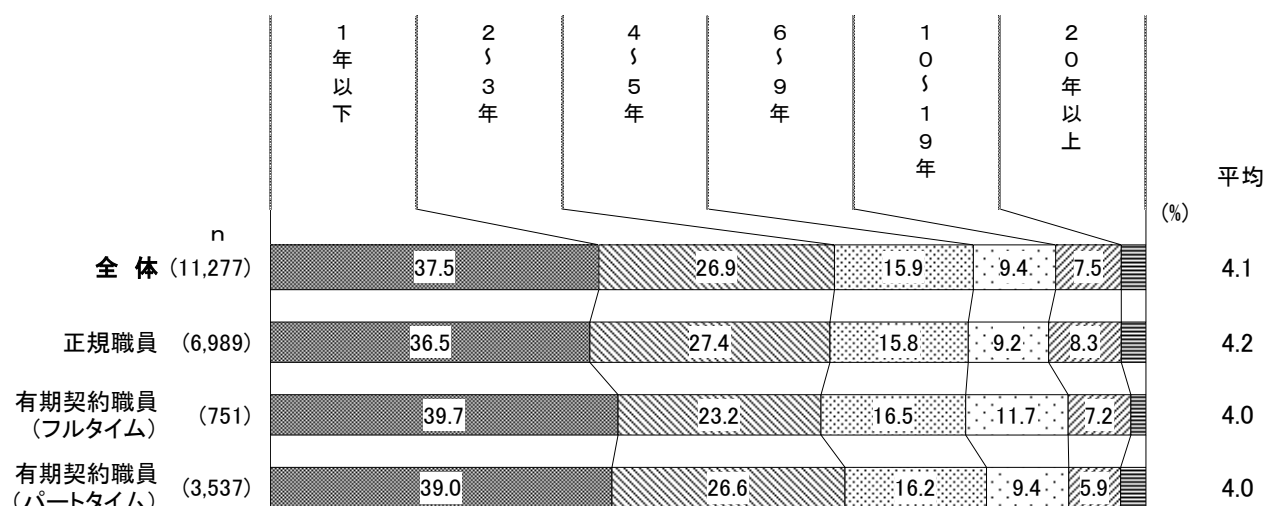
現在の職場の就業年数は、全体で「1年以下」が約4割（37.5%）と最も多く、次いで、「2～3年」（26.9%）、「4～5年」（15.9%）となり、概ね就業年数の少ない者の割合が高い。

現在の職場の平均就業年数は、全体で4.1年、雇用形態別では正規職員が4.2年、フルタイム及びパートタイムが4.0年である。

※ただし、本調査は直近5年間の保育士登録者（書換え等含む）が対象のため、保育士登録者全体の就業年数よりも短くなっていることが予想される。

AQ5 あなたは現在働いている施設にいつから勤務していますか。
また、あなたは保育士として通算何年お仕事をされていますか。1箇所で保育士として最も長く継続して働いた年数もお答えください。（1年未満の方は1年とお書きください）

保育士就業年数（現在の職場）（雇用形態別）

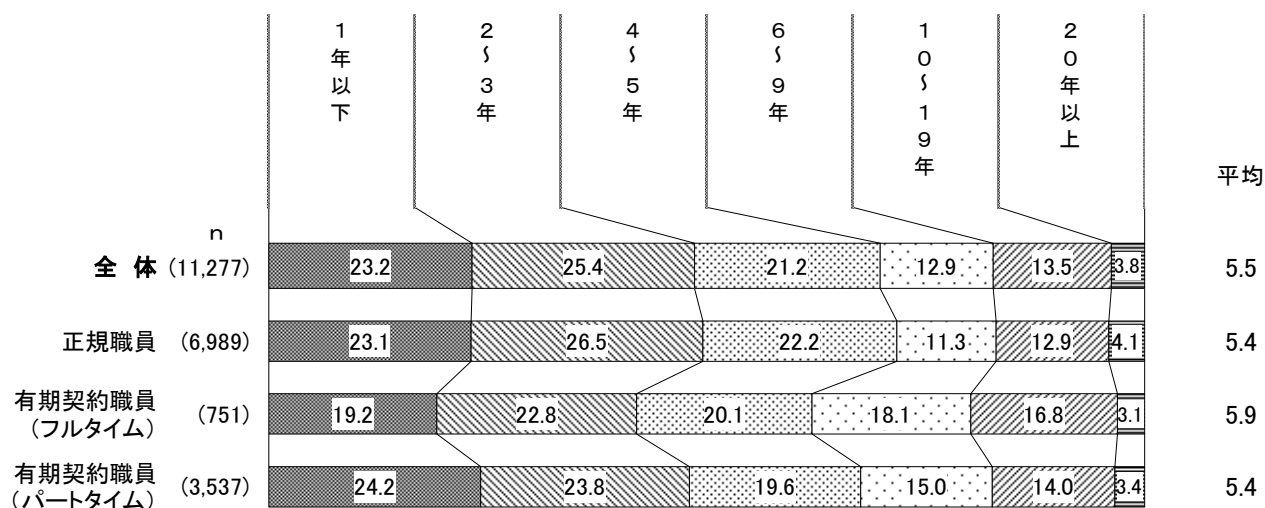


保育士としての通算就業年数は、全体で「2～3年」(25.4%)と「1年以下」(23.2%)、「4～5年」(21.2%)が2割台となっている。

全体平均年数は約5.5年であるが、「3年以下」が全体の約5割を占めている。

※ただし、本調査は直近5年間の保育士登録者(書換え等含む)が対象のため、保育士登録者全体の就業年数よりも短くなっていることが予想される。

保育士就業年数(通算)(雇用形態別)

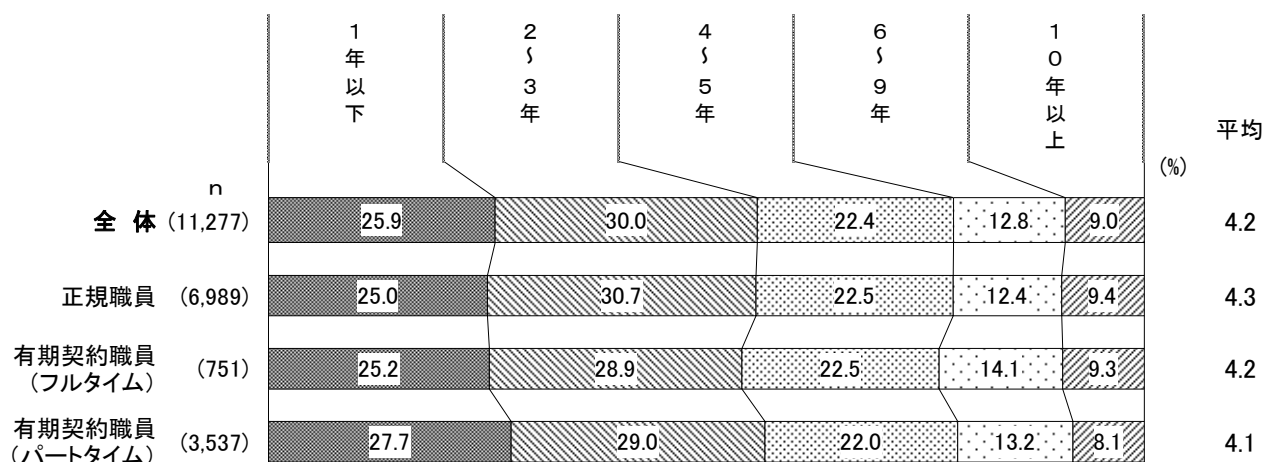


1箇所最長就業年数は、全体で「2～3年」が3割(30.0%)で最も多く、次いで、「1年以下」(25.9%)、「4～5年」(22.4%)となり、以降は年数が長くなるにつれ、割合は少なくなる傾向にあるが、「10年以上」も約1割(9.0%)となっている。

1箇所最長就業年数の平均は全体で4.2年、正規職員が4.3年、フルタイムが4.2年、パートタイムが4.1年である。

※ただし、本調査は直近5年間の保育士登録者(書換え等含む)が対象のため、保育士登録者全体の就業年数よりも短くなっていることが予想される。

保育士就業年数(1箇所最長)(雇用形態別)



(3) 現在の職場の実態 (AQ6)

現在の職場の実態は、平均勤務日数が4.6日、平均勤務時間が8.1時間、平均年収が254.5万円、平均通勤時間(片道)が27.6分である。

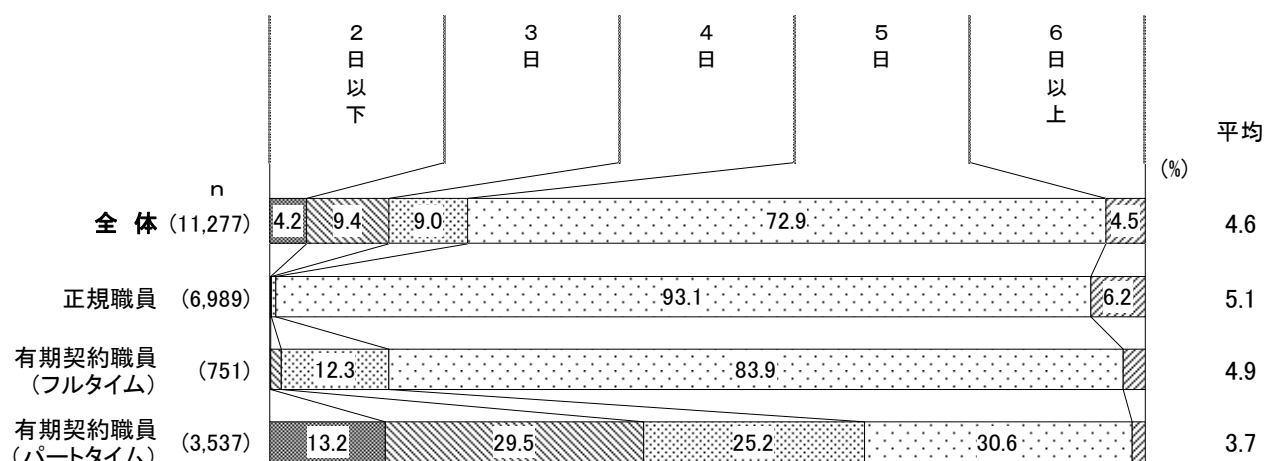
それぞれの平均を現在の雇用形態別で見ると、正規職員は、勤務日数週5.1日、勤務時間9.1時間、年収323.0万円、通勤片道30.9分、フルタイムは勤務日数4.9日、勤務時間8.5時間、年収238.9万円、通勤片道26.7分、パートタイムは勤務日数3.7日、勤務時間6.0時間、年収122.4万円、通勤片道21.2分となっている。

※ただし、本調査は直近5年間の保育士登録者(書換え等含む)が対象のため、保育士登録者全体の年収よりも低くなっていることが予想される。

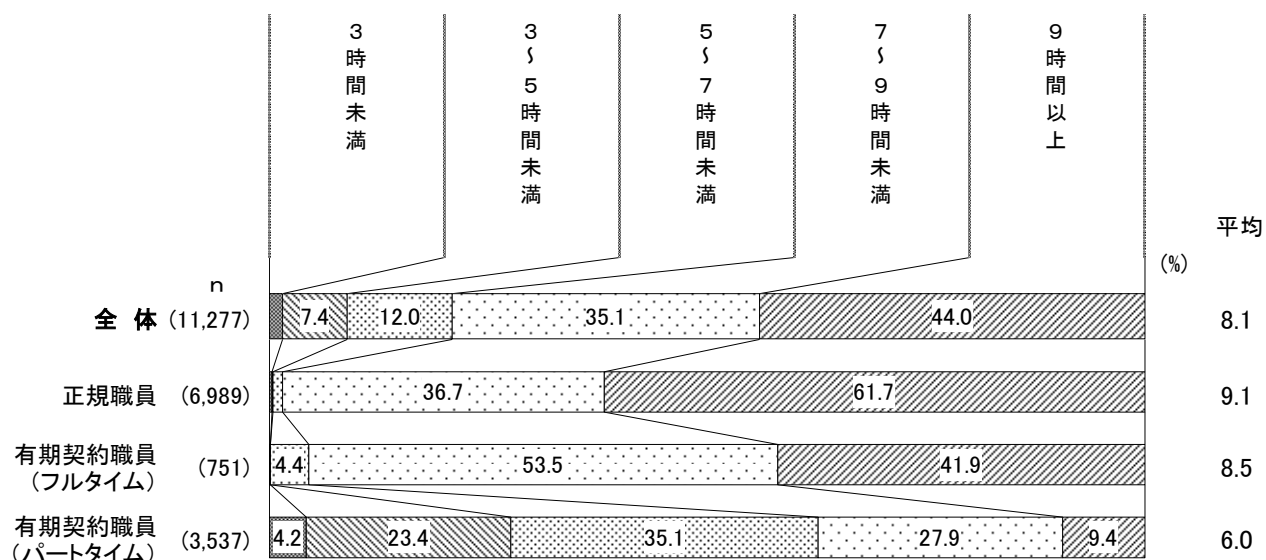
AQ6 それぞれの項目について、現在の職場の状況をご記入いただき、あなたの満足度をお答えください。また()内に具体的な数字もあわせてご記入ください。(○は1つずつ)

※変則勤務の方は主たる勤務パターンでお答えください。

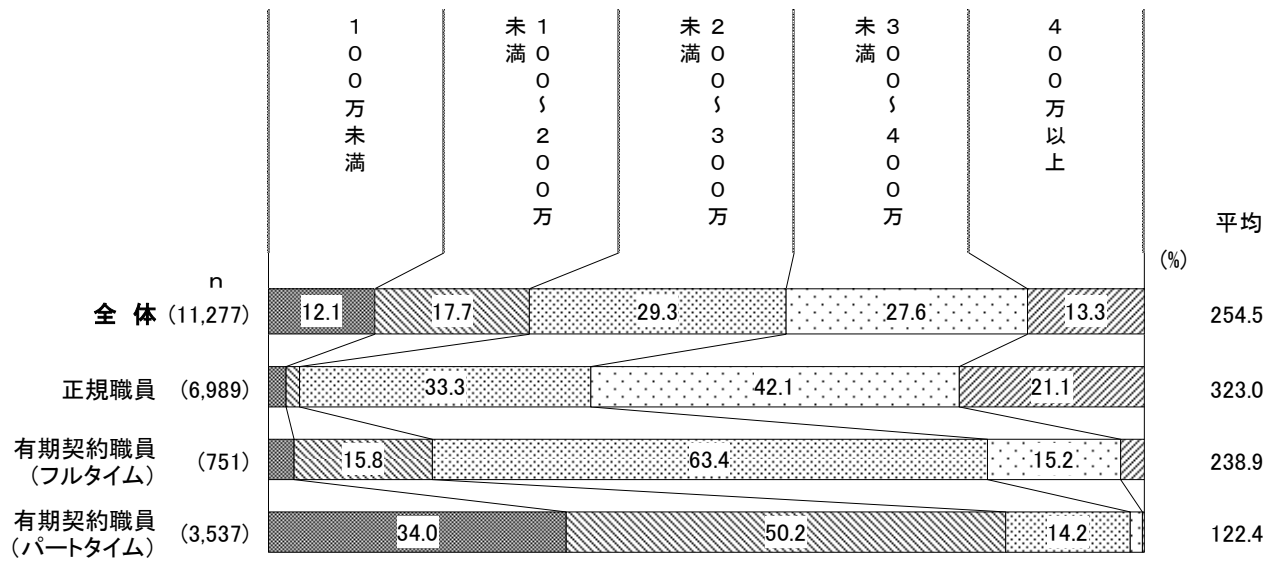
①勤務日数(週)(雇用形態別)



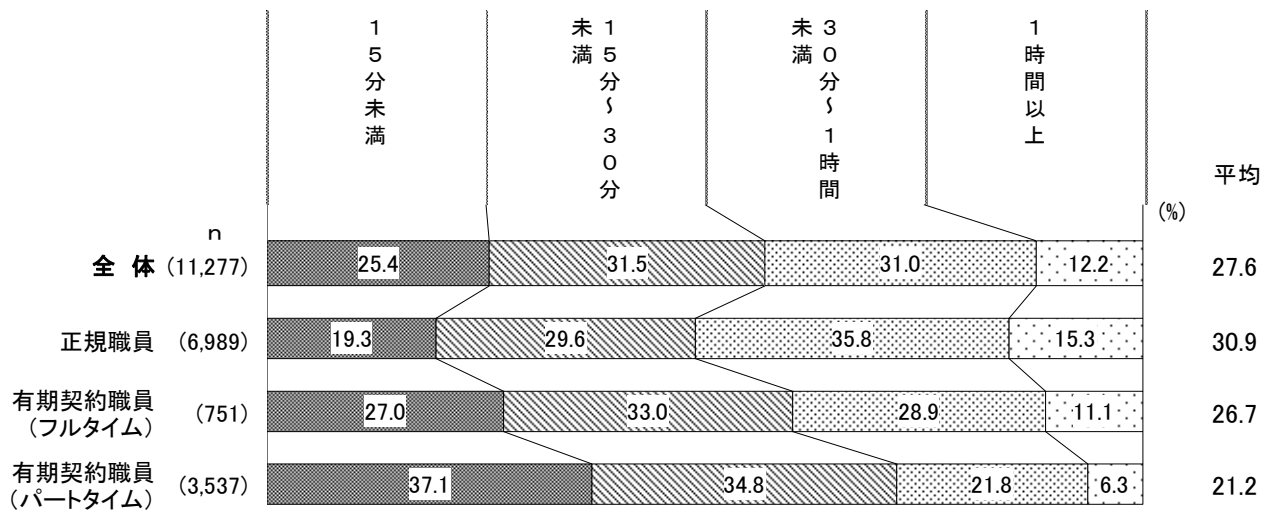
②勤務時間(雇用形態別)



③年収（雇用形態別）



④自宅からの通勤時間（片道）（雇用形態別）



(4) 現在の職場の満足度 (AQ6)

<現在の職場の満足度 (項目別全体) >

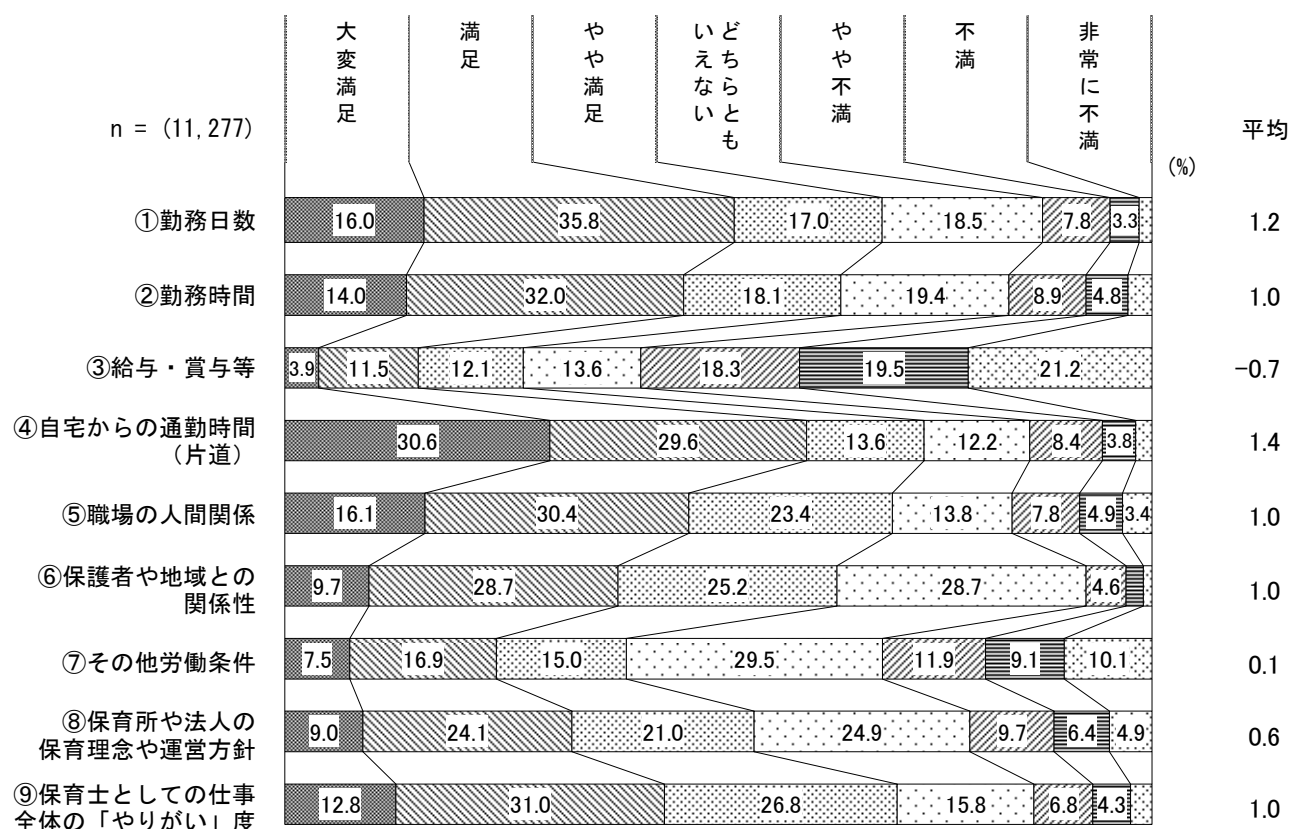
項目別全体では、①勤務日数、④自宅からの通勤時間 (片道)、⑤職場の人間関係、⑨保育士としての仕事全体の「やりがい」度で、『満足』(「大変満足」～「やや満足」の合計)の割合が約7割から7割台半ばと高く、③年収が約3割と最も低くなっている。

《平均点の意味》

※下記グラフの「平均」は、「大変満足」に3点、「満足」に2点、「やや満足」に1点、「どちらともいえない」に0点、「やや不満」に-1点、「不満」に-2点、「非常に不満」に-3点を付与し、回答数を掛けて算出。

AQ6 それぞれの項目について、現在の職場の状況をご記入いただき、あなたの満足度をお答えください。また () 内に具体的な数字もあわせてご記入ください。(〇は1つずつ)
※変則勤務の方は主たる勤務パターンでお答えください。

現在の職場の満足度<項目別全体>



※「⑦その他労働条件」は、具体的な記入欄に「その他の労働条件はない」と回答した方(1,322名)を除いて集計している。(n=9,955)

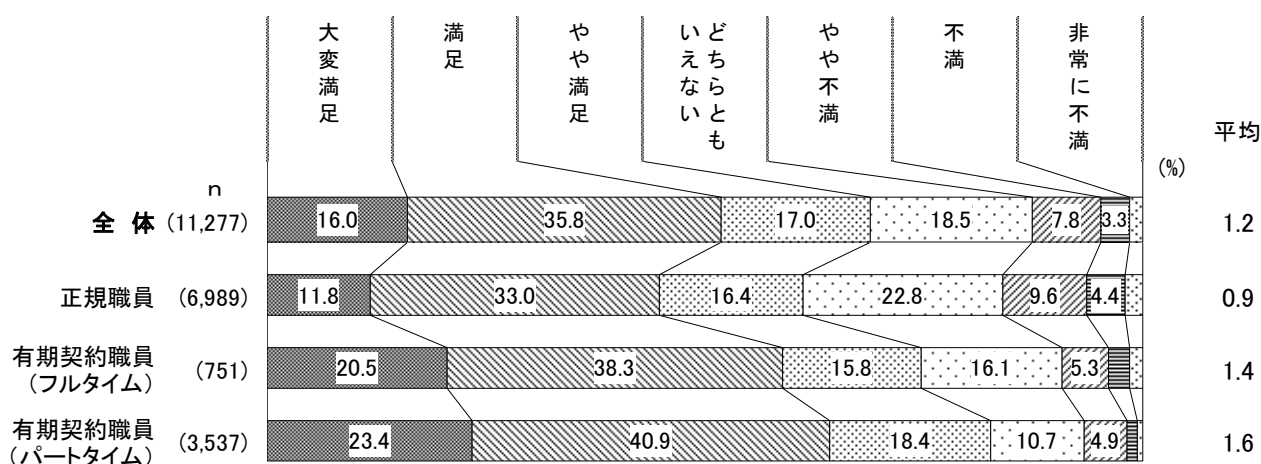
<現在の職場の満足度（雇用形態別）>

雇用形態別の各満足度をみると、『満足』（「大変満足」～「やや満足」の計）は、正規職員よりフルタイム、フルタイムよりパートタイムで満足度が高くなっている（⑥保護者と地域との関係性、⑧保育理念や運用方針、⑨やりがいを除く）。

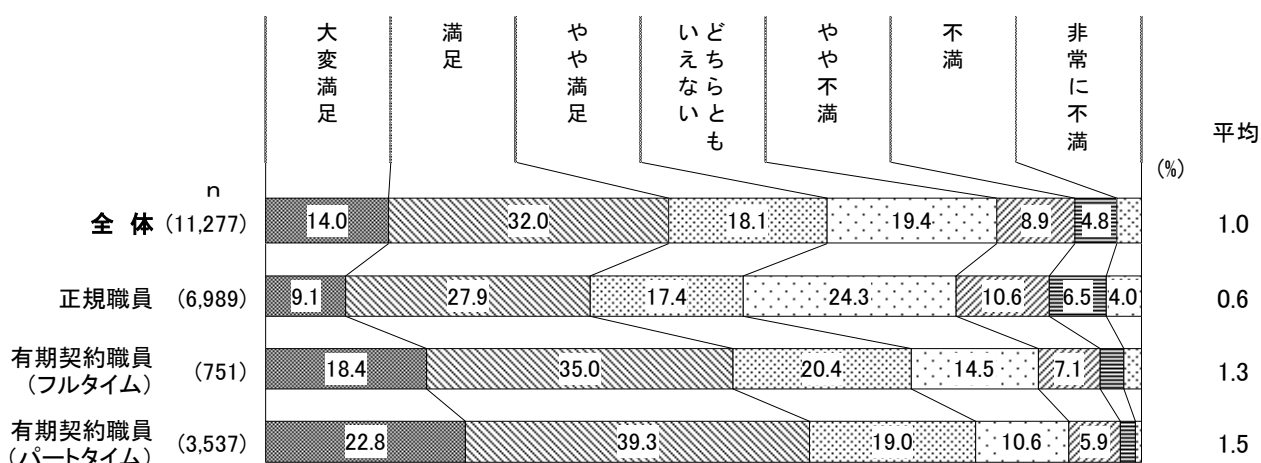
また、⑨保育士としての仕事のやりがい度については、『不満』の割合はいずれの形態でも2割未満であり、『満足』と感じている人は、パートタイムで7割台半ば（74.9%）、正規職員やフルタイムで約7割となっている。

一方、『不満』（「やや不満」～「非常に不満」の計）は③給与・賞与等で割合が高い。

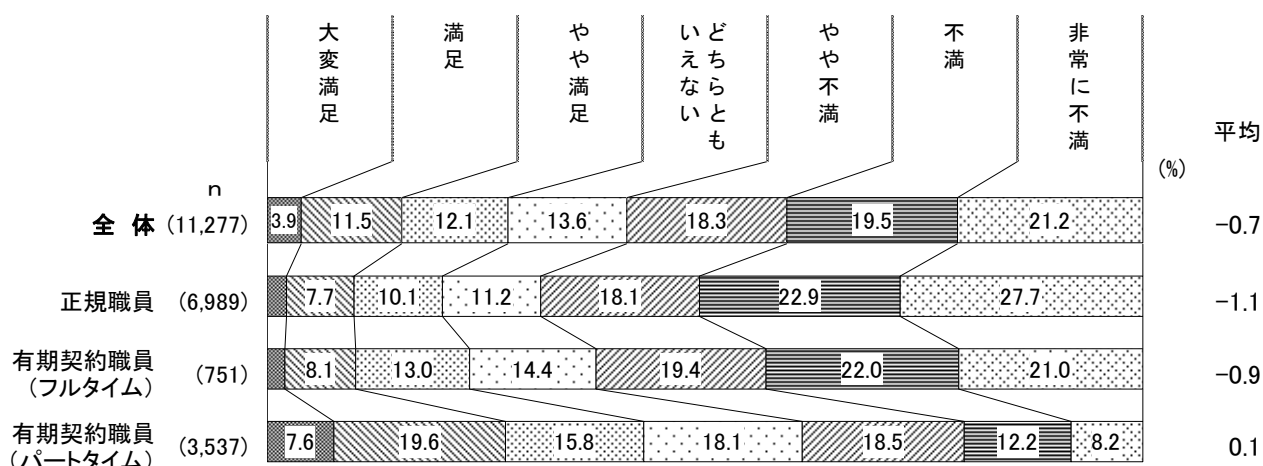
現在の職場の満足度<①勤務日数>（雇用形態別）



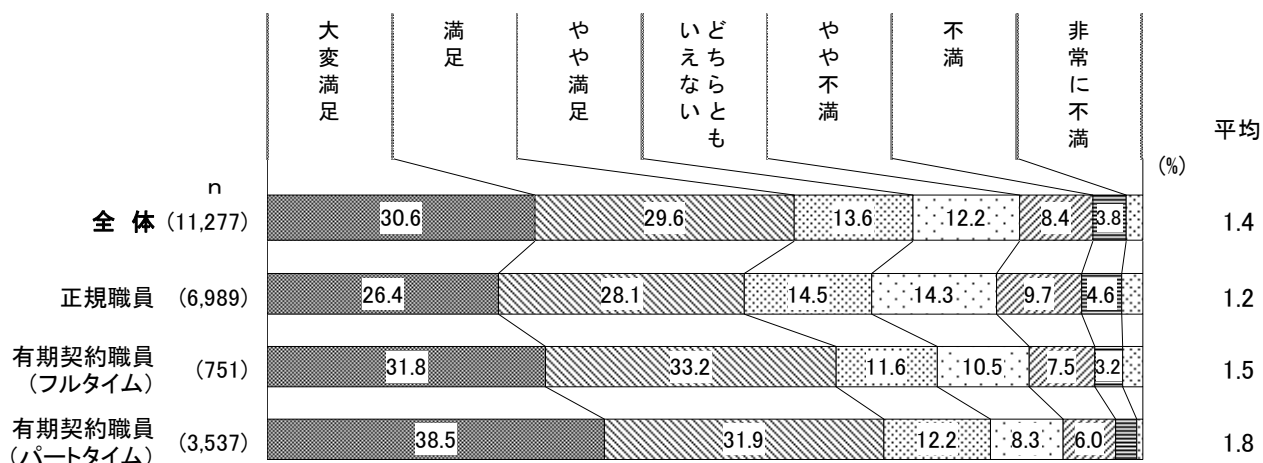
現在の職場の満足度<②勤務時間>（雇用形態別）



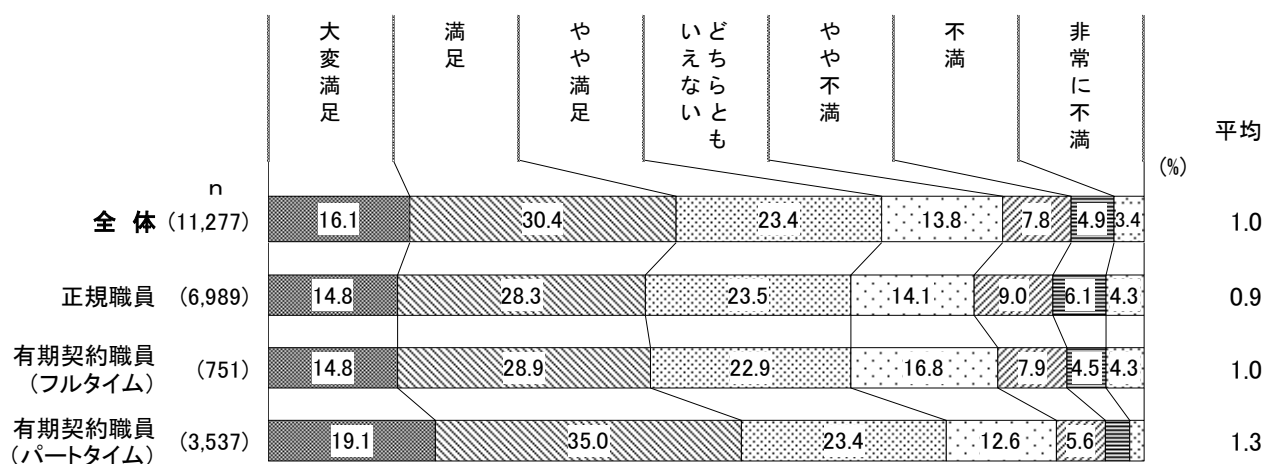
現在の職場の満足度<③給与・賞与等> (雇用形態別)



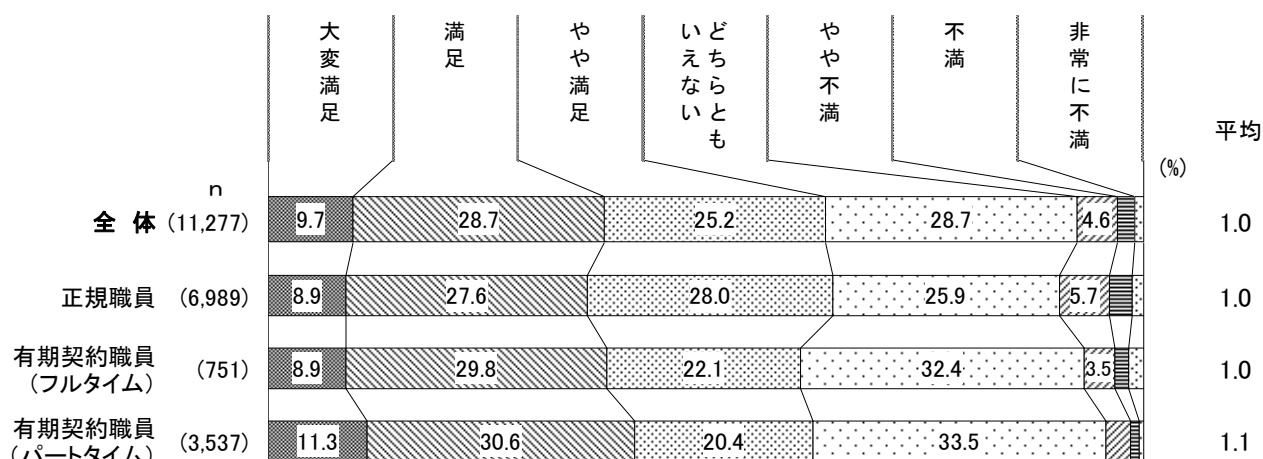
現在の職場の満足度<④自宅からの通勤時間 (片道)> (雇用形態別)



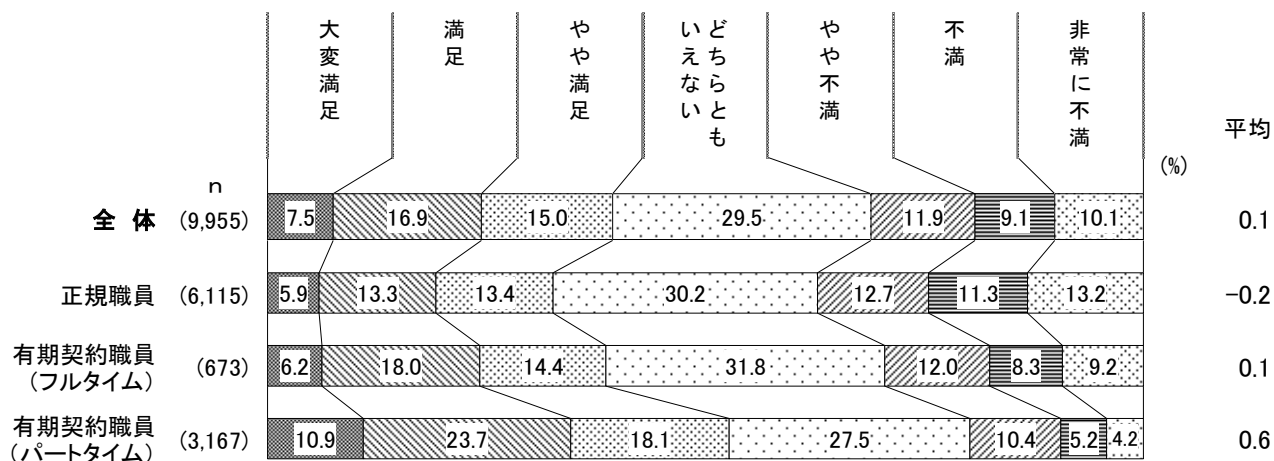
現在の職場の満足度<⑤職場の人間関係> (雇用形態別)



現在の職場の満足度<⑥保護者や地域との関係性> (雇用形態別)

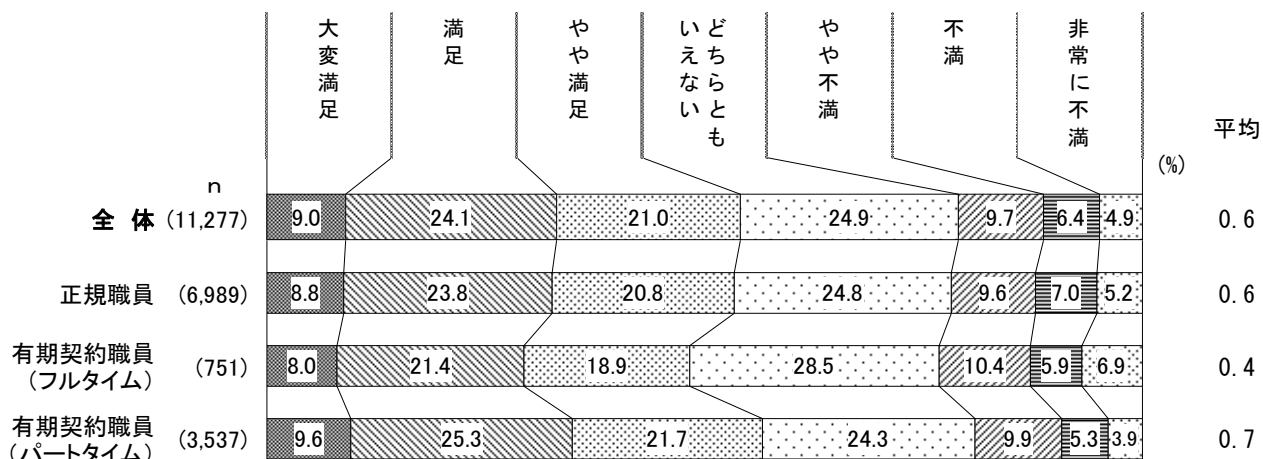


現在の職場の満足度<⑦その他労働条件> (雇用形態別)

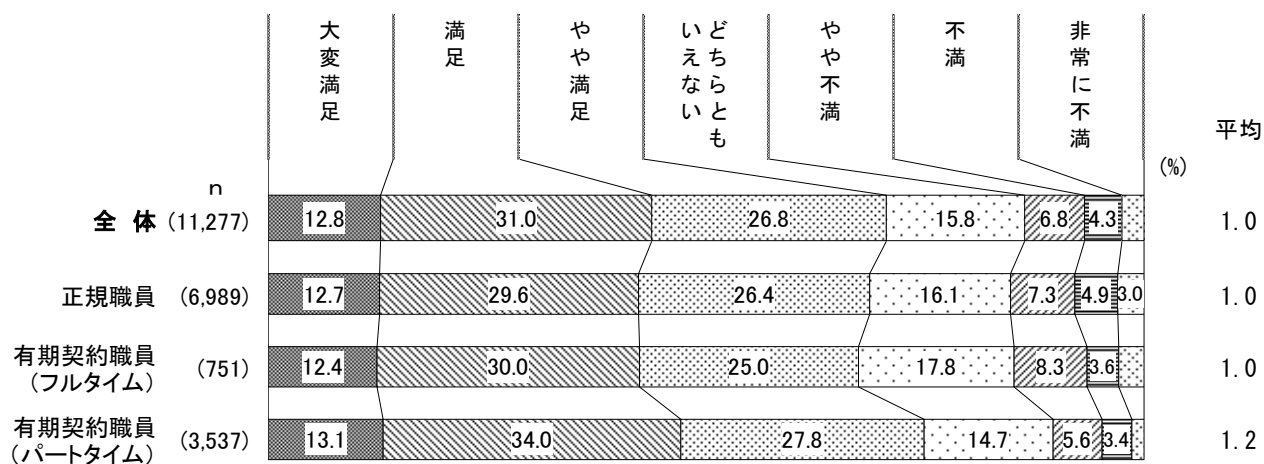


※「具体的に」の欄に「その他の労働条件はない」と回答した方(1,322名)を除いて集計しているため、他の項目と母数が異なる。

現在の職場の満足度<⑧保育所や法人の保育理念や運営方針> (雇用形態別)



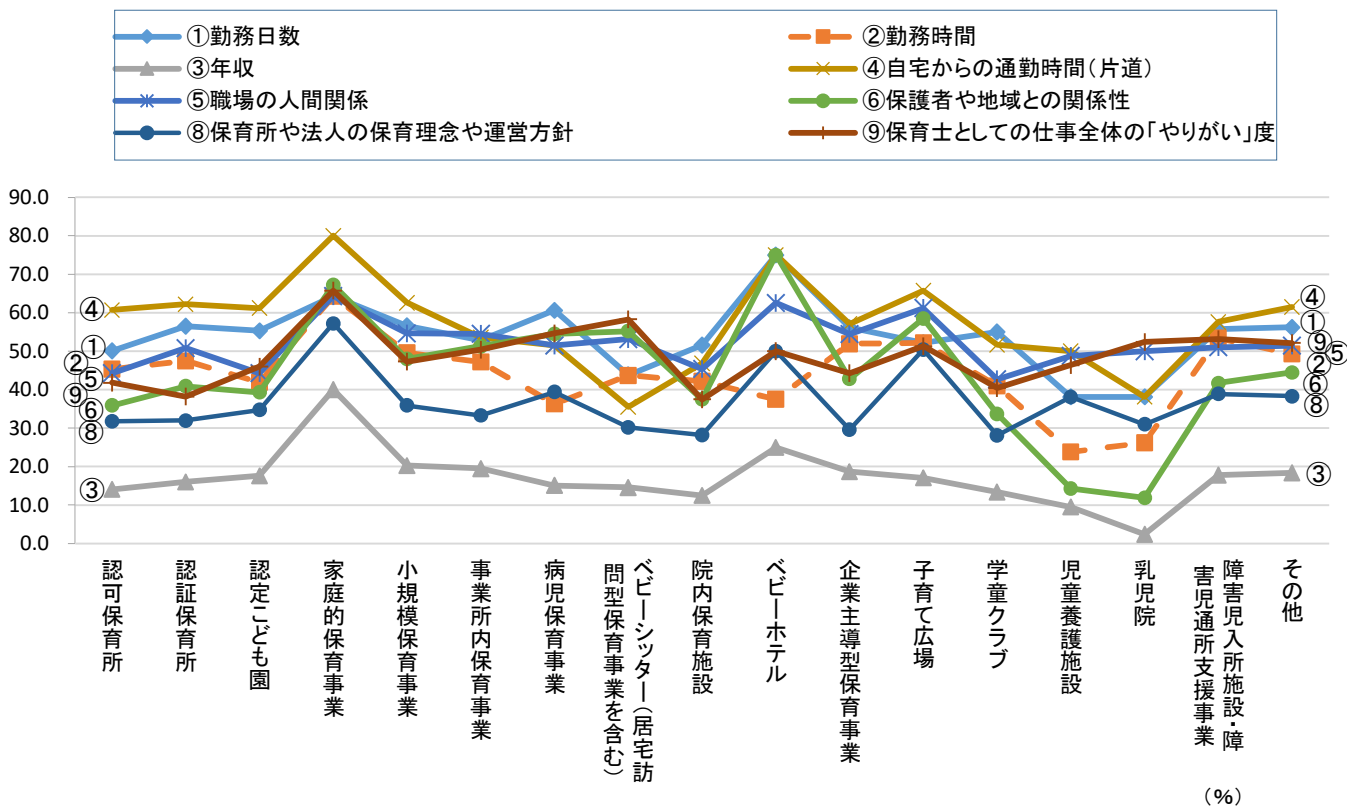
現在の職場の満足度<⑨保育士としての仕事全体の「やりがい」度> (雇用形態別)



<現在の職場の満足度（施設類型別）>

※施設類型別は累計数が多いため、満足（「大変満足」～「やや満足」の合計）の割合で分析した。

施設類型別の各満足度をみると、認証保育所では認可保育所に比べて、「①勤務日数」「⑤職場の人間関係」「⑥保護者や地域との人間関係」の満足度が高くなる傾向にある。



	調査数	①勤務日数	②勤務時間	③年収	④自宅からの通勤時間(片道)	⑤職場の人間関係	⑥保護者や地域との関係性	⑧保育所や法人の保育理念や運営方針	⑨保育士としての仕事全体の「やりがい」度
認可保育所	7,363	50.1	45.3	14.1	60.7	44.3	35.9	31.8	41.8
認証保育所	474	56.5	47.5	16.0	62.2	50.8	40.9	32.0	38.2
認定こども園	691	55.3	41.9	17.6	61.2	44.3	39.3	34.7	46.0
家庭的保育事業	70	64.3	64.3	40.0	80.0	64.3	67.2	57.2	65.7
小規模保育事業	454	56.6	49.6	20.3	62.6	54.6	48.0	35.9	47.3
事業所内保育事業	123	52.8	47.2	19.5	53.6	54.5	51.3	33.3	50.4
病児保育事業	33	60.6	36.3	15.1	51.5	51.5	54.5	39.4	54.6
ベビーシッター(居宅訪問型保育事業を含む)	96	43.8	43.7	14.6	35.5	53.1	55.2	30.2	58.3
院内保育施設	64	51.6	42.2	12.5	46.8	45.4	37.5	28.2	37.5
ベビーホテル	8	75.0	37.5	25.0	75.0	62.5	75.0	50.0	50.0
企業主導型保育事業	406	56.1	51.9	18.7	57.1	54.4	42.8	29.6	44.3
子育て広場	111	52.2	52.2	17.1	65.7	61.2	58.5	50.4	51.3
学童クラブ	178	55.0	41.0	13.4	51.7	42.7	33.7	28.1	40.4
児童養護施設	84	38.1	23.8	9.5	50.0	48.8	14.3	38.1	46.4
乳児院	42	38.1	26.2	2.4	38.1	50.0	11.9	31.0	52.4
障害児入所施設・障害児通所支援事業	429	55.7	53.4	17.8	57.6	51.0	41.7	38.9	53.1
その他	651	56.2	49.3	18.4	61.5	51.4	44.5	38.3	52.1

※⑦その他労働条件は他の選択肢と母数が異なるため表示を省略している。

(5) 保育士の仕事のやりがい (自由記述) (AQ7)

AQ7 保育士の仕事のやりがいについて、AQ6のように感じる理由を具体的にお書きください。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	主な意見(記入者計9,294人)
1	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	子どもたちが自分の名前を覚えて「〇〇先生」と呼んでくれた時 0歳からの1歳児で持ち上がりで見ているが、毎日できることが増えてきているから一緒に成長している感じがする
2	女性	30～34歳	保育士試験	子どもの笑顔が見られることが何よりのやりがいです。ベビーシッターは単発のことが多いですが、基本一対一なので、ちょっとした表情の変化などを見落とすことなく、一瞬一瞬を大切に、応答的な関わりを持つことがメリットだと思います。また、シッターは、お子様だけでなく保護者の方々との関わりが保育園より密接なので、保育園勤務時代には気づけなかったご家庭の悩み事などを実感できたことはプラスになりました。
3	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	保護者と子どもたちが心地よく生活する一員として頑張ることのできる喜びがある。また、子どもたちから出てくるさまざまな発想から、自分の発想力を広げることにつながっている。
4	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	同僚(先輩職員)が困った時やどうして行きたいのか相談に乗ってくれたり、話す機会をくれる。やる気につながる。子どもたちの成長を見届けられることが何よりのやりがい
5	女性	40～44歳	その他養成施設の保育士養成課程	職員同士の関係がとても良好。1人1人の保育内容を否定せず、先輩や後輩のいい点を見つけ認めあえる。そういった環境の中で新しいことにも、挑戦できる。
6	男性	25～29歳	大学の保育士養成課程	「保育には正解がない」と言われるなか、子ども一人一人の成長過程を踏まえた上で自分なりの保育をして子どもがあらゆる面で成長する姿を見たり、感じた時にやりがいを感じる。
7	男性	20～24歳	大学の保育士養成課程	毎日預かる子どもの顔ぶれが変わるので、難しさもあるがその分保育スキルを活かして常に考えながら保育を行う事が出来、自分自身の保育スキル向上に繋がる気がしているから。
8	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	働くにつれて知識や経験が増え、保護者からの成長に関する質問にも少しずつつだいが答えられるようになってきた。また、行事案など園長先生は自分の考えを尊重してくれている。
9	女性	55～59歳	保育士試験	保育士経験が浅いので、経験が長い保育士さんから 保育の場面でのさまざまなことを丁寧に教えていただき、学びながら自分なりの発達支援ができること。
10	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	自分のやってみたいことを挑戦させてくれる職場環境なので、挑戦したことが子どもの成長につながるととてもやりがいを感じます。また、職場のみんなと一緒に行事などをやりとげたときも感動します。
11	女性	50～54歳	その他養成施設の保育士養成課程	子どもと一緒に遊びの発見や楽しい活動を考えることにやりがいを感じる。働き方改革などを通して、職場全体で考え業務改善し、実施していけること。
12	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	職場の上の人間が保育士の働く環境をよく理解しようとしてくれる、すぐに改善に動いてくれるので働きやすい。他の職員との関係も円満で相談や協力をお願いしやすい。
13	女性	40～44歳	大学の保育士養成課程	現在は、保育課で区全体の保育の質向上のために、施設の巡回支援訪問や研修の開催及び企画に携わっている。保育士としての専門性を十分に発揮できる職場である。
14	女性	60～64歳	保育士試験	正職員が少なく、パート職員が正職員と変わりなく仕事を任されている点。書類は苦手だが書くことにより自分のなすべき仕事や子どもの姿が見えてきて大変勉強になり、自身の日々成長を感じ、未熟な部分のサポートを主任、副主任が的確に、又親切に教えて下さる点。そして自分と同年代のパートが沢山居て心強い点。
15	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	まっさらな状態から自己肯定感を始めとする嬉しい気持ちや嫌な気持ち、考える事、行動する事等、0歳から5歳までの人間形成のとても重要な期間に関わることが出来るのは、本当に面白くてやりがいを感じています。
16	女性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	どこの保育園でも人手不足だとは思いますが、前に勤めていた園と比べて任せられる事や、自分の意見を言っても聞いてくれる体制がある事、何より子ども達に必要なとされてる事にやりがいを感じています。
17	女性	50～54歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	資格を取得したのが遅く(高年齢)、学校で様々なものを学びましたが、経験というものがありません。子どもとお話したり、一緒に遊んだりするなかで笑顔で楽しんでる姿や頑張っている姿を見ると、わたしも嬉しくなります。子どもはひとりひとり違います。子どもと接しながら関わりを大切に、経験しながら日々学んでいます。
18	女性	40～44歳	保育士試験	子育ての手助けとなっている実感がある。共働き家庭は子どもが一人で遊ぶ時間が多く一緒に遊ぶことで楽しい時間を過ごしてもらえていると思う。

第Ⅲ章 調査結果詳細

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	主な意見(記入者計9,294人)
19	女性	35～39歳	保育士試験	パートとしての勤務ですが、正社員の先生方と同様に子供や保護者と関わったり、責任ある仕事を任されているように感じます。
20	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	職場関係が良く、自身の仕事を評価してくれる上司がいる。また新しいことにチャレンジしやすい環境である。
21	女性	30～34歳	短期大学の保育士養成課程	職場の人間関係が良好で保育士としての自己肯定感があがるような声かけをしてもらえることや卒園児たちが遊びに来てくれることもやりがいにつながる。
22	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	子育て支援、保護者支援は必要不可欠で、社会的に最も重要な事柄だと感じている。そこに自分が携われることに誇りを持っている。何より子供たちはとても可愛い。子供が健やかに育つ為には、どれだけ沢山の人が関わり大事にされるかだと思う。子供たちに愛情を注げる一人になれる事はとてもやりがいのある素晴らしい仕事だと思う。
23	女性	45～49歳	保育士試験	施設長の立場になりますが、職員を育成すること、それが子どもへ還元させる過程を間近で見ることがやりがいを感じて居ます。
24	女性	35～39歳	保育士試験	自分の子育ての経験を活かしつつ、仕事が段々とできるようになってきているから。職場の人間関係は良好で、年齢関係なく意見を交わしながら保育できるから。
25	女性	35～39歳	短期大学の保育士養成課程	入園当初泣いてばかりだった子ども達が卒園する頃にはたくさんのお友達とコミュニケーションがとれ、立派に成長して旅立っていく姿を見れる事、卒園後も顔を見せにきてくれる事がやりがいに繋がっていると思います。
26	女性	45～49歳	保育士試験	小さい時からやりたかった仕事なので、異業種の仕事を経て40歳過ぎてから資格を取り保育士の仕事につけた事が嬉しく、実際の仕事内容は予想より大変なものでしたが今のところ子供の保育に携われることにやりがいを感じています。
27	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	子どもの成長に携われる事に一番のやりがいを感じます。また職場の人間関係が良好な事で、自分らしく働けている事や、先輩方からの学びの機会も多いことがモチベーションにも繋がっていると感じます。
28	男性	20～24歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	助け合いやチームワークとしてやりがいを感じる。女性社会の中で働くのは大変だが、休憩時間等で楽しい会話も出来るので、満足している。
29	女性	35～39歳	その他養成施設の保育士養成課程	体力精神力は使いますが、日々の保育をすることで園児達の小さな成長を感じることが仕事のやりがいになります。
30	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	次世代に仕えて、生きる力を養うことはとても光栄なこと。彼らの葛藤や成長に寄り添うことで愛を感じてもらうこと。どんな子でも愛されるために生まれたことを知ってほしい。また保護者が子育ての悩みや不安を打ち明けられる存在となれるよう関係を作ることがやりがいになっている。

(6) 初就業時に保育関係の求人を得るために利用した機関等 (AQ8)

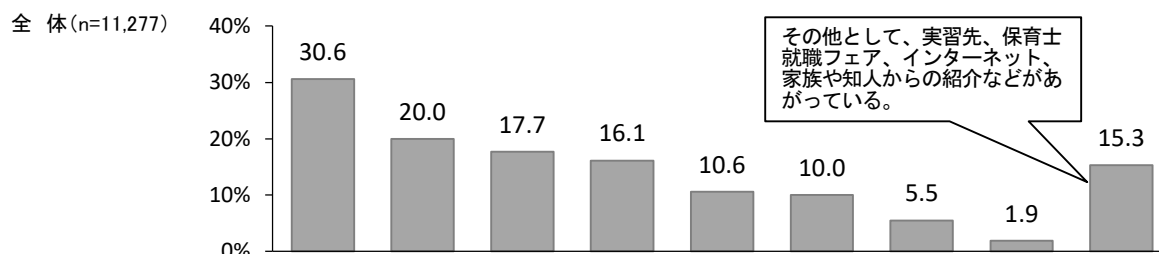
初就業時に保育関係の求人を得るために利用した機関等は、全体で「卒業した学校」が3割 (30.6%) で最も多く、次いで、「民間職業紹介」が2割 (20.0%)、「先輩や友人からの紹介」が約2割 (17.7%) となっている。

性・年代別でみると、「卒業した学校」が男女ともに20代が5割強となっている。

資格取得方法別でみると、その他養成施設の保育士養成課程を除く養成施設では「卒業した学校」が、保育士試験では「民間職業紹介 (求人情報誌・求人サイト等)」が最も多くなっている。

AQ8 あなたが初めて保育士として就職した際、どのようなところから得た情報を活用しましたか。(〇はいくつでも)

初就業時に保育関係の求人を得るために利用した機関等 (性別、性・年代別/資格取得方法別)



	n	卒業した学校 (指定保育士養成施設)	民間職業紹介 (求人サイト等)	先輩や友人からの紹介	就労を希望する保育所等のホームページ・チラシ等	ハローワーク	希望する区市町村	お住まい又は就労を希望する地区	人材センター (東京都福祉支援センター)	民間職業紹介 (相談窓)	その他
全体	11,277	30.6	20.0	17.7	16.1	10.6	10.0	5.5	1.9	15.3	

【性別、性・年代】

女性計	10,748	30.6	20.2	17.6	16.0	10.6	10.1	5.4	1.9	15.1
女性20代	3,799	〇 51.7	15.6	16.6	16.3	2.7	8.5	4.7	1.5	15.8
女性30代	2,266	29.6	22.7	15.1	15.8	13.0	8.6	6.1	1.9	12.9
女性40代	2,254	△ 17.3	24.5	17.8	16.5	16.5	9.8	5.8	2.4	14.5
女性50代以上	2,429	△ 10.7	21.0	21.2	15.2	15.3	14.2	5.5	2.1	16.4
男性計	510	30.4	14.9	20.0	17.5	10.4	7.1	6.1	2.5	20.0
男性20代	241	〇 52.3	10.4	20.3	14.5	2.5	7.9	6.2	0.8	12.4
男性30代以上	269	△ 10.8	19.0	19.7	20.1	17.5	6.3	5.9	4.1	〇 26.8
その他計	19	36.8	21.1	10.5	〇 31.6	5.3	〇 26.3	10.5	-	△ 5.3

【Q3 保育士資格取得方法】

専門(専修)学校の保育士養成課程	2,221	〇 48.0	12.0	16.2	13.4	8.9	7.5	5.3	1.1	14.3
短期大学の保育士養成課程	2,548	〇 46.1	12.6	16.3	13.4	7.7	9.1	4.6	1.1	12.8
大学の保育士養成課程	2,203	〇 50.4	15.1	17.2	17.9	4.3	12.8	5.8	1.4	13.8
その他養成施設の保育士養成課程	359	△ 10.3	26.2	24.0	15.0	15.6	10.3	5.8	1.7	16.7
保育士試験	3,946	△ 1.5	〇 31.3	19.2	18.4	16.4	10.2	5.9	3.3	18.1

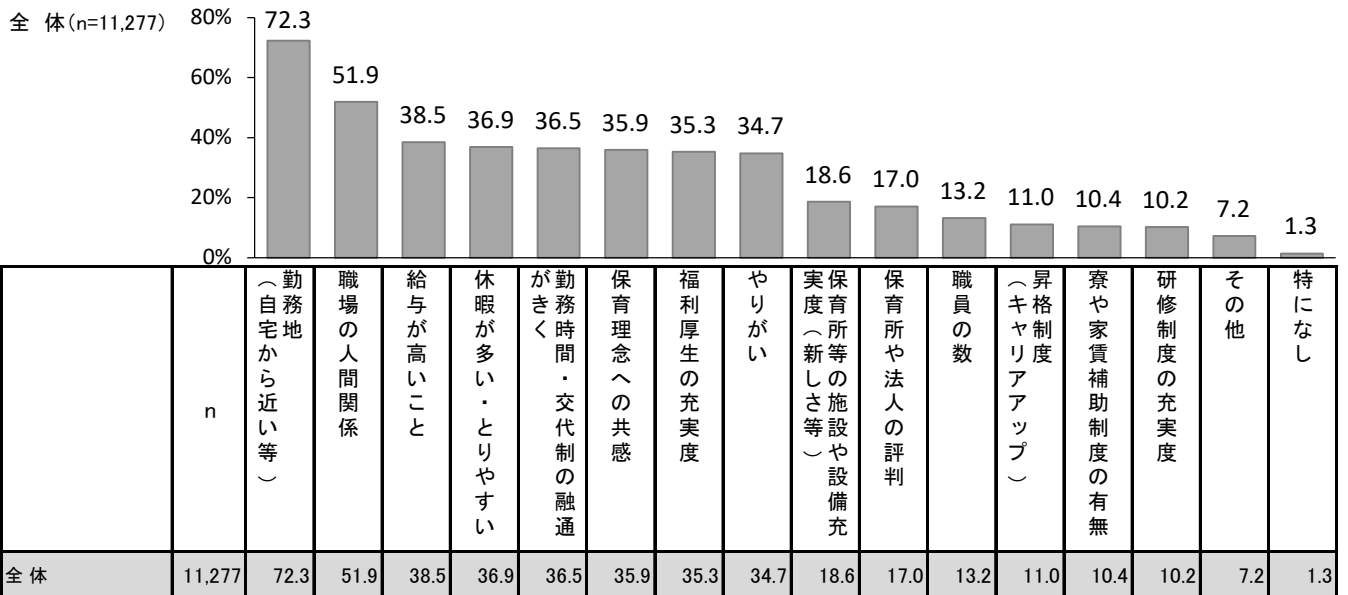
(7) 職場選択時に重視した項目 (AQ9)

保育士として職場選択時に重視した項目は、全体で「勤務地（自宅から近い等）」が7割強（72.3%）で最も多く、次いで、「職場の人間関係」が5割強（51.9%）となっている。そのほか「給与が高いこと」、「休暇が多い・とりやすい」、「勤務時間・交代制の融通がきく」、「保育理念への共感」、「福利厚生の実度」、「やりがい」が3割台となっている。

性別で見ると、男性の方が女性よりも「やりがい」を重視しており、女性の方が男性よりも職場環境や制度を重視している。

AQ9 あなたが保育士として職場を選ぶ際、どのようなことを重視していましたか。
(〇はいくつでも)

職場選択時に重視した項目（性別、性・年代別）



性別・性・年代	n	勤務地（自宅から近い等）	職場の人間関係	給与が高いこと	休暇が多い・とりやすい	勤務時間・交代制の融通がきく	保育理念への共感	福利厚生の実度	やりがい	実度（新しさ等）	保育所等の施設や設備充	保育所や法人の評判	職員の数	昇格制度（キャリアアップ）	寮や家賃補助制度の有無	研修制度の実度	その他	特になし
全体	11,277	72.3	51.9	38.5	36.9	36.5	35.9	35.3	34.7	18.6	17.0	13.2	11.0	10.4	10.2	7.2	1.3	
【性別、性・年代】																		
女性計	10,748	73.2	52.3	38.5	37.2	37.2	36.0	35.4	34.3	18.8	17.2	13.2	10.8	10.2	10.1	7.2	1.2	
女性20代	3,799	62.5	56.8	42.6	37.3	△ 21.3	34.2	○ 48.1	29.2	20.8	15.9	14.0	12.7	15.9	10.5	7.5	1.4	
女性30代	2,266	74.1	51.9	44.4	45.1	42.7	35.4	42.3	32.8	19.6	19.3	15.5	14.3	11.7	10.1	6.8	1.1	
女性40代	2,254	81.6	50.1	37.0	38.3	○ 50.7	37.7	25.6	35.0	16.3	18.6	13.0	9.0	5.4	9.6	7.1	0.7	
女性50代以上	2,429	81.3	△ 47.6	△ 28.2	28.5	44.6	37.9	△ 18.0	43.0	17.2	16.1	10.2	6.4	4.2	10.0	7.2	1.2	
男性計	510	△ 52.9	44.1	36.9	29.8	△ 22.0	32.4	34.5	42.2	15.5	13.3	12.0	14.7	14.5	11.6	7.3	3.5	
男性20代	241	△ 49.0	46.5	38.6	32.4	△ 16.2	30.3	39.4	37.8	15.8	9.1	11.6	16.2	16.2	10.0	7.1	3.3	
男性30代以上	269	△ 56.5	42.0	35.3	27.5	27.1	34.2	30.1	○ 46.1	15.2	17.1	12.3	13.4	13.0	13.0	7.4	3.7	
その他計	19	△ 57.9	△ 36.8	42.1	36.8	36.8	42.1	26.3	42.1	26.3	-	15.8	15.8	10.5	10.5	5.3	-	

(8) 現在の職場で働き続けるために充実を希望する項目 (AQ10)

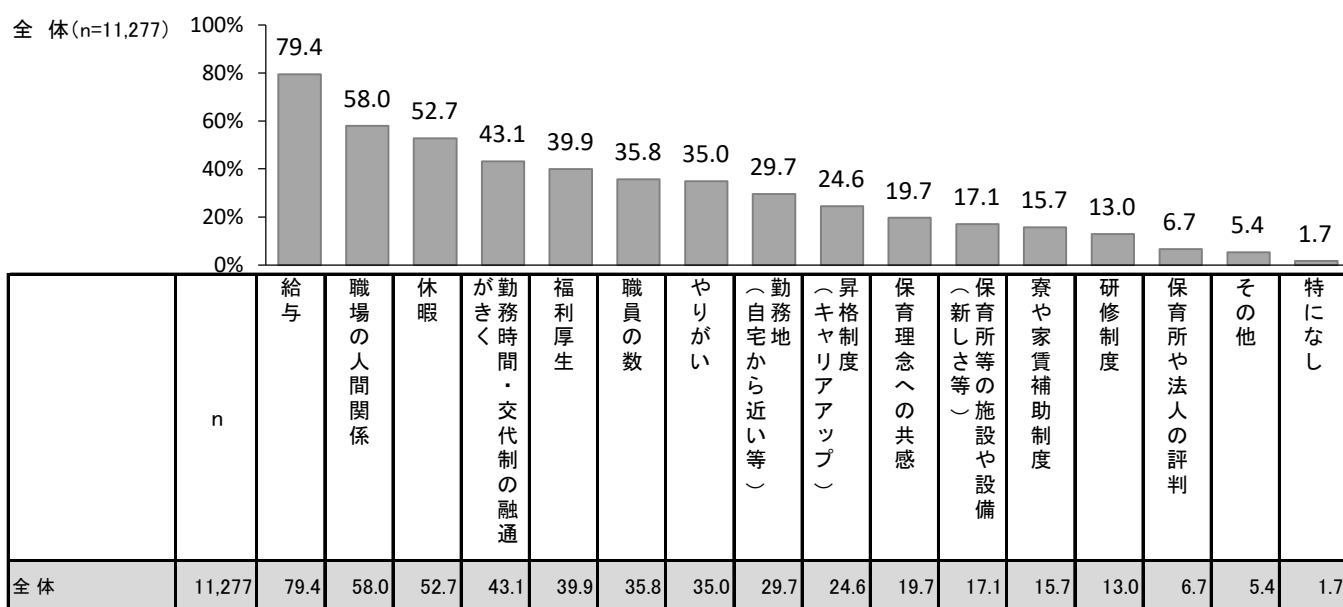
現在の職場で働き続けるために充実を希望する項目は、全体で「給与」が約8割(79.4%)で最も多く、次いで、「職場の人間関係」(58.0%)、「休暇」(52.7%)、「勤務時間・交代制の融通がきく」(43.1%)となっている。

性・年代別でみると、「給与」は女性20代、30代、男性20代で8割台を占めている。女性20代では「休暇」も6割台半ば(64.4%)と男女通じた年代と比べて高くなっている。

職場選択時に重視した項目(AQ9)と比較すると、職場選択時は「勤務地(自宅から近い等)」(72.3%)が最も多いが、現在の職場で働き続けるために充実を希望する上位5項目には入らず、職場選択時には7番目だった「福利厚生」が5番目に多くなっている。

AQ10 あなたはどのようなことが充実すれば、現在の職場で働き続けたいと思いますか。
(〇はいくつでも)

現在の職場で働き続けるために充実を希望する項目 (性別、性・年代別)



	n	給与	職場の人間関係	休暇	勤務時間・交代制の融通がきく	福利厚生	職員の数	やりがい	勤務地(自宅から近い等)	昇格制度(キャリアアップ)	保育理念への共感	保育所等の施設や設備(新しさ等)	寮や家賃補助制度	研修制度	保育所や法人の評判	その他	特になし
全体	11,277	79.4	58.0	52.7	43.1	39.9	35.8	35.0	29.7	24.6	19.7	17.1	15.7	13.0	6.7	5.4	1.7
【性別、性・年代】																	
女性計	10,748	79.5	58.3	52.8	43.5	40.0	35.9	35.0	30.0	24.3	19.8	17.1	15.3	13.0	6.7	5.5	1.7
女性20代	3,799	86.3	57.3	64.4	38.7	49.7	43.1	29.7	23.7	27.8	13.6	19.2	23.7	11.1	7.1	4.2	1.0
女性30代	2,266	83.8	58.3	59.0	49.5	46.7	40.5	33.3	32.3	29.7	19.4	19.6	17.3	12.1	6.6	6.0	1.0
女性40代	2,254	77.2	58.2	45.8	46.9	33.1	30.8	36.7	31.2	22.3	23.8	14.6	8.8	15.0	6.5	5.8	2.1
女性50代以上	2,429	66.8	59.9	35.5	42.2	24.9	25.1	43.2	36.7	15.9	26.1	13.8	6.3	14.8	6.4	6.5	3.0
男性計	510	78.0	52.2	49.4	34.9	37.1	32.4	36.7	23.3	29.2	18.2	16.1	24.5	14.1	5.7	4.5	3.1
男性20代	241	84.2	46.1	56.0	27.0	43.6	35.7	28.2	19.5	31.1	11.2	16.2	27.8	11.6	3.3	3.7	2.5
男性30代以上	269	72.5	57.6	43.5	42.0	31.2	29.4	44.2	26.8	27.5	24.5	16.0	21.6	16.4	7.8	5.2	3.7
その他計	19	89.5	47.4	84.2	52.6	36.8	73.7	31.6	36.8	42.1	21.1	36.8	26.3	21.1	-	5.3	-

職業選択時に重視した項目と
現在の職場で働き続けるために充実を希望する項目の上位5項目比較

(%)

職場選択時に重視した項目 (AQ9)			現在の職場で働き続けるために充実を希望する項目 (AQ10)		
1	勤務地 (自宅から近い等)	72.3	1	給与	79.4
2	職場の人間関係	51.9	2	職場の人間関係	58.0
3	給与が高いこと	38.5	3	休暇	52.7
4	休暇が多い・とりやすい	36.9	4	勤務時間・交代制の融通がきく	43.1
5	勤務時間・交代制の融通がきく	36.5	5	福利厚生	39.9

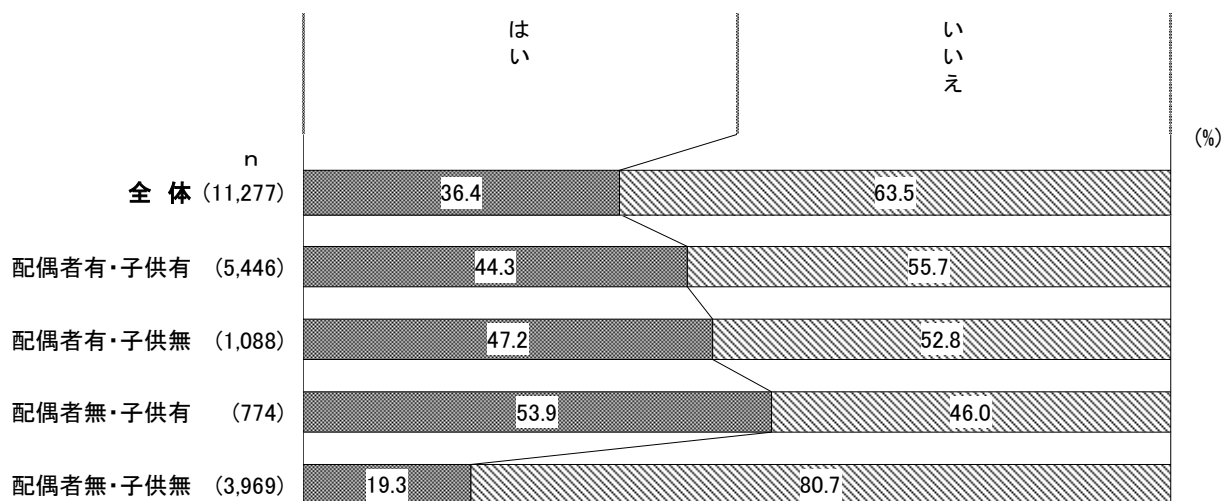
(9) 別の職場での保育士就業経験 (AQ11)

以前に別の職場で保育士として働いた経験は、全体で、働いていたことがある（「はい」）が36.4%、働いていたことはない（「いいえ」）が63.5%となっている。

配偶者・子供の有無別でみると、配偶者無・子供無で、働いていたことはない（「いいえ」）が80.7%と最も多い。

AQ11 以前に別の職場で保育士として働いていたことはありますか。（○は1つだけ）

別の職場での保育士就業経験（配偶者と子供の有無別）



(10) 以前の職場を辞めた理由 (AQ12)

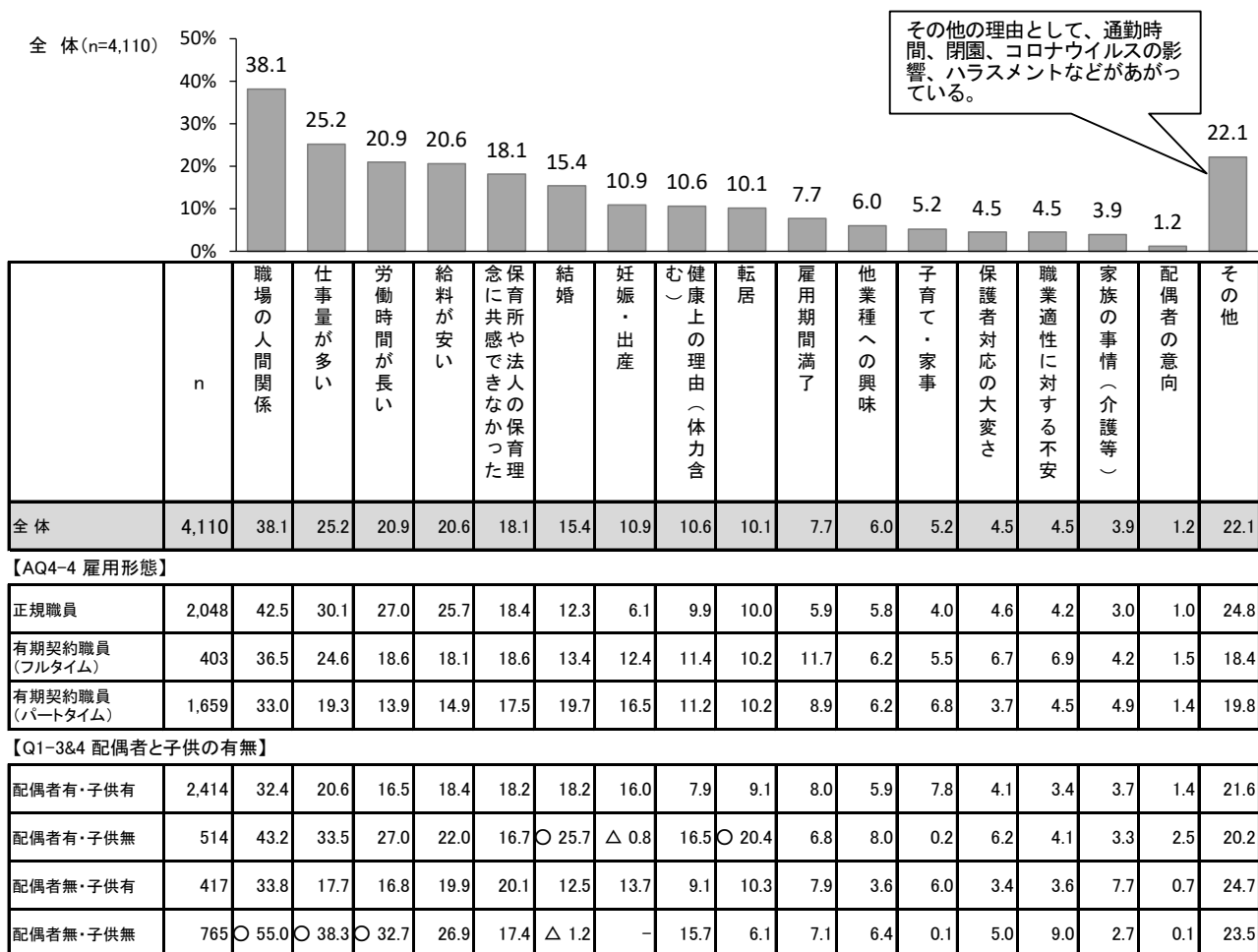
以前の職場を辞めた理由は、全体で「職場の人間関係」(38.1%)が最も多く、次いで、「仕事量が多い」(25.2%)、「労働時間が長い」(20.9%)「給料が安い」(20.6%)となっている。

雇用形態別でみると、いずれの形態も「職場の人間関係」が最も高く、労働条件よりも労働環境のほうが退職の理由として大きいことが推測される。

配偶者と子供の有無別でみると、「職場の人間関係」、「仕事量が多い」、「労働時間が長い」、「給料が安い」などにおいて子供無が子供有よりも高くなっている。

AQ12 その職場を辞めた理由をお選びください。(○はいくつでも)

以前の職場を辞めた理由 (雇用形態別、配偶者と子供の有無別)



(11) 転職時に保育関係の求人を得るために利用した機関等 (AQ13)

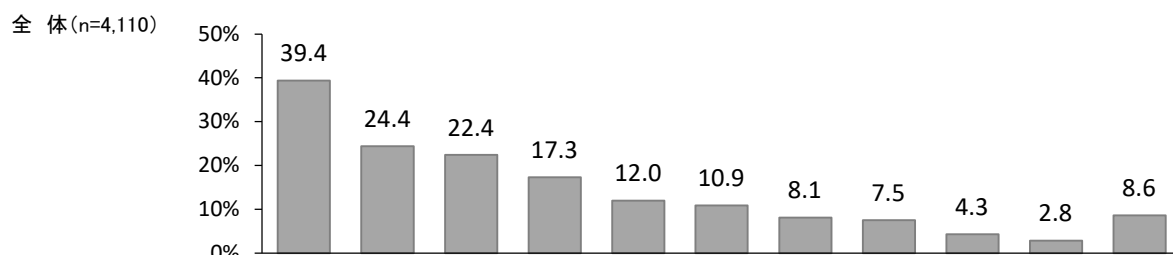
転職時に保育関係の求人を得るために利用した機関等は、全体で「民間職業紹介（求人情報誌・求人サイト等）」(39.4%)が最も多く、次いで、「ハローワーク」(24.4%)、「就労を希望する保育所等のホームページ・チラシ等」(22.4%)となっている。

性・年代別でみると、男女を通じた各年代で、「民間職業紹介（求人情報誌・求人サイト等）」が最も高く、女性40代では、「ハローワーク」も比較的高くなっている。

AQ13 あなたが転職活動をする際、どのようなところから得た情報を活用しましたか。

(○はいくつでも)

転職時に保育関係の求人を得るために利用した機関等（性別、性・年代別）



	n	民間職業紹介（求人情報誌・求人サイト等）	ハローワーク	就労を希望する保育所等のホームページ・チラシ等	先輩や友人からの紹介	保育人材・保育所支援センター（東京都福祉人材センター）	保育士仲間	お住まい又は就労を希望する区市町村	以前の勤め先（保育所等）や同僚からの紹介	民間職業紹介（相談窓口）	卒業した学校（指定保育士養成施設）	その他
全体	4,110	39.4	24.4	22.4	17.3	12.0	10.9	8.1	7.5	4.3	2.8	8.6

【性別、性・年代】

女性計	3,984	39.5	24.6	22.4	17.3	11.9	10.8	8.2	7.5	4.3	2.7	8.6
女性20代	722	43.4	△ 11.5	18.7	15.1	11.8	9.1	4.7	6.9	4.6	6.0	9.4
女性30代	1,075	39.0	26.2	21.4	15.4	13.2	12.0	7.8	6.9	3.6	2.4	8.3
女性40代	1,075	39.3	30.2	24.6	19.3	10.0	11.9	7.4	8.3	4.8	1.6	7.4
女性50代以上	1,112	37.7	26.1	23.7	18.4	12.6	9.8	11.6	7.8	4.1	2.1	9.4
男性計	123	35.8	18.7	21.1	17.9	14.6	12.2	5.7	7.3	5.7	6.5	10.6
男性20代	41	△ 26.8	△ 7.3	19.5	17.1	12.2	17.1	12.2	7.3	-	9.8	7.3
男性30代以上	82	40.2	24.4	22.0	18.3	15.9	9.8	2.4	7.3	8.5	4.9	12.2
その他計	3	○ 66.7	33.3	○ 66.7	-	-	-	-	-	○ 33.3	-	-

(12) 現在の職場で改善を希望する項目 (AQ14)

現在の職場で改善を希望する項目は、全体で「給与・賞与等の改善」が6割強 (62.7%) で最も多く、次いで、「職員数の増員」(48.6%)、「事務・雑務の軽減」(40.1%) など、勤務条件や労働条件に関する項目が高い割合を示している。

雇用形態別でみると、フルタイムとパートタイムは概ね全体の傾向と同様だが、「職員間のコミュニケーション」が3番目に高くなっている。また、正規職員は「事務・雑務の軽減」が5割台半ばと他の雇用形態に比べて高くなっている。

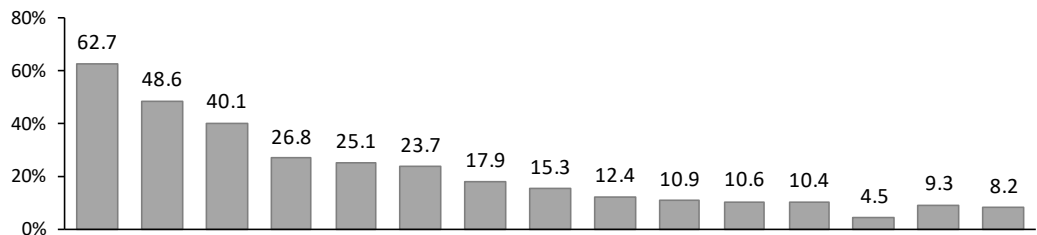
就業施設運営主体別でみると、公設・公営では「未消化 (有給等) 休暇の改善」が3割台半ば (36.8%) と他の運営主体と比較して10ポイント以上高くなっている。

AQ14 現在の職場に対して、日ごろあなたが改善してほしいと思っている事柄はありますか。

下記の中から近いものをお選びください。(〇はいくつでも)

現在の職場で改善を希望する項目 (雇用形態別、運営主体別)

全体(n=11,277)



	n	給与・賞与等の改善	職員数の増員	事務・雑務の軽減	職員間のコミュニケーション	勤務シフトの改善	未消化 (有給等) 休暇の改善	相談体制の充実	責任範囲の縮小	研修機会の充実	理念や運営方針	保育所や法人の保育	職員の安定化 (正規雇用)	評価制度の見直し	権限範囲の拡大	その他	特にない
全体	11,277	62.7	48.6	40.1	26.8	25.1	23.7	17.9	15.3	12.4	10.9	10.6	10.4	4.5	9.3	8.2	

【AQ4-4 雇用形態】

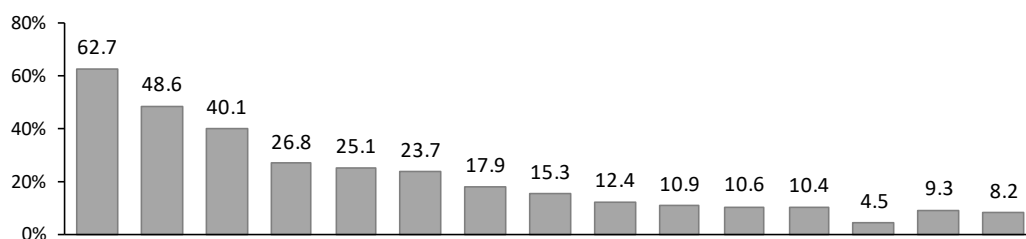
正規職員	6,989	70.8	58.1	〇 53.0	25.7	31.7	31.3	18.6	18.9	10.6	10.5	10.2	13.1	4.6	9.0	4.2
有期契約職員 (フルタイム)	751	65.4	40.3	△ 28.9	29.4	18.4	17.6	19.6	13.8	12.6	11.2	〇 20.9	7.9	4.7	10.0	8.3
有期契約職員 (パートタイム)	3,537	△ 46.1	△ 31.7	△ 17.0	28.4	△ 13.4	△ 9.9	16.0	8.6	15.8	11.6	9.4	5.5	4.3	9.8	15.9

【AQ4-2 運営主体】

公設・公営	1,950	58.4	46.2	44.8	28.6	24.5	〇 36.8	15.2	17.6	12.0	5.1	12.4	8.4	5.2	8.0	8.2
公設・民営	830	59.6	42.4	39.6	28.0	23.1	25.8	16.6	16.3	11.0	10.0	9.3	11.1	4.2	9.9	8.0
民設・民営 (社会福祉法人)	4,063	62.4	50.5	43.2	27.6	27.8	24.7	19.1	16.3	11.5	12.7	10.1	9.6	4.4	10.2	7.7
民設・民営 (株式会社)	3,252	68.6	52.7	37.2	24.3	23.9	15.6	18.5	13.8	13.3	12.3	10.8	12.8	4.3	9.7	7.3
民設・民営 (NPO法人)	301	53.5	41.2	△ 23.9	26.6	18.6	15.9	12.6	10.0	13.6	8.6	11.0	9.3	6.0	6.6	15.0
民設・民営 (その他)	881	58.1	39.0	31.9	27.0	22.1	20.0	18.7	12.3	14.5	11.4	9.9	9.3	4.3	7.8	11.6

現在の職場で改善を希望する項目（施設類型別）

全体(n=11,277)



	n	給与・賞与等の改善	職員数の増員	事務・雑務の軽減	職員間のコミュニケーション	勤務シフトの改善	未消化（有給等）休暇の改善	相談体制の充実	責任範囲の縮小	研修機会の充実	理念や運営方針	保育所や法人の保育職員登録（正規雇用）	評価制度の見直し	権限範囲の拡大	その他	特になし
全体	11,277	62.7	48.6	40.1	26.8	25.1	23.7	17.9	15.3	12.4	10.9	10.6	10.4	4.5	9.3	8.2

【AQ4-1 施設類型】

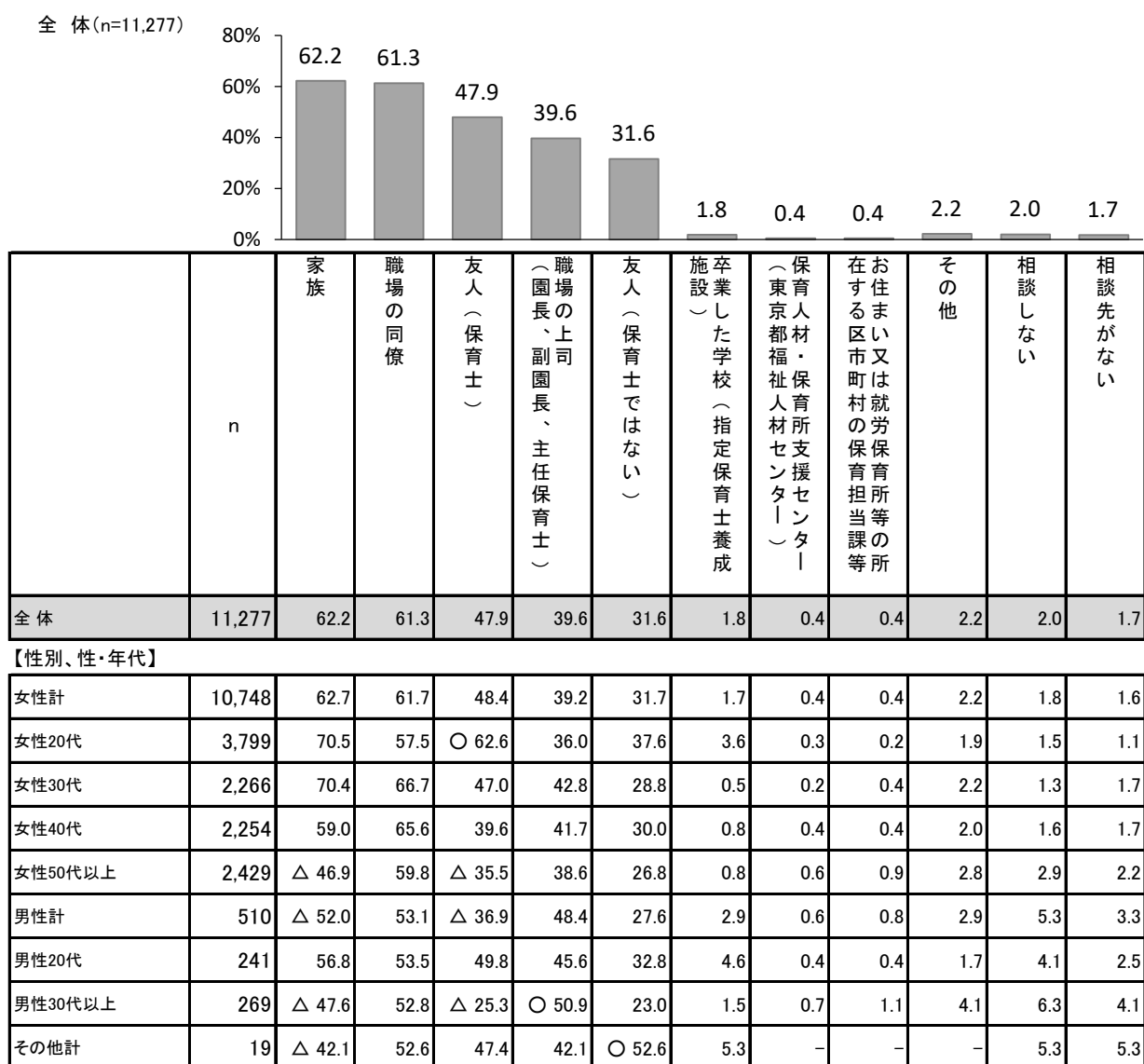
施設類型	n	給与・賞与等の改善	職員数の増員	事務・雑務の軽減	職員間のコミュニケーション	勤務シフトの改善	未消化（有給等）休暇の改善	相談体制の充実	責任範囲の縮小	研修機会の充実	理念や運営方針	保育所や法人の保育職員登録（正規雇用）	評価制度の見直し	権限範囲の拡大	その他	特になし
認可保育所	7,363	64.5	52.4	44.4	27.4	26.3	26.2	18.3	16.5	11.2	10.9	10.3	10.2	4.3	9.7	7.1
認証保育所	474	63.7	53.4	34.4	22.4	21.7	20.0	17.3	14.1	11.2	11.2	12.4	13.1	4.9	9.5	10.3
認定こども園	691	59.9	40.2	43.4	31.4	25.3	27.8	18.7	14.9	12.4	10.9	11.1	10.3	5.4	9.0	7.2
家庭的保育事業	70	△ 37.1	△ 15.7	△ 24.3	△ 8.6	△ 10.0	△ 10.0	10.0	△ 2.9	14.3	5.7	12.9	2.9	1.4	7.1	○ 30.0
小規模保育事業	454	58.8	40.1	△ 25.3	21.4	22.0	△ 12.3	16.3	12.8	13.9	11.2	10.6	9.5	3.7	9.5	12.1
事業所内保育事業	123	56.1	△ 35.0	△ 28.5	18.7	25.2	14.6	15.4	12.2	11.4	11.4	7.3	8.9	3.3	4.1	13.8
病児保育事業	33	69.7	42.4	△ 24.2	21.2	○ 45.5	21.2	27.3	6.1	15.2	9.1	12.1	9.1	3.0	15.2	-
ベビーカー（居宅訪問型保育事業を含む）	96	56.3	△ 5.2	△ 14.6	△ 16.7	△ 7.3	△ 2.1	19.8	△ 4.2	○ 24.0	3.1	12.5	8.3	2.1	12.5	○ 19.8
院内保育施設	64	68.8	△ 35.9	△ 29.7	26.6	25.0	△ 7.8	15.6	10.9	9.4	10.9	10.9	4.7	3.1	7.8	10.9
ベビーホテル	8	△ 37.5	△ 25.0	○ 62.5	△ 12.5	○ 50.0	25.0	-	-	12.5	○ 25.0	-	12.5	-	12.5	12.5
企業主導型保育事業	406	61.3	46.3	△ 28.3	23.4	27.8	15.8	15.0	11.8	12.3	17.5	10.1	11.1	4.2	6.2	9.9
子育て広場	111	△ 47.7	△ 32.4	△ 19.8	27.9	18.0	△ 12.6	11.7	10.8	10.8	1.8	13.5	6.3	4.5	5.4	18.0
学童クラブ	178	62.4	55.6	32.0	33.1	22.5	17.4	19.7	18.5	15.7	10.1	18.5	11.2	8.4	7.3	5.6
児童養護施設	84	60.7	57.1	44.0	29.8	○ 48.8	32.1	○ 28.6	15.5	17.9	10.7	16.7	11.9	6.0	11.9	2.4
乳児院	42	71.4	42.9	38.1	31.0	○ 42.9	26.2	23.8	19.0	16.7	9.5	4.8	19.0	7.1	9.5	7.1
障害児入所施設・障害児通所支援事業	429	60.6	43.1	30.5	29.4	17.5	17.2	14.2	11.9	○ 24.0	10.7	9.1	14.5	6.3	10.3	9.3
その他	651	56.8	△ 36.9	30.4	25.0	19.5	21.0	17.7	14.0	14.6	9.8	11.4	9.2	5.1	8.1	9.8

(13) 仕事の悩みを相談する相手 (AQ15)

仕事の悩みを相談する相手は、全体で「家族」が6割強 (62.2%) で最も多く、次いで、「職場の同僚」(61.3%)、「友人 (保育士)」(47.9%) となっている。
 性・年代別で見ると、「職場の同僚」が女性は30代、40代で6割台半ばとなっているのに対して、男性はいずれの年代も5割台となっている。
 また、女性では20代で「友人 (保育士)」が6割を超え、男性では30代以上で「職場の上司 (園長、副園長、主任保育士)」が5割を超えており、いずれも他層よりも高い。

AQ15 あなたが、仕事で悩んだときに相談する相手は誰 (どこ) ですか。(〇はいくつでも)

仕事の悩みを相談する相手 (性別、性・年代別)



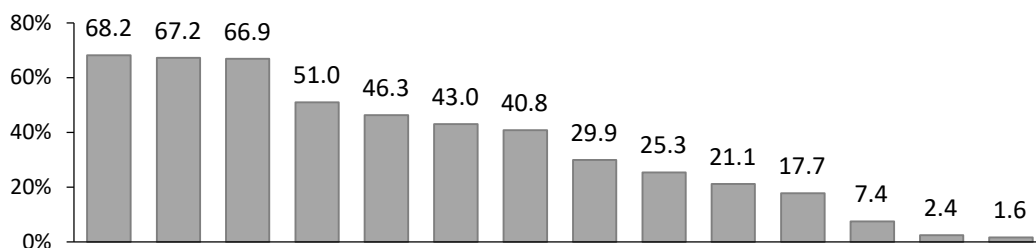
(14) 習得を希望する知識・技術 (AQ16)

習得を希望する知識・技術は、全体で「特別な支援を必要とする子どもへの接し方」(68.2%)、「発達心理学」(67.2%)、「保育実技」(66.9%)が6割台で習得を希望している。これに「保護者への対応の仕方」が5割強(51.0%)で続いている。
 性別で見ると、女性(68.7%)の方が男性(56.5%)より「特別な支援を必要とする子どもへの接し方」が高くなっている。雇用形態別で見ると、正規職員は「保育実技」(72.6%)、「保護者への対応の仕方」(59.8%)が他層より比較的高い。

AQ16 あなたは保育士として働き続けるにあたり、どのような知識や技術を習得したいと思いますか。下記の中からお選びください。(〇はいくつでも)

習得を希望する知識・技術 (性別、性・年代別、雇用形態別)

全体(n=11,277)



	n	特別な支援を必要とする子どもへの接し方	発達心理学	保育実技	保護者への対応の仕方	救命救急	安全管理	対応 食育・食物アレルギー	衛生管理	端末の操作やタブレット	地域の子育て支援	保育所保育指針	幼稚園教諭免許取得のための学習	その他	特に習得したいと思うことはないと思う
全体	11,277	68.2	67.2	66.9	51.0	46.3	43.0	40.8	29.9	25.3	21.1	17.7	7.4	2.4	1.6

【性別、性・年代】

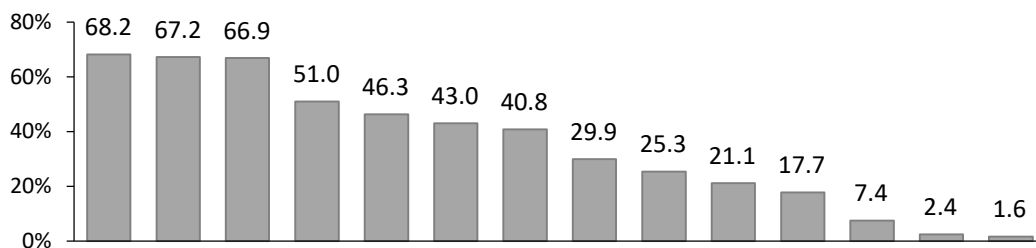
女性計	10,748	68.7	67.2	66.8	51.0	46.4	42.7	41.1	29.7	25.4	20.8	17.6	7.3	2.3	1.6
女性20代	3,799	65.2	64.8	79.0	65.1	43.9	43.6	46.0	28.3	20.2	20.2	18.6	3.9	1.7	1.6
女性30代	2,266	71.7	70.4	70.4	54.9	51.7	47.6	47.9	34.6	25.3	25.6	22.2	9.8	2.6	1.3
女性40代	2,254	73.7	72.0	61.1	44.4	51.2	42.8	37.0	30.0	30.1	21.3	17.2	10.5	2.7	0.9
女性50代以上	2,429	66.7	63.4	49.7	31.3	41.0	36.5	30.7	27.0	29.5	16.8	12.1	7.2	2.8	2.8
男性計	510	56.5	65.9	68.4	50.4	42.7	48.4	34.7	33.1	21.8	25.7	19.0	8.8	3.5	1.4
男性20代	241	53.5	63.9	75.1	58.9	43.2	53.1	39.8	33.6	26.1	24.1	19.1	6.2	2.9	1.2
男性30代以上	269	59.1	67.7	62.5	42.8	42.4	44.2	30.1	32.7	17.8	27.1	19.0	11.2	4.1	1.5
その他計	19	89.5	84.2	68.4	47.4	78.9	57.9	47.4	52.6	26.3	36.8	15.8	21.1	5.3	-

【AQ4-4 雇用形態】

正規職員	6,989	67.6	66.9	72.6	59.8	44.6	45.1	43.6	30.1	25.4	23.0	20.6	6.1	2.5	1.3
有期契約職員(フルタイム)	751	74.6	71.9	61.3	42.9	46.6	38.9	42.7	31.3	31.6	18.6	17.2	9.3	3.2	1.6
有期契約職員(パートタイム)	3,537	68.0	66.7	56.8	35.1	49.6	39.6	34.9	29.2	23.7	17.6	12.0	9.6	2.0	2.3

習得を希望する知識・技術（資格取得方法別）

全体(n=11,277)



	n	特別な子どもへの接し方	発達心理学	保育実技	保護者への対応の仕方	救命救急	安全管理	食育・食物アレルギー対応	衛生管理	端末の操作	パソコンやタブレット	地域の子育て支援	保育所保育指針	幼稚園教諭免許取得のための学習	その他	特に習得したいと思うことはない
全体	11,277	68.2	67.2	66.9	51.0	46.3	43.0	40.8	29.9	25.3	21.1	17.7	7.4	2.4	1.6	

【Q3 保育士資格取得方法】

資格取得方法	n	特別な子どもへの接し方	発達心理学	保育実技	保護者への対応の仕方	救命救急	安全管理	食育・食物アレルギー対応	衛生管理	端末の操作	パソコンやタブレット	地域の子育て支援	保育所保育指針	幼稚園教諭免許取得のための学習	その他	特に習得したいと思うことはない
専門(専修)学校の保育士養成課程	2,221	65.4	66.6	66.1	51.7	45.5	42.0	40.7	29.4	29.4	20.0	19.1	5.4	2.5	2.6	
短期大学の保育士養成課程	2,548	64.4	63.6	65.3	50.9	44.6	40.6	40.5	27.1	29.0	19.5	17.7	2.9	2.2	2.0	
大学の保育士養成課程	2,203	68.6	63.3	79.8	65.9	45.5	49.5	46.7	31.3	21.7	22.8	20.8	2.5	2.4	1.4	
その他養成施設の保育士養成課程	359	70.2	66.9	51.0	32.9	43.7	37.3	33.7	24.0	34.5	18.9	12.5	3.6	1.1	1.7	
保育士試験	3,946	71.8	72.0	62.6	43.9	48.6	41.9	38.4	31.7	21.7	21.9	15.5	14.5	2.6	1.0	

(15) よいと考える研修内容（自由記述）（AQ16_1）

【AQ16で「1」～「13」（習得したい知識や技術あり）と回答した方にお聞きします。】

AQ16_1 どのような内容の研修があれば良いと思いますか。できるだけ具体的にお書きください。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	主な意見（記入者計8,020人）
1	女性	40～44歳	保育士試験	発達障害児に対する具体的な支援方法について。書籍を購入して独学しても、保育園での「その子」の個性に対応できないことが多い。保育園に心理師等をもっと頻回に派遣し、実践的な技術や知識を伝えて欲しい。
2	女性	30～34歳	専門（専修）学校の保育士養成課程	食に興味のない子どもが増えてきて偏食である。保護者も保育者も興味を持てるような研修をしてほしい。
3	女性	40～44歳	その他養成施設の保育士養成課程	新人育成または、新人が基本的な社会人のマナーや仕事に対する姿勢、先輩との関わり方などの研修。
4	女性	25～29歳	専門（専修）学校の保育士養成課程	保護者からのクレーム対応の仕方や関係のより良い築きかたがあるといい。発達支援ならびに気になる子に対する言葉かけや支援の仕方や保護者に対するの接し方、また発達支援機関での内容はどうしているのか知りたい。
5	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	現在を生きる子ども達に対するの接し方（インターネット世代、映像などのコンテンツ加多の世代について）保育知識の偏りのある保護者に対するの接し方
6	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	グレーゾーンと言われる子どもたちが増えているので実践的にどう関わればいいのか長期間で研修を受けたい
7	女性	50～54歳	保育士試験	座学はウェブでオンライン研修があると時間や場所を選ばずに受講できるので体制を整えて欲しい。
8	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	幼小保の連携についての研修で、幼稚園小学校保育園の先生が一度に集まれる機会が欲しいです。子どもたちの成長に欠かせない連携だと考えています。未だに一回もこういう研修がありません。
9	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	不審者対応の研修。正規職員として勤めていた園では年に数回行っていたが、警察官や専門家の元で講習を聞き、実演する場があると良い。近年、無差別殺人が増えているため。有事の時に誰もが適切に動けるようにするため。
10	女性	35～39歳	保育士試験	虐待やネグレクトなどの問題を抱える家庭への対応のしかた
11	女性	40～44歳	短期大学の保育士養成課程	ケース検討のように実際にある悩みを専門の先生に投げかけ、どう対応すればよいのかをディスカッション形式で考える。教科書通りにはいかないことがほとんどなので。
12	女性	20～24歳	専門（専修）学校の保育士養成課程	乳児の興味のある保育技術。ペープサートやパネルシアターなどのよくある保育技術以外のちょっと特殊なものを学びたい。
13	女性	65～69歳	短期大学の保育士養成課程	コミュニケーションをとる、信頼関係を結ぶ事が必須の仕事。そのためには他園の保育士との情報交換などを行い視野を広げる。園内研修では得られないことがあると思う。
14	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	地域子育て支援について、地域との繋がりがりや保育所がひらけた場所になる為の取り組みについて知りたい。
15	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	明日からでも使える実践的なもの。（折り紙、わらべ歌、リズム講習会など）

第Ⅲ章 調査結果詳細

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	主な意見(記入者計8,020人)
16	女性	40～44歳	大学の保育士養成課程	こどもの権利。保育に対しての意識改革。当たり前だと思ってやっていたことが実は不適切な保育、こどもの権利侵害になっていることが多い。リスクマネジメント。置き去りや見失いが増えている。
17	女性	45～49歳	短期大学の保育士養成課程	外国人のお子様や保護者様と接する機会があるので保育英語研修等でより正確にお伝えできると助かる
18	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	研修の抽選が多いので、希望者が順に受けられるように、研修日を増やしてほしい。研修で学ぶことが多いです。現場第一なので、働きながら、受けやすい時間に設定して頂くと、ありがたいです。
19	女性	30～34歳	短期大学の保育士養成課程	どんな内容でもいいですが、実際に現場を知っている人が講師として立ち、理想論ではなく現実的なことを学べて、すぐに知識として役に立つ内容の研修がいいです。現場経験がなかったり、理想論を話す講師の方が多いので、あまり参考にならない研修が多すぎます。
20	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	新人保育士同士のコミュニケーションが取れるような機会になる研修
21	女性	45～49歳	短期大学の保育士養成課程	身近な自然を知る研修。子どもと散歩に出た時や、園庭遊びをしている時に、身近にある植物を使って遊んだしできたらいいなと思うので。また、小さい頃から自然を感じて、大切にしていけることを伝えられたらとおもうので。
22	女性	35～39歳	保育士試験	障害児保育について。医療的ケア児支援法もできるので、医療ケアを必要とする子どもの受け入れ先がもう少し増えるといいと思います。
23	女性	35～39歳	保育士試験	自分の園の保育ばかりを経験しているどうしても視野が狭くなるため、他園への見学や実習をする機会が欲しいです。
24	男性	20～24歳	大学の保育士養成課程	アートや音楽などの感性の部分 子どもたちがどのように世界を見て、考えて過ごしているのかを垣間見るためには感性の部分がとても大切だと思うから
25	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	自己肯定感の育成 非認知能力の育成 人間力を培うことについて
26	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	年齢ごとに、人気のある手遊び。ブロックの楽しい遊び方など、子ども達の集中力が高められる遊びを学びたいです。
27	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	緊急事態時(地震、火災、水害)の際の対応方法。アレルギー対応。子どもが怪我をした時の応急処置の仕方などを学びたい。保護者に対応の仕方など。
28	女性	30～34歳	保育士試験	マネジメント研修で行う職員の関わり方のようなものが、全職員聞ける研修があると人間関係が良くなると思う。
29	女性	40～44歳	大学の保育士養成課程	パートタイムの職員に対しても、配慮の必要なお子さんとの関わり方や保育の幅広い知識などを学べる機会があるといいと思います。
30	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	年齢ごとの研修。同じ学年をもつ先生との意見交換が出来たり、関わり方を学べたら良い。
31	女性	50～54歳	保育士試験	保育を取り巻く様々な情報が時代の変化と共に書き変わっていく中で昔のままの保育を実践している同僚も多くいるので保育の在り方をアップデート出来る研修を受けなくてはならないだろうと思います。
32	女性	35～39歳	保育士試験	パソコンの基礎を学べる研修。異業種から転職し、ネットやパソコン知識レベルは高く感じます。ここのレベルが上がれば事務負担もパソコンでこなせて楽になると感じます。保育業界のITのレベルアップ、ICT化を強く望みます。
33	女性	30～34歳	保育士試験	保育士試験で初めて保育士になった人向けに、実際の現場で活かせるような知識を学びたいです。(保育士試験合格者は実習など経っていないので。)毎週自由に参加できるセミナーがあれば参加したいです。平日、休日問わず。
34	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	個人の価値観にもよるのですが、『子どもを叱ること、注意すること』に対する研修をしてほしいです。虐待が可視化され、そのワードが浸透した現代ですが、職員の年齢、生きてきた年代、その職員の背景で子どもを叱ること、注意することに違和感を感じます。年々想像力が低下していると言われる子どもの為にも、大人の子どもへの接し方、その接し方への考え方を統一するべきなのではないでしょうか。
35	女性	40～44歳	保育士試験	子どもが怪我をした時や熱性痙攣を起こした時、誤飲や誤食をした時の対応を実技を交えた形で行う研修。

(16) 知識や技術を習得するために活用しているもの (AQ17)

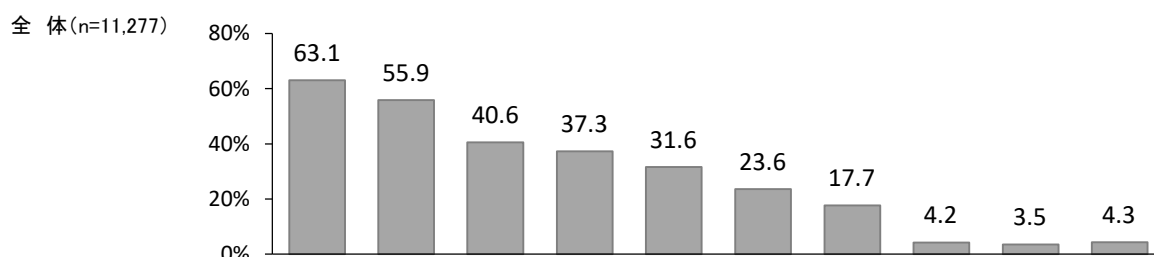
知識や技術を習得するために活用しているものは、全体で「インターネット」が6割台半ば(63.1%)で最も多く、次いで、「保育関連書籍・雑誌」(55.9%)、「法人実施の職員向け研修(園内研修など)」(40.6%)となっている。

性・年代別でみると、女性20代では「SNS」が約5割、女性30代では「乳幼児向けテレビ番組」が3割台半ばと多くなっている。

雇用形態別でみると、正規職員は「法人実施の職員向け研修(園内研修など)」(50.4%)、「国や自治体が主催する研修(委託・キャリアアップ研修含む)」(50.2%)、「SNS」(38.2%)が他層より比較的高い。

AQ17 あなたが保育に関する知識や技術を習得するために活用しているものはどれですか。
(○はいくつでも)

知識や技術を習得するために活用しているもの(性別、性・年代別、雇用形態別)



	n	インターネット	保育関連書籍・雑誌	法人実施の職員向け研修(園内研修など)	国や自治体が主催する研修(委託・キャリアアップ研修含む)	SNS	乳幼児向けテレビ番組	民間事業者・団体が実施する研修や保育イベント	卒業した学校(指定保育士養成施設)	その他	特にない
全体	11,277	63.1	55.9	40.6	37.3	31.6	23.6	17.7	4.2	3.5	4.3

【性別、性・年代】

女性計	10,748	63.2	56.3	40.3	37.0	32.1	23.8	17.5	4.1	3.4	4.3
女性20代	3,799	58.5	52.1	49.0	41.2	○ 47.7	18.9	13.4	9.1	2.1	3.3
女性30代	2,266	62.6	61.1	41.0	45.1	36.5	○ 34.7	20.0	1.4	3.1	3.0
女性40代	2,254	69.9	59.6	34.8	33.1	21.9	24.3	20.8	1.4	4.0	4.7
女性50代以上	2,429	64.9	55.2	31.0	△ 26.5	△ 12.8	21.0	18.6	1.1	5.4	6.7
男性計	510	59.2	46.3	45.9	44.5	22.0	17.5	20.6	7.8	4.1	3.9
男性20代	241	53.9	△ 39.4	49.8	45.2	26.6	15.8	13.7	13.3	3.7	4.1
男性30代以上	269	63.9	52.4	42.4	43.9	△ 17.8	19.0	26.8	3.0	4.5	3.7
その他計	19	○ 84.2	○ 73.7	○ 52.6	○ 47.4	36.8	○ 42.1	21.1	10.5	5.3	5.3

【AQ4-4 雇用形態】

正規職員	6,989	61.5	56.9	50.4	○ 50.2	38.2	21.2	19.6	5.8	2.6	2.2
有期契約職員(フルタイム)	751	66.7	58.3	33.2	△ 24.0	23.6	26.4	16.8	2.1	4.9	6.0
有期契約職員(パートタイム)	3,537	65.4	53.2	△ 22.8	△ 14.8	△ 20.3	27.6	13.9	1.6	4.9	8.0

(17) 保育業務支援のためのシステム導入の有無 (AQ18)

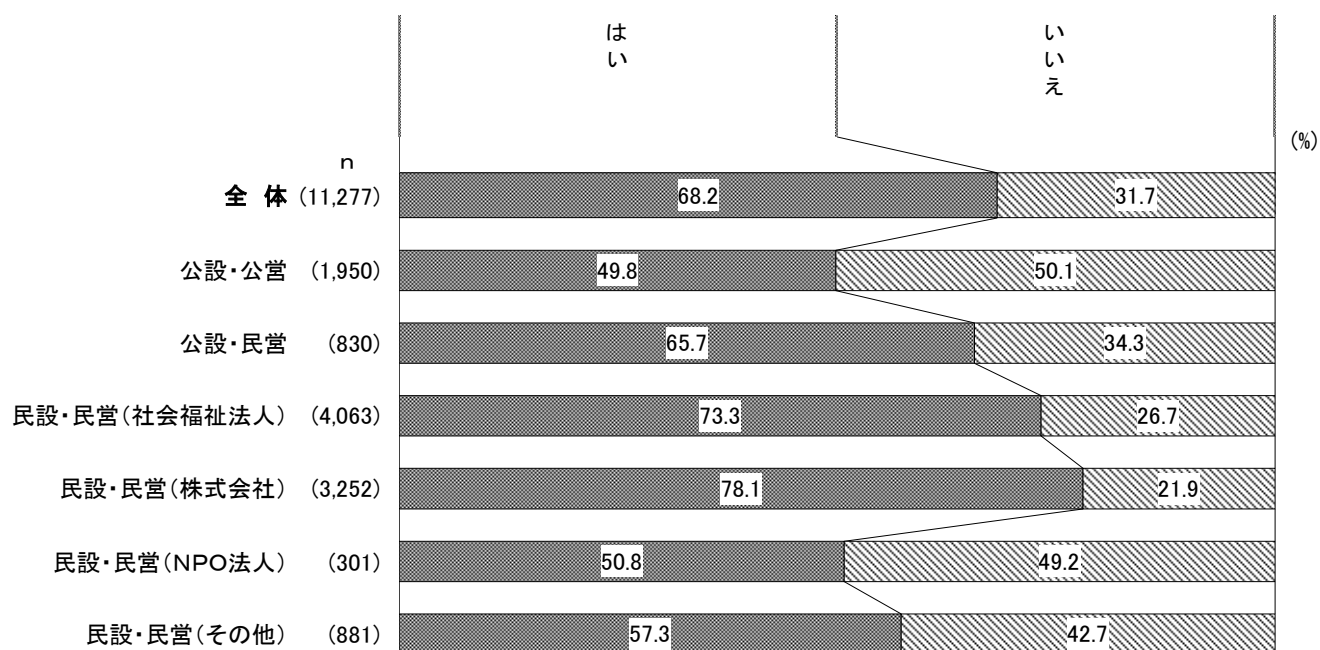
保育業務支援のためのシステム導入の有無は、全体で、導入している（「はい」）が約7割（68.2%）、導入していない（「いいえ」）が3割強（31.7%）となっている。

運営主体別で見ると、導入している（「はい」）は、公設・公営を除くすべての運営主体で半数を超えており、特に民設・民営（株式会社）、民設・民営（社会福祉法人）では7割台を占めている。

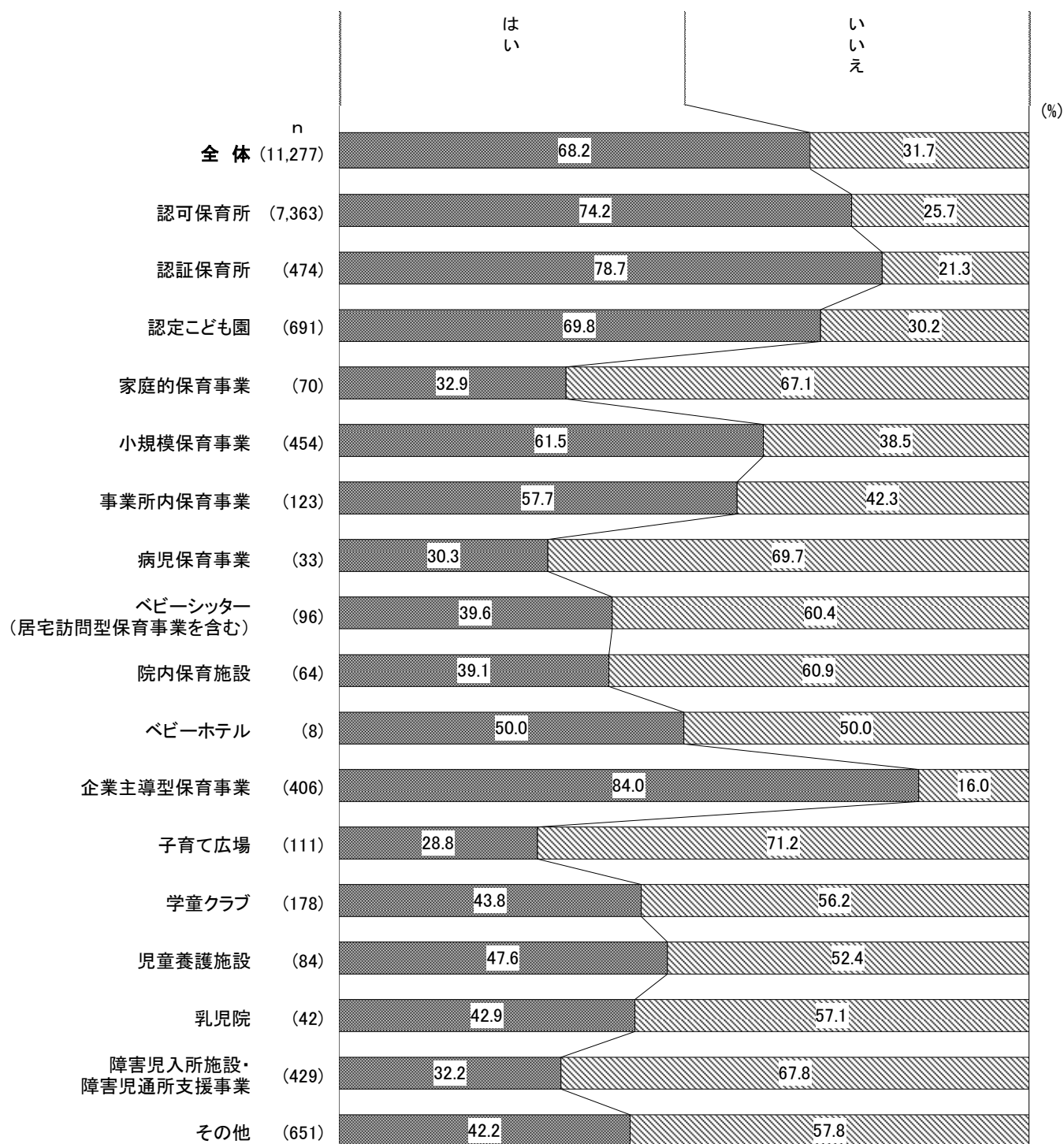
施設類型別で見ると、認可保育所、認証保育所、認定こども園、小規模保育事業、事業所内保育事業、企業主導型保育事業は、導入しているが半数以上となっており、それ以外（ベビーホテルを除く）は導入しているが導入していないを下回っている。

AQ18 あなたが現在働いている職場では、保育業務を支援するシステム（例えば、児童の登降管理を行うシステムなど）は導入されていますか。（○は1つだけ）

保育業務支援のためのシステム導入の有無（運営主体別）



保育業務支援のためのシステム導入の有無（施設類型別）



(18) 保育業務支援のためのシステムによる負担軽減 (AQ19)

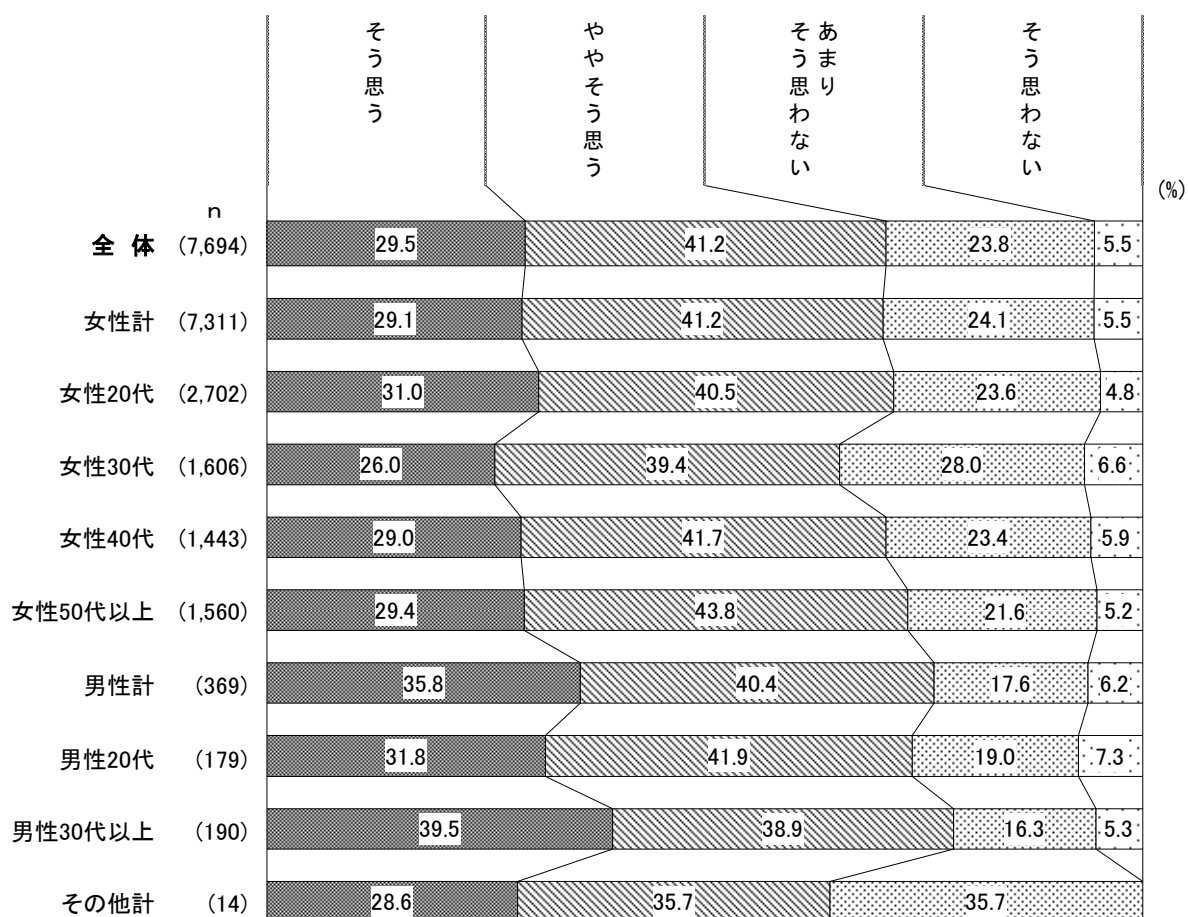
現在の職場で導入した保育業務支援のためのシステムが業務負担の軽減につながっているかでは、全体で「そう思う」(29.5%)と「ややそう思う」(41.2%)をあわせた『そう思う』が7割(70.7%)を超え、『そう思わない』(「あまりそう思わない」と「そう思わない」の計)が約3割(29.3%)となっている。

性・年代別で見ると、男女通じたすべての年代で『そう思う』が『そう思わない』を上回っており、特に男性30代以上では、56.8ポイント高くなっている。

【AQ18で「はい」(保育業務支援システムが導入されている)と回答した方にお聞きします。】

AQ19 導入されたことで、業務負担の軽減につながっていると感じますか。(○は1つだけ)

保育業務支援のためのシステムによる負担軽減 (性別、性・年代別)



(19) 保育業務支援のためのシステムが負担軽減にならないと感じる理由 (AQ20)

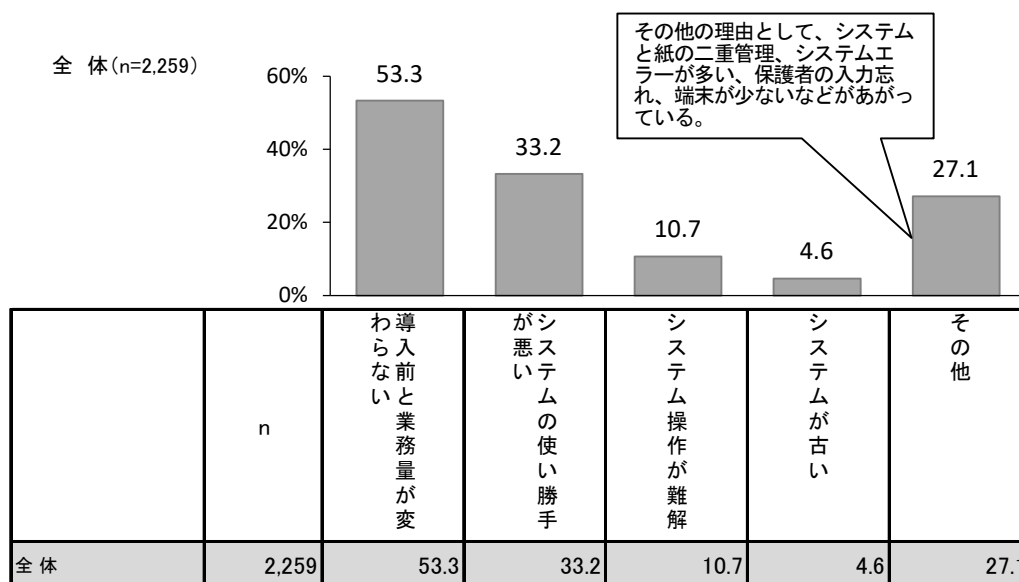
保育業務支援のためのシステムが負担軽減にならないと感じる理由は、全体で「導入前と業務量が変わらない」が5割台半ば（53.3%）で最も多く、「システムの使い勝手が悪い」（33.2%）がこれに続いている。

性別でみると、「システムの使い勝手が悪い」は男性の方が女性よりも高くなっている。

【AQ19で「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した方にお聞きします。】

AQ20 AQ19のように感じる理由をお聞かせください。（○はいくつでも）

保育業務支援のためのシステムが負担軽減にならないと感じる理由（性別、性・年代別）



【性別、性・年代】

	n	導入前と業務量が変わらない	システムの使い勝手が悪い	システム操作が難解	システムが古い	その他
女性計	2,166	53.2	32.8	10.8	4.3	27.0
女性20代	769	57.0	30.0	11.1	5.1	23.9
女性30代	556	53.4	40.8	12.9	4.1	25.0
女性40代	423	50.4	31.4	7.3	2.8	32.2
女性50代以上	418	49.0	28.7	10.8	4.5	30.1
男性計	88	54.5	40.9	9.1	10.2	30.7
男性20代	47	55.3	42.6	8.5	10.6	27.7
男性30代以上	41	53.7	39.0	9.8	9.8	34.1
その他計	5	△ 40.0	40.0	20.0	○ 40.0	-

(20) 負担軽減にならない理由を解消するために必要なもの (AQ21)

負担軽減にならない理由を解消するために必要なものは、全体では「既存のシステムを使い勝手が良いように改善してほしい（バージョンアップやカスタマイズなど）」が4割強（41.2%）で最も多く、「システムをより使う方針にするなど保育所内の意識改革をしてほしい」（23.9%）がこれに続いている。

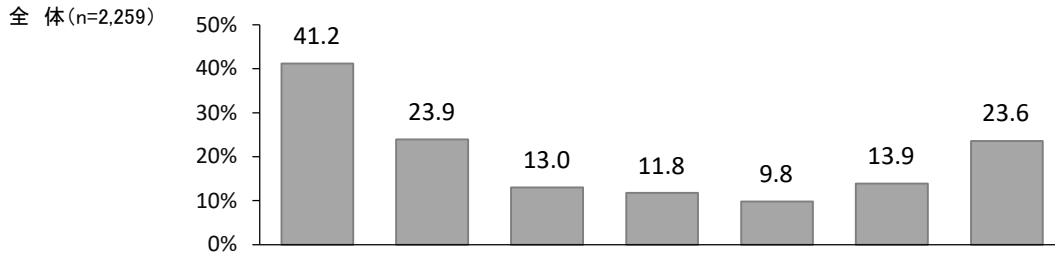
性・年代別でみると、「既存のシステムを使い勝手が良いように改善してほしい（バージョンアップやカスタマイズなど）」は男女通じたすべての年代で最も多くあげられており、特に男性20代で5割台半ば（53.2%）となっている。男性20代ではこの他、「システムを買い替えてほしい」も2割台半ば（23.4%）と他の年代よりも高くなっている。

【AQ19で「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した方にお聞きします。】

AQ21 AQ20で回答した理由を解消するために必要だと感じているものはどれですか。

（○はいくつでも）

負担軽減にならない理由を解消するために必要なもの（性別、性・年代別）



	n	既存のシステムを使い勝手が良いように改善してほしい	システムをより使う方針にするなど保育所内の意識改革をしてほしい	法を教えるなど直接支援してほし	システムを買い替えてほしい	研修の機会・場を設けてほしい	その他	わからない
全体	2,259	41.2	23.9	13.0	11.8	9.8	13.9	23.6

【性別・年代】

女性(計)	2,166	40.9	24.2	13.1	11.4	9.6	13.8	23.9
女性20代	769	42.1	24.8	11.6	13.5	9.1	10.0	24.4
女性30代	556	46.6	25.0	15.5	13.7	9.4	14.0	18.5
女性40代	423	36.9	24.3	13.9	9.2	8.7	18.9	24.6
女性50代以上	418	34.9	22.0	12.0	6.7	11.5	15.1	29.4
男性(計)	88	48.9	15.9	11.4	21.6	14.8	17.0	18.2
男性20代	47	○ 53.2	14.9	8.5	○ 23.4	12.8	17.0	17.0
男性30代以上	41	43.9	17.1	14.6	19.5	17.1	17.1	19.5
その他	5	○ 60.0	○ 40.0	-	-	○ 40.0	-	-

(21) 保育業務支援のためのシステムの導入の希望 (AQ22)

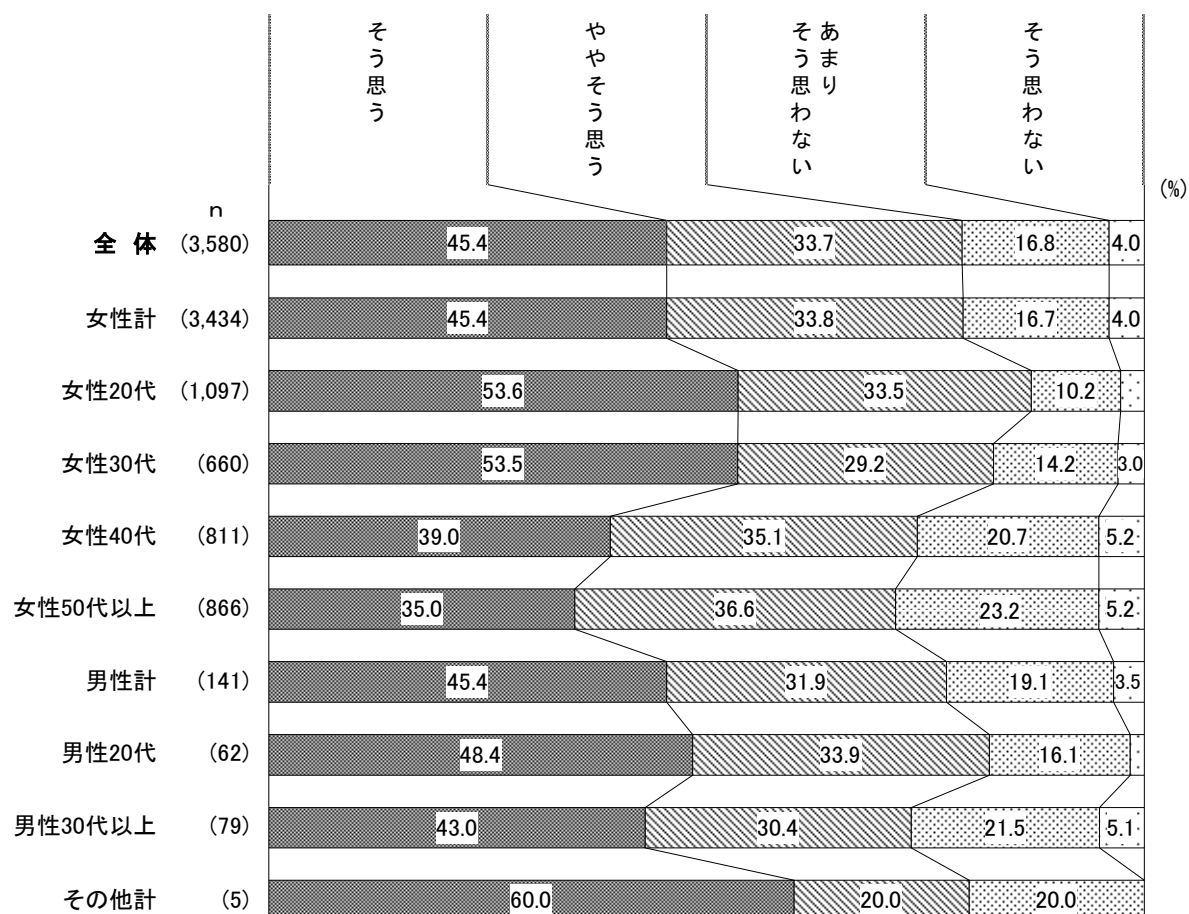
現職場における保育業務支援のためのシステムの導入の希望は、全体で「そう思う」が4割台半ば(45.4%)、「ややそう思う」は3割台半ば(33.7%)をあわせた『そう思う』は約8割(79.1%)となっている。一方、『そう思わない』(「そう思わない」と「あまりそう思わない」の計)は2割超え(20.8%)となっている。

性・年代別でみると、男女通じた年代で7割以上が保育業務支援システムの導入を希望しており、特に男女20代、女性30代では8割台を占めている。

【AQ18で「いいえ(保育業務支援システムが導入されていない)」と回答した方にお聞きします。】

AQ22 今後、保育業務を支援するシステムを導入してほしいと思いますか。(○は1つだけ)

保育業務支援のためのシステムの導入の希望(性別、性・年代別)



(22) 処遇改善に対する実感 (AQ23)

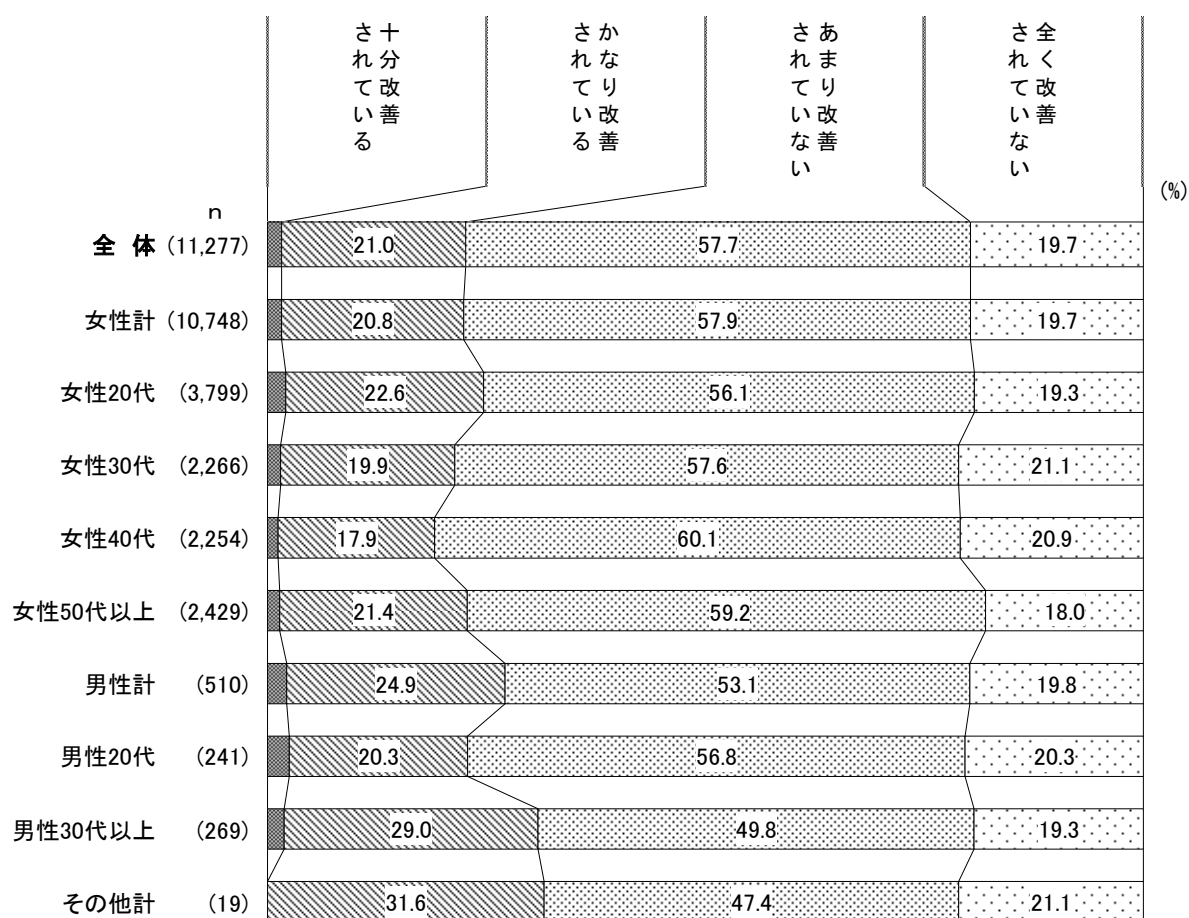
行政の取組によって保育士の処遇が改善されていると感じるかを聞いたところ、『改善されている』（「十分改善されている」(1.6%)と「かなり改善されている」(21.0%)の計)は2割強(22.6%)となっている。一方、「あまり改善されていない」は約6割(57.7%)で、「全く改善されていない」の約2割(19.7%)をあわせた『改善されていない』は約8割(77.4%)となっている。

性別、性・年代別では、大きな違いはみられない。

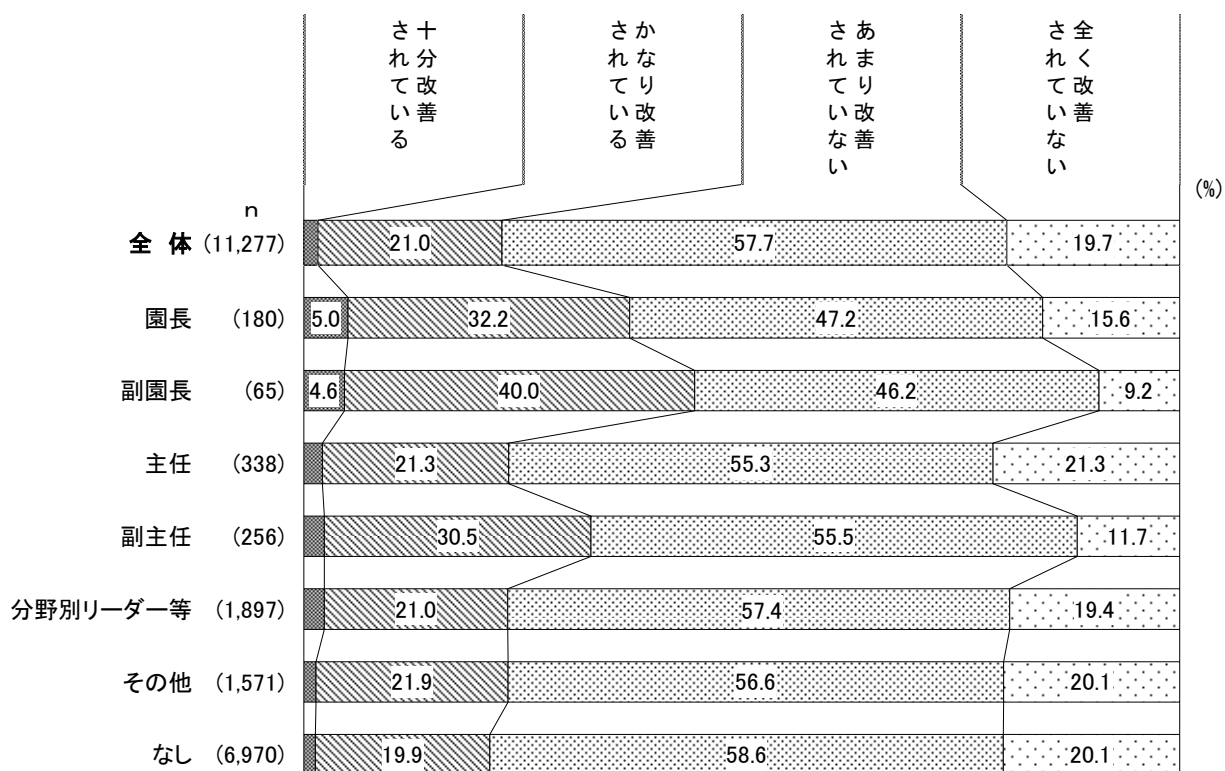
役職別でみると、『改善されている』が副園長(44.6%)で4割台半ば、園長(37.2%)で約4割と他の役職よりも高くなっている。

AQ23 近年、行政において保育士への処遇改善を図る取組（保育士・幼稚園教諭等処遇改善臨時特別事業、東京都保育士等キャリアアップ補助金、宿舍借り上げ支援事業など）を実施していますが、保育士の処遇が改善されていると感じますか。（○は1つだけ）

処遇改善に対する実感（性別、性・年代別）



処遇改善に対する実感（役職別）



(23) 役職（上位の役職）への就任希望の有無（AQ24）

役職（上位の役職）への就任希望の有無は、全体で、就任したい（「はい」）は2割台半ば（23.6%）、就任したくない（「いいえ」）は約7割（67.1%）となっている。

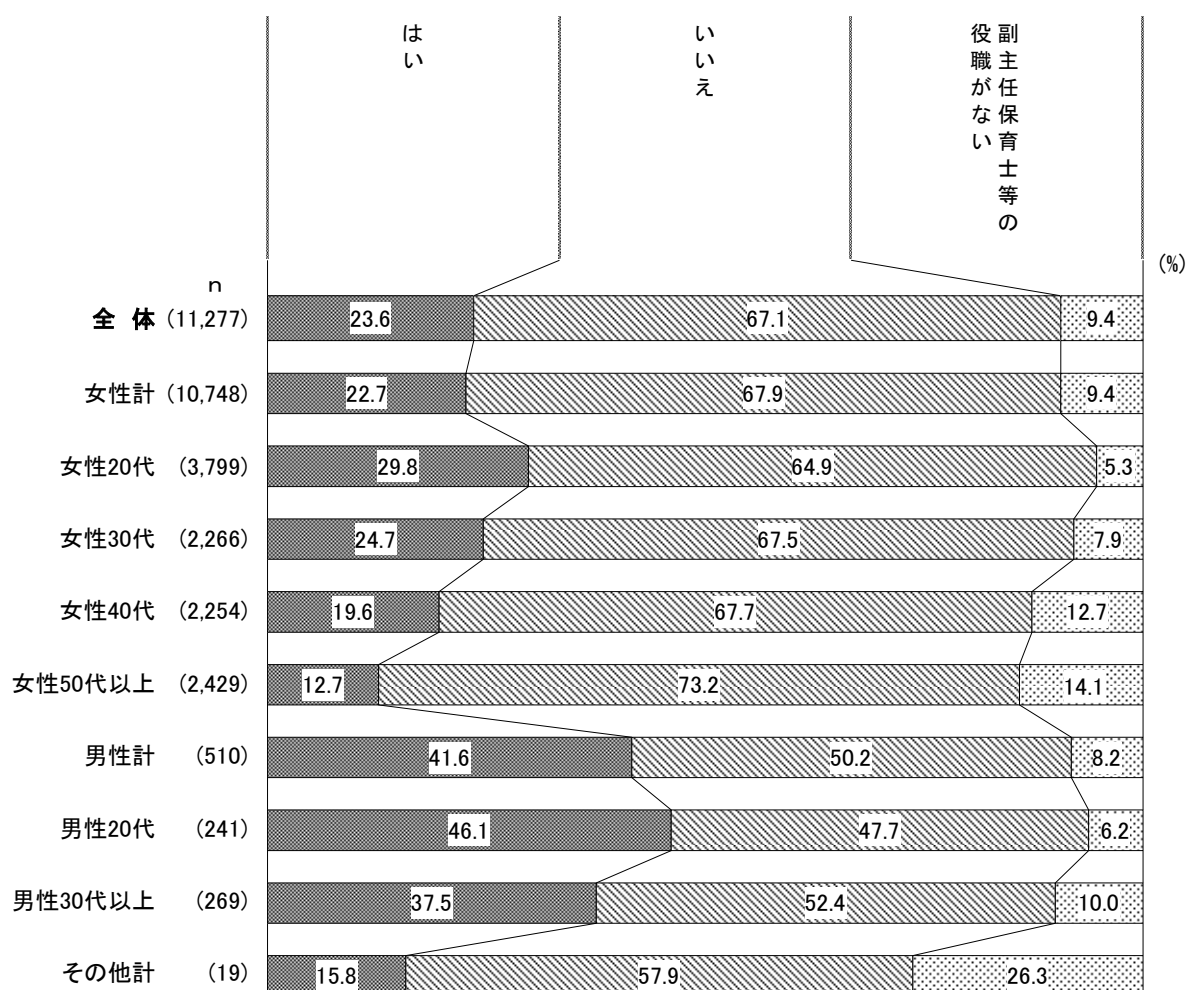
性別で見ると、男性（41.6%）の方が女性（22.7%）より役職就任希望が高くなっている。性・年代別では、男性20代で役職就任希望は4割台半ば（46.1%）と、男女通じた年代と比べて高くなっている。また、男女ともに年代が高くなるにつれて役職就任希望は低くなる。

役職別で見ると、役職就任希望は、園長（40.0%）で4割、副主任（37.1%）で約4割と他の役職よりやや高く、なし（19.7%）で最も低くなっている。

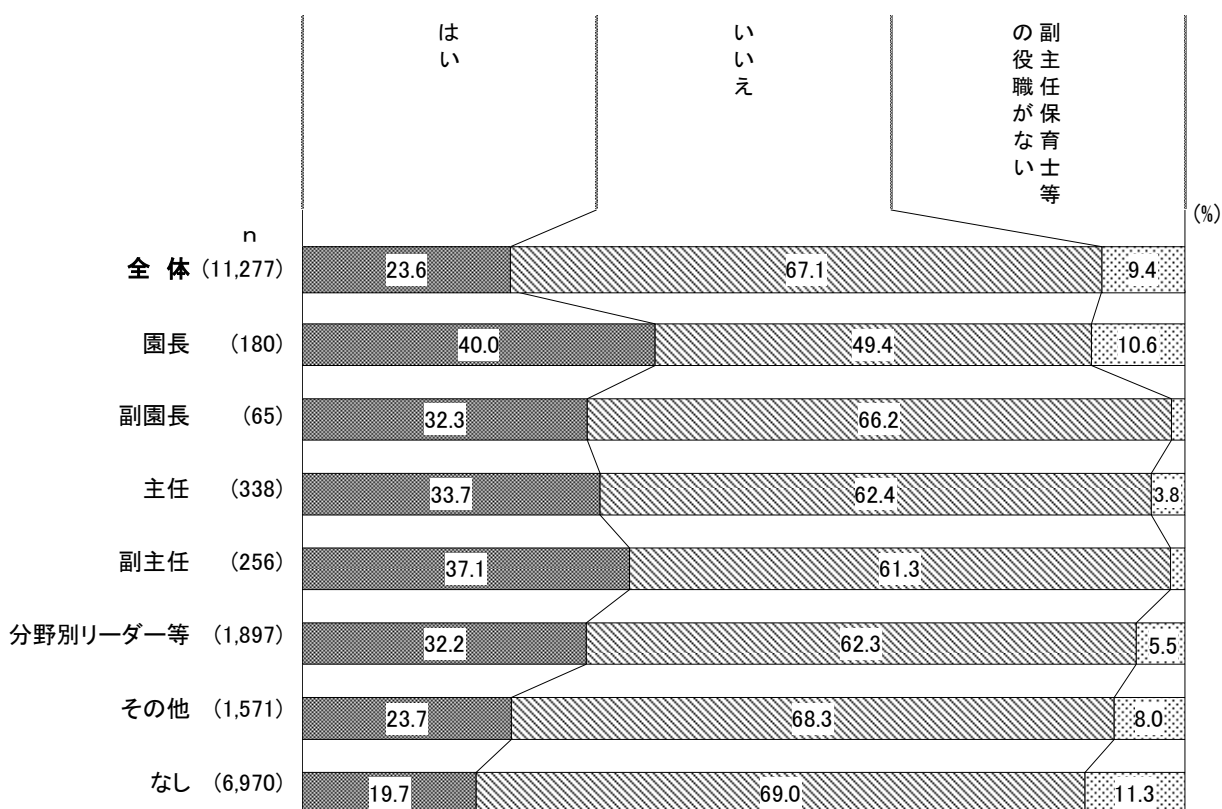
また、配偶者と子供の有無別で見ると、役職就任希望は、配偶者無・子供無（29.6%）で約3割と他層よりも高くなっている。

AQ24 現在の職場で働き続ける上で、副主任保育士やクラスリーダー、乳児保育リーダーなどの役職に今後就きたいと思いませんか。現在、役職に就いている場合は、現在の役職よりも組織上で上位の役職（クラスリーダー → 副主任保育士など）に就きたいと考えていますか。
（○は1つだけ）

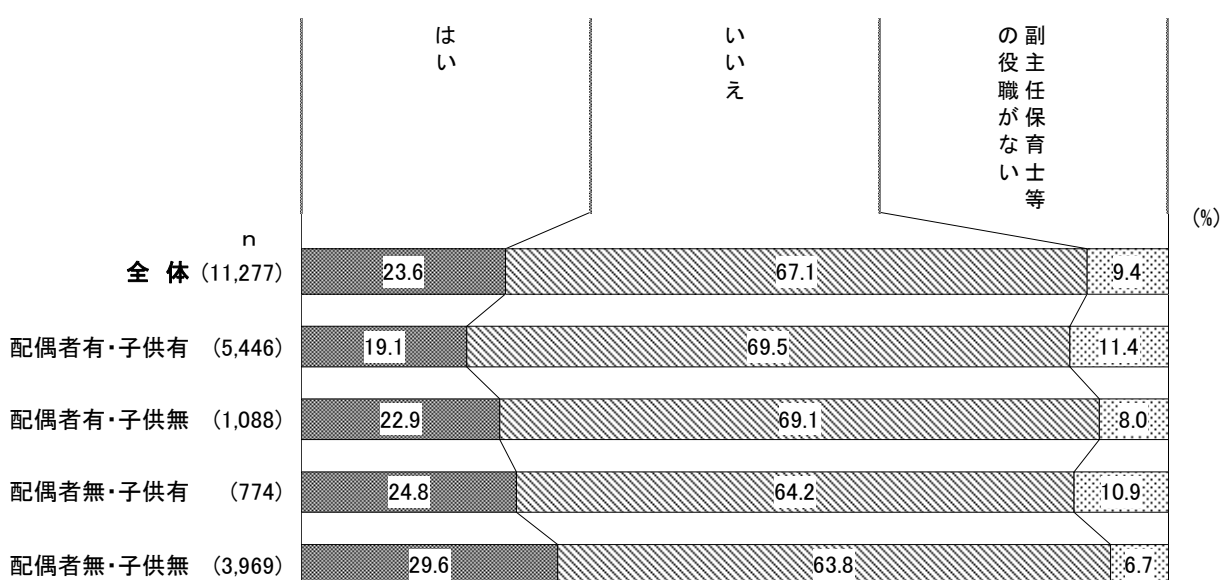
役職（上位の役職）への就任希望の有無（性別、性・年代別）



役職（上位の役職）への就任希望の有無（役職別）



役職（上位の役職）への就任希望の有無（配偶者と子供の有無別）



(24) 役職（上位の役職）への就任を希望しない理由（AQ25）

役職（上位の役職）への就任を希望しない理由は、全体で「責任の重い仕事をしたくない」が4割強（42.7%）で最も多く、次いで、「役職に見合った昇給が見込めない」（38.2%）、「今の仕事やポジションに満足している」（37.0%）となっている。

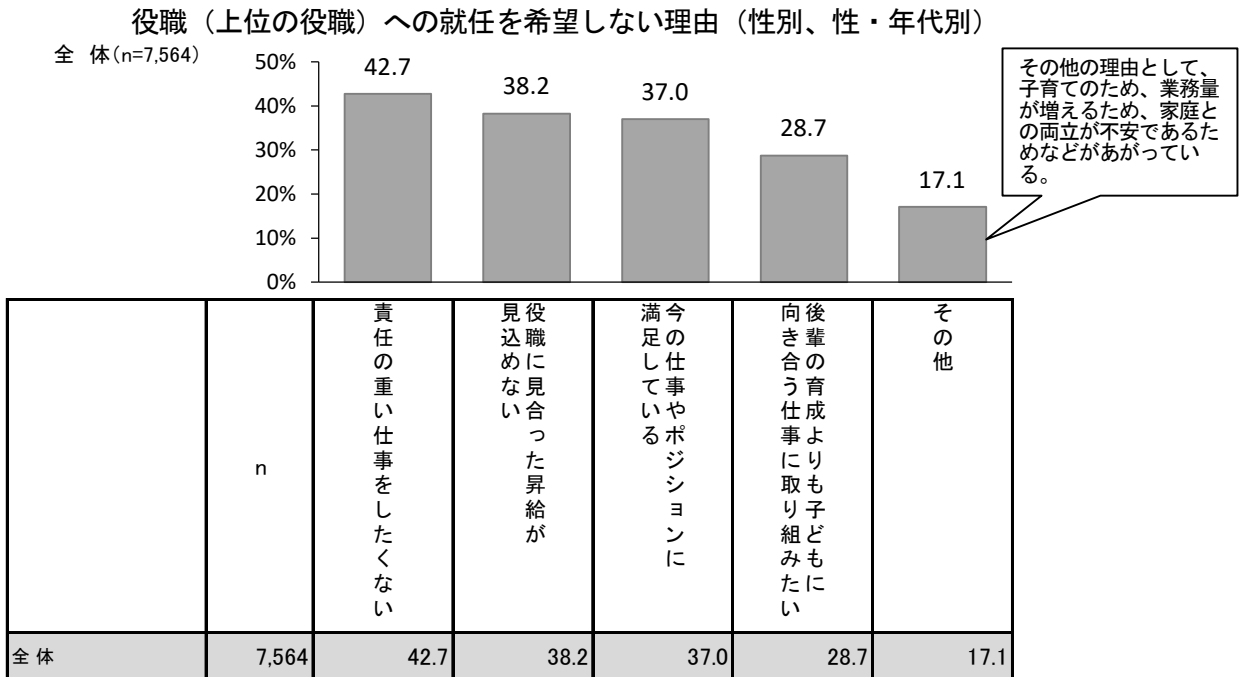
性別でみると、男性（50.0%）の方が女性（37.8%）より「役職に見合った昇給が見込めない」が高くなっている。性・年代別でみると、「責任の重い仕事をしたくない」が男女ともに20代が5割台半ばとなっている。

また、役職別でみると、「責任の重い仕事をしたくない」が分野別リーダー等で約5割（47.5%）と、他の役職よりも高くなっている。

配偶者と子供の有無別でみると、「責任の重い仕事をしたくない」は、配偶者無・子供無（53.3%）で5割台半ばと他層よりも高くなっている。

【AQ24で「いいえ」（役職に就きたくない）と回答した方にお聞きします。】

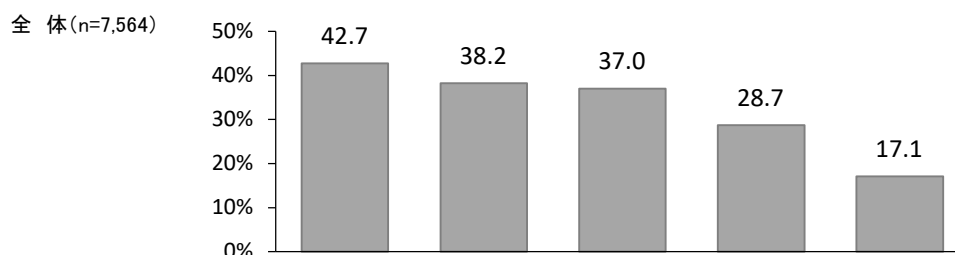
AQ25 役職（上位の役職）に今後就きたいと思わない理由をお聞かせください。（○はいくつでも）



【性別、性・年代】

女性計	7,297	42.8	37.8	37.3	28.7	17.1
女性20代	2,465	○ 56.2	46.7	30.5	32.4	10.8
女性30代	1,529	45.8	○ 49.7	32.6	30.7	18.5
女性40代	1,525	37.4	34.1	40.6	25.3	19.1
女性50代以上	1,778	△ 26.0	△ 18.2	○ 48.0	24.7	22.8
男性計	256	39.8	○ 50.0	29.7	28.5	19.1
男性20代	115	○ 54.8	○ 56.5	△ 25.2	27.8	13.0
男性30代以上	141	△ 27.7	44.7	33.3	29.1	24.1
その他計	11	45.5	○ 72.7	△ 9.1	○ 45.5	9.1

役職（上位の役職）への就任を希望しない理由（役職別、配偶者と子供の有無別）



	n	責任の重い仕事をしたくない	役職に見合った昇給が見込めない	今の仕事やポジションに満足している	後輩の育成よりも子どもに付き合う仕事に取り組みたい	その他
全体	7,564	42.7	38.2	37.0	28.7	17.1

【役職】

園長	89	△ 14.6	42.7	30.3	△ 11.2	○ 32.6
副園長	43	34.9	30.2	37.2	△ 18.6	○ 30.2
主任	211	40.3	○ 48.8	32.7	34.6	21.8
副主任	157	43.3	○ 54.8	28.0	26.8	19.7
分野別リーダー等	1,181	47.5	○ 58.0	30.1	35.1	11.9
その他	1,073	42.7	35.6	39.7	29.9	16.9
なし	4,810	42.1	33.0	38.7	27.1	17.8

【Q1-3&4 配偶者と子供の有無】

配偶者有・子供有	3,784	35.6	32.2	43.1	25.1	19.6
配偶者有・子供無	752	46.3	○ 50.1	29.9	31.9	16.9
配偶者無・子供有	497	37.0	33.8	35.2	30.0	20.5
配偶者無・子供無	2,531	○ 53.3	44.6	30.4	33.0	12.9

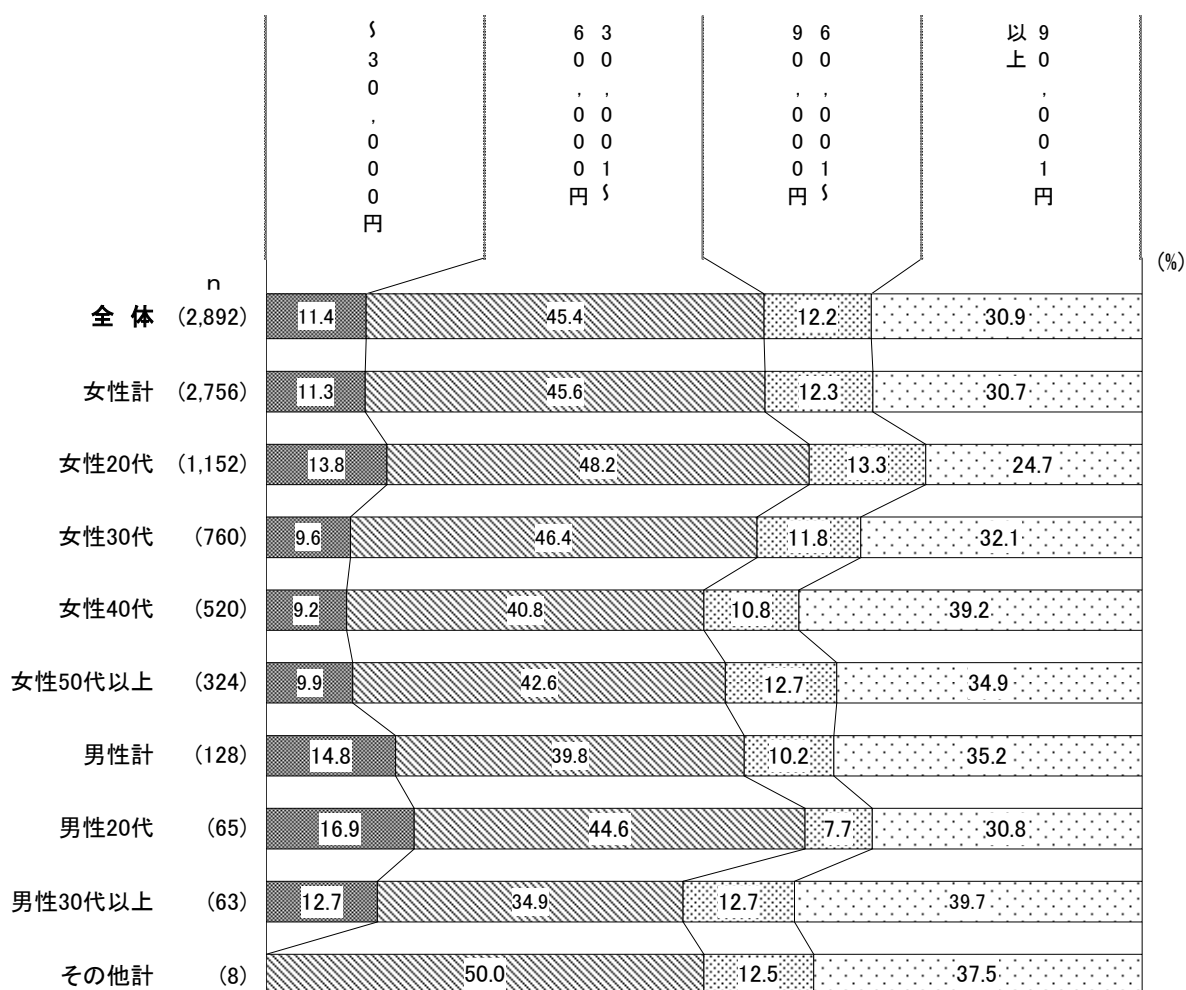
(25) 役職（上位の役職）への就任時に希望する昇給額（AQ26）

現在の給料からどの程度昇給すれば、上位の役職への就任を考えるかを聞いたところ、全体では、「30,001～60,000円」が4割台半ば（45.4%）で最も多く、これに「90,001円以上」が3割超え（30.9%）で続いている。

【AQ25で「役職に見合った昇給が見込めない」と回答された方にお聞きます。】

AQ26 現在の給料から、どの程度昇給すれば、上位の役職に就きたいと考えますか。（○は1つだけ）

役職（上位の役職）への就任時に希望する昇給額（性別、性・年代別）



(26) より手厚い処遇改善が必要だと感じる役職 (AQ27)

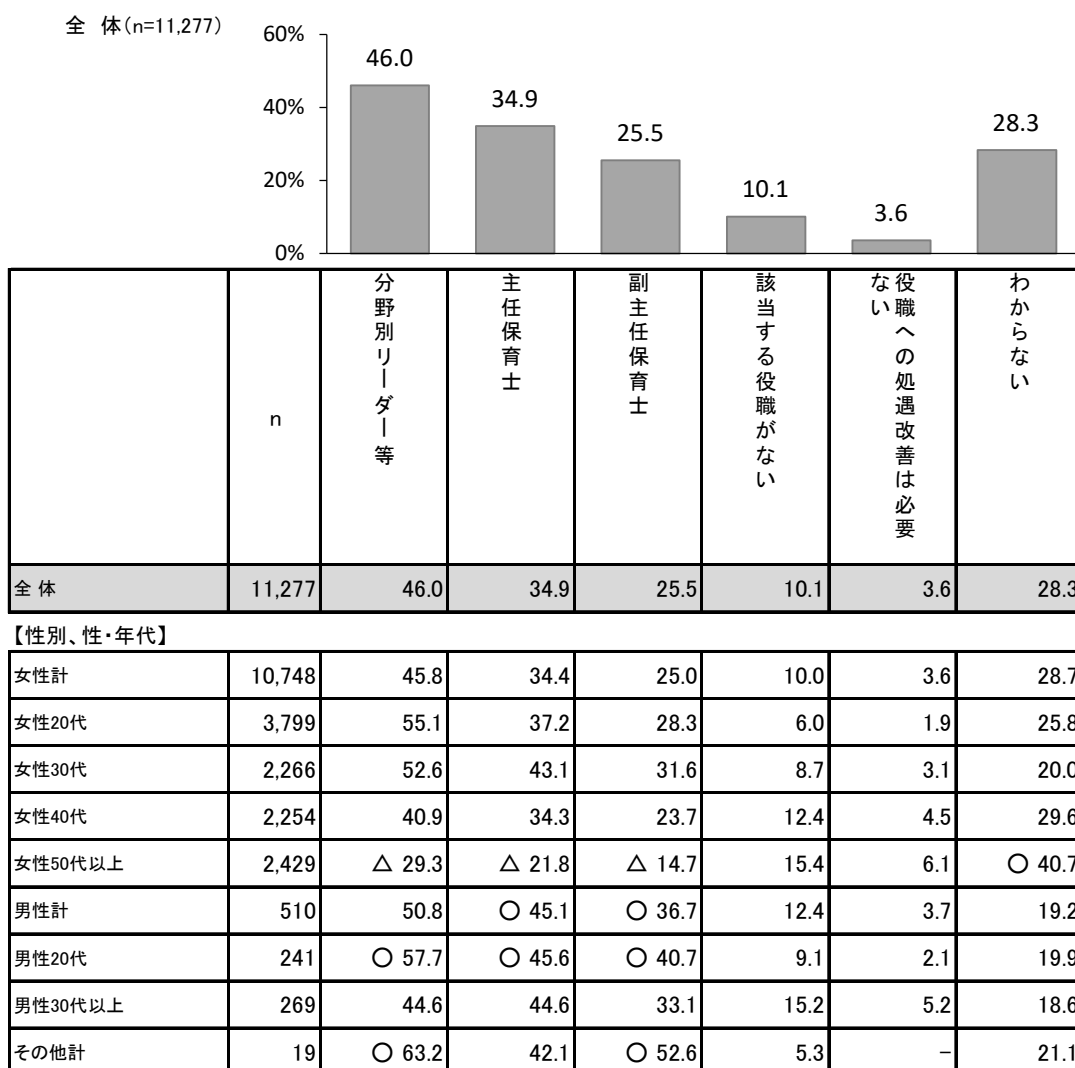
現在の職場での今後のキャリアアップを考える上で、より手厚い処遇改善が必要だと感じる役職としては、全体で、「分野別リーダー等」が4割台半ば(46.0%)で最も多く、次いで、「主任保育士」(34.9%)、「副主任保育士」(25.5%)となっている。

性・年代別でみると、「分野別リーダー等」が男女ともに20代が5割台となっている。

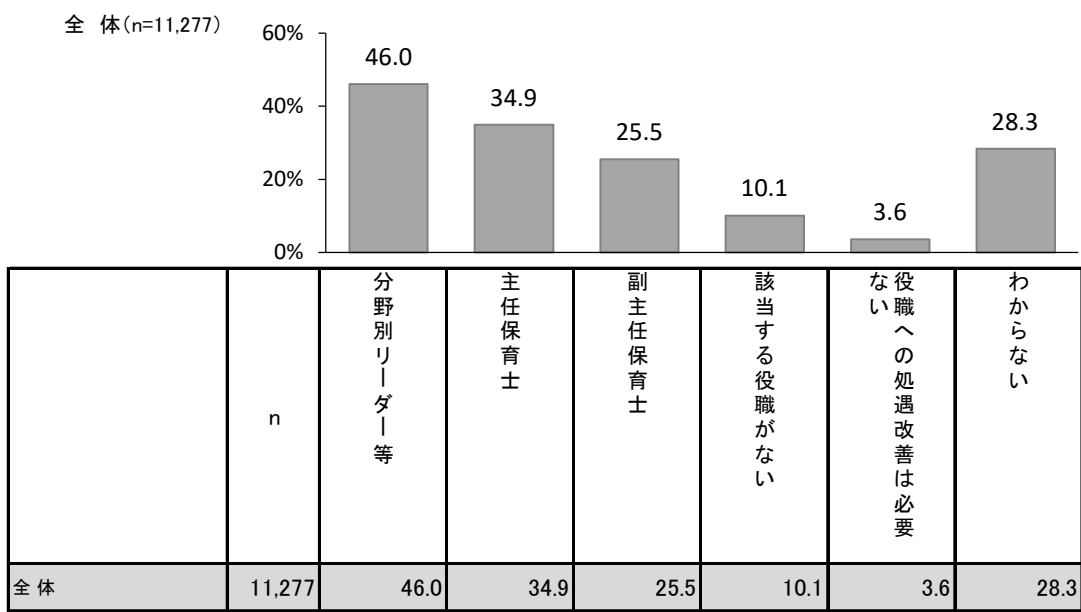
また、役職別でみると、役職が「なし」の職員がより手厚い処遇改善が必要だと感じる役職として、「分野別リーダー等」が約4割(39.0%)と最も多くなっている。

AQ27 保育所等においては国制度により技能・経験に応じた処遇改善(副主任保育士：月額40,000円相当、分野別リーダー等：月額5,000円相当)が図られていますが、あなたが現在の職場での今後のキャリアアップを考える上で、より手厚い処遇改善が必要だと感じるのはどの役職ですか。(〇はいくつでも)

より手厚い処遇改善が必要だと感じる役職 (性別、性・年代別)



より手厚い処遇改善が必要だと感じる役職（役職別）



【役職】

役職	n	分野別リーダー等	主任保育士	副主任保育士	該当する役職がない	役割への処遇改善は必要	わからない
園長	180	△ 31.7	40.0	23.3	○ 25.6	3.3	19.4
副園長	65	41.5	○ 55.4	35.4	10.8	3.1	20.0
主任	338	44.1	○ 76.3	34.6	5.0	0.9	△ 10.7
副主任	256	47.3	○ 65.2	○ 59.4	1.6	1.2	△ 11.3
分野別リーダー等	1,897	○ 72.4	43.9	○ 37.7	4.2	2.4	△ 10.1
その他	1,571	47.5	33.9	24.3	12.2	3.8	26.7
なし	6,970	39.0	29.2	20.8	11.4	4.2	35.4

(27) 保育士就業継続の意向 (AQ28)

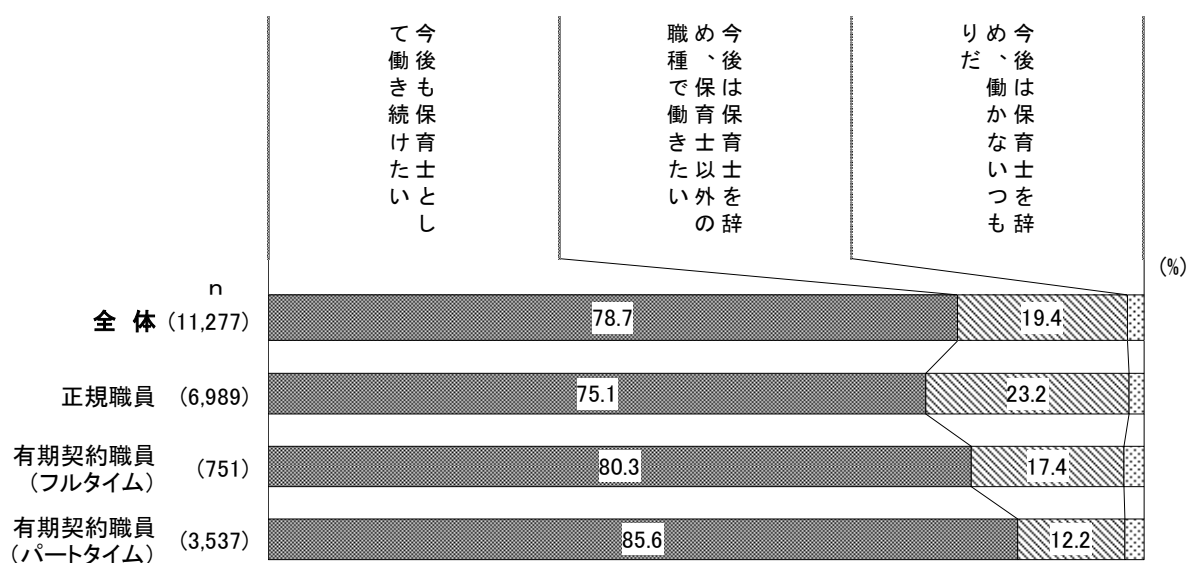
保育士就業継続の意向は、全体で「今後も保育士として働きたい」と考えている者が約8割（78.7%）であった。一方、退職を考えている者（「今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい」（19.4%）、「今後は保育士を辞め、働かないつもりだ」（1.9%））の割合は2割強（21.3%）となっている。

雇用形態別で見ると、特に正規職員で2割台半ば（23.2%）が保育士以外への転職を希望しており、フルタイム（17.4%）、パートタイム（12.2%）より多くなっている。

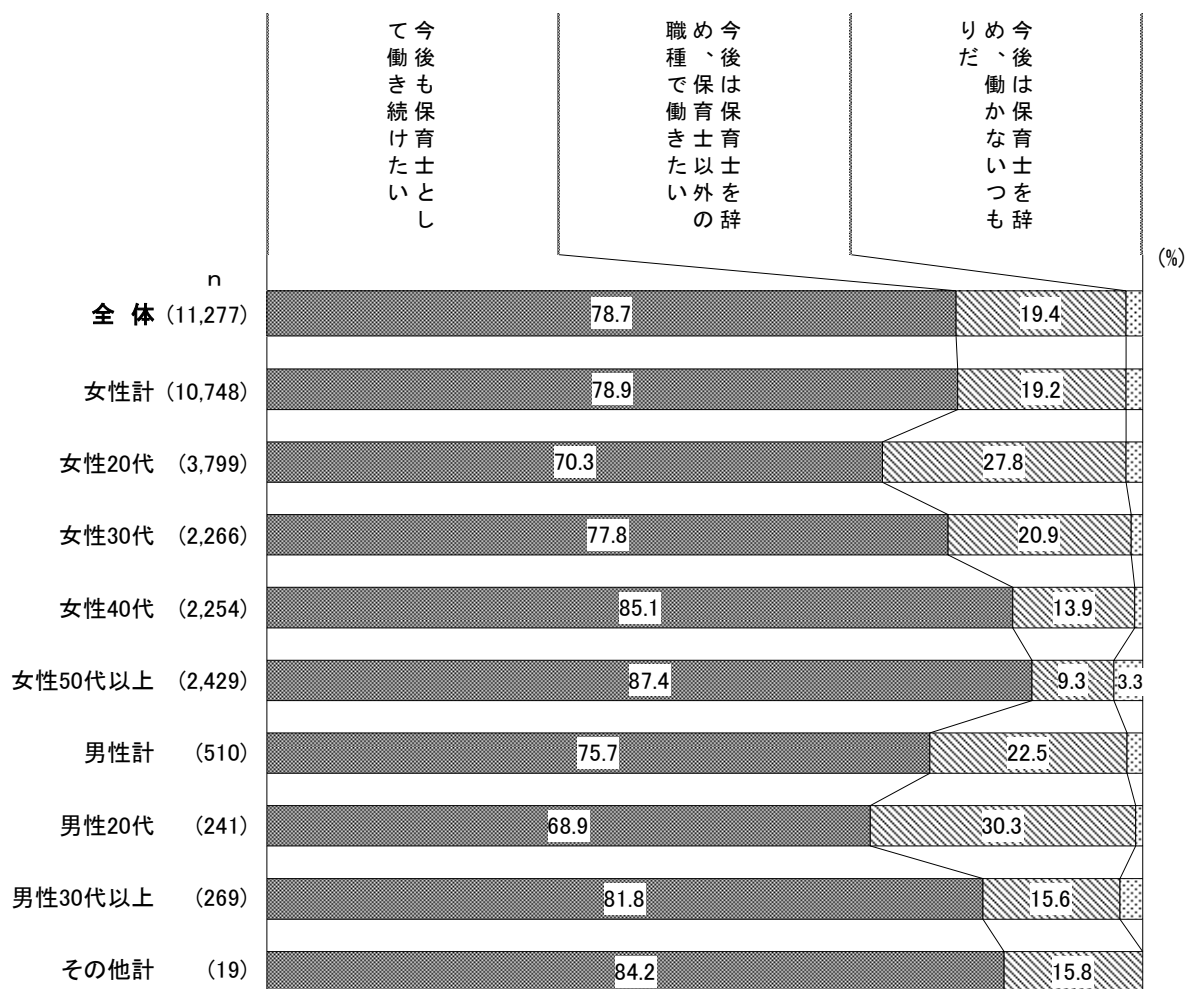
性・年代別で見ると、男女ともに20代で約3割（男性：30.3%、女性：27.8%）が保育士以外への転職を希望しており、他の年代よりも高くなっている。

AQ28 あなたは、今後も保育士として働きたいと思っていますか。（○は1つだけ）

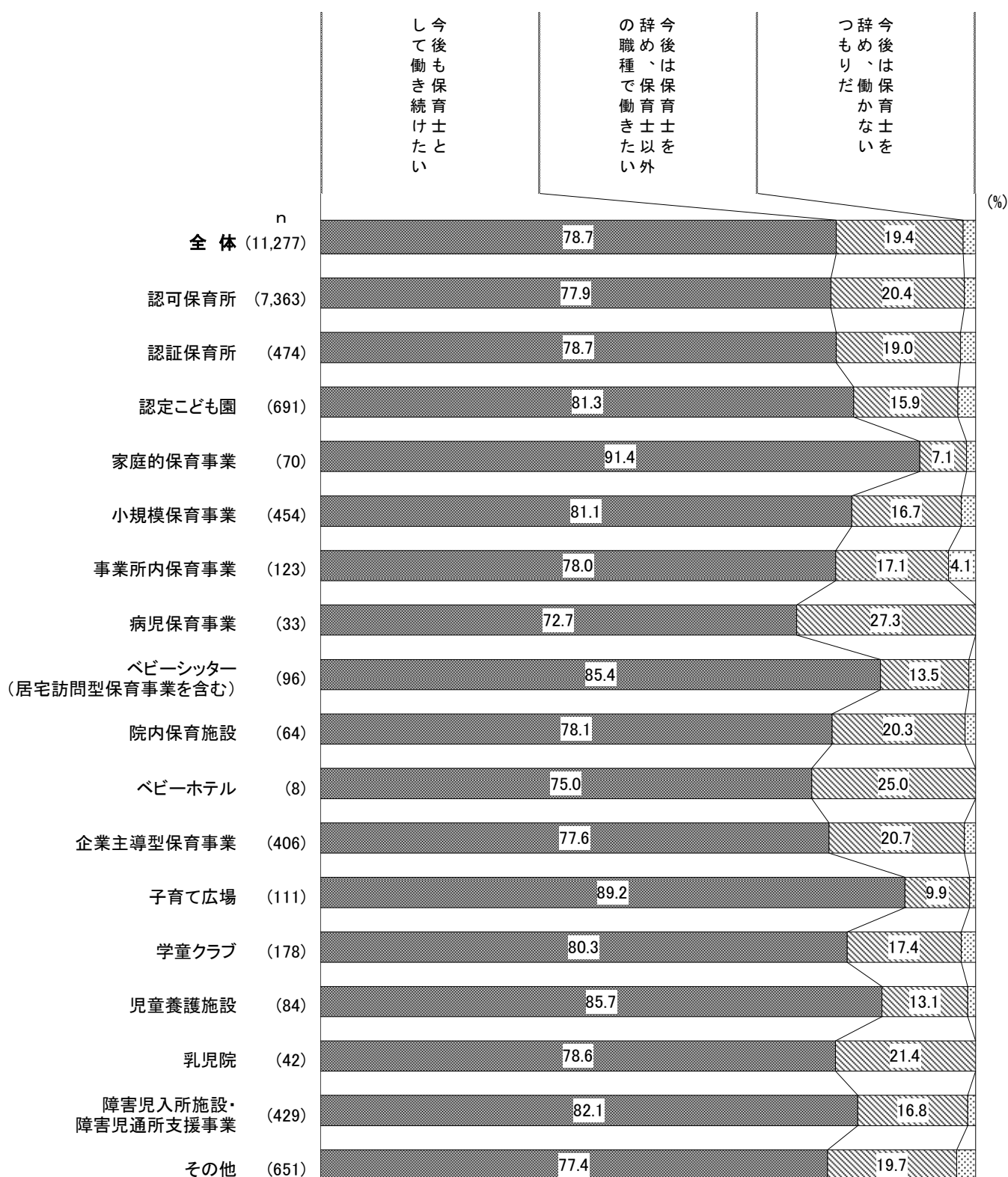
保育士就業継続の意向（雇用形態別）



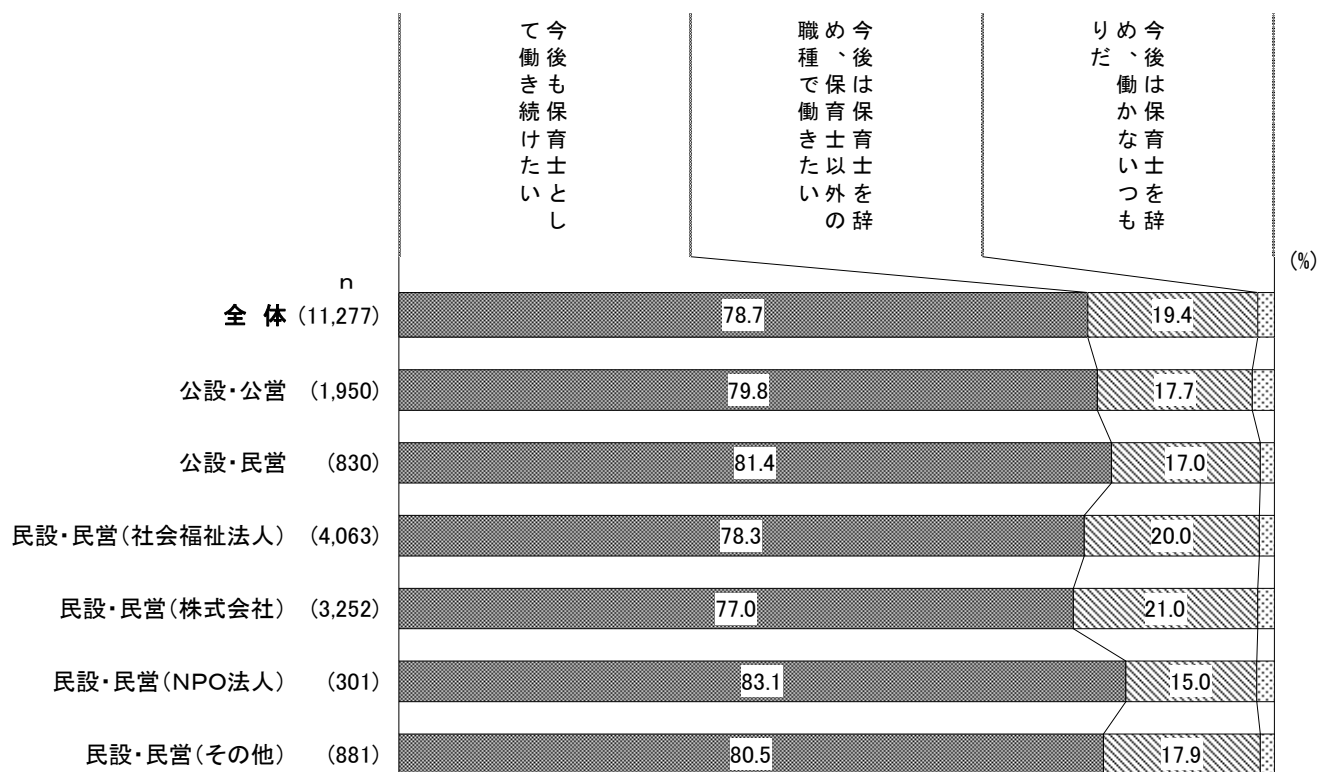
保育士就業継続の意向（性別、性・年代別）



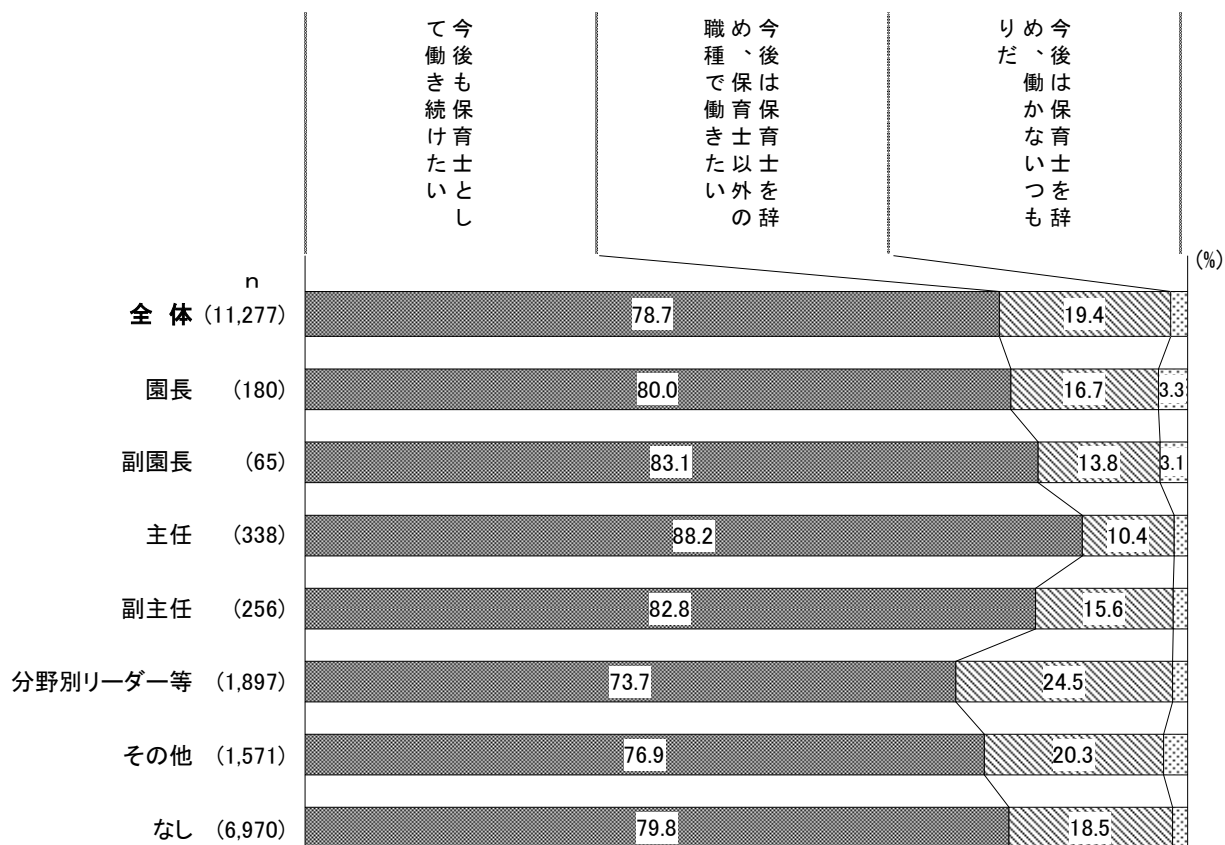
保育士就業継続の意向（施設類型別）



保育士就業継続の意向（運営主体別）



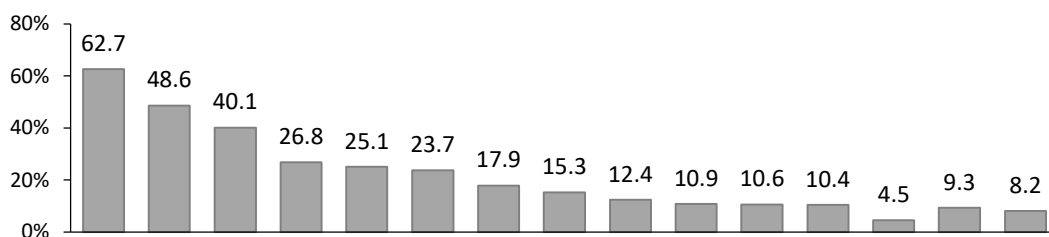
保育士就業継続の意向（役職別）



現在の職場で改善を希望する項目を保育士就業継続意向別でみると、退職意向者（「今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい」）は「給与・賞与等の改善」「職員数の増員」「事務・雑務の軽減」が5割(それぞれ75.3%、59.2%、53.6%)を超えており、継続意向者（「今後も保育士として働きたい」）よりも高い割合となっている。

現在の職場で改善を希望する項目（保育士就業継続意向別）

全 体(n=11,277)



	n	給与・賞与等の改善	職員数の増員	事務・雑務の軽減	職員間のコミュニケーション	勤務シフトの改善	未消化（有給等）休暇の改善	相談体制の充実	責任範囲の縮小	研修機会の充実	保育所や法人の保育理念や運営方針	職員の安定化（正規職員登用）	評価制度の見直し	権限範囲の拡大	その他	特になし
全 体	11,277	62.7	48.6	40.1	26.8	25.1	23.7	17.9	15.3	12.4	10.9	10.6	10.4	4.5	9.3	8.2

【保育士就業継続意向】

今後も保育士として働きたい	8,877	59.6	46.0	36.7	25.6	22.1	21.7	16.7	12.4	12.9	9.8	10.1	9.0	4.2	8.7	9.5
今後は保育士を辞め、保育士以外の職種で働きたい	2,186	75.3	59.2	53.6	30.9	36.0	30.7	22.7	26.3	10.4	14.4	12.6	15.6	6.2	11.9	2.7
今後は保育士を辞め、働かないつもりだ	213	63.4	50.7	43.7	34.3	35.7	32.4	16.0	26.3	8.9	16.9	11.7	13.6	2.8	8.9	8.0

(28) 保育士退職意向の理由 (AQ29)

現在の保育所等を退職したいと考える理由は、全体で「給料が安い」が6割強(61.6%)で最も多く、次いで、「仕事量が多い」が5割台半ば(54.0%)、「労働時間が長い」(35.4%)、「職場の人間関係」(30.1%)となっている。

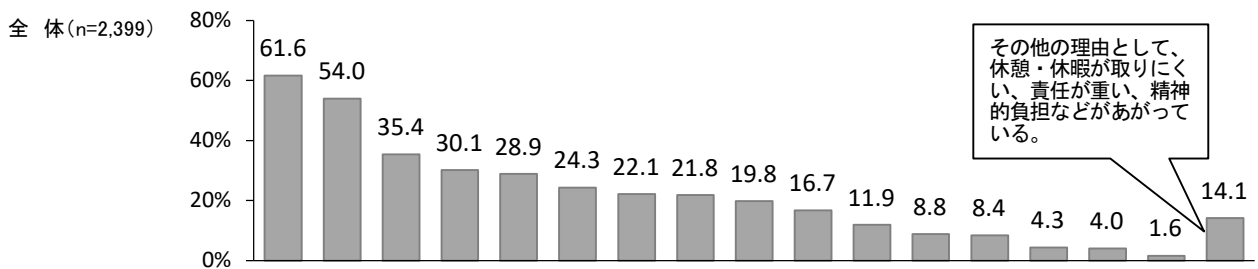
雇用形態別でみると、正規職員は「給料が安い」(66.5%)、「仕事量が多い」(62.7%)、「労働時間が長い」(44.5%)が他層より比較的高い。

性・年代別でみると、男性20代では「職業適性に対する不安」が3割台半ば(36.0%)と多く、女性50代以上では「健康上の理由(体力含む)」、女性30代では「子育て・家事」がいずれも約4割と多くなっている。

配偶者と子供の有無別でみると、「子育て・家事」「妊娠・出産」は、配偶者有・子供無で3割台(それぞれ30.3%、34.5%)と他層よりも高くなっている。

AQ29 あなたが現在保育士としてお勤めされている保育所等を退職したいと考える理由としてあてはまるものをお答えください。(〇はいくつでも)

保育士退職意向の理由 (雇用形態別)



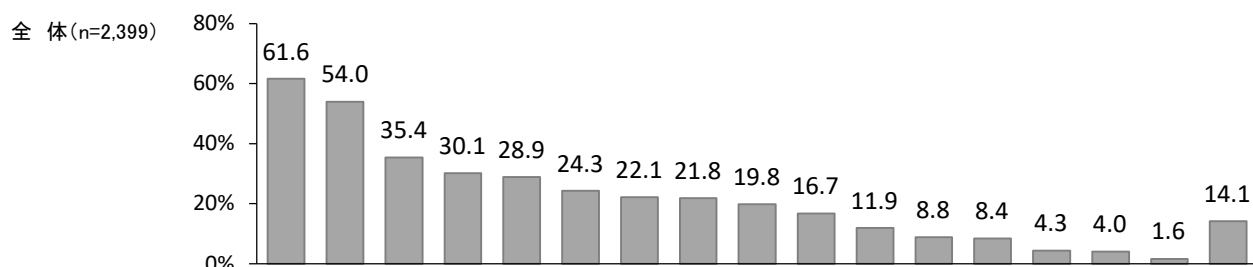
その他の理由として、休憩・休暇が取りにくい、責任が重い、精神的負担などがあがっている。

	n	給料が安い	仕事量が多い	労働時間が長い	職場の人間関係	他業種への興味	職業適性に対する不安	保護者対応の大変さ	健康上の理由(体力含む)	子育て・家事	自身の昇格等のキャリアアップが見通せない	妊娠・出産	共感できなかった保育理念	結婚	家族の事情(介護等)	転居	配偶者の意向	その他
全体	2,399	61.6	54.0	35.4	30.1	28.9	24.3	22.1	21.8	19.8	16.7	11.9	8.8	8.4	4.3	4.0	1.6	14.1

【AQ4-4 雇用形態】

雇用形態	n	給料が安い	仕事量が多い	労働時間が長い	職場の人間関係	他業種への興味	職業適性に対する不安	保護者対応の大変さ	健康上の理由(体力含む)	子育て・家事	自身の昇格等のキャリアアップが見通せない	妊娠・出産	共感できなかった保育理念	結婚	家族の事情(介護等)	転居	配偶者の意向	その他
正規職員	1,742	66.5	62.7	44.5	31.8	29.6	28.0	26.6	19.5	21.8	16.9	14.2	7.6	10.6	3.0	4.2	1.6	11.8
有期契約職員(フルタイム)	148	60.8	41.9	23.6	29.1	22.3	23.0	14.9	23.6	13.5	18.9	7.4	13.5	5.4	5.4	4.1	0.7	18.2
有期契約職員(パートタイム)	509	44.8	27.7	7.7	24.4	28.3	11.8	8.6	29.5	14.7	15.3	5.3	11.2	1.8	8.4	3.1	1.8	20.8

保育士退職意向の理由（性別、性・年代別、配偶者と子供の有無別）



	n	給料が安い	仕事量が多い	労働時間が長い	職場の人間関係	他業種への興味	職業適性に対する不安	保護者対応の大変さ	健康上の理由（体力含む）	子育て・家事	自身の昇格等のキャリアアップが見通せない	妊娠・出産	共感できなかった	保育所や法人の保育理念に	結婚	家族の事情（介護等）	転居	配偶者の意向	その他
全体	2,399	61.6	54.0	35.4	30.1	28.9	24.3	22.1	21.8	19.8	16.7	11.9	8.8	8.4	4.3	4.0	1.6	14.1	

【性別、性・年代】

女性計	2,272	61.4	54.2	35.5	30.1	28.6	23.8	22.1	22.2	20.6	16.2	12.3	8.9	8.5	4.3	4.1	1.7	14.0
女性20代	1,129	67.3	62.9	44.6	33.6	35.8	31.2	27.5	15.5	19.0	14.3	17.9	8.1	15.8	1.8	5.1	1.7	8.7
女性30代	503	62.0	54.1	33.2	30.4	22.3	20.1	21.3	19.9	38.0	18.5	15.1	8.9	2.8	3.4	4.4	2.4	16.7
女性40代	335	60.3	47.5	24.5	24.5	23.0	16.4	17.3	32.5	16.4	19.4	0.6	11.6	0.3	5.1	2.4	1.2	18.2
女性50代以上	305	39.7	29.5	17.7	23.0	18.7	10.8	9.2	39.7	2.3	16.1	-	9.2	0.3	14.1	2.0	1.0	24.6
男性計	124	65.3	50.8	34.7	28.2	33.1	31.5	20.2	14.5	6.5	24.2	4.0	5.6	6.5	4.8	1.6	-	16.1
男性20代	75	69.3	56.0	36.0	30.7	34.7	36.0	17.3	12.0	9.3	24.0	5.3	5.3	6.7	-	2.7	-	12.0
男性30代以上	49	59.2	42.9	32.7	24.5	30.6	24.5	24.5	18.4	2.0	24.5	2.0	6.1	6.1	12.2	-	-	22.4
その他計	3	33.3	66.7	33.3	66.7	66.7	66.7	66.7	33.3	-	33.3	-	-	-	-	-	-	33.3

【Q1-3&4 配偶者と子供の有無】

配偶者有・子供有	848	54.5	44.8	26.4	24.2	22.2	14.6	16.0	24.9	29.5	16.4	4.8	9.0	0.7	7.1	4.1	1.7	17.2
配偶者有・子供無	284	62.7	56.0	35.6	28.5	25.4	21.5	18.0	21.5	30.3	18.3	34.5	8.5	4.6	1.8	6.7	3.5	12.3
配偶者無・子供有	136	61.0	52.9	26.5	31.6	17.6	14.0	17.6	36.0	19.1	26.5	-	14.0	-	9.6	0.7	-	22.1
配偶者無・子供無	1,131	66.7	60.6	43.2	34.7	36.2	33.4	28.2	17.9	10.0	15.3	12.9	8.0	16.2	2.2	3.6	1.2	11.3

(29) 就業継続するために希望する昇給額（月給）（AQ29_1）

どの程度月給が高ければ働き続けたいと思うかを聞いたところ、「30,001～60,000円」が4割台半ば（46.9%）で最も多く、これに「90,001円以上」が約3割（29.5%）で続いている。

性・年代別でみると、「30,001～60,000円」は女性20代で5割（50.7%）、「90,001円以上」は男性30代以上で4割強（41.4%）と多くなっている。

雇用形態別でみると、「30,001～60,000円」は正規職員で約5割（48.8%）、「90,001円以上」はフルタイムで約4割（37.8%）と多くなっている。

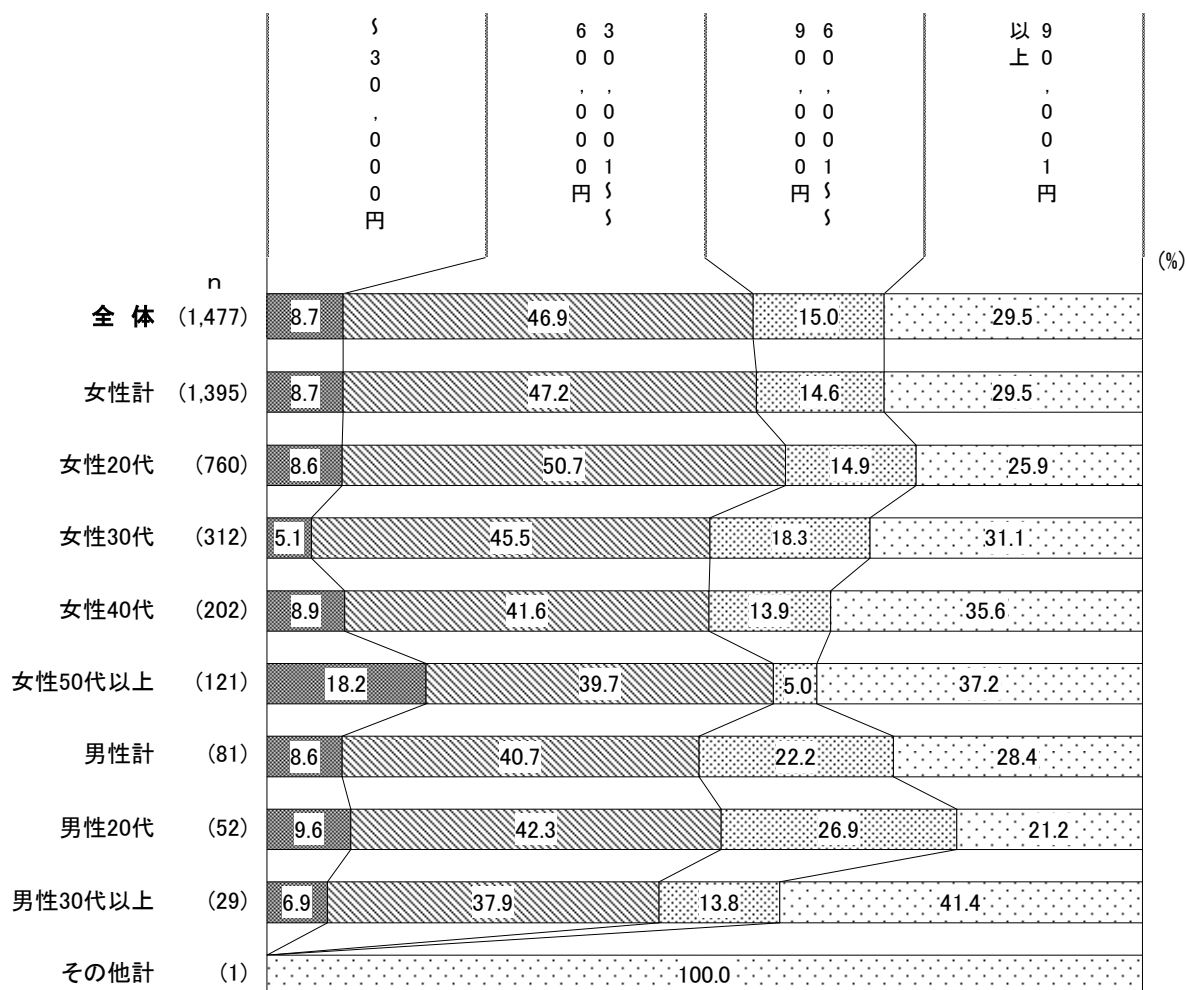
配偶者と子どもの有無別でみると、「30,001～60,000円」は配偶者無・子供無で5割強（51.3%）と多くなっている。

役職別でみると、「30,001～60,000円」は主任で7割（70.8%）、「90,001円以上」は副主任で5割（50.0%）と多くなっている。

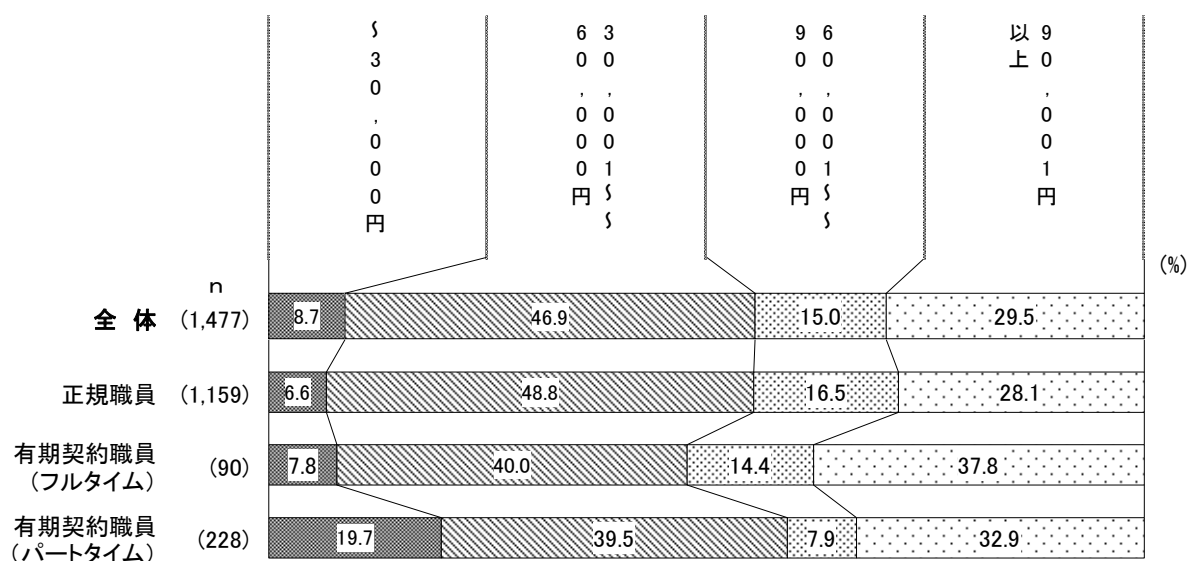
【AQ29で「給料が安い」を選択した方にお聞きします。】

AQ29_1 どの程度月給が高ければ働き続けたいと思いますか。（○は1つだけ）

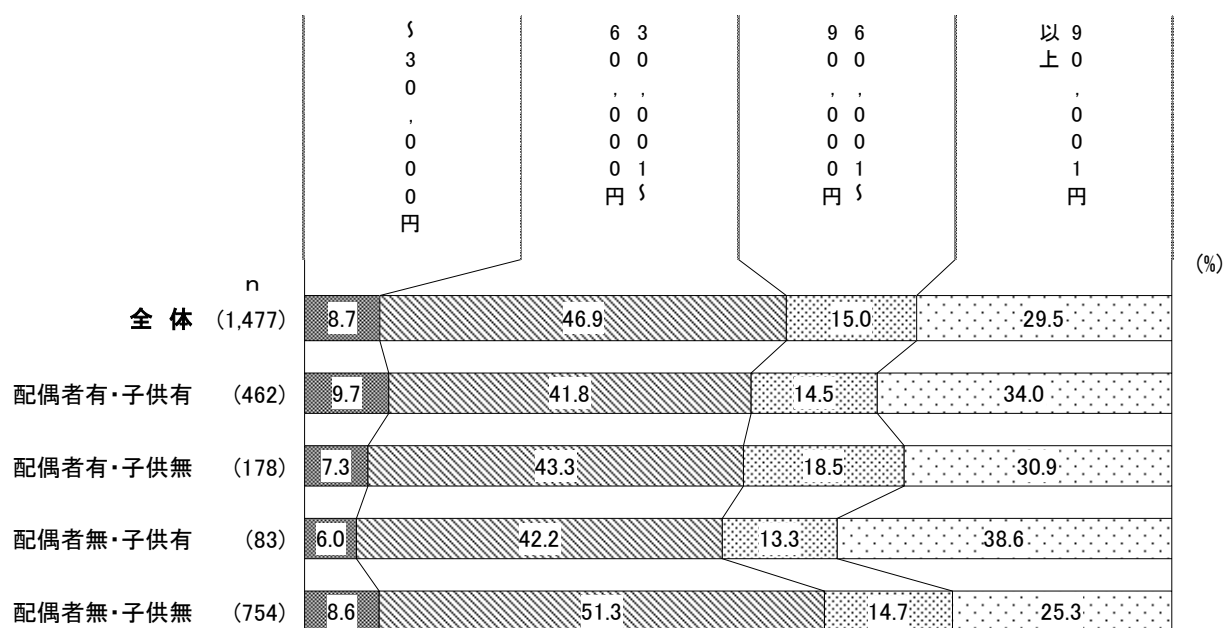
就業継続するために希望する昇給額（月給）（性別、性・年代別）



就業継続するために希望する昇給額（月給）（雇用形態別）



就業継続するために希望する昇給額（月給）（配偶者と子供の有無別）

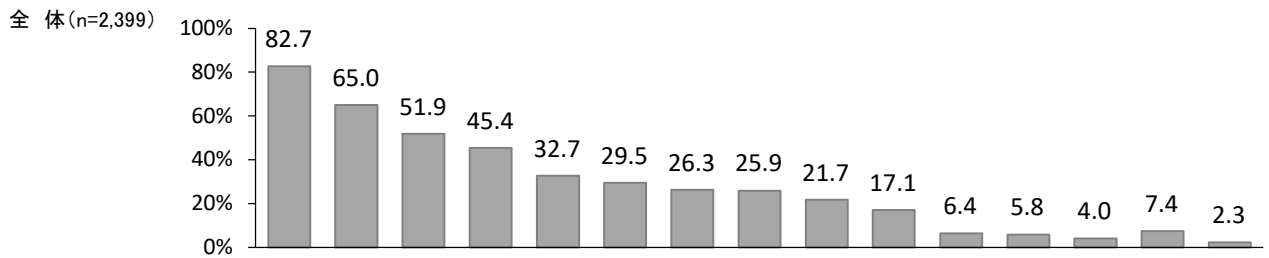


(30) 保育士を辞めた場合の復職条件 (AQ30)

退職した場合、再び保育士として働く場合に求める条件としては、全体で、「給与等（年収）」が8割強（82.7%）で最も多く、次いで、「勤務時間（1日）」が6割台半ば（65.0%）、「勤務日数（週）」（51.9%）、「通勤時間（片道）」（45.4%）となっている。
 配偶者・子供の有無別でみると、「働くことが可能な家庭の状況」においては配偶者有・子供有（31.7%）が3割強と最も高く、最も低い『配偶者無・子供無』（13.2%）と比べて、18.5ポイント差が出ている。

AQ30 あなたが退職した場合で、再び保育士として働くとしたら、どのような条件を求めますか。また（ ）内に具体的な数字もあわせてご記入ください。（○はいくつでも）

保育士を辞めた場合の復職条件（配偶者と子供の有無別、雇用形態別）



	n	給与等（年収）	勤務時間（1日）	勤務日数（週）	通勤時間（片道）	雇用形態 パート・非常勤雇	／やりのキャリアアップが可能	保育所や法人の保育理念や運営方針への納得感	雇用形態 正規職員雇用	働くことが可能な家庭の状況	自身の健康状況の改善	加研修等の再教育プログラム参加	雇用形態 派遣	求人情報の提供	その他	育士としての働く条件がなくてもいい
全体	2,399	82.7	65.0	51.9	45.4	32.7	29.5	26.3	25.9	21.7	17.1	6.4	5.8	4.0	7.4	2.3

【Q1-3&4 配偶者と子供の有無】

配偶者有・子供有	848	78.3	67.0	54.4	49.9	39.9	29.0	26.5	20.6	○ 31.7	15.8	8.4	7.8	4.6	7.8	2.0
配偶者有・子供無	284	86.6	66.5	51.8	51.1	37.7	27.8	34.9	26.1	25.7	18.7	4.2	7.0	2.8	7.7	1.4
配偶者無・子供有	136	81.6	68.4	50.0	○ 55.9	22.8	○ 39.7	○ 41.2	33.1	22.1	23.5	8.8	2.2	5.1	7.4	2.2
配偶者無・子供無	1,131	85.1	62.8	50.4	39.3	27.2	29.1	22.1	28.9	13.2	17.0	5.2	4.4	3.7	7.1	2.7

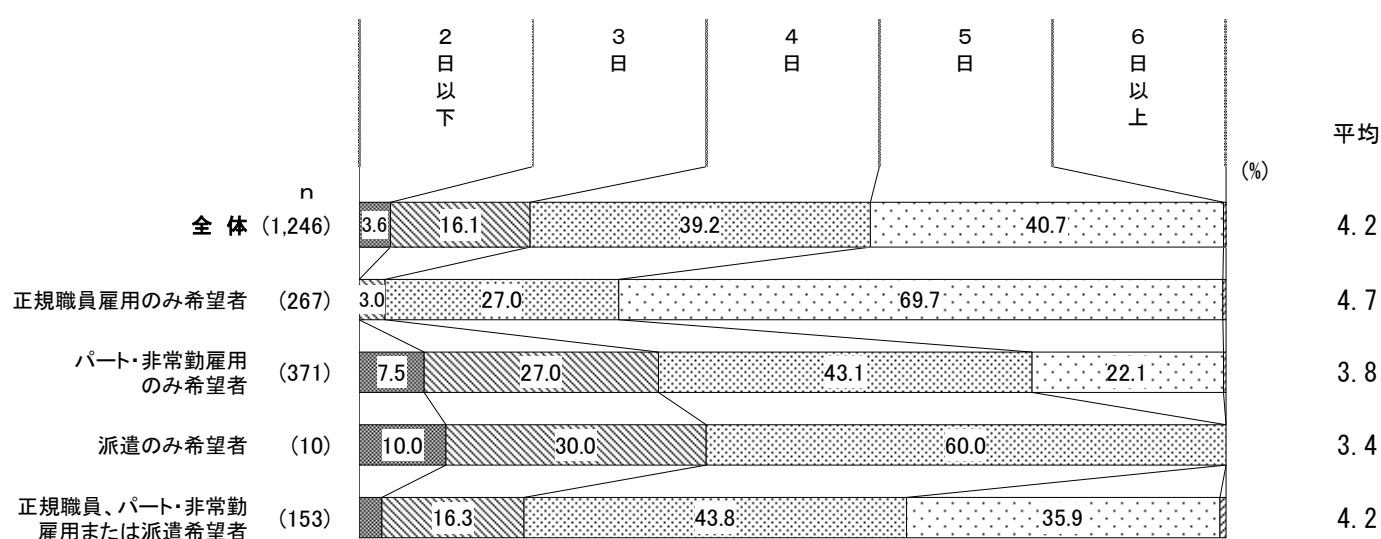
【AQ4-4 雇用形態】

正規職員	1,742	85.8	66.1	50.5	42.1	27.5	29.5	24.9	30.0	19.2	15.7	4.6	4.3	3.5	6.9	2.3
有期契約職員（フルタイム）	148	79.1	62.2	53.4	54.1	40.5	30.4	28.4	27.0	23.6	18.2	12.2	14.2	5.4	14.2	2.7
有期契約職員（パートタイム）	509	73.1	62.3	56.4	54.2	○ 48.1	29.3	30.3	△ 11.4	29.7	21.8	10.8	8.4	5.3	7.1	2.0

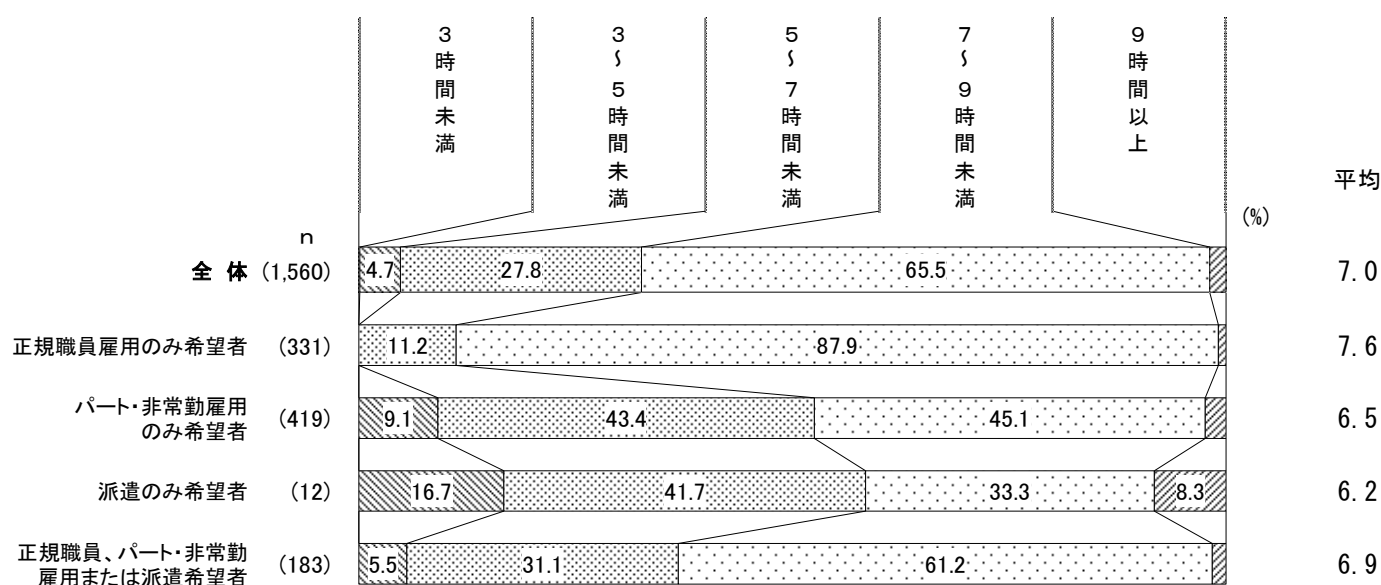
希望条件数字記入項目では全体で、平均勤務日数は4.2日、平均勤務時間は7.0時間、平均通勤時間（片道）は26.9分、平均年収は366.6万円である。

希望する雇用形態別でみると、正規職員雇用のみ希望者は、勤務日数週4.7日、勤務時間7.6時間、通勤片道29.0分、年収404.7万円、パート・非常勤雇用のみ希望者は、勤務日数3.8日、勤務時間6.5時間、通勤時間片道24.3分、年収283.1万円、派遣のみ希望者は、勤務日数3.4日、勤務時間6.2時間、通勤時間片道23.9分、年収286.5万円、正規職員、パート・非常勤雇用または派遣希望者は、勤務日数4.2日、勤務時間6.9時間、通勤時間片道26.8分、年収345.1万円となっている。

保育士を辞めた場合の復職条件＜勤務日数（週）＞（希望する雇用形態別）

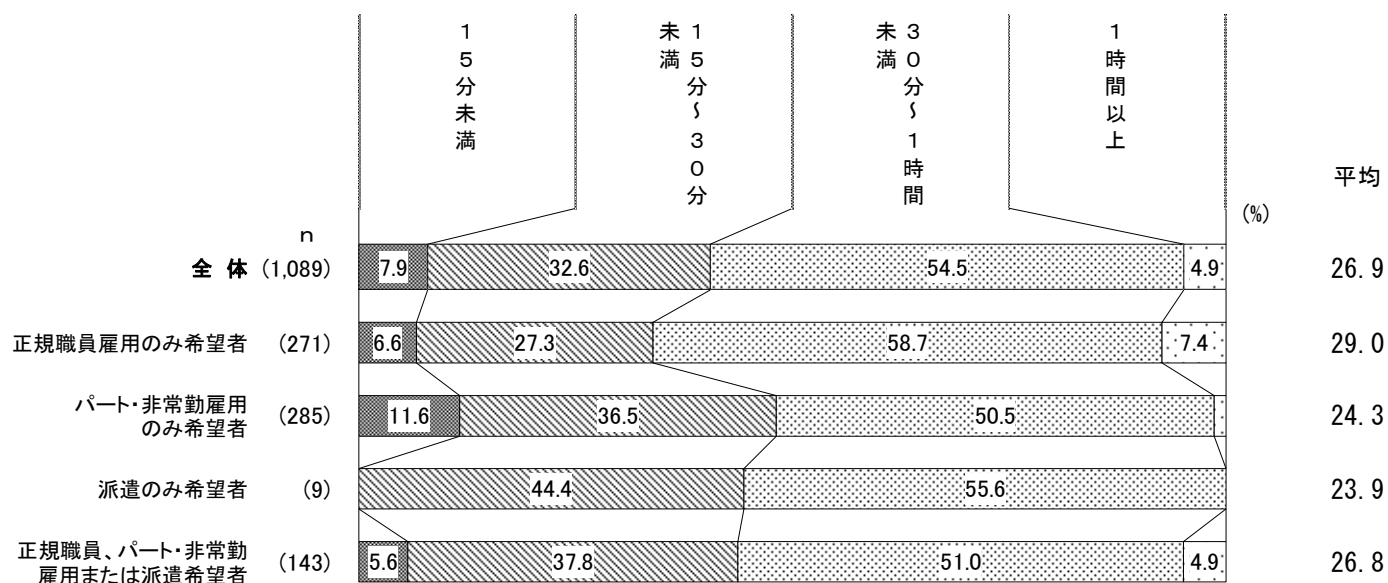


保育士を辞めた場合の復職条件＜勤務時間＞（希望する雇用形態別）

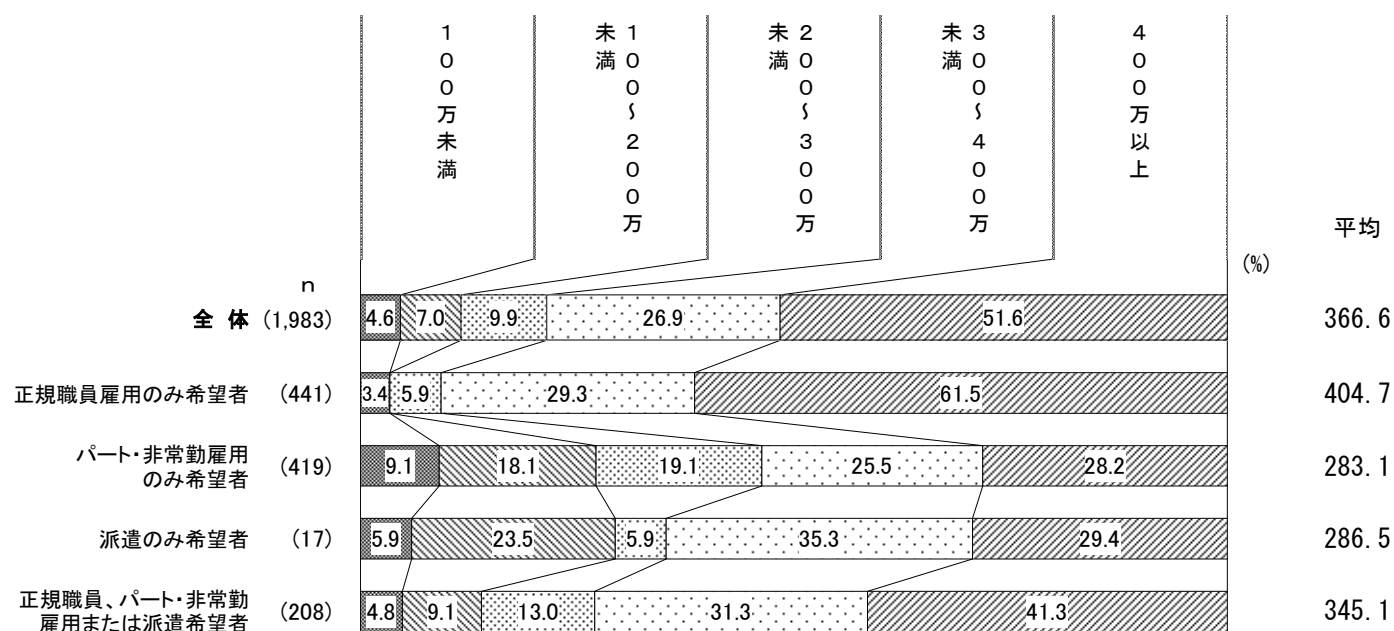


第三章 調査結果詳細

保育士を辞めた場合の復職条件＜自宅からの通勤時間（片道）＞（希望する雇用形態別）



保育士を辞めた場合の復職条件＜年収＞（希望する雇用形態別）



(31)「保育士として働くことへの不安」、「働くために支援が必要だと感じていること」、「理想とする保育」(自由記述)(CQ5)

CQ5 最後に、あなたの「保育士として働くことへの不安」や「働くために支援が必要だと感じていること」、「理想とする保育」など、ぜひお聞かせください。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「保育士として働くことへの不安」について抜粋(記入者計8,929人)
1	女性	35～39歳	保育士試験	他業種からの転職と保育士試験での資格取得ということもあり、基本的な保育技能が十分でないままに勤務していることへの不安は日々感じています。特に0歳児保育には関わったことがなく、今後担任をすることがあった時にはすごく不安です。職場にはその不安感はお伝えしているし、一人で抱え込ませないような職場環境であるので、そこはとてもありがたく感じています
2	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	体力だけではなく腱鞘炎や腰痛など職業柄、体を痛める事が多く、乳児担任をやりたいと思っても体の事を考えると乳児担任になるのは厳しいと思う事が増えた。仕事を続けたいと思っても体が動けなくなっているのが健康的に不安な事が多い。
3	女性	45～49歳	保育士試験	・保育士として働くことへの不安 保育士の社会的地位が低いと、誰でもできる仕事、遊んでいて羨ましい、などの声が聞かれる。給料も実際に安く、そのため新人の保育士に保育士になった理由を聞くと「行ける学校がそこしかなかったんですよ」という残念な答えを聞く。給与面が上げられれば、志を持って目指す人が増えるのではないかと考える。このままでは保育の質は上がらないと不安を感じる。
4	男性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	一般企業や教員として働く同世代の友人と年収や福利厚生を比較してみると大きな差が開いているのを実感しています。また、管理職の仕事には、給料面、仕事内容等、魅力を感じる事がどうしてもできません。このまま、保育士としてキャリアを積むべきか真剣に悩んでいます。
5	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	現在の保育士の配置基準では子どもに丁寧に关わる余裕がなく、毎日があっという間に過ぎてしまう。余裕のなさから子どもへ厳しくしてしまうこともあり、自己嫌悪に陥ることも多々あります。また、書類等の業務が勤務時間内に取れず、サービス残業で行なっている先輩の姿をよく見かけるため、自分にもこの先のような働き方が待っているのかと思う日々不安です。
6	女性	50～54歳	短期大学の保育士養成課程	長年人手不足の中働いてきているため、モチベーションを保つのに翻弄されております。疲れ切っています。保育士のやる気だけに頼っているようにも思います。いつかは崩壊するのではないかと不安です
7	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	現在、3歳と1歳の子育てをしながら正社員フルタイム(シフトあり)で仕事をしています。私は実家が近いこともあり両親の協力を得られる恵まれた環境だからこそ正社員として働けていますが、それがなければ今の自分がないと思うと、子育てをしながら保育士を続ける難しさを感じます。
8	女性	50～54歳	その他養成施設の保育士養成課程	今後は少子化の問題もあり、閉園の保育園も増えて来ると思います。今の職場に不満は無いのでこのまま生き残っていけるのか不安に思います。
9	女性	30～34歳	保育士試験	保育士として働けることに誇りを持っていますし、とてもやりがいのある仕事だなどいつも思いますが、体力が必要な仕事なので、自分が出産した後など、フルタイムで職場復帰できるか不安です。
10	女性	20～24歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	現在、借り上げ社宅制度を使用させて頂いており、とても有難い制度だと感じています。しかし、保育士のお給料面では正直、満足をしていないのが現状であり、借り上げ社宅制度がいつか無くなってしまふこともあると考えると不安です。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「働くために支援が必要だと感じていること」について抜粋(記入者計8,929人)
1	女性	60～64歳	保育士試験	時代と共に保育の形が変化している事を痛感します。定期的に講習会や講演などの開催、又保育に携わる方々の意見を半義務的にでも行う必要があるのではと思います。
2	女性	50～54歳	保育士試験	もっと人材の確保が必要。実際はどこの園も人手が足りずに知識技能のある保育士がそれを十分に活用できていない。また子ども達へ手厚く丁寧な保育をしたいという希望や理想を持っていてもそれをかなえられる環境には至っていない。国として都としてもっと実態を把握して改善を行って欲しい
3	女性	25～29歳	保育士試験	保育士資格は国家資格であるが、短大等で取ることができ、誰でも子守ぐらゐできると社会的に軽んじられていると考えている。今後の日本を支える子どもたちの基礎を育む重要な仕事という認識を保育士本人そして社会がもてるよう、そもそもの保育士資格の改善及び社会の考え方の改善を促せるような国家となつてほしい。海外で保育をしたことがあるが、保育士は社会的にもきちんと尊敬され、大切にされていた。

第三章 調査結果詳細

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「働くために支援が必要だと感じていること」について抜粋(記入者計8,929人)
4	女性	40～44歳	保育士試験	新米保育士だからか配置基準には参っています。とても1歳6人を1人で見るなんて出来ません。せいぜい3-4人を1人で見るぐらいです。1歳だと嘔み付く子や、散歩中に公園を出てこうとする子も居て、毎日命を守るのに精一杯です。出勤して昼休憩まで、トイレにも行きづらい環境です。子どもの命を預かるという責任も重いものだから、看護師さんレベルの給与か職員の人数を増やせる様に配置基準が改善されるとありがたいです。
5	女性	45～49歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	どんどん手厚い保育をしなければ行けなくなっているが、その分雑務も増え有給すら使えない状態が現状。もっと保育士も休暇が取りやすくなれば余裕もうまれ保育にもプラスになると思う
6	女性	30～34歳	短期大学の保育士養成課程	保育導入システムを採用し、負担が軽減されていると言われると、もちろん書き物がない分の負担は軽減されていると思いますが、勤務時間に対する仕事量の多さはそれ程変わらず、休日や勤務後に書類関係(システム利用して)を行うことが多いので、そのあたりの業務のスマート化ができると良いかと思います
7	女性	70歳以上	短期大学の保育士養成課程	私自身は幼稚園勤務が長く、結婚後の育児が終わったところ、保育士として復帰しやすい支援に気がついていけば、もっとはやく復帰できたと思うので 40～50代の保育士の復帰の支援を充実させてほしい。
8	女性	35～39歳	短期大学の保育士養成課程	コロナをきっかけにより一層この仕事は自分の体を犠牲にしても守らなくてはいけな命を預かっている仕事だという事を日々痛感しながら保育しています。自分達にも家族がいるけれど、使命を持って邁進している保育士に対してもう少し給与の面などで働きに見合った報酬があることを願います。
9	女性	20～24歳	保育士試験	やはり業務内容と給与が合っていないと言うことに関して改善して頂きたいと思っております。最も小さな命を預かる職として、誇りを持ちたいと思う一方で、安月給から周囲(他職業)から「大した事がない職」と思われる事に悲しくなります。よりよい人材を集める為にも給与の改善をしていただきたいと強く思います。
10	男性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	男性保育士が増加しているものの、現場や制度が追いついていない印象がある。改善傾向ではあるが、男性用のロッカーや更衣室がない(トイレや物置で着替える)保育所も多い。育業(育休)の制度なども現場の園長、主任や法人の理事などが最新の制度を把握できていない場合が多い。こうした、男性の制度が認知されていないことや職場環境に働きづらさを感じている。現在でも女性保育士の割合が多いのは事実であるが、男性も保育の担い手としてハード面、ソフト面両方からの支援が今後も必要であると思う。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「理想とする保育」について抜粋(記入者計8,929人)
1	女性	45～49歳	保育士試験	理想の保育は、ゆとりを持って子どもたちと少人数でじっくり保育がしたい。一人一人の成長に合わせた保育。職員が少ないと一斉になってしまう。子どもも職員も笑顔でいられる保育がしたい。
2	女性	60～64歳	短期大学の保育士養成課程	子ども主体の保育とは、どのような保育なのかを職員のみならず意見を出し合って話せる事が理想。
3	女性	30～34歳	短期大学の保育士養成課程	遊びの中からたくさん学べる事が理想の保育である。そのためには遊びをもっと充実させていきそこからいろいろな発見・気づきができるような環境を整えていきたいと思っている。
4	女性	50～54歳	保育士試験	・やらなければならない事に追われるのではなく、「ああ今日は目一杯この遊びをして楽しかったな」と子どもが思える一日を過ごせるような保育をしたい。
5	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	理想とする保育は、保育所だから保育をする、幼稚園だから教育をする、と分けて考えずに、日本で生まれ育った全ての子どもに、平等な保育と教育を提供することである。そのために、保育所保育指針と幼稚園教育要領のどちらも読み、両方の資格を取得して働いている。幼稚園と保育所の垣根を、現場の職員が作らずに歩み寄っていくことを望んでいる。
6	男性	35～39歳	保育士試験	理想とする保育は、子どもや保護者と信頼関係を構築し、仕事としての役割を越えて人として関わりを持つこと。職員間も同様に考えています。思いやり、人を大切にすることを第一に今後も保育の仕事に励んでいきたいと思っています。
7	女性	65～69歳	その他養成施設の保育士養成課程	理想とする保育は、保護者と共に子育てをする事。若い保護者の子育て不安や悩みなど、安心して相談してもらえるよう、コミュニケーションをとっていききたい
8	女性	25～29歳	保育士試験	お子さんの自主性を伸ばしてあげられるように、見守りを大切にしている保育をしながらも、ねらいや成長目標を明確に、一人一人を良く見てあげられるようになりたい。
9	女性	35～39歳	大学の保育士養成課程	担当のクラスの子どものみならず、園に通っているみんなのことを、職員全員とおうちの方と一緒に子育てをしながら成長を見守っていけるような、暖かい家族のような保育ができればいいなと思っています。
10	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	これからの、国を担っていく子どもたちを育成する、その大切さを皆で考えていける様になったら、良いと思う。また、保護者支援、虐待防止等も、進めていけたら良いと思う。理想としては、プロ意識をもった保育士が増え、一人一人が誇りを持って保育にあたる。また、皆で保育の勉強をしたり、子どもに対して愛情をもった保育を皆で出来る、そんな保育をしていけたら良い。

3. 過去に保育士就業経験がある者の実態

(1) 現在の就業状況 (BQ4)

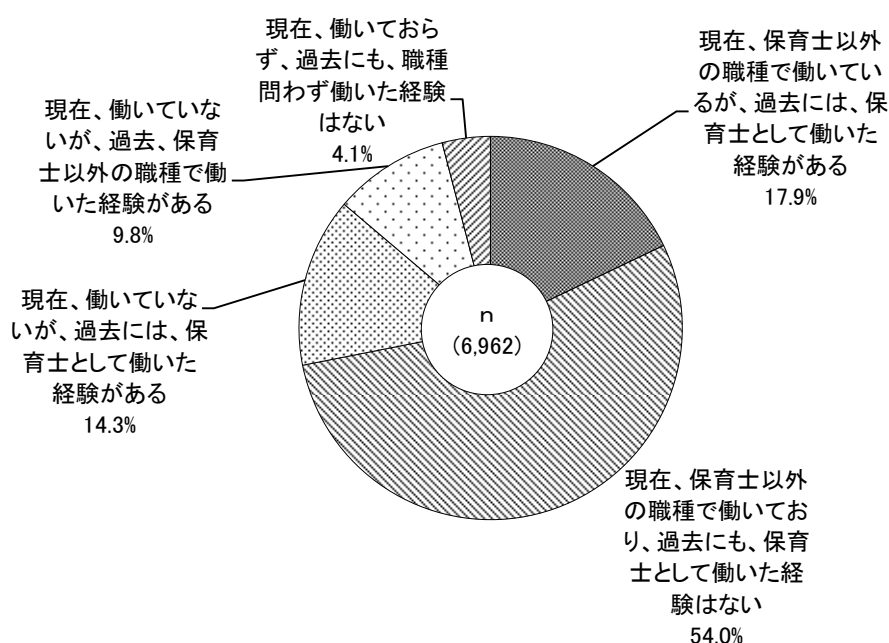
現在の就業状況は、「現在、保育士以外の職種で働いており、過去にも、保育士として働いた経験はない」が5割台半ば (54.0%)、「現在、保育士以外の職種で働いているが、過去には、保育士として働いた経験がある」が約2割 (17.9%)、「現在、働いていないが、過去には、保育士として働いた経験がある」も1割台半ば (14.3%) となっている。

BQ4 あなたの現在の就業状況（自営・パートを含む）をお答えください。（○は1つだけ）

※現在、休職中の方（産休・育休含む）は、「働いている」としてお答えください。

⇒「現在、保育士以外の職種で働いており、過去にも、保育士として働いた経験はない」「現在、働いていないが、過去、保育士以外の職種で働いた経験がある」「現在、働いておらず、過去にも、職種問わず働いた経験はない」と回答した方（保育士として働いたことのない方）は124ページBQ13へ

現在の就業状況



(2) 初就業時に保育関係の求人を得るために利用した機関等 (BQ5)

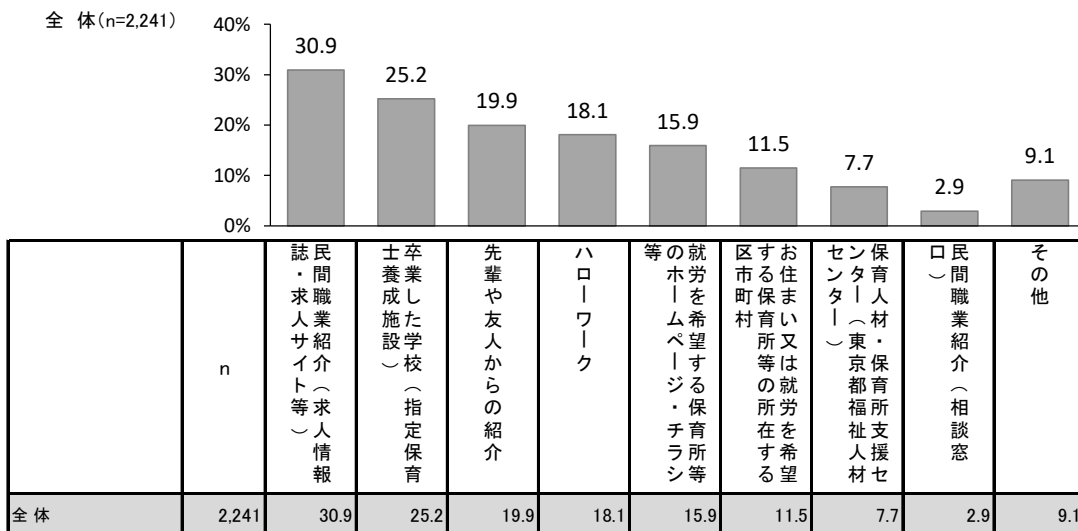
保育士として初就業時に保育関係の求人を得るために利用した機関等は、全体で「民間職業紹介（求人情報誌・求人サイト等）」が3割（30.9%）で最も多く、次いで、「卒業した学校」（25.2%）が2割台半ば、「先輩や友人からの紹介」（19.9%）、「ハローワーク」（18.1%）と約2割となっている。

性・年代別で見ると、男女ともに20代では「卒業した学校」が最も多く、次いで、男性20代では「先輩や友人からの紹介」、女性40代では「ハローワーク」が多くなっている。

資格取得方法別で見ると、その他養成施設の保育士養成課程を除く養成施設では「卒業した学校」、保育士試験では「民間職業紹介（求人情報誌・求人サイト等）」が最も多くなっている。

BQ5 あなたが保育士として就職した際、どのようなところから得た情報を活用しましたか。
 (〇はいくつでも)

初就業時に保育関係の求人を得るために利用した機関等（性別、性・年代別、資格取得方法別）



【性別、性・年代】										
	n	民間職業紹介（求人情報誌・求人サイト等）	卒業した学校（指定保育士養成施設）	先輩や友人からの紹介	ハローワーク	就労を希望する保育所等のホームページ・チラシ等	区市町村お住まい又は就労を希望する保育所等	センター（東京福祉人材センター）	民間職業紹介（相談窓口）	その他
女性計	2,120	30.9	25.5	19.8	18.3	16.0	11.5	7.7	2.7	9.1
女性20代	442	28.5	○ 39.1	16.7	△ 7.2	16.5	7.0	5.4	3.6	12.9
女性30代	609	33.8	28.6	20.0	19.4	17.4	10.0	8.2	2.3	7.4
女性40代	474	33.1	19.0	20.7	26.6	15.4	12.9	7.0	3.0	8.9
女性50代以上	594	28.1	17.5	21.2	18.7	14.5	15.3	9.4	2.4	8.1
男性計	112	31.3	20.5	22.3	15.2	13.4	11.6	8.9	5.4	9.8
男性20代	36	△ 16.7	○ 44.4	○ 33.3	-	22.2	5.6	8.3	2.8	8.3
男性30代以上	76	38.2	△ 9.2	17.1	22.4	9.2	14.5	9.2	6.6	10.5
その他計	7	△ 14.3	△ 14.3	28.6	14.3	14.3	-	-	-	14.3

【Q3 保育士資格取得方法】										
資格取得方法	n	民間職業紹介（求人情報誌・求人サイト等）	卒業した学校（指定保育士養成施設）	先輩や友人からの紹介	ハローワーク	就労を希望する保育所等のホームページ・チラシ等	区市町村お住まい又は就労を希望する保育所等	センター（東京福祉人材センター）	民間職業紹介（相談窓口）	その他
専門（専修）学校の保育士養成課程	447	23.0	○ 45.2	22.8	17.2	15.7	10.1	10.3	3.1	6.9
短期大学の保育士養成課程	528	24.4	○ 41.5	18.6	19.1	11.6	12.5	7.8	1.7	8.1
大学の保育士養成課程	316	27.8	○ 38.3	22.8	10.1	17.7	13.0	4.4	3.2	10.8
その他養成施設の保育士養成課程	78	32.1	15.4	20.5	16.7	△ 5.1	9.0	10.3	1.3	10.3
保育士試験	871	39.8	△ 1.3	18.3	21.0	18.8	11.3	7.3	3.4	10.1

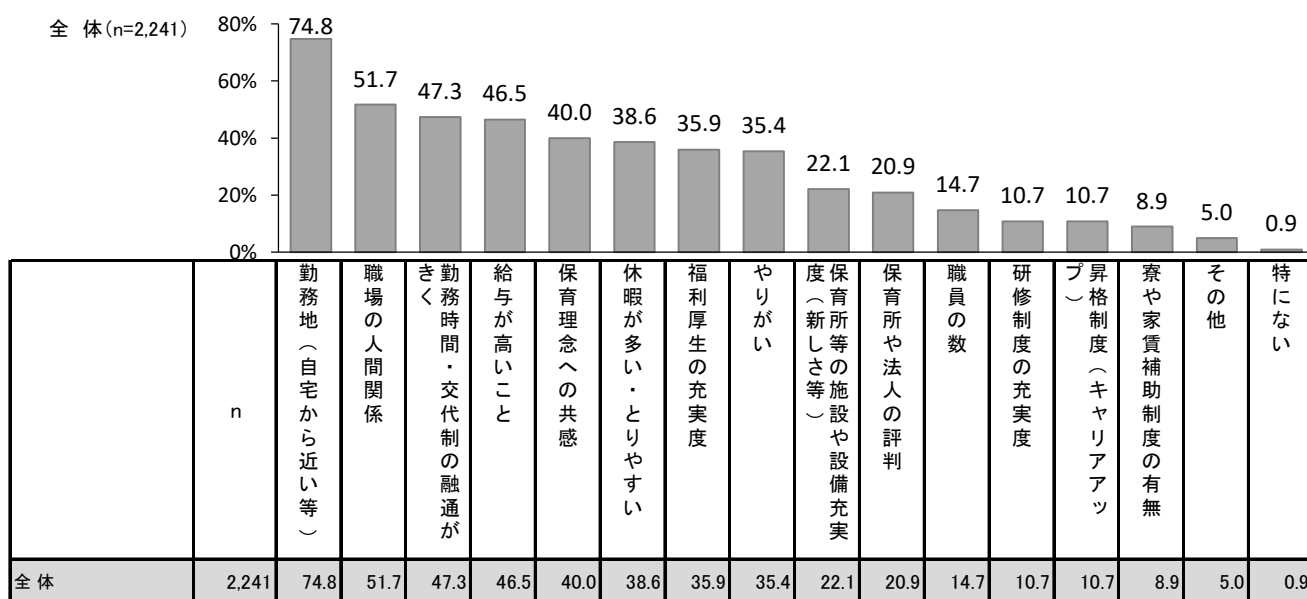
(3) 過去の職場選択時に重視した項目 (BQ6)

過去に保育士として働いた職場を選択した際に重視した項目は、全体で「勤務地」が7割台半ば(74.8%)で最も多く、次いで、「職場の人間関係」が5割強(51.7%)、「勤務時間・交代制の融通がきく」(47.3%)、「給与が高いこと」(46.5%)となっている。

性・年代別でみると、「勤務地」では女性(75.8%)が男性(57.1%)よりも18.7ポイント、「勤務時間・交代制の融通がきく」でも女性(48.3%)が男性(28.6%)よりも19.7ポイント高い。

BQ6 あなたが保育士として職場を選ぶ際、どのようなことを重視していましたか。
(○はいくつでも)

過去の職場選択時に重視した項目 (性別、性・年代別)



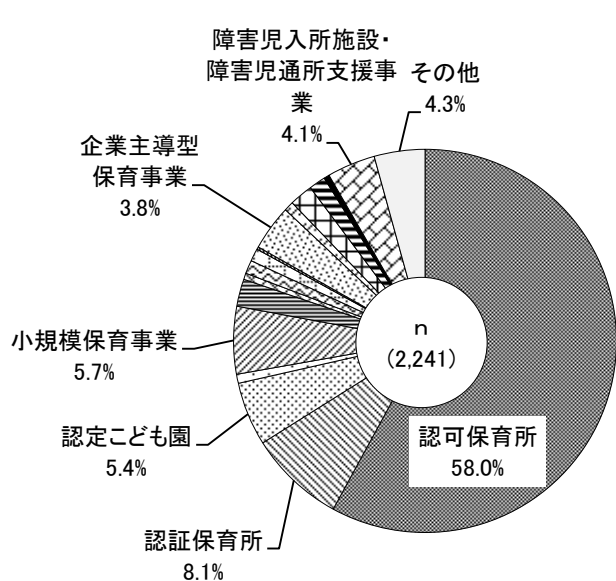
性別・性・年代	n	勤務地 (自宅から近い等)	職場の人間関係	勤務時間・交代制の融通がきく	給与が高いこと	保育理念への共感	休暇が多い・とりやすい	福利厚生の実充度	やりがい	保育所等の施設や設備充実度 (新しさ等)	保育所や法人の評判	職員の数	研修制度の実充度	昇格制度 (キャリアアップ)	寮や家賃補助制度の有無	その他	特になし
全体	2,241	74.8	51.7	47.3	46.5	40.0	38.6	35.9	35.4	22.1	20.9	14.7	10.7	10.7	8.9	5.0	0.9
【性別、性・年代】																	
女性計	2,120	75.8	52.0	48.3	46.3	40.1	38.9	35.8	35.4	22.6	21.2	14.7	10.6	10.6	8.8	5.0	0.9
女性20代	442	△62.2	△59.3	△33.9	○58.8	37.3	△42.8	○53.2	27.6	25.8	17.6	15.4	9.7	13.8	17.9	3.4	1.1
女性30代	609	76.4	54.8	47.9	50.7	41.9	42.7	41.9	32.8	25.9	21.5	16.6	10.5	12.5	9.5	5.3	1.0
女性40代	474	82.3	51.3	○59.3	43.5	39.7	42.2	29.1	32.3	17.1	22.4	13.1	8.2	9.1	5.1	4.4	1.1
女性50代以上	594	80.1	44.4	50.7	△34.8	40.7	29.5	△22.1	○46.1	21.4	22.6	13.5	13.1	7.4	4.4	6.2	0.7
男性計	112	△57.1	△42.9	△28.6	50.9	35.7	32.1	37.5	34.8	14.3	17.0	13.4	12.5	13.4	9.8	7.1	0.9
男性20代	36	△44.4	△44.4	△22.2	○58.3	38.9	△27.8	○50.0	△25.0	△11.1	16.7	13.9	13.9	16.7	13.9	-	2.8
男性30代以上	76	△63.2	△42.1	△31.6	47.4	34.2	34.2	31.6	39.5	15.8	17.1	13.2	11.8	11.8	7.9	10.5	-
その他計	7	△57.1	○71.4	△28.6	○57.1	○71.4	△28.6	42.9	28.6	-	-	○42.9	○28.6	14.3	14.3	-	-

(4) 過去就業施設の雇用形態 (BQ7)

過去保育士として就業していた当時の就業施設類型は、全体で「認可保育所」が約6割(58.0%)で最も高い。それ以外はいずれも1割未満となっている。

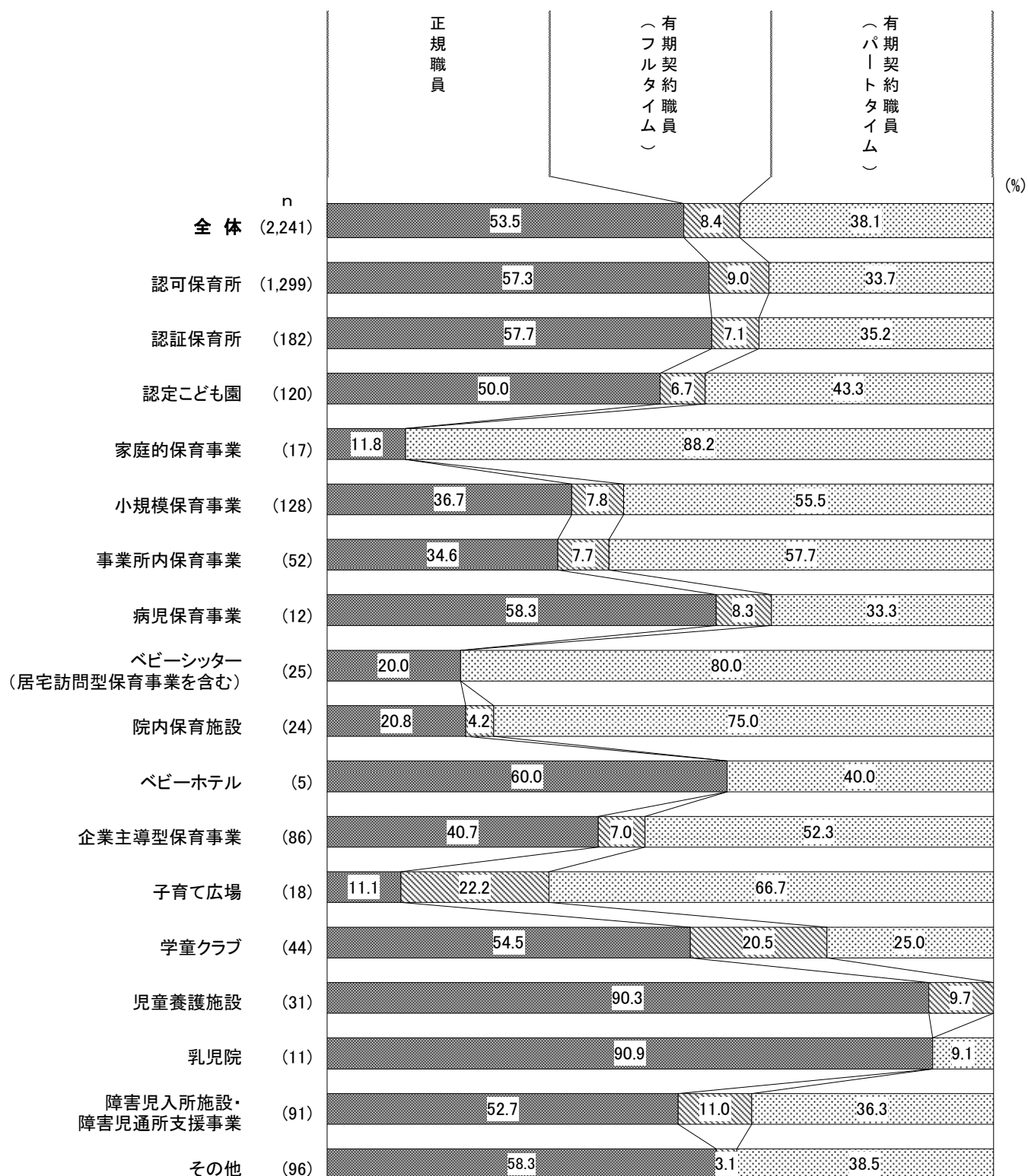
BQ7 過去、保育士としてお勤めされていた施設はそれぞれの項目のいずれにあたりますか。
 また、あなたの雇用形態としてあてはまるものをお選びください。複数の施設で働いていた方は、直近で働いていたところについてお答えください(以下同様に)。(〇は1つずつ)

施設類型



	(%)
全体	100.0
認可保育所	58.0
認証保育所	8.1
認定こども園	5.4
家庭的保育事業	0.8
小規模保育事業	5.7
事業所内保育事業	2.3
病児保育事業	0.5
ベビーシッター(居宅訪問型保育事業を含む)	1.1
院内保育施設	1.1
ベビーホテル	0.2
企業主導型保育事業	3.8
子育て広場	0.8
学童クラブ	2.0
児童養護施設	1.4
乳児院	0.5
障害児入所施設・障害児通所支援事業	4.1
その他	4.3

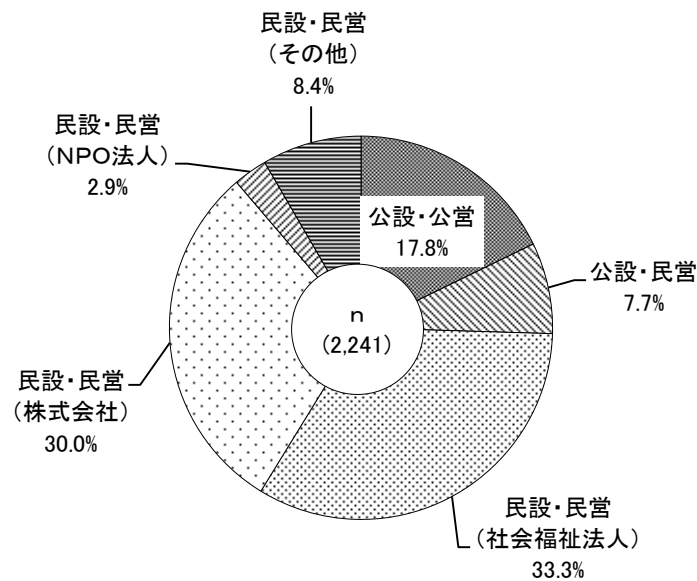
雇用形態（施設類型別）



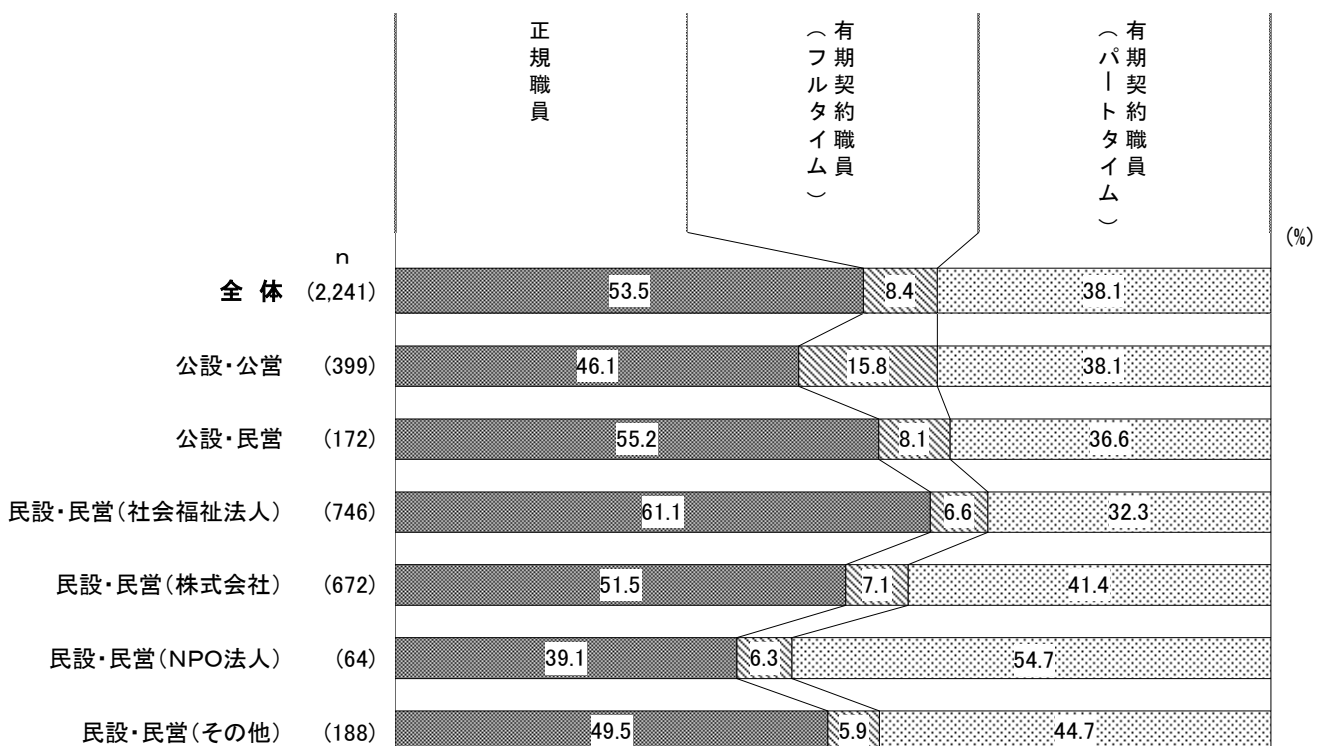
過去の就業施設の運営主体は、全体で「民設・民営（社会福祉法人）」が3割台半ば（33.3%）で最も多く、次いで、「民設・民営（株式会社）」が3割（30.0%）、「公設・公営」（17.8%）となっている。

「民設・民営（社会福祉法人）」では、正規職員が6割強（61.1%）であるが、「民設・民営（NPO）」では約4割（39.1%）にとどまっている。一方、フルタイムは「公設・公営」で1割台半ば（15.8%）と最も多くなっている。

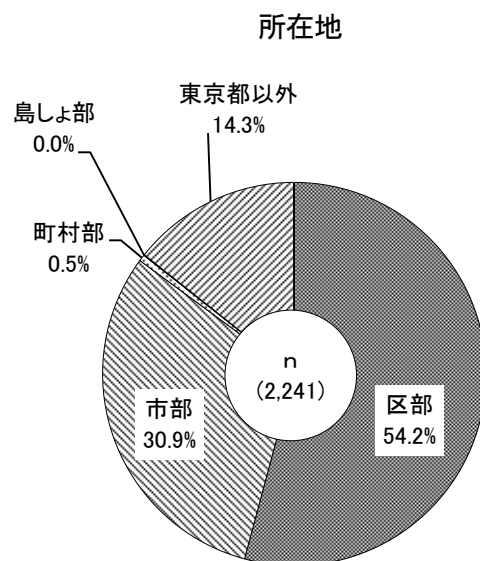
運営主体



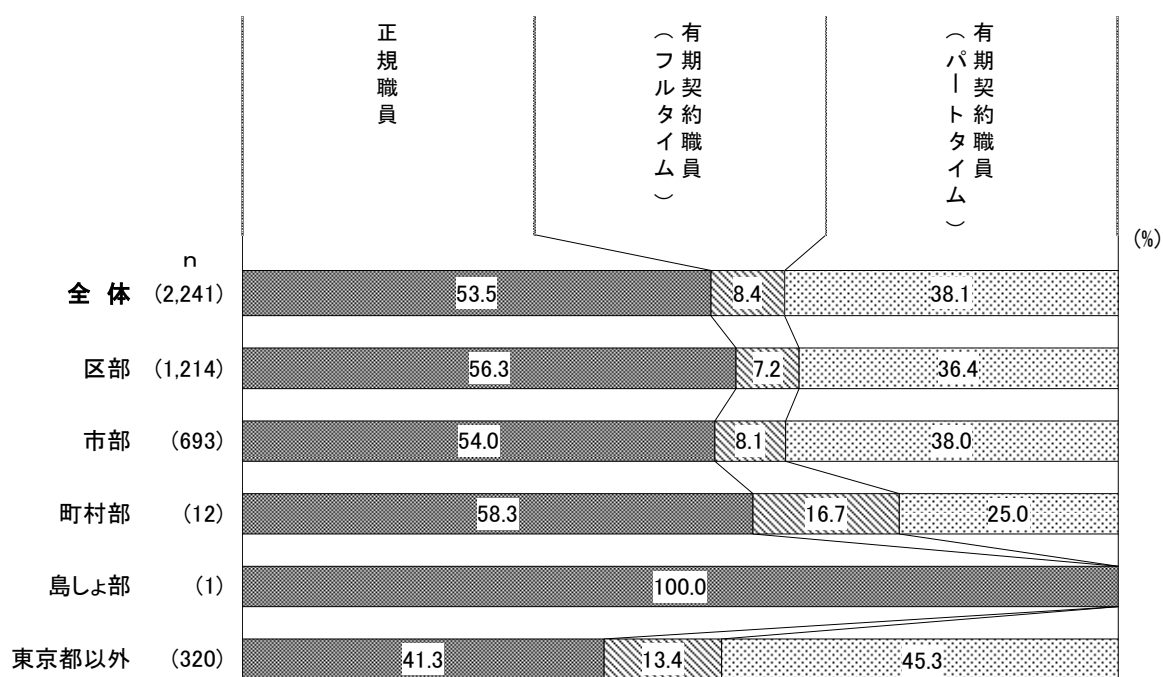
雇用形態（運営主体別）



就業場所の所在地は、全体では、「区部」が5割台半ば（54.2%）、「市部」が3割（30.9%）を超え、また、「東京都以外」が1割台半ば（14.3%）となっている。



雇用形態（所在地別）

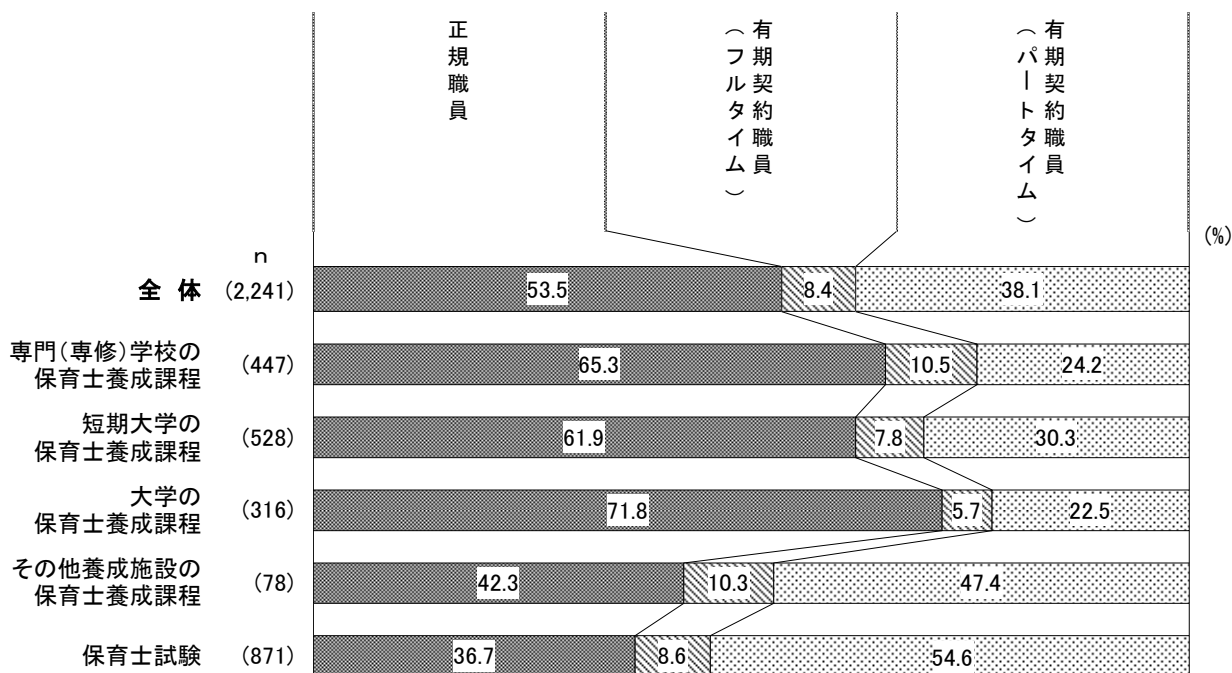


雇用形態は、全体で「正規職員」が5割台半ば（53.5%）、「パートタイム」が約4割（38.1%）、「フルタイム」が1割未満（8.4%）である。

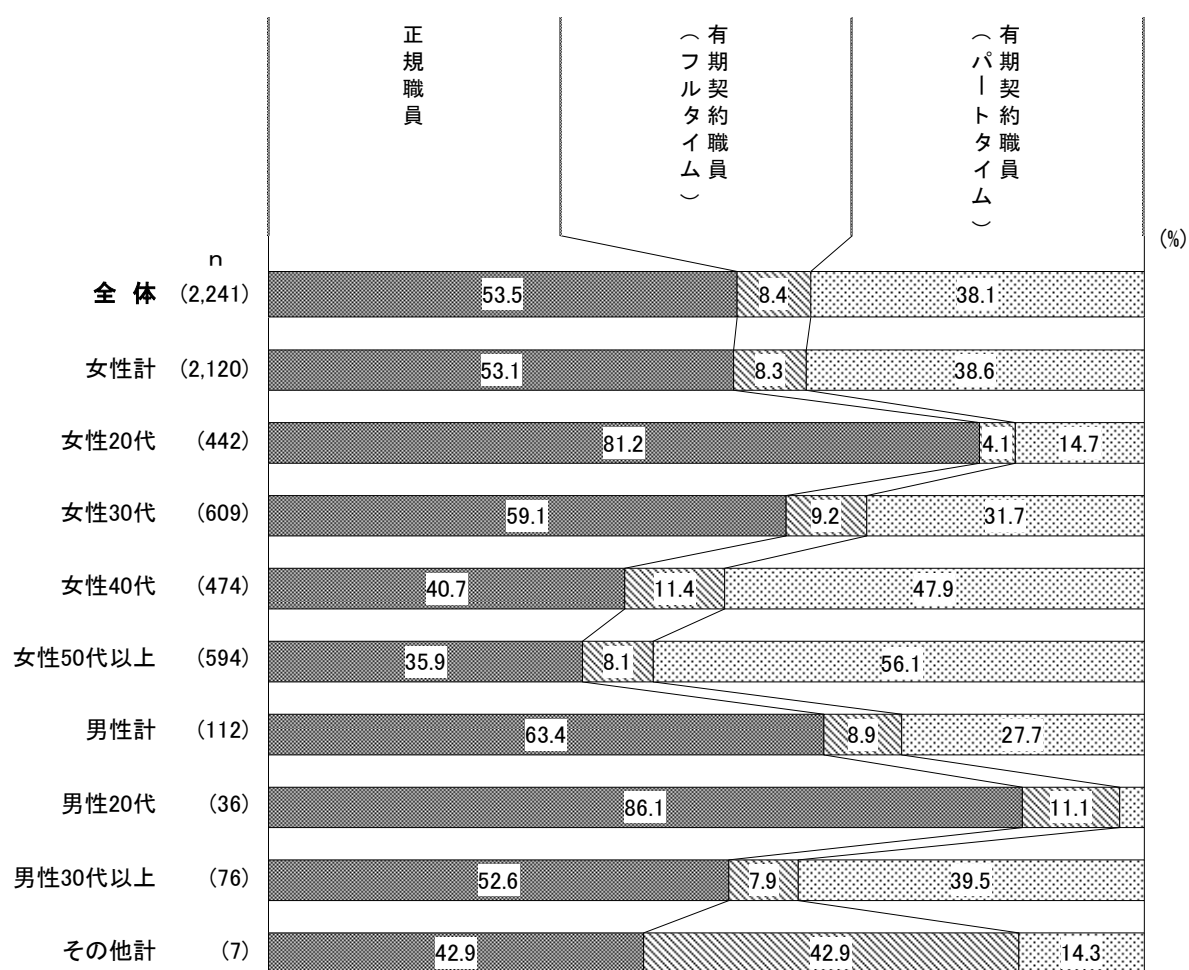
資格取得方法別でみると、保育士試験では、「パートタイム」が5割台半ば（54.6%）と多く、大学の保育士養成課程では、「正規職員」が7割強（71.8%）と多くなっている。

性・年代別でみると、男女ともに20代で「正規職員」が8割台を占めており、ともに年代が高くなるにつれて少なくなる。一方、「パートタイム」は年代が高くなるにつれて多く、特に女性50代では、5割台半ば（56.1%）となっている。

雇用形態（資格取得方法別）



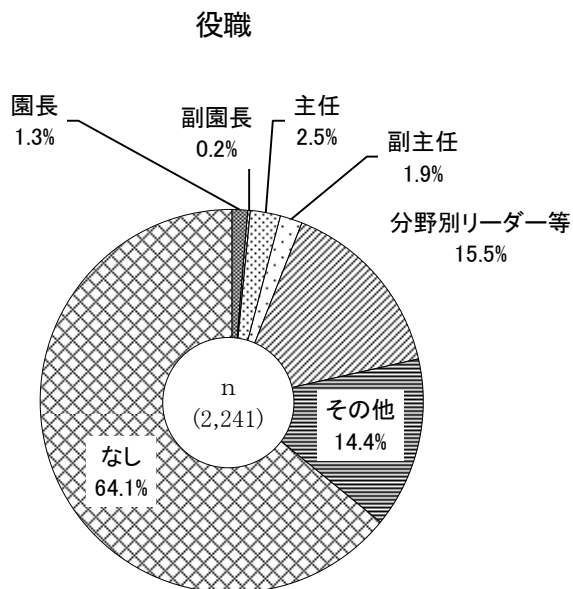
雇用形態（性別、性・年代別）



第Ⅲ章 調査結果詳細

保育士として就業していた当時の役職は、全体で「なし」が6割台半ば（64.1%）で最も多くなっている。また、「分野別リーダー等」が1割台半ば（15.5%）となっている。また、「園長」、「副園長」、「主任」の合計は1割未満（4.0%）である。

性別で見ると、「園長」「副園長」「主任」の合計では女性よりも男性が多く、「なし」は男女ともに6割台となっている。



役職（性別、性・年代別）

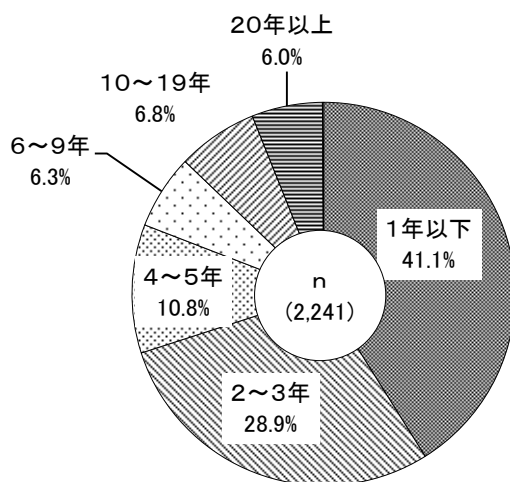
	n	役職 (%)						
		園長	副園長	主任	副主任	分野別リーダー等	その他	なし
全体	2,241	1.3	0.2	2.5	1.9	15.5	14.4	64.1
【性別、性・年代】								
女性計	2,120	1.2	0.2	2.5	1.8	15.7	14.4	64.2
女性20代	442	-	-	0.5	1.8	18.3	14.3	65.2
女性30代	609	1.3	0.2	3.6	2.8	22.7	10.8	58.6
女性40代	474	1.5	0.4	3.0	0.6	13.3	18.6	62.7
女性50代以上	594	1.9	0.2	2.5	1.9	8.6	14.8	70.2
男性計	112	3.6	0.9	2.7	2.7	11.6	16.1	62.5
男性20代	36	2.8	-	-	2.8	16.7	11.1	66.7
男性30代以上	76	3.9	1.3	3.9	2.6	9.2	18.4	60.5
その他計	7	-	-	14.3	-	14.3	-	71.4

(5) 保育士を辞めてからの経過年数 (BQ8)

保育士を辞めてからの経過年数は、「1年以下」が4割強 (41.1%) で最も多く、「2～3年」が約3割 (28.9%)、「4～5年」が1割 (10.8%) となっている。

BQ8 あなたは保育士を辞めて何年になりますか。(1年未満の方は1年とお書きください。)

保育士を辞めてからの経過年数



(6) 保育士を辞めた理由 (BQ9)

保育士を辞めた理由は、全体で「職場の人間関係」が3割強(31.5%)で最も多く、次いで、「仕事量が多い」(23.1%)、「給与が安い」(22.1%)、「健康上の理由」(20.6%)となっている。

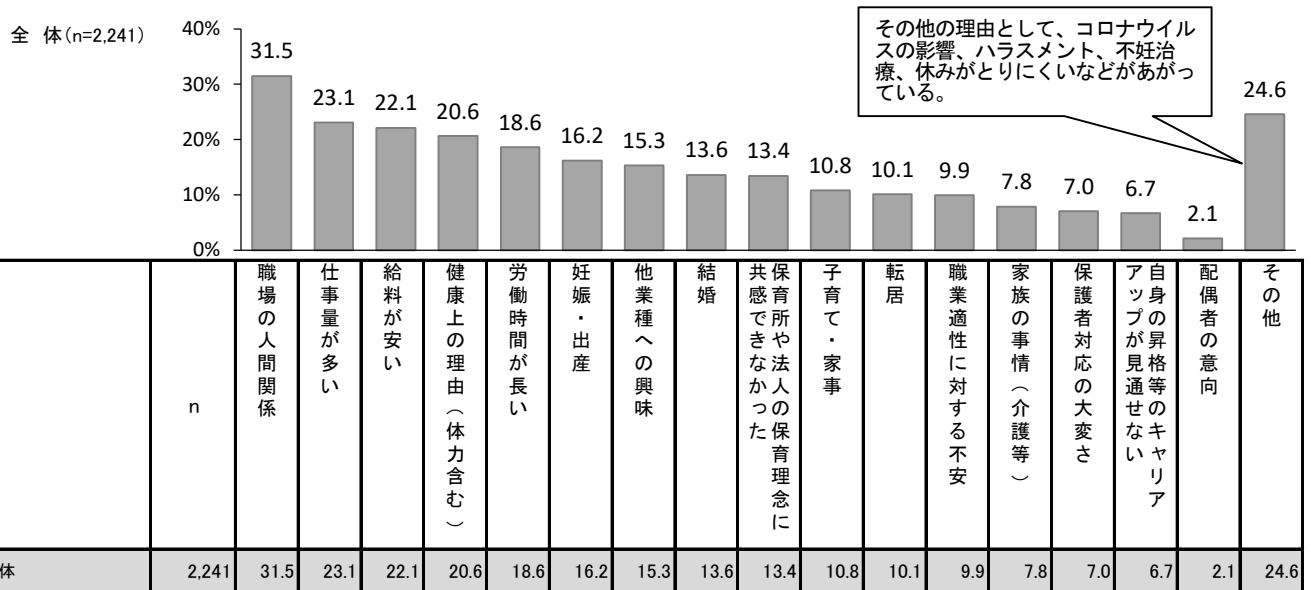
雇用形態別でみると、正規職員が多くの項目で最も高いポイントとなっており、特に「労働時間が長い」(28.7%)では次点のフルタイム(13.8%)を14.9ポイント上回っている。

配偶者・子供の有無別でみると、配偶者無・子供無が「職場の人間関係」、「仕事量が多い」、「給料が安い」、「労働時間が長い」、「他業種への興味」等で他層よりも多くなっている。

運営主体別でみると、「職場の人間関係」「給料が安い」で民設・民営が公設・公営を上回っている。

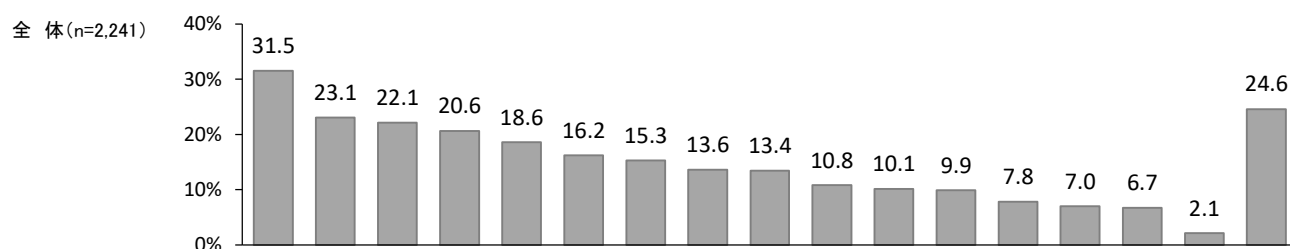
BQ9 あなたが保育士として就業された保育所等を退職した理由としてあてはまるものをお答えください。(〇はいくつでも)

保育士を辞めた理由(雇用形態別、配偶者と子供の有無別)



【AQ4-4 雇用形態】																		
雇用形態	n	職場の人間関係	仕事量が多い	給与が安い	健康上の理由(体力含む)	労働時間が長い	妊娠・出産	他業種への興味	結婚	共感できなかった保育理念に	子育て・家事	転居	職業適性に対する不安	家族の事情(介護等)	保護者対応の大変さ	自身の昇格等のキャリア	配偶者の意向	その他
正規職員	1,199	37.9	31.9	26.4	22.0	28.7	18.5	14.6	20.4	13.8	11.3	11.6	12.3	5.6	9.3	7.2	2.4	21.3
有期契約職員(フルタイム)	189	29.1	21.2	24.9	15.3	13.8	14.8	19.0	9.0	10.1	10.1	14.8	11.1	5.8	6.9	7.4	2.6	28.6
有期契約職員(パートタイム)	853	23.2	11.0	15.4	19.8	5.5	13.4	15.5	5.2	13.7	10.3	6.9	6.2	11.4	3.8	6.0	1.4	28.4
【Q1-3&4 配偶者と子供の有無】																		
配偶者・子供の有無	n	職場の人間関係	仕事量が多い	給与が安い	健康上の理由(体力含む)	労働時間が長い	妊娠・出産	他業種への興味	結婚	共感できなかった保育理念に	子育て・家事	転居	職業適性に対する不安	家族の事情(介護等)	保護者対応の大変さ	自身の昇格等のキャリア	配偶者の意向	その他
配偶者有・子供有	1,319	24.3	17.4	18.0	16.3	12.4	24.6	11.5	14.4	12.5	16.4	10.3	6.7	9.3	4.9	4.5	2.4	22.8
配偶者有・子供無	293	37.9	31.4	27.0	28.0	27.3	8.5	17.1	30.0	14.7	2.4	19.5	12.3	4.1	10.6	6.5	3.4	21.8
配偶者無・子供有	155	34.2	18.1	18.1	22.6	13.5	9.0	11.6	14.2	14.8	12.3	10.3	5.2	11.0	5.2	4.5	1.9	29.7
配偶者無・子供無	473	47.1	35.5	31.7	27.5	32.3	-	26.0	1.1	14.8	-	3.6	18.8	4.9	11.2	13.7	0.2	29.4

保育士を辞めた理由（運営主体別）



	n	職場の人間関係	仕事量が多い	給料が安い	健康上の理由 (体力含む)	労働時間が長い	妊娠・出産	他業種への興味	結婚	共感できなかつた	保育所や法人の保育理念に	子育て・家事	転居	職業適性に対する不安	家族の事情 (介護等)	保護者対応の大変さ	アップが見通せないキャリア	配偶者の意向	その他
全体	2,241	31.5	23.1	22.1	20.6	18.6	16.2	15.3	13.6	13.4	10.8	10.1	9.9	7.8	7.0	6.7	2.1	24.6	

【AQ4-2 運営主体】

公設・公営	399	26.1	17.3	17.3	19.8	16.5	14.8	17.5	16.5	5.5	15.3	11.3	11.3	12.3	9.0	4.3	3.0	25.6
公設・民営	172	33.7	26.7	27.9	19.8	22.1	14.5	15.7	12.8	19.2	9.9	8.1	7.6	10.5	9.9	7.0	1.2	20.9
民設・民営 (社会福祉法人)	746	31.4	27.6	20.8	21.0	20.9	19.7	15.4	14.7	13.1	11.7	10.3	8.8	6.7	5.4	6.2	1.9	22.1
民設・民営 (株式会社)	672	34.1	22.5	25.0	21.4	17.7	15.5	14.1	10.9	15.6	8.5	10.0	11.8	6.0	7.1	7.7	2.2	26.5
民設・民営 (NPO法人)	64	31.3	17.2	26.6	25.0	14.1	12.5	17.2	9.4	14.1	6.3	7.8	10.9	7.8	6.3	14.1	1.6	26.6
民設・民営 (その他)	188	33.0	18.1	20.2	17.0	15.4	11.2	13.3	14.9	18.1	8.5	9.6	6.4	6.9	6.4	8.0	1.1	28.2

(7) 退職時の月給 (BQ10)

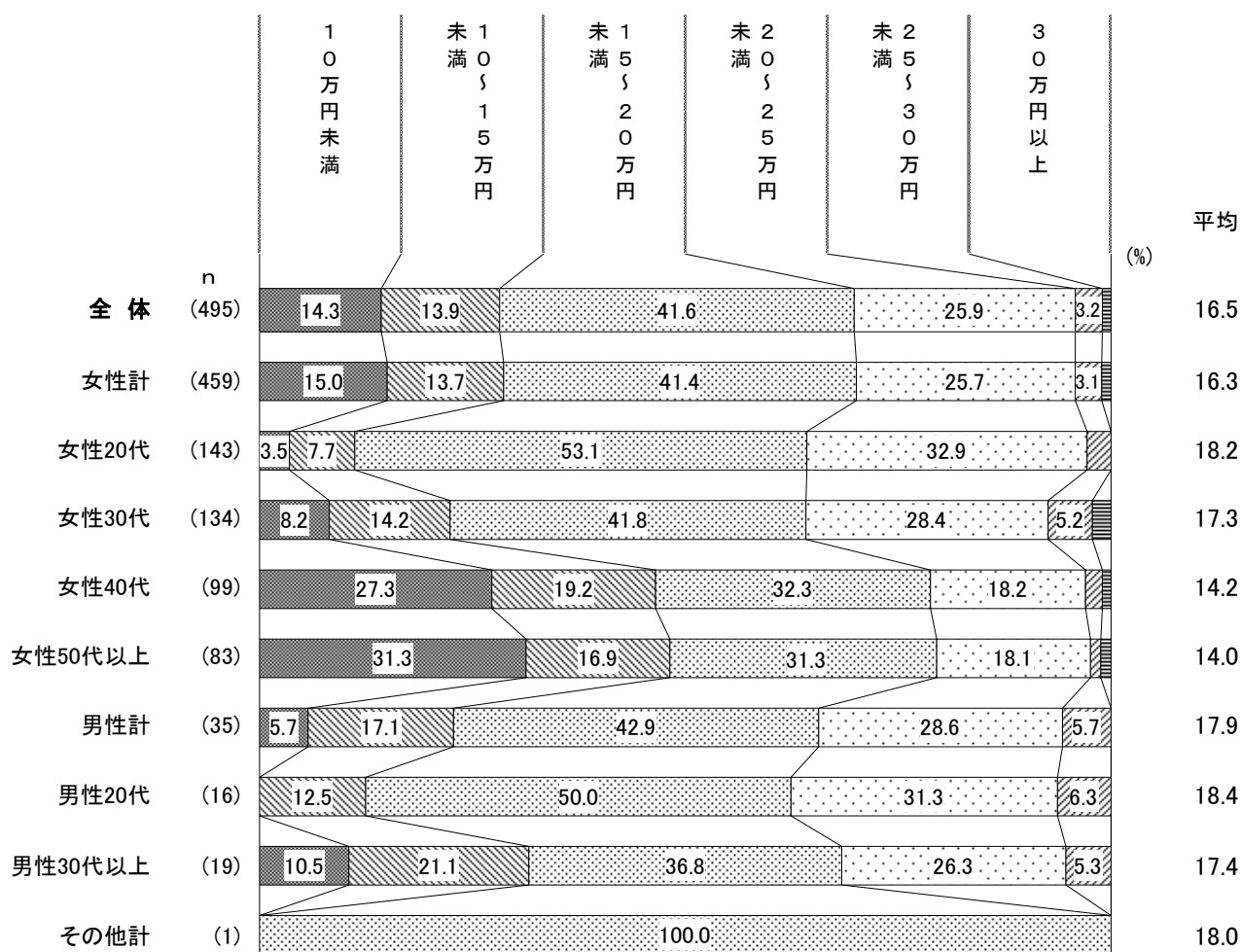
保育所等を退職した時の月給は、全体では、「15～20万円未満」が4割強（41.6%）で最も多く、これに「20～25万円未満」（25.9%）が続いている。

性別で見ると、「10万円未満」は、女性（15.0%）の方が男性（5.7%）よりも高く、平均も男性が17.9万円と女性の16.3万円よりも高い。性・年代別では、「10万円未満」と「10～15万円未満」を合わせた『15万円未満』は女性40代（46.5%）では4割台半ば、女性50代以上（48.2%）では約5割と、男女通じた年代と比べて高くなっている。

【BQ9で「給料が安い」を選択した方にお聞きします。】

BQ10 保育所等を退職した時の月給をお聞かせください。

退職時の月給（性別、性・年代別）



(8) 退職時に希望していた昇給額（退職時の月給と比較）（BQ10_1）

保育所等を退所した時の月給と比較して、どの程度月給が高ければ働きたいと思ったかを聞いたところ、全体では、「30,001～60,000円」（41.8%）が4割強と最も多く、これに「90,001円以上」（29.9%）が続いている。

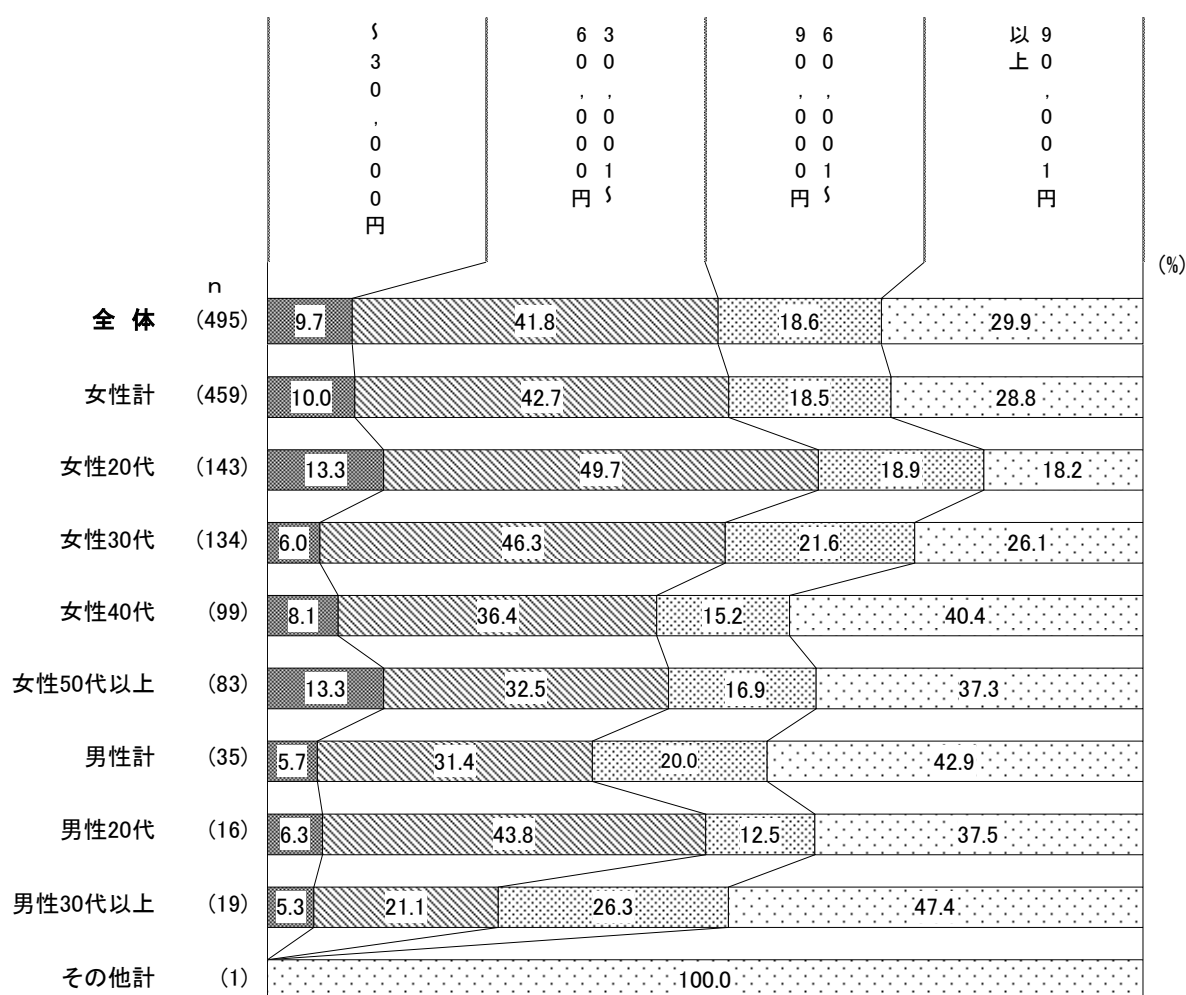
性・年代別でみると、「30,001～60,000円」は女性20代で約5割（49.7%）、「90,001円以上」は男性30代以上で約5割（47.4%）と多くなっている。

配偶者と子供の有無別でみると、「30,001～60,000円」は配偶者有・子供無で5割、「90,001円以上」は配偶者有・子供有で3割台半ば（36.6%）と多くなっている。

【BQ9で「給料が安い」を選択した方にお聞きします。】

BQ10_1 あなたが保育所等を退職した時の月給と比較して、どの程度月給が高ければ働きたいと思われましたか。（○は1つだけ）

退職時に希望していた昇給額（退職時の月給と比較）（性別、性・年代別）



(9) 復職する場合の希望条件 (BQ11)

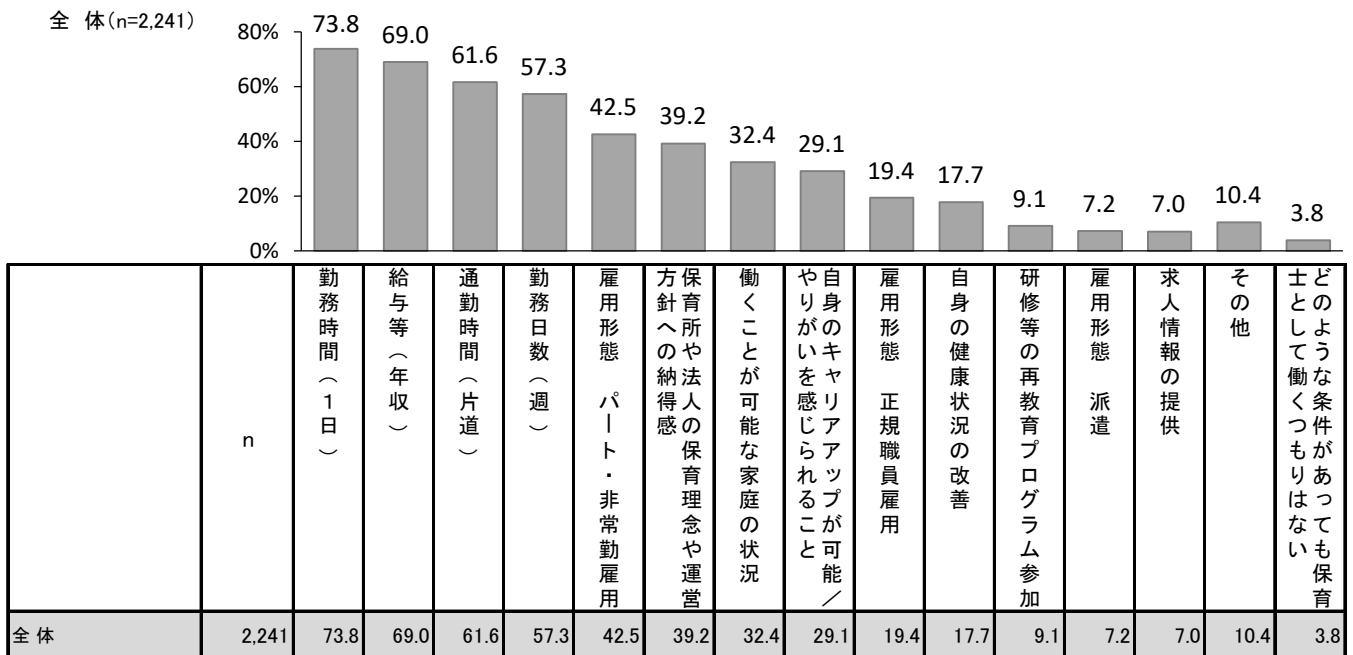
復職する場合の希望条件は、全体で「勤務時間（1日）」が7割台半ば（73.8%）で最も多く、次いで、「給与等（年収）」が約7割（69.0%）、「通勤時間（片道）」（61.6%）、「勤務日数（週）」（57.3%）となっている。

過去雇用形態別でみると、パートタイムは正規職員よりも、「勤務時間（1日）」（77.5%）、「雇用形態 パート・非常勤雇用」（51.8%）において5ポイント以上高い。

また、配偶者と子供の有無別でみると、配偶者有・子供有は「雇用形態 パート・非常勤雇用」が5割強（51.7%）、「働くことが可能な家庭の状況」が4割強（41.1%）と他層よりも高くなっている。

BQ11 あなたが今後、保育士として働く場合に求める条件をお聞かせください。また（ ）内に具体的な数字もあわせてご記入ください。（○はいくつでも）

復職する場合の希望条件（雇用形態別、配偶者と子供の有無別）



【AQ4-4 雇用形態】

雇用形態	n	勤務時間（1日）	給与等（年収）	通勤時間（片道）	勤務日数（週）	雇用形態	保育所や法人の保育理念や運営方針への納得感	働くことが可能な家庭の状況	自身のキャリアアップが可能／やりがいを感じられること	雇用形態	自身の健康状況の改善	研修等の再教育プログラム参加	雇用形態	求人情報の提供	その他	士としての働くつもりはない
正規職員	1,199	71.1	71.8	59.6	55.4	36.4	37.5	30.6	28.5	25.2	17.0	8.8	5.3	6.1	11.5	4.7
有期契約職員（フルタイム）	189	73.5	71.4	63.5	58.2	39.2	40.2	33.9	30.7	22.8	14.8	7.9	10.6	7.4	10.1	2.6
有期契約職員（パートタイム）	853	77.5	64.6	64.0	59.7	51.8	41.3	34.6	29.7	10.4	19.3	9.8	9.1	8.2	8.9	2.8

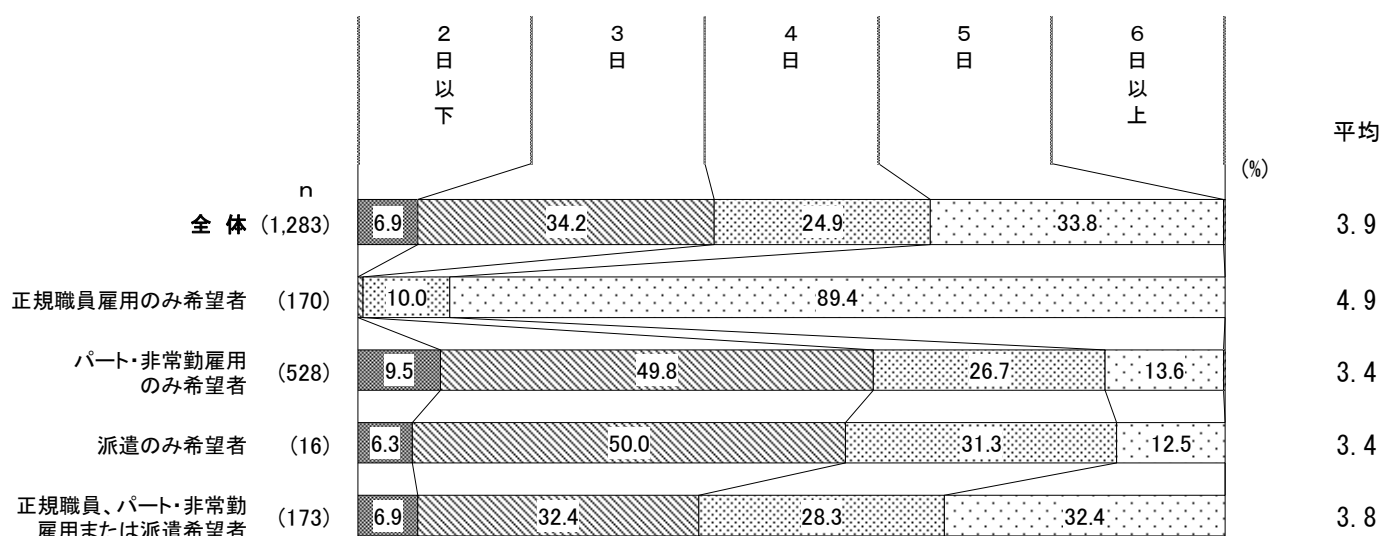
【Q1-3&4 配偶者と子供の有無】

配偶者と子供の有無	n	勤務時間（1日）	給与等（年収）	通勤時間（片道）	勤務日数（週）	雇用形態	保育所や法人の保育理念や運営方針への納得感	働くことが可能な家庭の状況	自身のキャリアアップが可能／やりがいを感じられること	雇用形態	自身の健康状況の改善	研修等の再教育プログラム参加	雇用形態	求人情報の提供	その他	士としての働くつもりはない
配偶者有・子供有	1,319	78.8	65.7	66.2	61.3	51.7	38.3	41.1	26.7	14.2	15.5	8.3	7.0	6.8	8.3	2.9
配偶者有・子供無	293	75.1	74.7	64.2	59.4	43.0	44.4	32.4	31.4	20.5	22.5	10.2	11.9	7.8	9.6	2.7
配偶者無・子供有	155	70.3	66.5	68.4	58.7	39.4	39.4	27.1	29.0	19.4	13.5	10.3	4.5	8.4	14.8	5.2
配偶者無・子供無	473	△ 60.0	75.5	△ 45.0	△ 44.0	△ 17.3	38.3	△ 9.9	34.5	○ 33.0	22.2	10.1	5.7	6.6	15.4	6.6

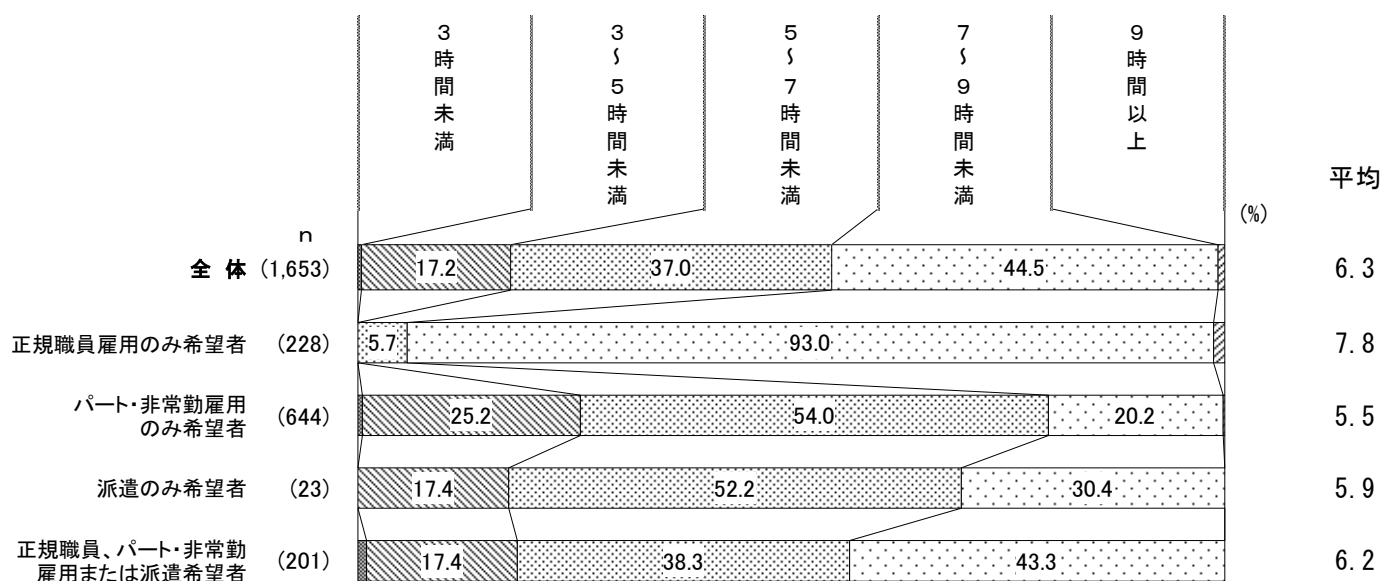
希望条件数字記入項目では全体で、平均勤務日数は3.9日、平均勤務時間は6.3時間、平均通勤時間（片道）は29.8分、平均年収は266.5万円である。

希望する雇用形態別でみると、正規職員雇用のみ希望者は、勤務日数週4.9日、勤務時間7.8時間、通勤片道33.6分、年収374.1万円、パート・非常勤雇用のみ希望者は、勤務日数3.4日、勤務時間5.5時間、通勤時間片道28.3分、年収157.8万円、派遣のみ希望者は、勤務日数3.4日、勤務時間5.9時間、通勤時間片道28.3分、年収254.0万円、正規職員、パート・非常勤雇用または派遣希望者は、勤務日数3.8日、勤務時間6.2時間、通勤時間片道29.3分、年収234.5万円となっている。

復職する場合の希望条件＜勤務日数（週）＞（希望する雇用形態別）

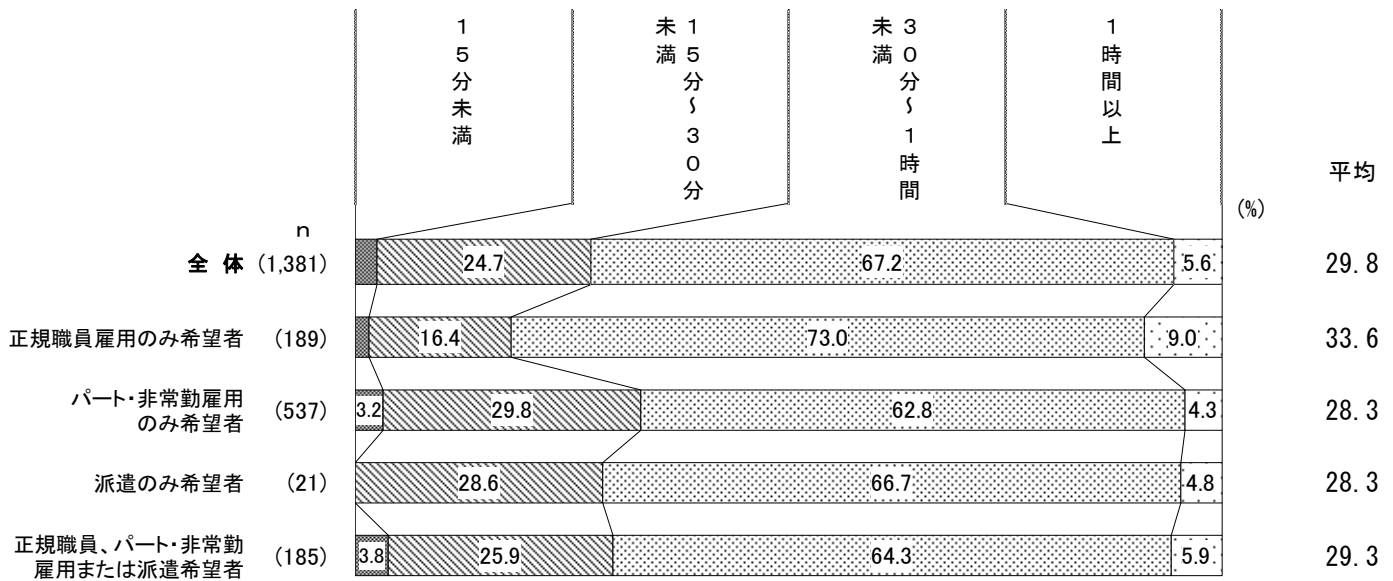


復職する場合の希望条件＜勤務時間＞（希望する雇用形態別）

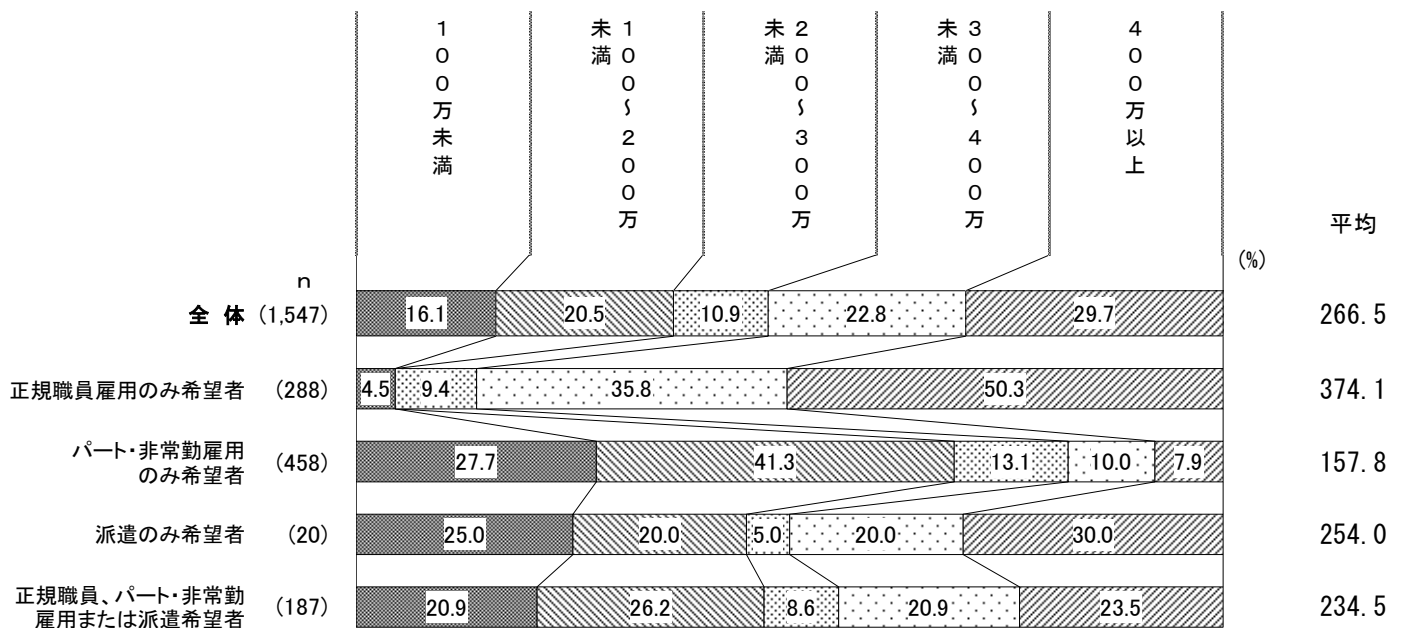


第三章 調査結果詳細

復職する場合の希望条件<自宅からの通勤時間（片道）>（希望する雇用形態別）



復職する場合の希望条件<年収>（希望する雇用形態別）



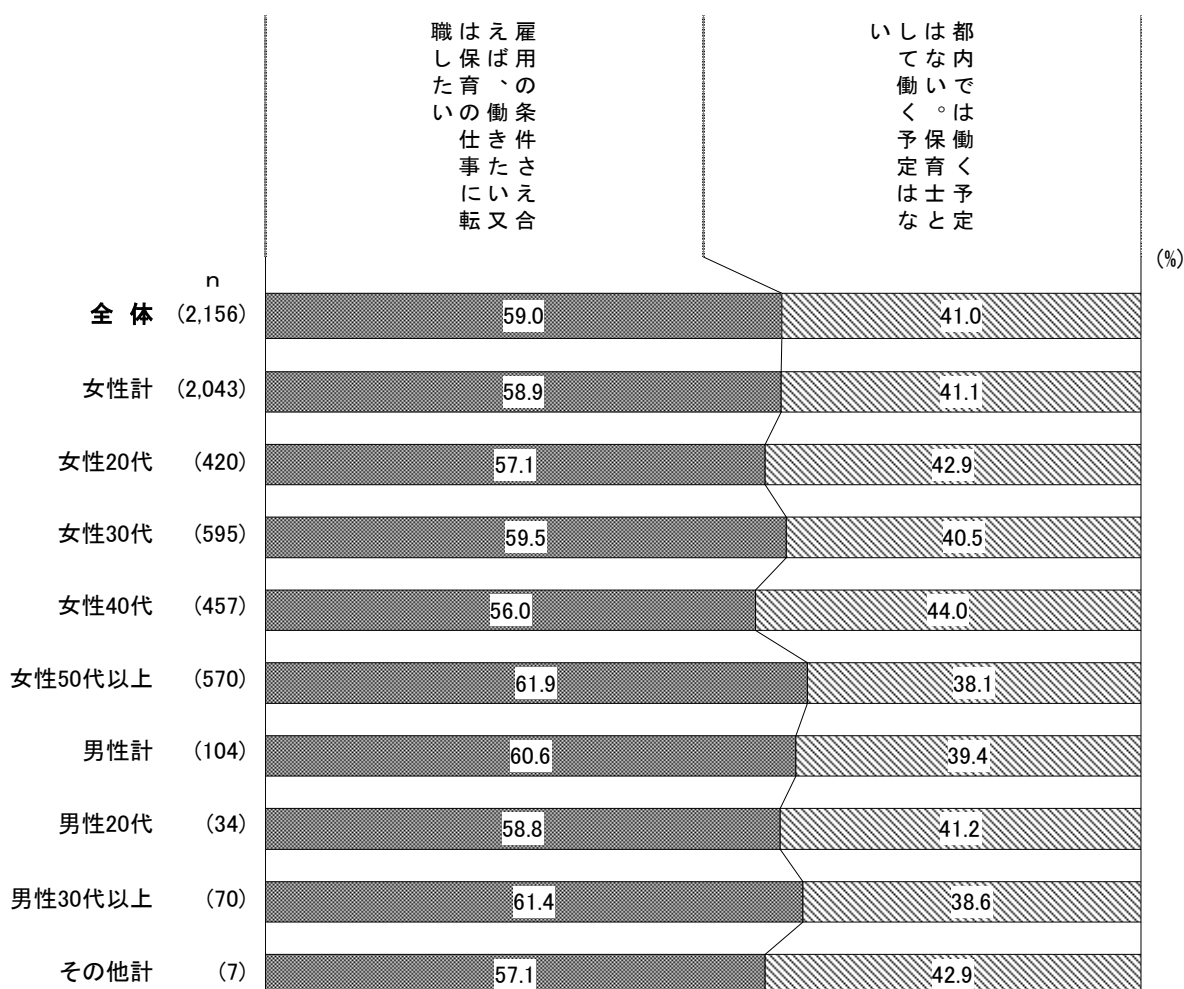
(10) 都内における保育士復職意向 (BQ12)

都内における保育士復職意向は、全体で「雇用の条件さえ合えば、働きたい又は保育の仕事に転職したい」が約6割（59.0%）となっている。

性・年代別で見ると、全ての年代層で「雇用の条件さえ合えば、働きたい又は保育の仕事に転職したい」が「都内では働く予定はない。保育士として働く予定はない」を上回っており、雇用条件さえ合えば就業したいと考えている者が過半数を超えている。

BQ12 あなたは、近い将来、「東京都内で保育士として働きたい」とお考えですか。
 (○は1つだけ)

都内における保育士復職意向（性別、性・年代別）



(11) 都内における保育士復職希望時期 (BQ12_1)

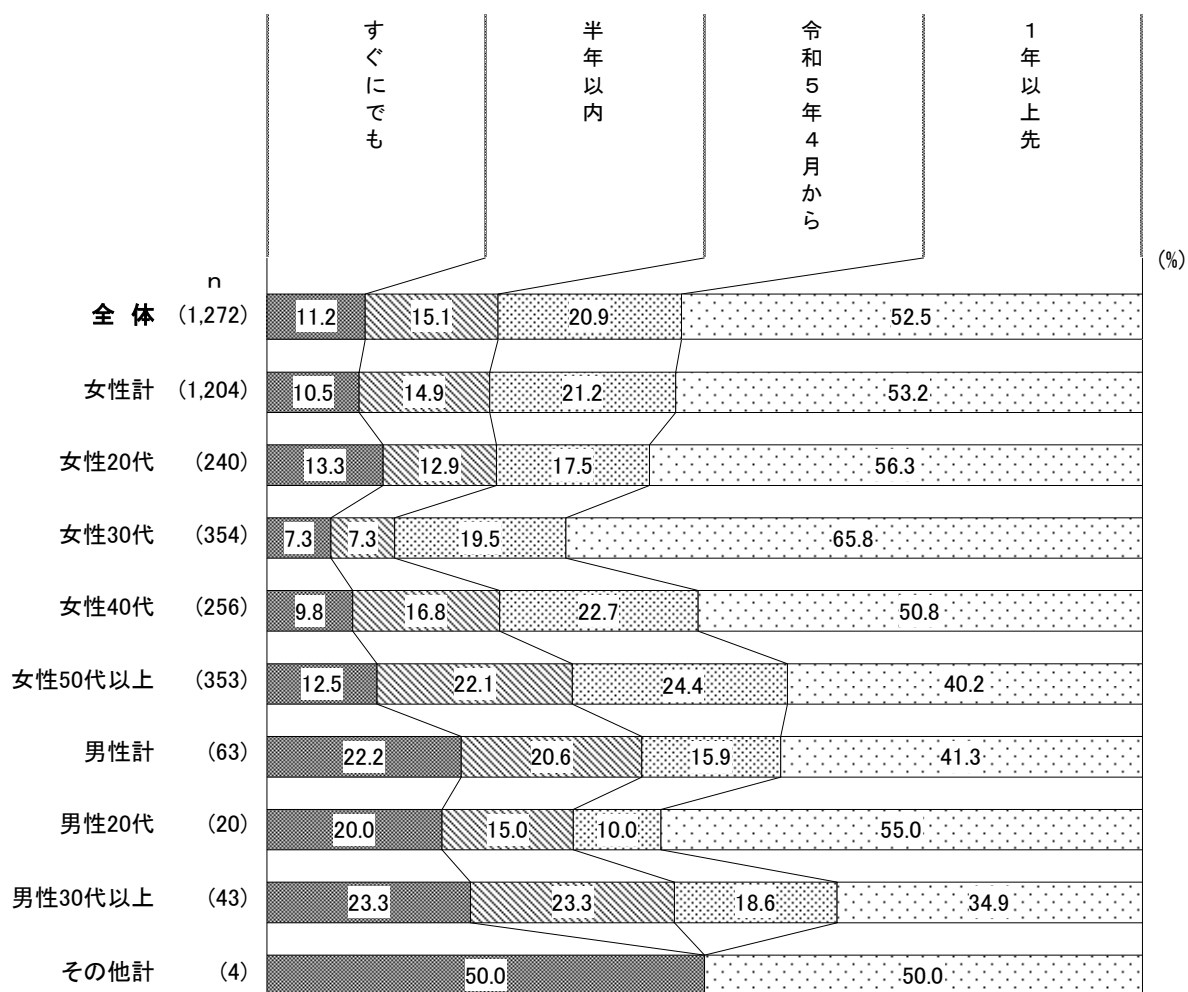
復職希望時期は、全体で「1年以上先」が5割強 (52.5%) と最も多く、「令和5年4月から」が2割 (20.9%) となっている。調査時点から半年以内 (「すぐにでも」と「半年以内」の計) という者も2割台半ば (26.3%) みられた。

性別で見ると、女性よりも男性の方で、調査時点から「すぐにでも」を含む半年以内を希望する者が多い。性・年代別では、男性30代以上で「すぐにでも」を含む半年以内の希望が4割台半ば (46.6%) と多くなっている。

【BQ12で「雇用の条件さえ合えば、働きたい又は保育の仕事に転職したい」と回答した方にお聞きします。】

BQ12_1 働きたい時期はいつですか。(○は1つだけ)

都内における保育士復職希望時期 (性別、性・年代別)



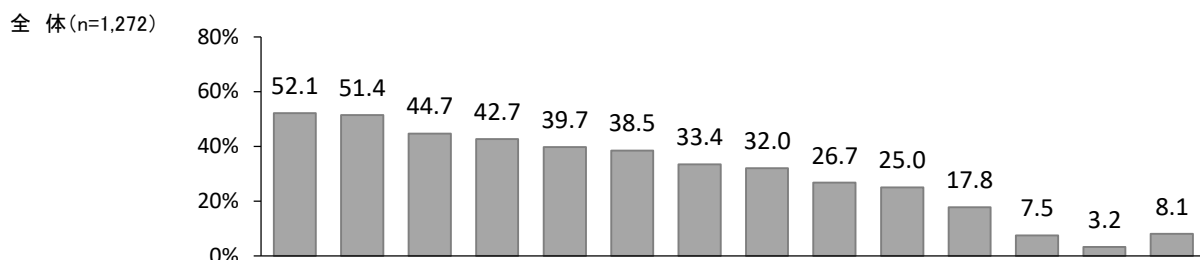
(12) 保育士復職時までには習得を希望する知識・技術 (BQ16)

今後保育士として復職するまでに習得を希望する知識・技術は、全体で「発達心理学」が5割強 (52.1%)、次いで、「特別な支援を必要とする子どもへの接し方」(51.4%)、「保育実技」(44.7%)、「救命救急」(42.7%) となっている。

性別で見ると、女性 (52.0%) の方が男性 (39.7%) より「特別な支援を必要とする子どもへの接し方」が高くなっている。雇用形態別で見ると、正規職員は概ね全体の傾向と同様だが、フルタイムは「食育・食物アレルギー対応」、パートタイムは「救命救急」が3番目に高くなっている。

BQ16 今後保育士として働くまでに、どのような知識や技術を習得したいと思いますか。
(○はいくつでも)

保育士復職時までには習得を希望する知識・技術 (性別、性・年代別、雇用形態別)



	n	発達心理学	特別な支援を必要とする子どもへの接し方	保育実技	救命救急	食育・食物アレルギー対応	安全管理	保護者への対応の仕方	衛生管理	地域の子育て支援	端末の操作	保育所保育指針	幼稚園教諭免許取得のための学習	その他	特に習得したいと思わない
全体	1,272	52.1	51.4	44.7	42.7	39.7	38.5	33.4	32.0	26.7	25.0	17.8	7.5	3.2	8.1

【性別、性・年代】

女性(計)	1,204	51.5	52.0	44.2	43.1	39.7	38.6	34.0	32.1	26.6	25.1	17.9	7.5	3.3	8.2
女性20代	240	58.8	50.0	50.0	35.0	40.4	33.8	40.0	29.2	22.5	15.4	16.3	6.3	2.9	10.0
女性30代	354	53.1	52.5	48.0	46.0	43.5	43.2	36.4	34.2	30.2	24.0	19.2	9.3	2.3	8.5
女性40代	256	50.4	55.9	41.4	46.9	39.5	35.9	33.6	30.1	23.8	27.3	17.2	9.4	4.7	7.8
女性50代以上	353	45.9	50.1	38.5	43.1	35.7	39.4	27.8	33.4	27.8	31.2	18.1	5.1	3.7	7.1
男性(計)	63	61.9	39.7	55.6	34.9	38.1	36.5	20.6	30.2	23.8	22.2	15.9	9.5	1.6	6.3
男性20代	20	70.0	35.0	45.0	40.0	35.0	40.0	35.0	20.0	30.0	20.0	15.0	-	-	10.0
男性30代以上	43	58.1	41.9	60.5	32.6	39.5	34.9	14.0	34.9	20.9	23.3	16.3	14.0	2.3	4.7
その他(計)	4	100.0	75.0	50.0	50.0	75.0	50.0	75.0	50.0	100.0	25.0	50.0	-	-	-

【AQ4-4 雇用形態】

正規職員	681	51.8	50.1	45.5	41.1	39.5	38.2	35.1	30.0	26.3	24.8	19.2	6.6	3.7	9.1
有期契約職員(フルタイム)	97	58.8	52.6	40.2	42.3	48.5	36.1	34.0	38.1	27.8	29.9	21.6	8.2	4.1	9.3
有期契約職員(パートタイム)	494	51.2	53.0	44.5	44.9	38.3	39.5	31.0	33.6	26.9	24.3	15.2	8.7	2.4	6.5

第三章 調査結果詳細

(13) よいと考える研修内容（自由記述）（BQ16_1）

BQ16_1 どのような内容の研修があれば良いと思いますか。できるだけ具体的にお書きください。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	主な意見（記入者計840人）
1	女性	25～29歳	専門（専修）学校の保育士養成課程	障がい児やグレーゾーンの子どもたちへの合理的配慮をしていくことへの理解、情報共有をする研修。また、実際に合理的配慮をしている園への見学や、一緒に保育に参加する経験などがあるとより良い。なぜなら、保育資格を取った年代によって、価値観が異なるから。また、長く保育士をしていると、中々学ぶ時間もなく、自園でのやり方に行き詰まることもあるから。見学や体験を通して、様々な年代、価値観を持っている保育士が、障害児やグレーゾーンの子どもへ配慮することは、大切なことであり、決して子どものワガママではないし、保育士は特別扱いをしているわけではないと、思えるような研修がよい。しかし、障害の研修や対応の事例だけをして中々意識改革に進まないのでは、難しいと思っている。
2	女性	25～29歳	保育士試験	職員間での関係性について、園長や上の役職の人たちが研修をするべき。新しい先生への対応や接し方、先生同士での仕事分担について上の役職が研修してから、新しい先生への研修を行うべきである。
3	女性	35～39歳	保育士試験	職員一人ひとりにアンガーマネジメントの講習（怒りを若い職員や子どもにぶつけてしまう職員も多い）職員に対する定期的なストレスに対するアプローチ（メンタルヘルスケア、カウンセリング等）
4	女性	35～39歳	短期大学の保育士養成課程	虐待された子どもたちに対しての心のケアに関するもの
5	女性	40～44歳	保育士試験	オンラインで自分の都合の良い時間に視聴できる講座やオンラインでできる試験などがあると、子育ての合間をぬって学べるのでありがたいです。
6	女性	45～49歳	保育士試験	保育園間の交流、意見交換 日常や行事での保育や安全管理についての具体的事例を学ぶ研修
7	女性	35～39歳	大学の保育士養成課程	保育士という仕事がどれだけ大変で、大切な仕事を保護者以外の地域のにも直接見て知ってもらう機会を設けることが必要だと思う
8	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	特別な配慮（アレルギー、一人親家庭など）が必要な子供が増えてきているので、そういった家庭の対応の仕方。また、児童養護や乳児院などの仕事について知る機会が増えたらいいと思います。
9	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	ブランクのある保育士向けの数日の実習 感染症やアレルギーなど子どもの安全管理についての対応についての研修（新しくなったものも多いと思うので）保護者の不安に思うことも移り変わってきているので、寄り添い方、対応を考える討論会等
10	女性	45～49歳	専門（専修）学校の保育士養成課程	ジェンダー、セクシュアリティについての研修
11	女性	25～29歳	専門（専修）学校の保育士養成課程	研修をする人が現場をしっかりと理解し、現状の保育所がどんなことに悩んでいるのか、現場の保育士が何に困っているのかをしっかりと把握するべき。理想論を語られる研修は飽きた。
12	女性	25～29歳	専門（専修）学校の保育士養成課程	今の時代に合う保育の方針の立て方、複数担任での協調性の取り方、アレルギー児の対応への統一性、今の時代に合う保護者の対応の仕方等、地域の特性や年齢層などで利用者のニーズなどで変わるとは思いますがとにかく今の時代に合う物を若い人だけでなく中堅やベテランも含めて学びたいです。
13	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	アナログで手書きに慣れている保育士の方が多かったため、かなり時間もかかる作業が多かった。パソコンでWordやExcelを、使えたら事務作業は効率よくできると思う。
14	女性	55～59歳	保育士試験	保育士は閉鎖的な環境で、社会の様々な変化に疎いと感じます。子どもだけではなく、親達の環境や価値観の変化に寄り添い、保育のプロとしてアドバイスができるような研修。
15	女性	40～44歳	保育士試験	職場でのメンタルケアなどの研修があればよいと思います。保育所の女性が多い中で、対人関係の良しあしは、業務を継続できるか否かに大きく影響します。職場でのいじめなどがあつた時のメンタルの保ち方や自己肯定感の高め方など、自身の心身を守るすべを知っておきたいと思っています。

第三章 調査結果詳細

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	主な意見(記入者計840人)
16	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	ブランクがある保育士に対する、今の保育園の実情(安全面、保護者対応、保育方針など)をわかりやすく教えてくれる研修。地域ごとの開催などがよりリアルな実情がわかりそうで受けてみたい。子育てをしながらでも受けられるようにオンライン形式もあると嬉しい。
17	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	発達支援が必要な子に対するの対応の仕方や、今の子ども達に合わせた保育の内容の工夫の仕方などが学びたい。昔と今の子どもの発達状況など違いを踏まえた上でいろんなことを吸収できる研修があるといい
18	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	講義だけでなく、実例に基づいた実演のある研修。特に救命救急などは、パニックにならない為にも実技演習があると良いと思う。
19	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	ブランクがある方向向けの研修があり、その研修をうけて、そのまま働くことができるようなシステムがあると良いです。面接だけではわからないことが多いので、お互いに条件を確認し合い、納得して働きたいです。
20	男性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	・保育士自身が自分の存在価値を知る研修・コーチング研修・伝え方研修
21	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	・限られた施設環境の中で、子どもたちの遊びの質が高まる環境をどのように整えていけるのか、保育の工夫の仕方などを学べる研修。・保護者への家庭支援の方法。良い関係を保ちつつ、一緒に子どもたちの課題に向き合っていくために気を付けるべきことなどを具体的な事例を挙げながら学べる研修。
22	女性	35～39歳	保育士試験	保育実技 子守唄、知育玩具の使い方、教え方、など、自由時間や就寝時に子どもと接する時間の大切さを知りました。これらのことはなかなか本などでは、身につけることができない為、研修があるといいなと思いました。
23	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	手遊び、ダンスなど引き出しが増えるような実技中心の研修
24	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	現場で役立つ子どもへの興味関心をひきつけるスキル。手遊びや、室内遊びの導入、話し方、手品や誕生日会などの盛り上げられる内容など良いと思います。
25	女性	40～44歳	短期大学の保育士養成課程	手遊び、歌遊び、体操など、最近流行っているものを学ぶ機会があると良い
26	女性	25～29歳	保育士試験	今まで参加していた研修で、食育研修がありました。子どもの口の中の成長過程や離乳食の形状など、当時1.2歳児クラスを担当していた私にとって新しい知識になりました。その次の年、0歳児クラスを担当することにより食育研修が役に立ちました。安全面、衛生面の研修も大事ですが、各年齢ごとの成長の研修があればいいなと思いました。
27	女性	35～39歳	短期大学の保育士養成課程	保育現場も、年々保育指針や保護者対応など、時代や状況に合わせて変化している。ブランクのある保育士に対して、以前と変わった部分をメインとした、復帰するための重要ポイントを押さえた内容の研修があれば、復帰しやすいと思う。
28	女性	65～69歳	短期大学の保育士養成課程	子供達の個性を尊重、個人に柔軟に対応できる 知識と豊かな人間性をと思っています その為にも職場のより具体的な「困ったな」の交流会or研修会を実施される機会の場を希望します。
29	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	手遊び、保育実技、実習日誌や週案などの書類の書き方(コツ、言い回し、NGワードなど)、職場選びの際の法人別メリット、デメリット
30	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	どの場面でも人と関わる事が必須の仕事なので、人間関係(職員間、対保護者)のコミュニケーションの取り方、伝え方、の研修があると良い。
31	女性	50～54歳	短期大学の保育士養成課程	ブランクがあっても安心して働けるような研修内容のもの。年齢ごとの具体的な一日の流れを知る研修。実際の保育現場の見学。保育士さんの実体験のお話を聞きたいです。
32	女性	55～59歳	短期大学の保育士養成課程	家庭環境に応じた保護者との対話ケースや子供の行動分析など、実践形式での研修

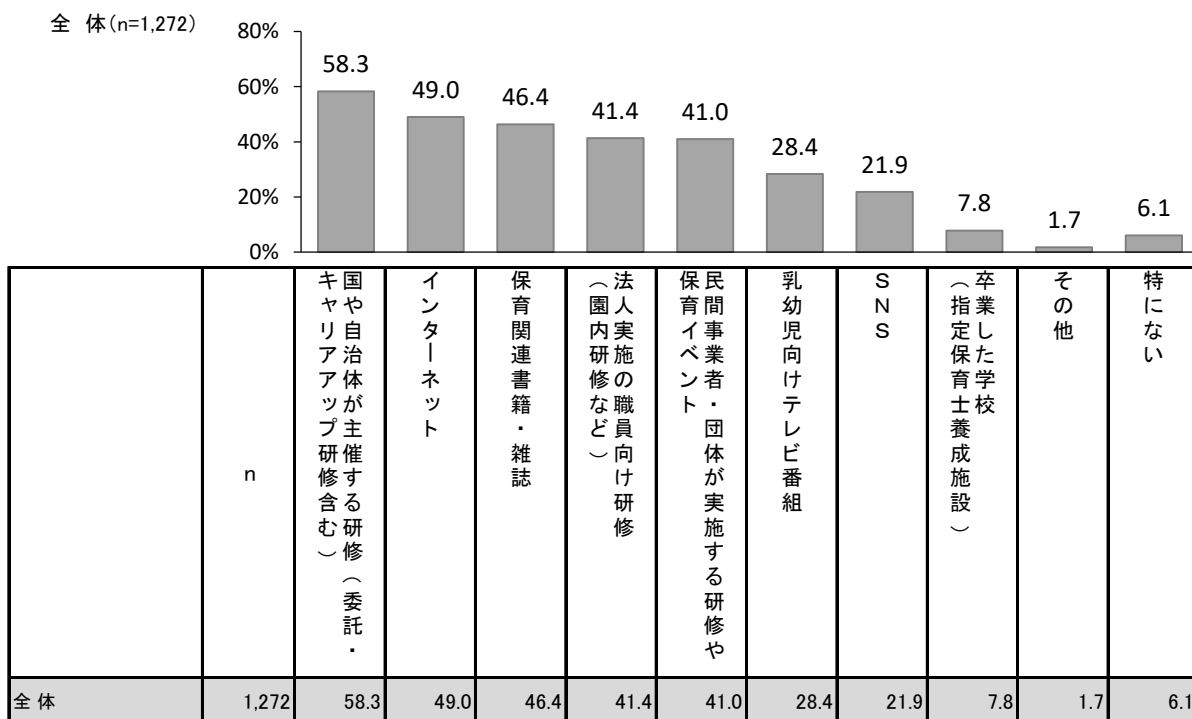
(14) 知識や技術を習得するために活用する（したい）もの（BQ17）

知識や技術を習得するために活用する（したい）ものは、全体で「国や自治体が主催する研修」が約6割（58.3%）で最も多く、次いで、「インターネット」（49.0%）、「保育関連書籍・雑誌」（46.4%）、「法人実施の職員向け研修（園内研修など）」（41.4%）、「民間事業者・団体が実施する研修や保育イベント」（41.0%）となっている。

性・年代別でみると、女性20代では「SNS」が3割台半ば（35.8%）、女性30代では「乳幼児向けテレビ番組」が約4割（39.0%）と多くなっている。

BQ17 あなたが保育に関する知識や技術を習得するために活用する（したい）ものはどれですか。
（○はいくつでも）

知識や技術を習得するために活用する（したい）もの（性別、性・年代別）



【性別、性・年代】

性別・性・年代	n	国や自治体が主催する研修（委託・キャリアアップ研修含む）	インターネット	保育関連書籍・雑誌	法人実施の職員向け研修（園内研修など）	民間事業者・団体が実施する研修や保育イベント	乳幼児向けテレビ番組	SNS	卒業した学校（指定保育士養成施設）	その他	特にない
全体	1,272	58.3	49.0	46.4	41.4	41.0	28.4	21.9	7.8	1.7	6.1
女性計	1,204	58.7	48.6	46.8	41.3	41.3	28.7	21.8	7.4	1.7	6.1
女性20代	240	48.8	44.6	41.7	39.2	32.1	31.7	○ 35.8	14.2	1.7	8.8
女性30代	354	60.7	51.4	55.4	47.2	42.9	○ 39.0	30.2	6.5	0.6	4.2
女性40代	256	60.2	52.0	48.8	41.8	46.9	26.2	17.2	5.9	2.3	5.9
女性50代以上	353	62.6	46.2	40.2	36.5	41.9	△ 18.1	△ 7.4	4.8	2.3	6.5
男性計	63	50.8	58.7	41.3	41.3	36.5	23.8	22.2	15.9	1.6	4.8
男性20代	20	△ 45.0	55.0	55.0	50.0	35.0	△ 10.0	30.0	○ 20.0	-	5.0
男性30代以上	43	53.5	○ 60.5	△ 34.9	37.2	37.2	30.2	18.6	14.0	2.3	4.7
その他計	4	○ 75.0	△ 25.0	△ 25.0	50.0	△ 25.0	25.0	25.0	-	-	-

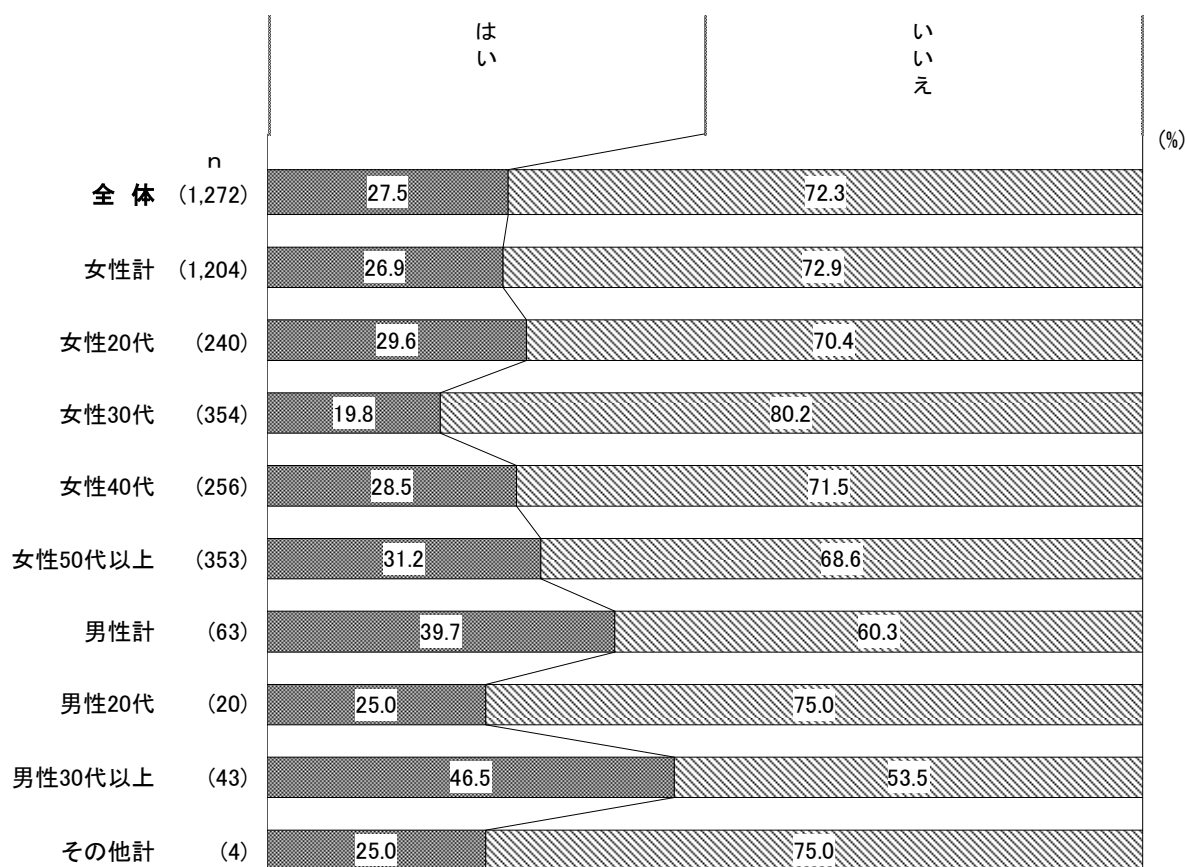
(15) 保育関係の就職先を探しているか (BQ18)

現在、保育関係の就職先を探しているかについては、全体で、探している（「はい」）が約3割（27.5%）、探していない（「いいえ」）が7割強（72.3%）となっている。

性別で見ると、男性（39.7%）の方が女性（26.9%）よりも探している（「はい」）が高くなっている。性・年代別で見ると、男性の30代以上で探している（「はい」）は4割台半ば（46.5%）と、男女通じた年代と比べて高くなっている。

BQ18 あなたは、現在、保育関係の就職先をお探しですか。（○は1つだけ）

保育関係の就職先を探しているか（性別、性・年代別）



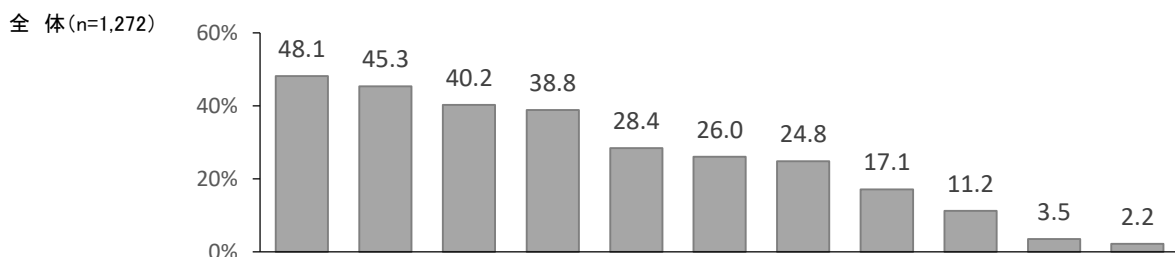
(16) 保育関係の求人を得るために利用する（したい）機関等（BQ19）

保育関係の求人を得るために利用する（したい）機関等は、全体で「民間職業紹介（求人情報誌・求人サイト等）」が約5割（48.1%）で最も多く、次いで、「ハローワーク」（45.3%）、「保育人材・保育所支援センター（東京都福祉人材センター）」（40.2%）、「就労を希望する保育所等のホームページ・チラシ等」（38.8%）となっている。

性・年代別でみると、男性の30代以上では「ハローワーク」の割合が他層と比べて高い。

BQ19 あなたが、保育関係の求人情報を得るために利用する（したい）機関等を教えてください。（〇はいくつでも）

保育関係の求人を得るために利用する（したい）機関等（性別、性・年代別）



	n	民間職業紹介 (求人情報誌・求人サイト等)	ハローワーク	保育人材・保育所支援センター (東京都福祉人材センター)	就労を希望する保育所等のホームページ・チラシ等	お住まい又は就労を希望する保育所等の所在する区市町村	先輩や友人からの紹介	保育士仲間	以前の勤め先 (保育所等) や同僚からの紹介	民間職業紹介 (相談窓口)	卒業した学校 (指定保育士養成施設)	その他
全体	1,272	48.1	45.3	40.2	38.8	28.4	26.0	24.8	17.1	11.2	3.5	2.2

【性別、性・年代】

女性計	1,204	48.6	45.3	40.3	39.0	28.7	26.1	24.8	17.3	11.1	3.2	2.2
女性20代	240	45.4	△ 32.5	38.3	41.3	△ 17.5	30.8	33.8	18.3	8.8	7.5	2.1
女性30代	354	51.1	47.5	38.4	44.1	27.7	27.7	29.9	21.2	12.4	2.8	1.1
女性40代	256	53.1	50.8	42.6	35.5	28.5	27.3	21.5	15.6	12.5	3.1	3.1
女性50代以上	353	45.0	48.2	41.9	35.1	37.4	20.4	16.1	13.9	10.5	0.6	2.5
男性計	63	42.9	42.9	36.5	34.9	25.4	23.8	23.8	12.7	12.7	9.5	3.2
男性20代	20	△ 30.0	△ 15.0	35.0	○ 50.0	25.0	30.0	○ 40.0	15.0	20.0	○ 25.0	5.0
男性30代以上	43	48.8	○ 55.8	37.2	△ 27.9	25.6	20.9	16.3	11.6	9.3	2.3	2.3
その他計	4	-	○ 75.0	○ 75.0	○ 50.0	-	○ 50.0	○ 50.0	○ 50.0	-	○ 25.0	-

(17)「保育士として働くことへの不安」、「働くために支援が必要だと感じていること」、「理想とする保育」(自由記述)(CQ5)

CQ5 最後に、あなたの「保育士として働くことへの不安」や「働くために支援が必要だと感じていること」、「理想とする保育」など、ぜひお聞かせください。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「保育士として働くことへの不安」について抜粋(記入者計1,705人)
1	女性	65～69歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	自分の体力や体の調子が心配です。又就業した時に具合が悪くなった時休みをとる事が、他の方へ負担をかけてしまうため復職にためらいがあります。
2	女性	50～54歳	保育士試験	保育士として働くことを継続するための環境に不安があります。保育士だから、介護も育児もできるだろうという、男の親族及びパートナーが多いため、安定した働く環境にありません。
3	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	一番下の子がまだ1歳のため、家庭と仕事の両立が今は困難に感じる。2～3年後には仕事に復帰したいが、長時間での勤務は難しいため、パートで勤めたいが、保育所は早番や遅番、土日勤務もあるため考えてしまう。
4	女性	20～24歳	保育士試験	学生時代保育園で働いて、労力の割に給料が安いこと、想像以上に人の命を預かることへの恐怖があり、自分に向いていないと思いました。今の仕事と対比するとやりがいがあるのは保育士だと思いますが、今の仕事よりリスクも高く将来的な給与面でも不安があるので一生の仕事にしようとは思いませんでした。
5	女性	40～44歳	その他養成施設の保育士養成課程	保育士として働くことへの不安…勤務時間中は、休み間もなくほぼ動きっぱなしで気を張っている。年を重ねるごとに疲労を感じるが多かった。給与が高いとは言えず、やりがいだけで続けていくには不安があった。
6	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	保育士として働くことへの不安は給与、家庭との両立 子どもが産まれて実感したが、自分の子どもの行事と職場の行事が被ってしまい参加できなかったりする保育士が多い。そんなのフォローしあえないの?と思うかもしれないが、やはりクラスを持っていると自分の持っているクラスを抜けてまで子どもの方へいくの?という空気が出てくるし、園全体で行事に取り組んでいるときにそういう事をする空気はやはり悪くなる。だからパートになって行事に参加しなくていいような勤務形態になったり、退職して子どもを優先できるようにする人が多い。同じ理由で子どもが熱を出して呼び出しがあった時等も抜けにくい現状がある。それは保育士の人数が少なくフォローできない背景があるからだと思う。そういった点が不安。
7	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	私が働いていた時代に比べパソコンやタブレットが必須になっていることがパソコン操作が出来ない身としてはとても不安です。復帰した時に若い職員とうまくコミュニケーションが取れる子育てをしながら仕事との両立ができるのか、など、不安はたくさんです。
8	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	保育の仕事はとてもやりがいがありましたが、勤務内容の多さに伴い、勤務時間が長く、自宅で仕事をしたり、休みの日に園に行って仕事をする事も多く、やりがいだけでは心身共に追いつけませんでした。休職を経て退職後、子どもが産まれて、今後保育の仕事に携わりたい気持ちもある反面、子育てしながら正規職員として働くには、仕事量が多すぎるため不安があります。
9	女性	55～59歳	短期大学の保育士養成課程	約20年ぶりに、幼稚園の現場に復帰しました。不安は、色々ありますが一番は、自分の体のことです。体力が衰えていること、疲労が想像以上なので、長く続けたくてもフルタイム勤務は無理ではないかと不安がよぎります。
10	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	書類が多いのが一番追い詰められたので、そこが一番不安。園によっても多少書類の量はかわってくるし、やり方も違うので自分にあったところが見つければ嬉しい。
No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「働くために支援が必要だと感じていること」について抜粋(記入者計1,705人)
1	女性	45～49歳	保育士試験	10年近く保育士として働いたが、仕事量、肉体的、精神的な負担が過剰、休憩も休みにも自由がなく、それに見合う賃金が貰えない。人間のいちばん手がかかり、大切な時期に関わる専門性の高い業種であるのに世間の評価も低い(子どもの世話や子守りをするだけの様なイメージ?)ことが原因なのだろうか。また50年もの昔から日本の保育園や幼児教育で行う制作等、現場が全く変わっていない事も問題だと感じる。世界に通用する思考力や発想力、行動力を育むための幼児教育を薦めているのに。保育士の養成校から思い切って変えていかなければならないのではないかと感じている。
2	女性	20～24歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	保育士の人数が手薄な為、一人一人に降りかかる仕事の量が多いこと、皆んな余裕がなく、後輩や同僚への伝え方や子どもへの態度も冷たく気持ちの良い雰囲気では仕事が出来てないので、根本的に保育士の配置基準を変えるべき。

第三章 調査結果詳細

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「働くために支援が必要だと感じていること」について抜粋(記入者計1,705人)
3	男性	25～29歳	保育士試験	若い職員が意見を言うチャンスもなく、「石の上にも三年」を良く使われ意見を聞いてもらえないということもありました。若い職員は保育のこれからを担う人材なので、そう言った方々の意見を発信できる場を設けてほしいと考えています。
4	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	産休制度がしっかりできていない園に、国が手助けをしてほしい。現場に目を向けてほしい。産休代替を入れないで人が足りない状態で保育している。子どもをはじめ保育士、保護者などすべての人が安心して過ごせる環境、穏やかに過ごせる人数配置の中で保育を行っていききたい。
5	女性	50～54歳	保育士試験	保育園、幼稚園(認定こども園含む)で長時間過ごす子どもたちの成長を守ることも大切ですが 子どもたちを長時間預けざるを得ない 働き方の現状こそ改善してほしい。どんなに良い保育者よりも 保護者と過ごす時間の方が子どもたちの心の健全な成長には大切。現場を見てしみじみ感じています。
6	女性	55～59歳	短期大学の保育士養成課程	パート保育士と正職員とでは得られる情報に差があり、子どもに接する上で理解が充分でないことが苦しかった。その溝を少なくできると良いと思う。
7	女性	45～49歳	短期大学の保育士養成課程	近年、丁寧なかかわりが必要な気になる子どもがふえています。各クラスに何人もいることも珍しくありません。こどもの人数にたいしての保育士の人数は決められていますが、それだと、丁寧な保育は難しいと思います。愛情豊かに、丁寧な関わりがもっとも必要なこの乳幼時期にもっと手厚い保育ができる環境を望みます。
8	女性	30～34歳	短期大学の保育士養成課程	パートタイマーや時短での働きかたがもっと増えると、就業しようと思う保育士は増えるはずだ。早番遅番だけでなく、昼間の食事時間帯やお昼寝時間帯もパートに任せれば、正職員はしっかり休憩を取れるし、昼間の時間帯に働きたい層のパートタイマーもありがたい。
9	男性	40～44歳	保育士試験	私は男性なので、おそらくメインは女性ですが子供たちの発育には男性のパワーも必要だと思っています。色んな事件等で男性保育士に対する偏見があるのは残念です。色んな保育士像が許容される社会になることを切に願っております。
10	女性	35～39歳	大学の保育士養成課程	将来は保育士として復職したいと思っているが、我が子との過ごす時間や家事も大切にしていきたい。保育では信頼関係を築くために子どもとの継続的な関わりが重要なこともあり、非常勤でも週5日勤務が多い。働く側としては週2日や週3日でも勤務が可能な園が増えると復職しやすいと感じる。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「理想とする保育」について抜粋(記入者計1,705人)
1	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	理想は、一人一人の個性を尊重し伸ばすことが出来る保育。初めての集団生活の中で困難なこともあるが、保育士が援助しながら社会性を身につけていくことが何よりも大事だと思っている。
2	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	保育士として働いていた頃は職場の人間関係にストレスを感じていたので、子ども・保護者・保育士の心が休まる保育ができるようになりたい。子どもたちは明日も園にきたいと思える、保護者は今日の仕事を頑張ろうと思える、保育士同士はどこん話し合えりやいたいことを挑戦でき信頼しあえる関係でありたい。
3	女性	30～34歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	妊娠、出産をしてから保育の仕事をしたことがなく、働いていた頃は子どもを一番に考えていたが、今では保護者のケアもそれと同じくらい大切だと考えている。今後復帰する際は、親は子どもを一番に愛していることを理解し、保護者に寄り添っていききたい。
4	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	子どもたちが、自分自身、相手、みんなを同時に大切に出来るような保育を理想としています。そのために、保育士として、まずは受け入れ、一緒に笑って過ごすことを大切にしています。
5	女性	45～49歳	保育士試験	今は働くことができませんが、コロナ禍が落ち着けば復帰したいと思っています。理想とする保育は、保育士同士がお互いにフォローし合い、和やかな雰囲気の中で子供に接することができる保育です。さらに、子供の人数に対して、保育者が十分な人数で保育できると安心感が高まります。
6	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	理想とする保育は、幼少期が唯一たつぷり遊べる時期です。自然や人に沢山関わり、沢山体を動かして遊べる環境の中で保育したいです。遊びの中で、大人が「こうして」「これをやる」と決めるのではなく、子ども達が「やりたい!」「遊びたい」「こうしてみるのはどうすればいいかな?」と自ら考えて、主体的に物事に関わっていきけるような環境がある保育が理想です。また、人との関わりを大切にし、子どもたちが「人と関わることって楽しい!」と感じられるような保育。
7	女性	25～29歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	「理想とする保育」・子どもの主体性を尊重する保育は以前から興味があります。どうしても保育士が提案、誘導する保育の方が大人がやりやすいと感じてしまう為か子ども主体性とうたっていても保育士主体の保育が多いと感じております。難しいことはわかった上で、子どもの主体性を尊重しひとりひとりに向き合える保育が私の理想です。
8	女性	50～54歳	保育士試験	理想とする保育は子どもの人数に対する保育士の人数がもう少しゆとりがあるといいです。出来ればもう少し丁寧一人一人に対応してあげたいです。実際は気持ちはあるけどなかなか出来ないもどかしさがあります。
9	女性	35～39歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	人員配置にゆとりがあり、風通しもよく、ひとりの保育士が仕事や悩みを抱えすぎないように働ける保育園。子どもたちが安全で心から安心できる保育園。
10	女性	55～59歳	短期大学の保育士養成課程	多種多様な環境や子供の特性等をいかに理解し配慮していくかがいい保育につながると思います。保護者との対話の重要性はどの時代背景においても感じるところです。

4. 保育士としての就業経験がない者の実態

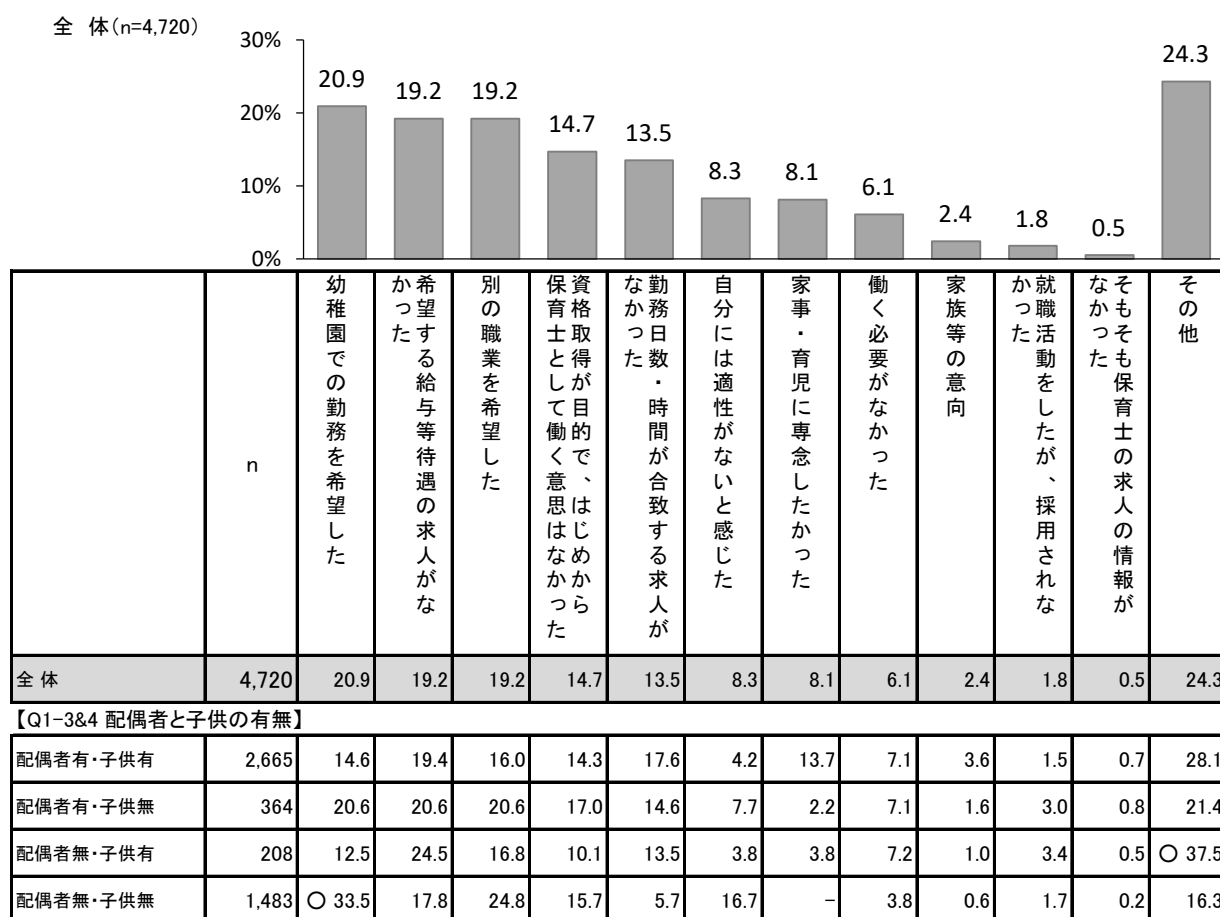
(1) 保育士として未就業の理由 (BQ13)

保育士として未就業の理由は、全体で「幼稚園での勤務を希望した」が2割 (20.9%) を超え、僅差で「希望する給与等待遇の求人がなかった」と「別の職種を希望した」がともに約2割 (19.2%) で続いている。

配偶者と子供の有無別でみると、「幼稚園での勤務を希望した」については、配偶者無・子供無でその割合が高くなっている。

BQ13 あなたが保育士として働かなかった理由は何ですか。あてはまるものをお答えください。(○はいくつでも)

保育士として未就業の理由 (配偶者と子供の有無別)



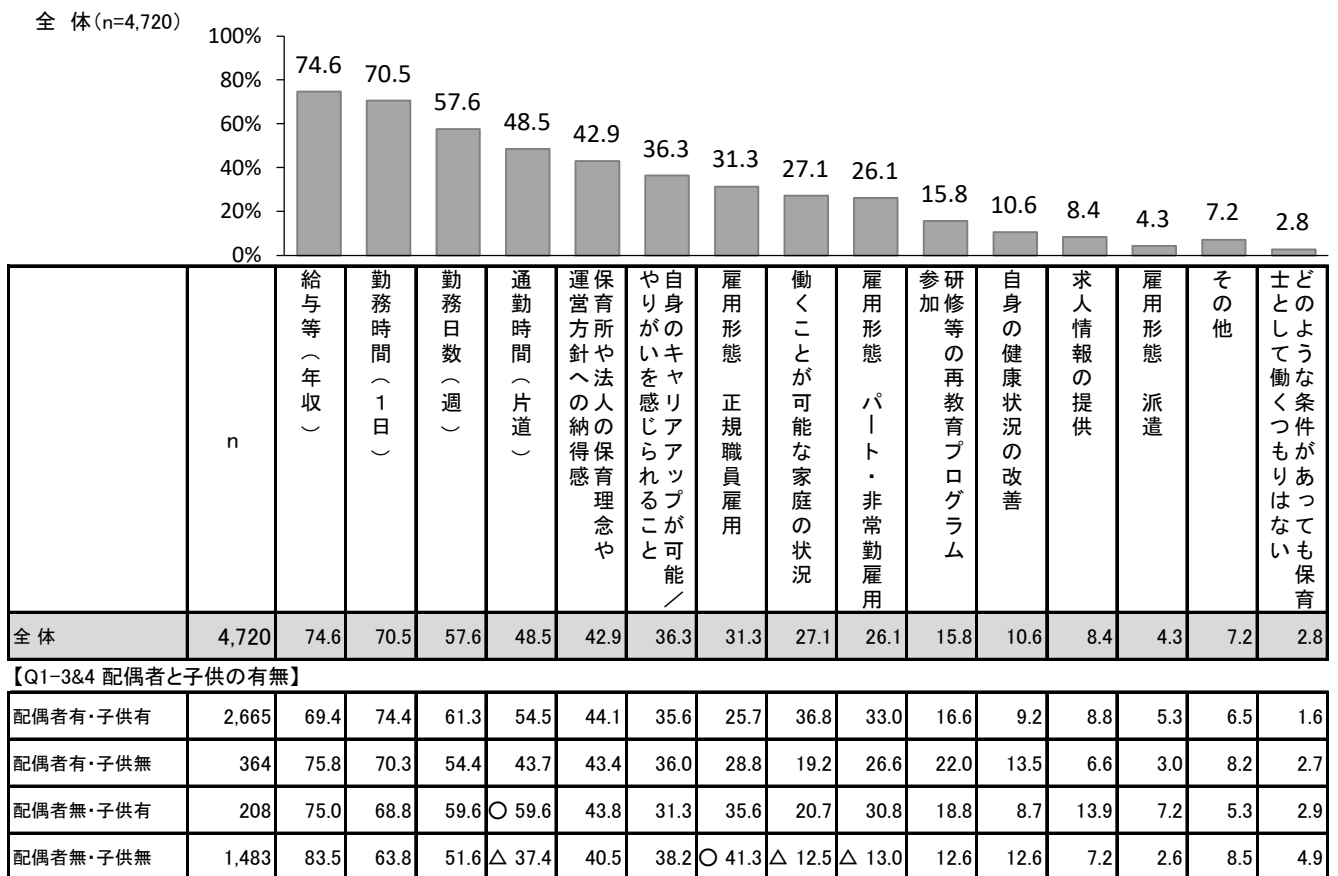
(2) 保育士として就業する場合の希望条件 (BQ14)

保育士として就業する場合の希望条件は、全体で「給与等」が7割台半ば (74.6%)、「勤務時間」が7割 (70.5%) を超えており、次いで、「勤務日数 (週)」(57.6%)、「通勤時間 (片道)」(48.5%) となっている。一方、「どのような条件でも保育士として働くつもりはない」は2.8%にとどまり、現在未就業者であっても条件次第で就業に繋がる可能性があると言える。

配偶者と子供の有無別でみると、子供有では子供無より「勤務日数」「通勤時間」「勤務時間」を挙げる割合が高い。一方、「給与等」では、子供無が子供有よりも割合が高くなっている。

BQ14 あなたが今後、保育士として働く場合に求める条件をお聞かせください。また () 内に具体的な数字もあわせてご記入ください。(〇はいくつでも)

保育士として就業する場合の希望条件 (配偶者と子供の有無別)

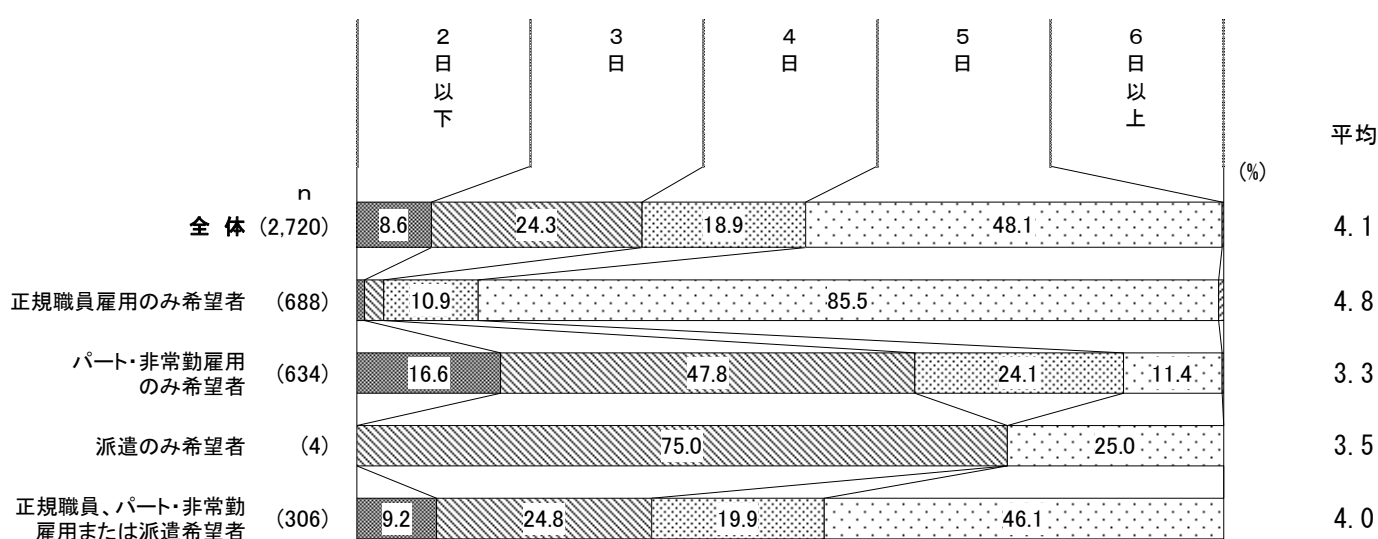


希望条件数字記入項目では全体で、平均勤務日数は4.1日、平均勤務時間は6.6時間、平均通勤時間（片道）は31.3分、平均年収は339.2万円である。

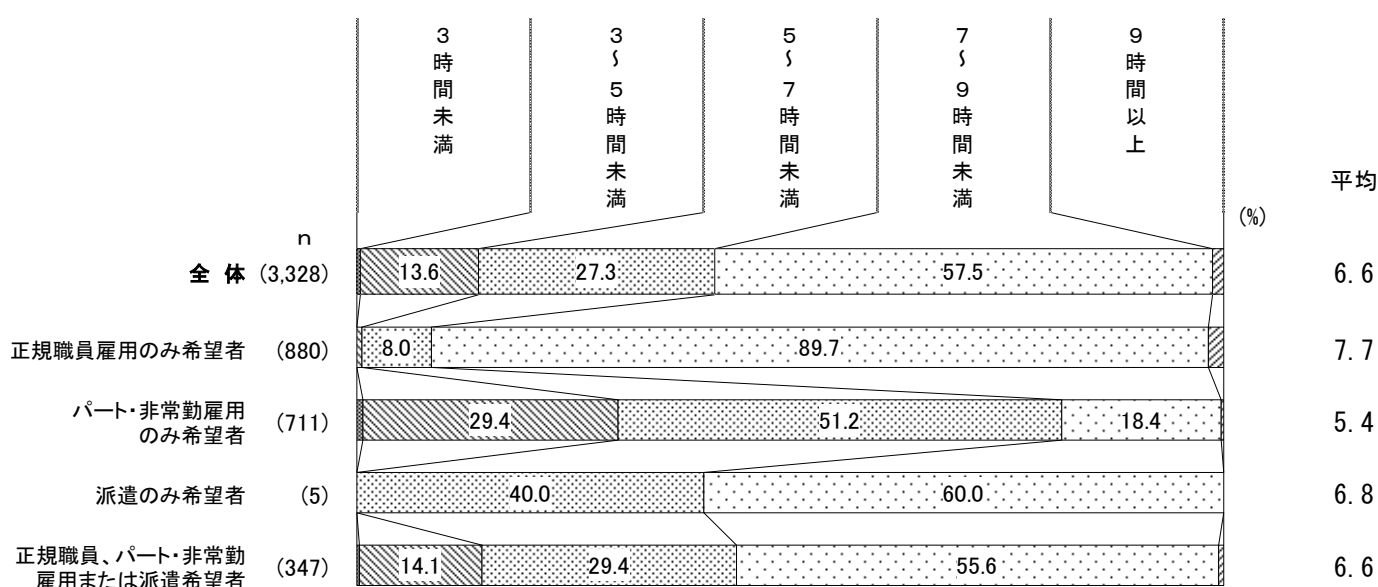
過去に保育士経験がある者と比べて、いずれの平均値も高い。

希望する雇用形態別でみると、正規職員雇用のみ希望者は、勤務日数週4.8日、勤務時間7.7時間、通勤片道34.8分、年収405.3万円、パート・非常勤雇用のみ希望者は、勤務日数3.3日、勤務時間5.4時間、通勤時間片道28.4分、年収174.9万円、派遣のみ希望者は、勤務日数3.5日、勤務時間6.8時間、通勤時間片道40.0分、年収354.3万円、正規職員、パート・非常勤雇用または派遣希望者は、勤務日数4.0日、勤務時間6.6時間、通勤時間片道31.2分、年収298.6万円となっている。

保育士として就業する場合の希望条件＜勤務日数（週）＞（希望する雇用形態別）

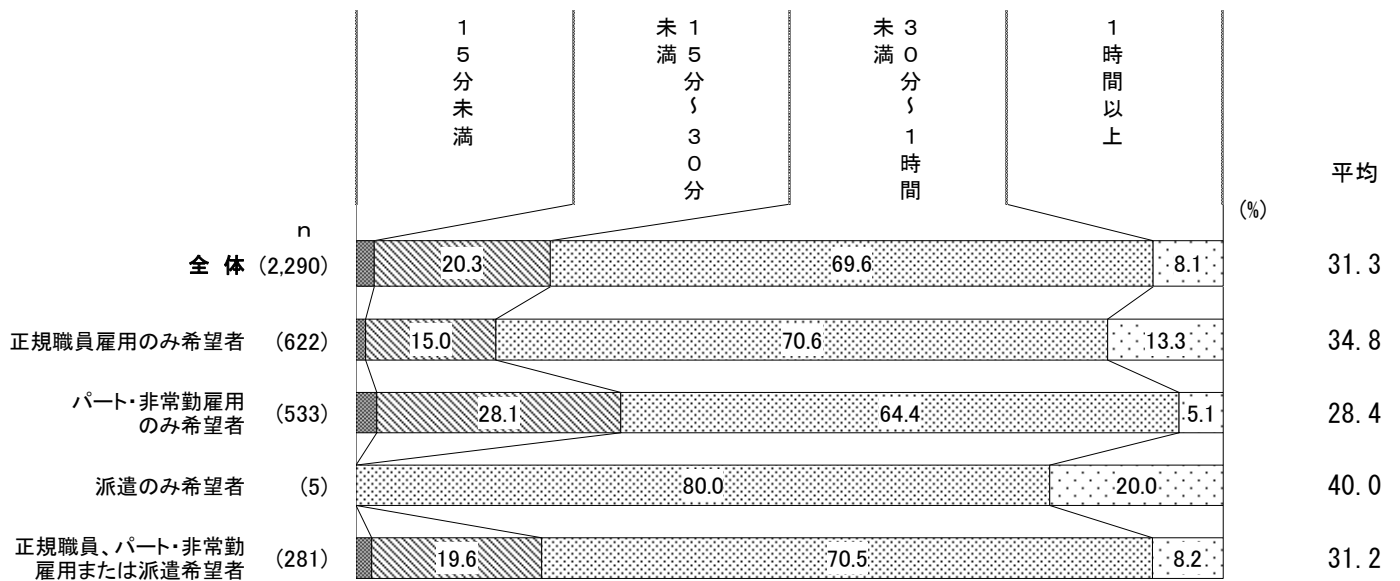


保育士として就業する場合の希望条件＜勤務時間＞（希望する雇用形態別）

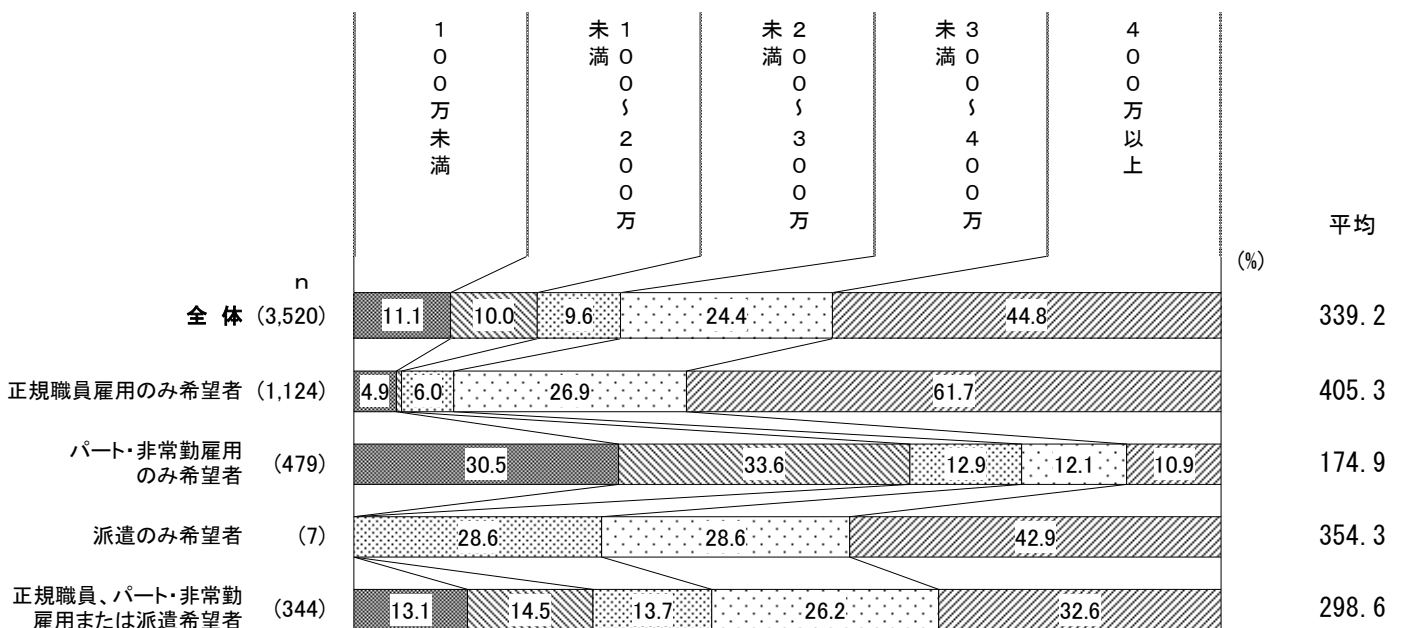


第三章 調査結果詳細

保育士として就業する場合の希望条件<自宅からの通勤時間（片道）>（希望する雇用形態別）



保育士として就業する場合の希望条件<年収>（希望する雇用形態別）



(3) 都内における保育士就業意向 (BQ15)

都内における保育士就業意向は、全体で「雇用の条件さえ合えば、働きたい又は保育の仕事に転職したい」が6割台半ば(63.2%)となっている。

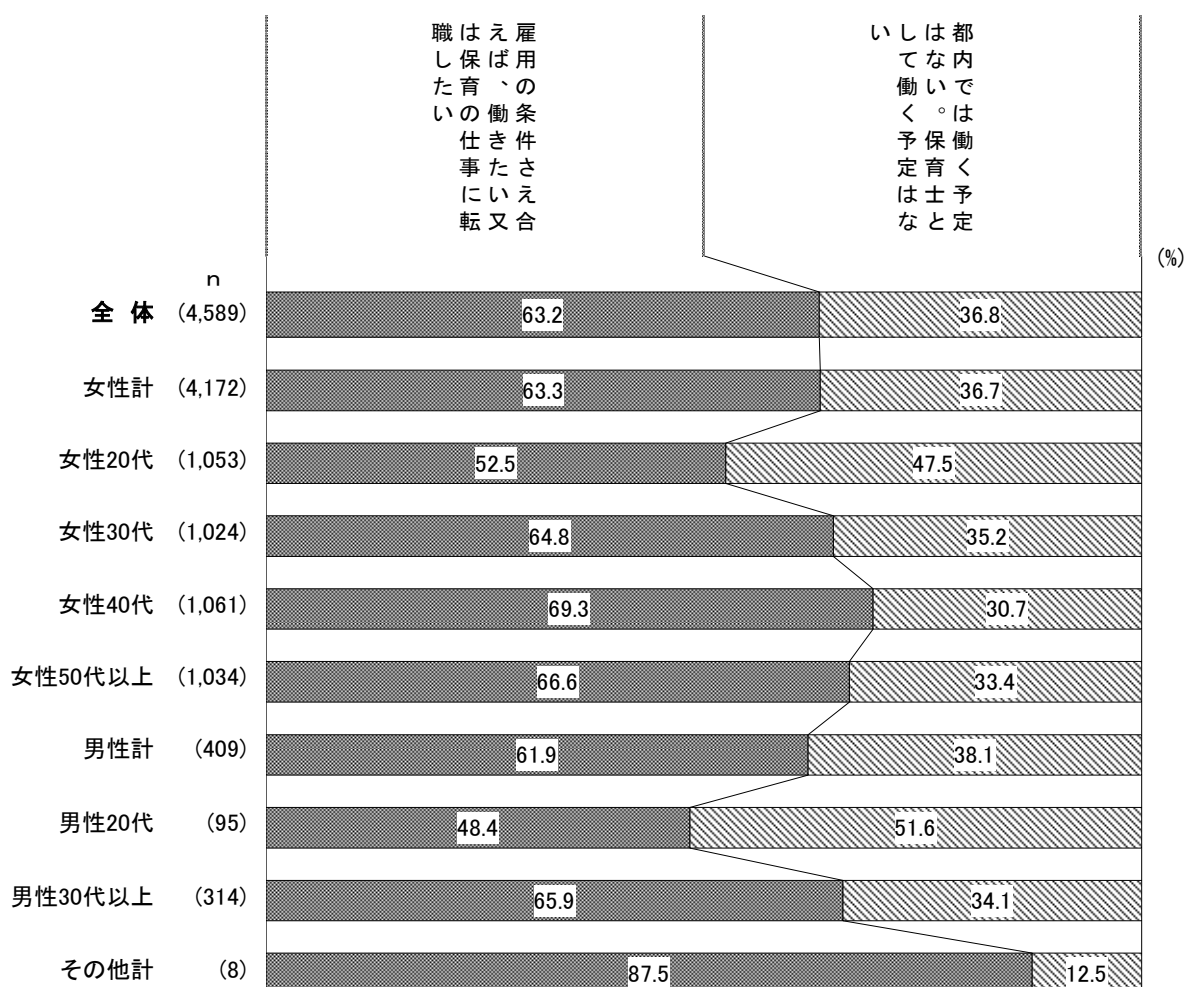
性・年代別で見ると、男性20代を除く全ての年代層で「雇用の条件さえ合えば、働きたい又は保育の仕事に転職したい」が「都内では働く予定はない。保育士として働く予定はない」を上回っており、雇用条件さえ合えば就業したいと考えている者が多いことがうかがえる。

配偶者と子供の有無別で見ると、全ての層で「雇用の条件さえ合えば、働きたい又は保育の仕事に転職したい」が「都内では働く予定はない。保育士として働く予定はない」を上回っており、特に配偶者無・子供有(69.3%)、配偶者有・子供有(68.0%)でいずれも約7割と最も多くなっている。

BQ15 あなたは、近い将来、「東京都内で保育士として働きたい」とお考えですか。

(○は1つだけ)

都内における保育士就業意向 (性別、性・年代別)



(4) 都内における保育士就業希望時期 (BQ15_1)

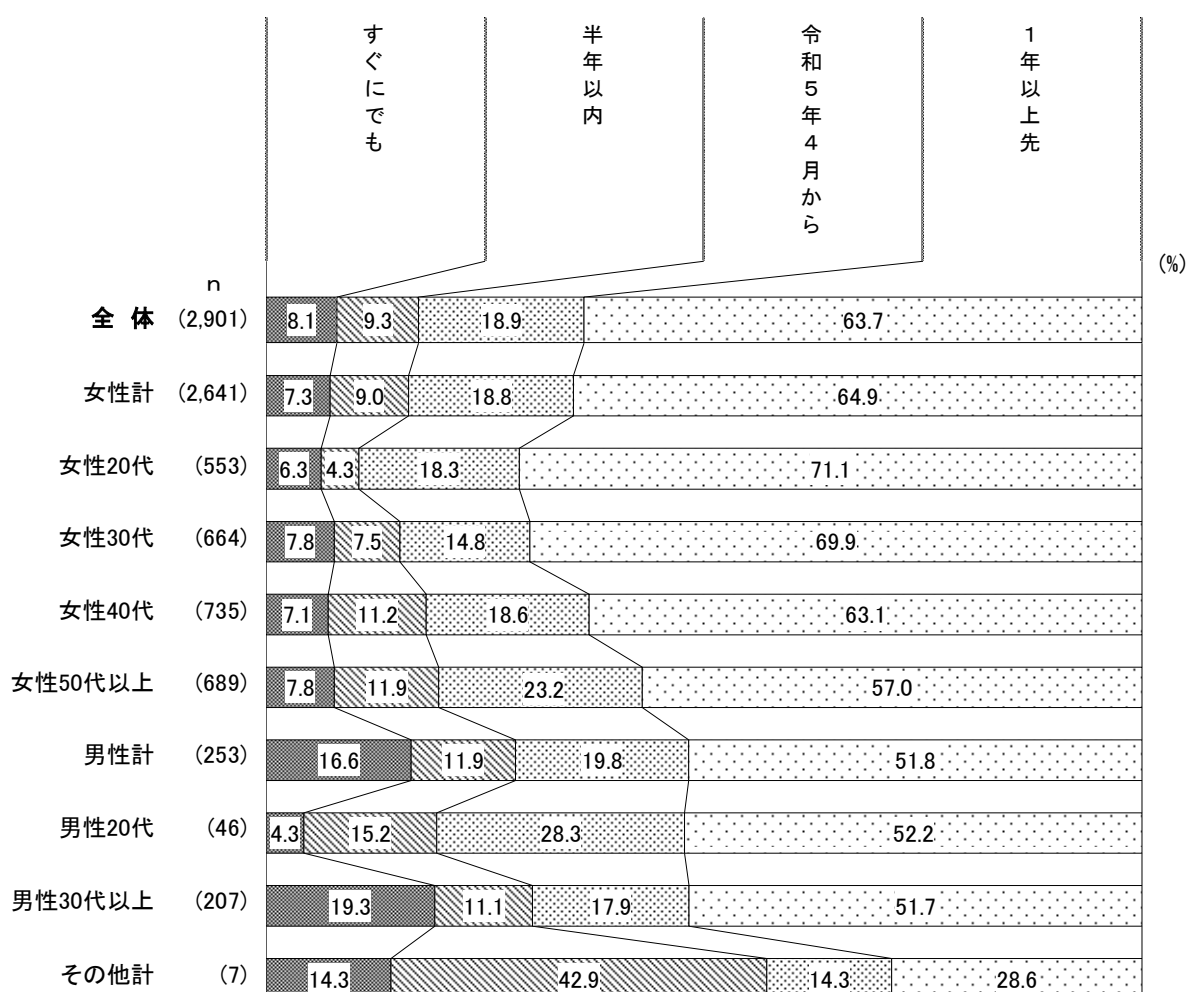
就業希望時期は、全体で「1年以上先」との回答が6割台半ば（63.7%）となっており、「令和5年4月から」が2割弱（18.9%）となっている。調査時点から半年以内（「すぐにでも」と「半年以内」の計）という者も2割弱（17.4%）みられた。

性別で見ると、女性よりも男性の方で、調査時点から「すぐにでも」を含む半年以内を希望する者が多い。性・年代別では、男女ともに年代が高くなるにつれて「すぐにでも」を含む半年以内の希望が多くなっており、特に男性30代以上では3割超え（30.4%）となっている。

【BQ14で「雇用の条件さえ合えば、働きたい又は保育の仕事に転職したい」と回答した方にお聞きします。】

BQ15_1 働きたい時期はいつですか。(○は1つだけ)

都内における保育士就業希望時期（性別、性・年代別）



(5) 保育士就業時まで習得を希望する知識・技術 (BQ16)

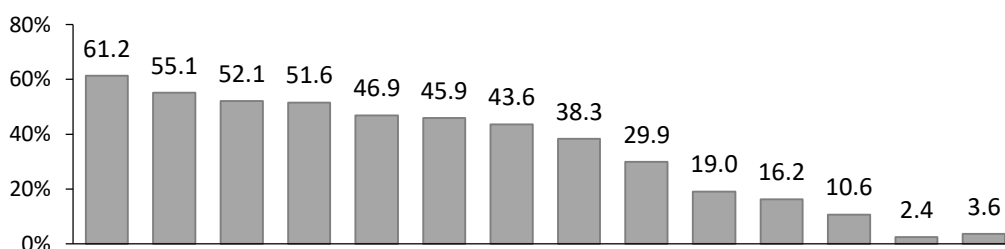
今後保育士として働くまでに習得を希望する知識・技術は、全体で「保育実技」が6割台強 (61.2%)、次いで、「特別な支援を必要とする子どもへの接し方」(55.1%)、「救命救急」(52.1%)、「発達心理学」(51.6%) となっている。

配偶者と子供の有無別でみると、子供無では子供有より「保育実技」を挙げる割合が高い。また、「保護者への対応の仕方」は、配偶者無・子供無 (51.8%) で5割強と他層よりも高くなっている。

BQ16 今後保育士として働くまでに、どのような知識や技術を習得したいと思いますか。
(○はいくつでも)

保育士就業時まで習得を希望する知識・技術 (配偶者と子供の有無別)

全体 (n=2,901)



	n	保育実技	特別な支援を必要とする子どもへの接し方	救命救急	発達心理学	安全管理	食育・食物アレルギー対応	保護者への対応の仕方	衛生管理	地域の子育て支援	保育所保育指針	端末の操作やタブレット	幼稚園教諭免許取得のための学習	その他	特に習得したいと思うことはない
全体	2,901	61.2	55.1	52.1	51.6	46.9	45.9	43.6	38.3	29.9	19.0	16.2	10.6	2.4	3.6

【Q1-3&4 配偶者と子供の有無】

配偶者有・子供有	1,783	57.9	52.9	53.4	51.7	47.4	41.9	40.9	38.2	30.5	17.4	17.4	11.5	2.6	3.6
配偶者有・子供無	206	68.0	59.7	50.0	50.5	50.0	52.4	42.2	43.7	30.6	21.4	12.1	9.2	1.9	2.4
配偶者無・子供有	140	59.3	55.0	54.3	57.1	38.6	49.3	35.0	34.3	32.1	17.1	13.6	15.0	2.9	3.6
配偶者無・子供無	772	67.2	58.9	49.4	50.8	46.2	52.8	51.8	38.0	28.0	22.3	14.9	8.2	1.9	3.9

第三章 調査結果詳細

(6) よいと考える研修内容（自由記述）（BQ16_1）

BQ16_1 どのような内容の研修があれば良いと思いますか。できるだけ具体的にお書きください。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	主な意見（記入者計1,906人）
1	女性	20～24歳	保育士試験	保育学科の出身でない保育士に対する研修（指導案の書き方等が学べると良い）
2	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	製作や特別支援、保育技術向上が期待できるような研修。ただ聞くだけでなく、それぞれの細かな分野の専門家と共に実際に体験しながら学べると、より理解が深まり日々の保育に役立てられそうです。
3	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	・発達障害や虐待が疑われる子どもに対する専門知識や対応方法、またその保護者との関わり方、その他連携機関との協力方法について・食物アレルギーや怪我や病気におけるイレギュラー発生時に必要な知識
4	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	保育士以外の仕事をしてきた保育士資格を持っている人を対象とした復習や基礎の研修があれば良いと思います
5	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	自分の好きな時間に受講できる講座、オンライン形式等
6	女性	20～24歳	専門（専修）学校の保育士養成課程	虐待・ネグレクト等の対応について、より詳しく、深く知れる研修があれば良いと思う。
7	女性	40～44歳	保育士試験	保育実習の簡易版や1日ボランティアのように気軽に参加できるものがあれば参加したいです。座学よりも実際に子供達と接することができれば良いと思います。
8	女性	55～59歳	保育士試験	保育の方法だけではなく 保護者や職員同士のコミュニケーションなどが 学べると良いと思います。
9	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	近年、発達に遅れがあったり個別の支援が必要な子どもが増加しているため、その子どもに合った関わりが出来るように、また関わりを幅を広げられるような研修が大切と感じる。
10	女性	45～49歳	保育士試験	支援が必要な子ども（四肢障がい、発達障がい、緘黙など）がいる場合のクラスの作り方 年齢や発達に応じた遊び時間の研修
11	男性	40～44歳	保育士試験	アレルギー反応を示した場合や怪我・急病時の場合などの緊急対応について
12	女性	50～54歳	保育士試験	こどもの能力を伸ばす（大人に都合の良い子どもに育てる態ではなく）ための、こどもと親とのコミュニケーション方法。具体的な事例によるもの。
13	その他	30～34歳	短期大学の保育士養成課程	季節行事についての伝承、歴史について正しい内容と意味の理解 また、それらの宗教との関わりについて 保育の現場に沿った外国語の読み書き対話等 保護者とのやりとり、子どもへの声かけ等現場に特化した内容
14	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	現場で必要とされる知識の確認がしたいです。必要最低限でもいいので、保育士の方が当たり前としている部分が知りたい。あと、日誌や連絡帳、年間月間目標の書き方、押さえておくといけないことを知りたいです

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	主な意見(記入者計1,906人)
15	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	実体験を元にした、様々な保育所での事例を共有できる場。転勤などが無いため、所内の狭い世界で完結してしまいがちなので、周りを見てモチベーションを高められる交流。
16	女性	30～34歳	保育士試験	子供の主体性を尊重した保育を実現するために必要な、具体的なスキルや、職場環境の改善のための研修。
17	女性	35～39歳	保育士試験	マンツーマンで教えて欲しいです。聞きたいことをきちんと質問できる環境であって欲しいです。
18	女性	20～24歳	保育士試験	保育士試験で取得した人に向けての実習や現場での研修。子育て経験がないので、オムツの替え方やトイレトレーニングなどの経験が不十分なので、地域の市役所などで学べると手軽で良いと思う。
19	女性	25～29歳	短期大学の保育士養成課程	リモート研修で、子どもの遊ぶ様子から重視すべき発育ポイントや保護者対応の様子等、参考になる動画をみることができたらいいなと思う。
20	女性	30～34歳	保育士試験	保育園内での人間関係の築き方。チーム保育を実現するためにはどのような関係性が求められるのか。
21	女性	45～49歳	保育士試験	勤務経験のない保育士資格保有者に対し、保育現場の実態や実際の保育士の経験談を聞く場。保育の実践で役に立つ知識や子供との接し方、実務の方法(クラスや先生・子供との関わり方)
22	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	実際に保育の現場に行き、働いてみることでその園ならではの特色や雰囲気が分かると思うので現場研修や先輩と先生方とのコミュニケーションを取る時間があると良いと思う。
23	男性	35～39歳	保育士試験	小さい子の命を預かる立場ですので、不測の事態が発生した場合に迅速な対応ができるスキルはもちろんのこと、子供の身体、精神に関する保健の知識はしっかり得たいと思います。
24	男性	25～29歳	保育士試験	保育所内での保育に関わる研修はもちろん、卒園したのち小学校に入学以降の生活も見通して、学校や地域団体との連携について考える研修があると良い。また、個別に配慮が必要な子どもに対する理解が進むためにも、もっと発達支援についての研修が充実している必要があると感じる。
25	女性	35～39歳	保育士試験	自分の子どもが怪我や病気をした際でも正しい処置や判断ができていないか自信が持てないので、いつか保育士として働く時には非常事態の対応が適切にできるか不安です。そういった場面を想定しての研修を受けられたらいいと思います。
26	女性	45～49歳	保育士試験	世代別に研修していただけるとありがたい。(若い方と一緒に研修だと気が引けるので。)
27	女性	35～39歳	保育士試験	発達心理や児童心理、特性のある子どもへの理解とそこへの支援、インクルーシブな活動実践
28	女性	40～44歳	保育士試験	喉に詰まらせた時の対応、頭を打ったときの対応など命に関わる時の具体的な処置の方法を動画ではなく、対面での研修で。年齢に合った遊び方のバラエティを増やせる研修。
29	男性	50～54歳	保育士試験	これからの時代はシニア保育士(私のような高齢男性)も増えてくると思います。そうした人向けの研修があればいいと思います。
30	男性	35～39歳	保育士試験	利用することもやその保護者への対応や配慮など、実務に直結して就業にあたって不安を軽減できるような内容があればと思います。
31	女性	35～39歳	保育士試験	子どもが楽しめる遊びを沢山教えて頂きたいです。様々なお子さんがいらっしゃる中で、それぞれの得意なこと、苦手なことに合わせて提供できる遊びを多く知りたいと思います。
32	男性	60～64歳	保育士試験	PC スマホが使えないと保育の仕事にはつけないと実感している(見えない年齢制限も実在すると実感) どの程度スキルレベルが必要わからない
33	女性	55～59歳	短期大学の保育士養成課程	ブランクのある保育士対象に、それぞれの年齢ごとのお世話の仕方、発達心理、遊び方など研修があれば良いと思います。

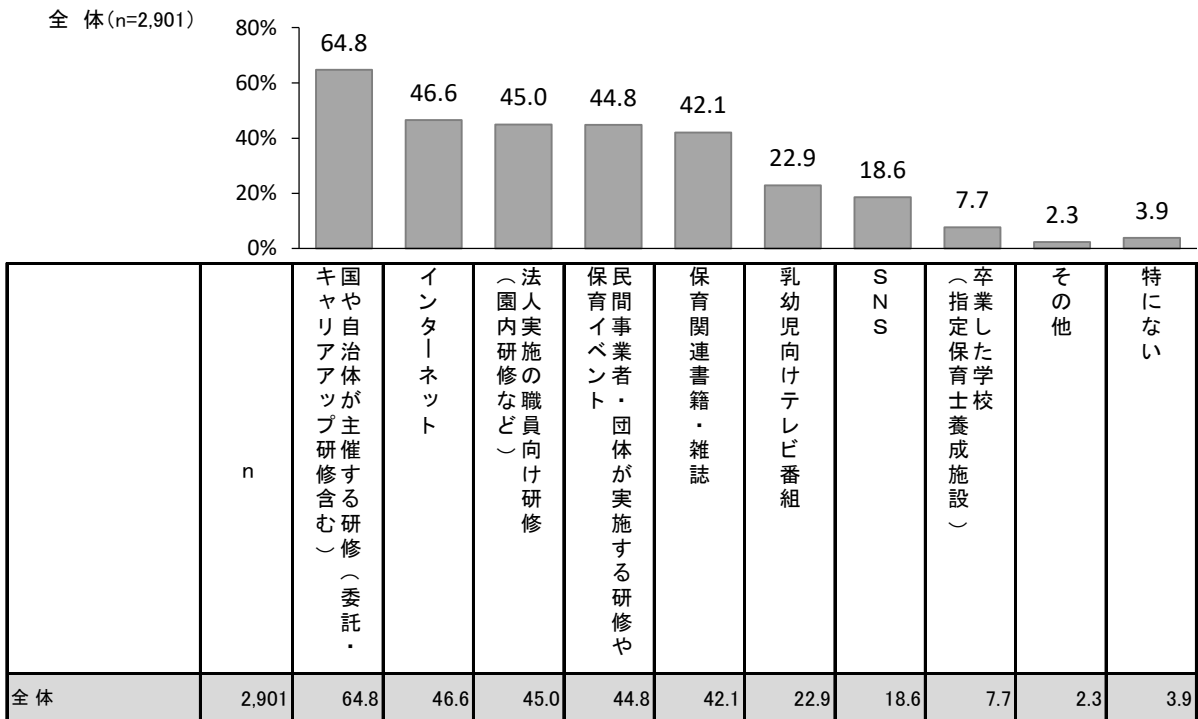
(7) 知識や技術を習得するために活用する(したい)もの (BQ17)

知識や技術を習得するために活用する(したい)ものは、全体で「国や自治体が主催する研修」が6割台半ば(64.8%)で最も多く、次いで、「インターネット」(46.6%)、「法人実施の職員向け研修(園内研修など)」(45.0%)、「民間事業者・団体が実施する研修や保育イベント」(44.8%)、「保育関連書籍・雑誌」(42.1%)となっている。

性・年代別でみると、女性20代では「SNS」が3割強(32.4%)と他層よりも高くなっている。また、「卒業した学校(指定保育士養成施設)」が男女ともに20代で2割台半ばとなっている。

BQ17 あなたが保育に関する知識や技術を習得するために活用する(したい)ものはどれですか。
(○はいくつでも)

知識や技術を習得するために活用する(したい)もの(性別、性・年代別)



【性別、性・年代】

性別・性・年代	n	国や自治体が主催する研修(委託・キャリアアップ研修含む)	インターネット	法人実施の職員向け研修(園内研修など)	民間事業者・団体が実施する研修や保育イベント	保育関連書籍・雑誌	乳幼児向けテレビ番組	SNS	卒業した学校(指定保育士養成施設)	その他	特にない
全体	2,901	64.8	46.6	45.0	44.8	42.1	22.9	18.6	7.7	2.3	3.9
女性計	2,641	64.8	46.2	44.8	44.5	42.3	23.1	18.7	7.8	2.2	3.7
女性20代	553	△ 46.1	43.6	44.7	△ 26.6	45.6	24.8	○ 32.4	○ 24.2	1.4	5.4
女性30代	664	64.9	47.4	46.1	47.1	51.1	32.2	23.3	3.3	1.4	3.8
女性40代	735	72.0	47.6	44.1	51.4	39.5	21.2	14.0	3.5	2.3	2.6
女性50代以上	689	72.1	45.7	44.4	48.9	34.4	14.8	△ 8.3	3.3	3.5	3.5
男性計	253	64.4	49.8	46.2	48.6	39.9	20.6	17.0	7.1	3.6	6.3
男性20代	46	63.0	43.5	45.7	△ 28.3	39.1	26.1	19.6	○ 26.1	2.2	8.7
男性30代以上	207	64.7	51.2	46.4	53.1	40.1	19.3	16.4	2.9	3.9	5.8
その他計	7	71.4	○ 57.1	○ 57.1	42.9	42.9	28.6	○ 28.6	-	○ 14.3	-

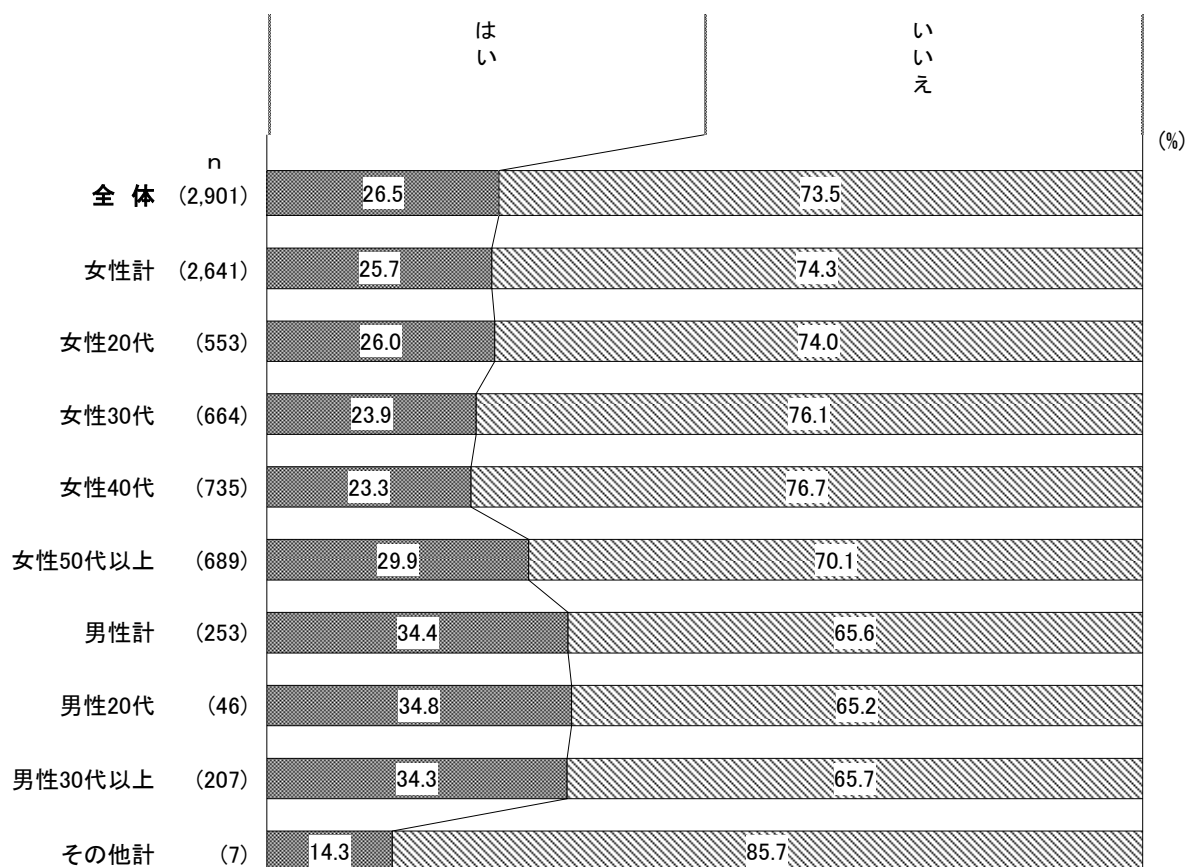
(8) 保育関係の就職先を探しているか (BQ18)

現在、保育関係の就職先を探しているかについては、全体で、探している(「はい」)が2割台半ば(26.5%)、探していない(「いいえ」)が7割台半ば(73.5%)となっている。

性・年代別でみると、男性の20代、30代以上において、探している(「はい」)が3割台半ばと多くなっている。

BQ18 あなたは、現在、保育関係の就職先をお探しですか。(○は1つだけ)

保育関係の就職先を探しているか(性別、性・年代別)



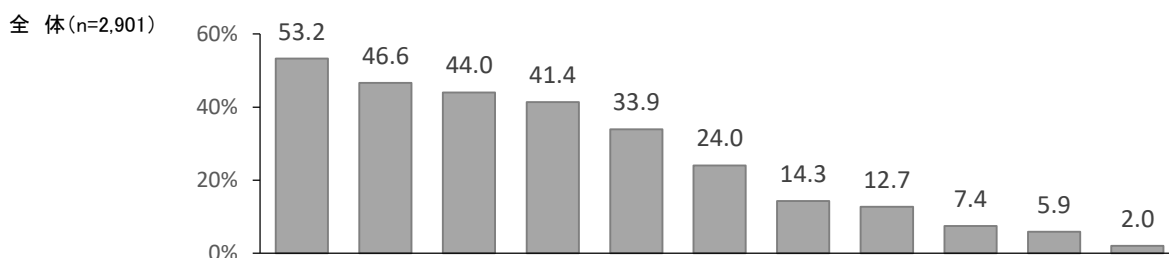
(9) 保育関係の求人を得るために利用する(したい)機関等 (BQ19)

保育関係の求人を得るために利用する(したい)機関等は、全体で「保育人材・保育所支援センター(東京都福祉人材センター)」が5割台半ば(53.2%)で最も多く、次いで、「民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)」(46.6%)、「就労を希望する保育所等のホームページ・チラシ等」(44.0%)、「ハローワーク」(41.4%)となっている。

性・年代別で見ると、男女ともに20代では「先輩や友人からの紹介」「保育士仲間」「卒業した学校(指定保育士養成施設)」の割合が他層と比べて高い。

BQ19 あなたが、保育関係の求人情報を得るために利用する(したい)機関等を教えてください。(〇はいくつでも)

保育関係の求人を得るために利用する(したい)機関等(性別、性・年代別)



	n	(東京都福祉人材センター)	民間職業紹介(求人情報誌・求人サイト等)	就労を希望する保育所等のホームページ・チラシ等	ハローワーク	お住まい又は就労を希望する保育所等の所在する区市町村	先輩や友人からの紹介	民間職業紹介(相談窓口)	保育士仲間	以前の勤め先(保育所等)や同僚からの紹介	卒業した学校(指定保育士養成施設)	その他
全体	2,901	53.2	46.6	44.0	41.4	33.9	24.0	14.3	12.7	7.4	5.9	2.0

【性別、性・年代】

女性計	2,641	53.1	46.9	44.6	41.1	34.0	24.1	14.2	12.4	7.5	6.1	2.0
女性20代	553	44.8	41.2	42.3	△ 24.6	△ 22.4	○ 36.2	10.5	○ 28.6	10.5	○ 21.7	1.8
女性30代	664	54.1	53.8	47.0	42.3	33.9	20.6	17.3	9.2	5.9	1.7	0.5
女性40代	735	54.1	50.9	47.3	46.9	35.0	20.8	16.5	8.3	7.2	2.0	3.0
女性50代以上	689	57.8	40.6	41.1	46.9	42.2	21.2	11.9	7.0	7.0	2.0	2.6
男性計	253	53.0	43.5	38.3	44.3	32.8	22.1	15.0	14.2	6.3	4.3	2.4
男性20代	46	△ 32.6	41.3	34.8	△ 28.3	△ 13.0	○ 43.5	10.9	○ 26.1	6.5	○ 17.4	2.2
男性30代以上	207	57.5	44.0	39.1	47.8	37.2	17.4	15.9	11.6	6.3	1.4	2.4
その他計	7	○ 71.4	△ 28.6	42.9	○ 57.1	28.6	○ 57.1	14.3	○ 42.9	14.3	14.3	-

(10)「保育士として働くことへの不安」、「働くために支援が必要だと感じていること」、「理想とする保育」(自由記述)(CQ5)

CQ5 最後に、あなたの「保育士として働くことへの不安」や「働くために支援が必要だと感じていること」、「理想とする保育」など、ぜひお聞かせください。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「保育士として働くことへの不安」について抜粋(記入者計3,271人)
1	女性	40～44歳	専門(専修)学校の保育士養成課程	現在、幼稚園教諭として働いています。子どもがいると早番遅番等は難しいので幼稚園勤務の時間帯が働きやすいのが現状です。その辺が考慮されるのであれば保育園でも働きやすくなるのかなと思います。
2	女性	45～49歳	その他養成施設の保育士養成課程	私が今保育士として働かないのは、家族との生活を優先させたいから。子どもが具合が悪い時に仕事が休めない。というのはもちろん嫌ですし、逆に休めても、職場に迷惑を掛けていると思い自分の負担になる。(今でこそ落ち着いてきましたが、子どもたち病気がちだったので)ここが一番の理由です。また子どもの行事などを優先させたい。そういったことが、規模の都合難しい所の方が多いと思う
3	女性	30～34歳	保育士試験	一般企業で働きながら子育てをしています。子どもを預かってくださっている保育士の方々には感謝と尊敬の気持ちでいっぱいですし、沢山助けられてきました。本当に魅力的で尊い仕事であると思います。なので私は二人目の育休中に保育士試験にて資格を取得しました。しかし、では私が実際保育士として働くか、を検討すると、正社員として働くには自身の子育てとの両立の難しさ(時間、曜日、シフト制)とかかる責任に対しての待遇の悪さ(給与が低すぎる)がネックとなり、踏み切ることができません。
4	女性	55～59歳	保育士試験	年齢とともに体力は低下しています。若い保育士さんの足手まといになるのではないかと就労には躊躇もあります。
5	女性	25～29歳	保育士試験	現在は教育系の民間企業で、管理職として働いています。将来的に、保育士資格を用いて働くのもいいと思うのですが、いざ働くとなった際に、保育士試験で資格を取得し実習の経験のない自分が現場で通用するのか不安です。
6	女性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	①保育士として働く事への不安は、現在違う職業に就いているので実際保育士として働くとなった時のブランクが怖い。間が空いた分、知識や保育園でバイトしていた時の先生方の教えやアドバイスを有効活用できるのが不安。
7	男性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	自分が学んできた保育計画や5領域など分野をしっかりと活かせるのかとも不安である。また、問題にもなっている行き過ぎた保育があった場合なれてしまわないかも不安である。人を助け、人に助けられるような関係性を築くことが私の保育の目標であるため、それをやるかと不安に感じてしまっている。
8	女性	60～64歳	大学の保育士養成課程	短時間での保育補助を希望しています。しかし保育補助の実際の業務内容がわからず踏み切れません。なぜなら歌や楽器、工作などが苦手だからです。保育士としては致命傷と考えていますが、そうしたことが克服できれば子どもとかかわり、子育て支援の一員となればと思っています。
9	女性	35～39歳	保育士試験	小さな子供がいる現状では急な休みへの対応を考えると保育士として働くことは難しいと思って現職から転職することが出来ないでいる。しかし、ある程度の年齢を過ぎてから保育士業を行うことには膝、腰、肩など不安が出てくるのでは無いかも思っている。
10	男性	50～54歳	保育士試験	男性保育士の少なさから、男性である自分の役割等が見えるのか不安もあります。自然教育を軸にした幼児教育は絶対に取り組みたい分野なので、地方への移住も含めて考え続けています。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「働くために支援が必要だと感じていること」について抜粋(記入者計3,271人)
1	女性	35～39歳	大学の保育士養成課程	保育士としての現場経験はないため、もし今後、保育士として働くとしたら知識や技術を思いだすこと、実習などの支援が必要だと思います。ブランクがある人も多いと思うので、再就職の相談や支援があるのはいいと思いました。
2	女性	25～29歳	大学の保育士養成課程	やりがいを感じることも数多くある反面、仕事量の多さや給与の少なさ、精神面での負荷など、長く続けるのが難しい職業だと感じる。職業柄、仕方ないと言われてしまうことは多いと思うが、資格を持っていても活かしていない人が多いのには理由があることを理解していただき、処遇改善して頂きたい。
3	女性	60～64歳	保育士試験	精神的な支援 日々、保護者からのちょっとした心無い言葉に、ストレスを感じたり、心がつらくなったりしている現状をいつも見ていて、健康的な精神状態ではないことが多いと思います。各園に、保育士を支援する専門家などの配置と、配置した場合の補助など検討が必要だと思います。専門家を設置すれば、子供たちを心理的なケアも同時にできるのでより良いと思います。

第三章 調査結果詳細

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「働くために支援が必要だと感じていること」について抜粋(記入者計3,271人)
4	女性	40～44歳	保育士試験	現在保育園で別職種として働いていますが、現場の意識改革をしなければ採用したとしても保育士の定着は難しいように感じます。保育技術を磨くことはもちろんですが、もっと視野を広げる研修等をしなければ、質の良い保育士は育たないと感じます。
5	男性	20～24歳	短期大学の保育士養成課程	・ICT化が進んでいない、もしくは手書き文化などが根強く残っている園も多く、業務効率化ができていない園では働きたいと思わない。
6	女性	30～34歳	保育士試験	年数が経つにつれ、最新情報から取り残されていくことが現場に出る自信をさらになくしてしまうため、資格取得者向けに年1回などでいいのでアップデート情報を自治体民間問わず発信してくれると不安が減る。
7	女性	20～24歳	保育士試験	保育士は休む暇もなく、重労働というイメージがあります。子どもの命を預かる仕事な上に、体力や親からの評価も必要になるので低賃金で働きたいと思えるのは保育士として働く夢を持った学生くらいかなと感じます。これはどこの会社にも言えることだとは思いますが、年間休日の多さや福利厚生の部分をもっと手厚くなると働き手が増えるのかなと感じます。
8	女性	30～34歳	大学の保育士養成課程	子育てとの両立(土曜日出勤、行事の予定が重なってしまう、看護休暇のとりやすさ、持ち帰り仕事の有無、子どもの登校時間と自分の出勤時間の折り合い)が壁となっています。
9	女性	50～54歳	その他養成施設の保育士養成課程	保育士の時代とは違って、現在の保育士は求められる役割が多いですが、職員配置基準は昔のままです。子どもの発達状況を観察して把握し、一人一人に合った支援をしていく事の大切さは理解しておりますが、実際には無理があり、保育士は疲弊しています。子ども一人一人を尊重した保育をしていくために、そして、保育士も守るためにも、まずは職員配置基準の見直しをお願いしたいです。
10	女性	45～49歳	短期大学の保育士養成課程	幼稚園の非常勤で働いているので、夏休み、冬休み、春休みを気兼ねなく取ることが出来る。保育園だと、その辺りの融通が難しいため、現在、保育園で働くつもりはない。夫が在宅や、近くに頼れる両親がいない場合、子育てとの両立をするためには、気兼ねなく休みを取れる環境がないと難しい。

No.	性別	年齢	保育士資格の取得方法	CQ5から 主に「理想とする保育」について抜粋(記入者計3,271人)
1	男性	20～24歳	大学の保育士養成課程	理想の保育については、個人的な意見ですが、子どもたちに多様性を認め合い、身近なものとして教えようとしている割には、大人(保育者自身)にその考え方が定着していないという状況に感じます。
2	女性	40～44歳	その他養成施設の保育士養成課程	先生も子どもも保護者もみんなが笑顔で毎日過ごせることがまずは大切だと思います。子ども達にとっては初めての社会となる場所だと思うので、保育園が安心できる場所となるような保育が理想です。そのためには先生同士が信頼し合い、協力することが不可欠だと思います。
3	女性	25～29歳	保育士試験	配置最低人数ですと十分な保育ができないと考えているため、なるべく大人数でお子様を見てあげられる環境が理想です。
4	女性	55～59歳	保育士試験	理想とする保育は、管理体制がしっかりしていること、風通しが良いこと、すなわち小規模なユニットでの保育をすることだと思う。
5	女性	20～24歳	大学の保育士養成課程	理想となる保育像は子ども主体の保育です。子どもの個性を大切に、強制するのではなく一人一人の良さを引き出せる保育をしたいです。
6	女性	45～49歳	保育士試験	お子様の数に対して保育士の数が十分な事、時々ニュースになっているような、お子様に事故などが起こらない様なケアがしっかりとできる、施設である事。その上でお子様一人一人の発達にあった保育、そして父兄のケアができる環境が理想です。
7	女性	50～54歳	保育士試験	子どもだけでなく働く親の負担をいかに軽くするかを考えられる保育。「保育に欠ける」家庭の子供を養育し「親を甘やかさない」を前提とした古い思想から脱却した保育。
8	女性	60～64歳	保育士試験	理想とする保育は、一人一人に寄り添い、その子どもの持っている良い個性を伸ばす。働く保護者が安心して預けられる環境を作り、子育てが楽しくなるような支援が出来る事。
9	女性	35～39歳	保育士試験	知識や技術の向上を含め、保育士としての成長ややりがいを感じられることが大切だと思っております。また、理想とする保育としては、こどもたちがのびのびと自発的に行動できるように、また、さまざまなことに対する好奇心を伸ばせるように手助けができれば良いなと思っております。
10	女性	30～34歳	保育士試験	今までのように皆んなが同じ事をやり、平均点を取らなくてはいけない保育ではなく、お子様たちが一人一人が個性を活かして自由に過ごしていける環境が与えられるように、また保育者の負担が多くなるのではなく、保護者様、地域の方々皆様が子育て・保育に関わる事、皆でお子様たちを育てていくと言うのが保育者にとっても保護者にとっても働く為に望ましい保育体制だと思います。